2022 年　四季折々

■ 四季折々 Mutsu　Monthly 神戸便り　2022 Mutsu

■ 神戸で 思いつくまま　From Kobe　2022 Kobe

2023. 2.1.

2022 Mutsu

Mutsu2022.pdf

2022 Mutsu

kobe2022.pdf

by　Mutsu　Nakanishi

和鉄の道・Iron Road　「四季折々・From Kobe　・思いつくまま　」

home page 更新時に四季折々の花・風景 そして　好奇心一杯でトライしたことや
その時折々　頭にあることを綴ったメモなどを集めました
和鉄の道・Iron Road

鉄の「まばゆい輝き・閃光」と「黒光り・肌光」

日本には「たたら製鉄」という鉄鉱石や砂鉄の塊から、
「硬くてねばい鋼」を直接作り出す日本古来の製鉄法がある。
ヒッタイトが人工鉄を発明した当初の姿を現代まで残し、
現在の製鉄法にも負けない高品質の鋼を作り出す技術に高め、
維持している日本独自の製鉄法である。

日本に「鉄」が伝来して、この「たたら製鉄」が行われるまで、
約 800 年の長きにわたってたたら製鉄法の摸索が続き、その技術を
さらに磨き高めながら 1500 年続いてきた日本独自の製鉄技術。
「鉄は国家なり」「鉄は産業の米」と「鉄」の力が強調されるが、
一方で文化を育み、 そこに住む人たちの生活を豊かにし、
現在に至る日本を作ってきた。
今、急速な社会変革の中で　この製鉄にともなう数々のドラマが忘
れ去られ、日本各地の「たたら製鉄」遺跡もろとも消え去ろうとし
ている。 和鉄の道での数多くの人たち・賑わい　そして数々のドラ
マが、周りの美しい景色とともにうもれて残っています。
そんな日本で繰り広げられたドラマ　そして　その痕跡の風景を少し
でも残しておきたいと home page に掲載してきました。

へいわってなにかな。ぼくは、かんがえたよ。
ねこがわらう、おなかがいっぱい、やぎがのんび
りあるいてる。ちょうめいそうがたくさんはえ、
よなぐにうまが、ヒヒーンとなく。
みんなのこころから、へいわがうまれるんだね。
これからも、ずっとへいわがつづくように、
ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。
安里有生／詩　長谷川義史／絵

ほぼ毎月更新してきた Home page のトップには
その四季折々　私の好きな花・好奇心いっぱいで取り組んだこと・
Country walk の風景などを紹介するとともに　その折々　頭にあっ
た時代の流れ・技術・社会などへの自分の思いを From Kobe として
書き綴って掲載してきました。
home page のトップページは更新ごとに消えてしまうので、
その時々を忘れぬよう残しておきたいと「四季折々・From Kobe」と
して　ファイルし、それを毎年一冊の小冊子にまとめています。

神共に願まして
得られるものを 変える「勇気」
変えられないものを 受け容れる「心の静けさ」
両者を見分ける「叡智」を
ニーバーの祈り より

「まあええか 元気だして行こう」と
心は行ったり来たりですが
好奇心さえあれば…と前向いて
お互い笑顔で 前向き思考 元気で乗り切って行きましょう

その年四季折々自分勝手なわがままな 1 年間のメモ記録です
が、記憶を思い起こしたり、我が身を振り返えったり。
自分の生きる指針でもあり、また 1 冊積み重ねました。
また、どこかで、皆さまのお役に立て

災害や病気など幾多の困難の中に居られる方々にエールを !!
いつも 思いをはせています。
「忘れまい 忘れないで 仲間がいる
暖かい希望の輪がつながっていることを」

世界に類のない一万年も平和で豊かな生活が続いた日本の「縄文」
そのエンジンは「他人を思いやる心」
北東北・北海道の縄文遺跡を　ユネスコ世界遺産に

仲間が頼りですが、
まだまだ元気　好奇心もある
愚痴は言うまい
お互い「前向いて」
今できることを精一杯
from Kobe
by Mutsu Nakanishi

「四季折々・神戸便り・思いつくまま From Kobe」一年を振り返って

2022 Mutsu　2022 Kobe　2022.12.30.

「和鉄の道・Iron Road」：13件	日本の鉄鋼が生きる道 脱炭素操業への大転換と国際子競争力回復へのアプローチ
	ポストコロナの大変革 各分野で待ったなしの低炭素社会構築の取組
「風来坊・Country Walk」：28件	新型コロナ感染対応 自己行動規制中で見つけた神戸近郊 四季折々の美しさ
「四季折々 神戸便り ：11件	コロナ禍3年目 疲弊する日本社会に思いを寄せて 2022
・From Kobe」	老いをひしひしと感じる歳になりました

≪社会・経済・暮らしの再建　地球人として生きる社会再構築の大変革の時代の幕明け≫

鉄は勿論日本の主要産業・経済・暮らしの疲弊　日本が取り残されている・・・・

高齢化が急速進行する日本社会の疲弊が誰の目にも明らかに　危機がわが身に迫る厳しい時代に

- 新型コロナの世界的大流行3年目　社会のほころびがここかしこ
- ロシアのウクライナ侵攻がもたらした戦争の悲惨さ　アニメの世界が今現実に
- 地球環境の変化 甚災害の深刻さと低炭素社会構築の取組
- 資源・食糧・エネルギーの自給できぬ日本の危うさが現実に

みんな地球人「自分さえよければ・・・ではどうにもならぬ意識と覚悟」の新時代が目前に

Iron Road　世界と共に生きる時代の模索・取組推進の時代の幕開けを実感した2022年になりました

1月	年賀　迎春　年の初めに　コロナ禍の中で　一年を振り返って
2月 如月	神戸籠り近況の便り コロナ禍の中で　もうすぐ春が・・・・・
弥生　3月	ロシアのウクライナ侵攻 NO WAR　神戸の春便り 毎日の須磨 walk
4月	春爛漫から新緑の5月へ　芽吹き・桜から新緑へ 素晴らしい里山の春
6月	梅雨入り目前 神戸便り　新緑が素晴らしい季節に でも先が見えぬ厳しい世相
7月	初夏 神戸紫陽花の便り　期待の膨らむ7月になりますよう
8月	盛夏 ひまわりの夏　酷暑・大気不安定・コロナ感染爆発　変革・混乱の渦の中に
9月	爽やかな秋の始まり　たたら製鉄と日本の刀剣 蕨手刀からそして東北へ歴史をたどる
10月	初秋 神戸便り 小さい秋を探して 東播磨を駆ける
11月	深まりゆく秋 神戸コスモスの便り 美しい秋の夕暮れ そして サプライズ オリックスの優勝
師走	冬晴れ 澄み渡る大阪湾・播磨灘 色々あった一年 真っ赤な紅葉が美しい ゆっくり一年を振り返る

≪社会・経済・暮らしの再建 地球人として生きる社会再構築の大変革の時代の幕明け≫

鉄を含め、日本の主要産業・経済・暮らしの疲弊　先行き不安　日本が取り残されている・・・・

ポストコロナで迎える新時代　激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。
「コロナ対策と経済・雇用の回復への暮らし・雇用・経済の復興」に並行して
もう待ったなし「人類の危機地球温暖化の歯止め止め　低炭素社会への大転換」
誰もが避けられぬ経験したことのない
「令和の産業革命　社会・経済の激烈な再編の時代」へのターニングポイント

コロナ禍の中　やっと収束の兆し　ポストコロナを見据えて　いろんな事がありました
「何も変わらぬこの閉塞感と不安感。心地よい、ゆでガエル状態」
- 小林喜光氏の指摘 に耳を傾けよう
地球人であることを思い知らされた激動の新時代　立ち止まってはいられない

高齢化が急進と社会の疲弊が誰の目にも明らかになり、先行きが見えぬ不安感が募る厳しい年でした。

- 新型コロナの世界的大流行３年目　社会のほころびがここかしこ
- ロシアのウクライナ侵攻がもたらした戦争の悲惨さ　アニメの世界が今現実に
- 地球環境の変化 甚災害の深刻さと低炭素社会構築の取組
- 資源・食糧・エネルギーの自給できぬ日本の危うさが現実に
- そんな中で　日本の財政は大量の負債を抱える中で、急速な円安が進んで　物価高が忍び寄る
  かつてのごとく、円安の中で外国の買い手がある先端技術商品があればよいが今はもう・・・・・

政治はいまだにうんざりする場当たり的な対応とバラまき政治。老獪・経験だけの仲間内。
本来ならば、根本的に事態を見据えた日本の城行対応が一数なのでしょうが、みんなみんな国民に放火無理。
社会全体の疲弊　そして世界が見えぬ・・・・・。
高齢者にとっては　厳しい一年。　危機がわが身に迫る厳しい時代　さきはどうなるのか　不安感が募る一年
今春　with コロナ　行動制限が解かれ　街には活気が・・・・・
でも　コロナも不安感一杯の再流行の兆し　もう年末には第７波を越える入院患者数に・・・・
日ごとに増える「重症・死亡者」にも「高齢者がほとんどである」とまた「自己責任」のほうかむり。
根本的な対応視点が見えぬ日本社会の疲弊　もう抜き差しならぬ時
若い人を待ち望む声が日増しに高まる一年でした。
みんな地球人「自分さえよければ・・・ではどうにもならぬ意識と覚悟」の新時代が目前に
Iron Road　世界と共に生きる時代の模索・取組推進の時代の幕開けを実感した 2022 年になりました
もう　愚痴は言うまい。　まだまだ　足は動くし、好奇心・気力は一杯　今を元気に　精一杯。
若い人たちへの期待と希望が膨らんだ年でもありました。
本年後半には　若者たちの強い意志の塊が多くの「奇跡の姿」を見せてくれた年でもありました。
「あきらめない　一つになれば　奇跡は何度も起きる」
「偶然ではない　奇跡の姿は　何度でも・・・」
もう　はっきりと期待が膨らむ「明日は若者の時代」と・・・・・・
かつて　「とにかく　やってみなはれ」と若者たちを後押ししてくれた時代のように…

しっかり先を見据えて 挑戦する若者たちに期待と希望を膨らませています
本年一年 勝手な風来坊にお付き合いありがとうございました 来年もよろしく
God be with You!!　Mutsu Nakanishi　From Kobe

2022 Mutsu

mutsu2022.pdf

2022　四季折々 Monthly　毎月々の巻頭を飾ったページ

Home Page 更新時の Top Page Monthly page を集めて収録しています　神戸便り

■ 四季折々 Monthly page 2022

年賀	2月	3月	4月・5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

１月 年賀　迎春　年の初めに　コロナ禍の中で　一年を振り返って

２月 如月　神戸籠り近況の便り コロナ禍の中で　もうすぐ春が・・・・・

弥生　3月　ロシアのウクライナ侵攻 NO WAR　神戸の春便り 毎日の須磨 walk

４月 春爛漫から新緑の5月へ　芽吹き・桜から新緑へ 素晴らしい里山の春

６月 梅雨入り目前 神戸便り　新緑が素晴らしい季節に でも先が見えぬ厳しい世相

７月 初夏 神戸紫陽花の便り　期待の膨らむ7月になりますよう

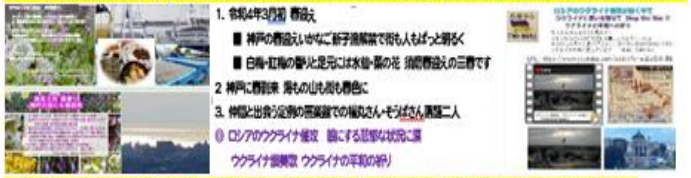
８月 盛夏 ひまわりの夏　酷暑・大気不安定・コロナ感染爆発　変革・混乱の渦の中に

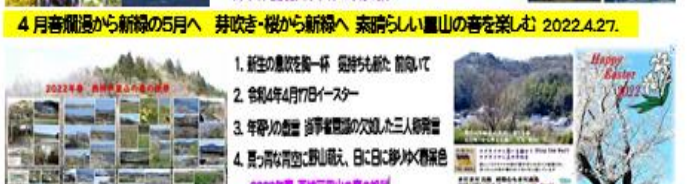
９月 爽やかな秋の始まり　たたら製鉄と日本の刀剣 蕨手刀からそして東北へ歴史をたどる

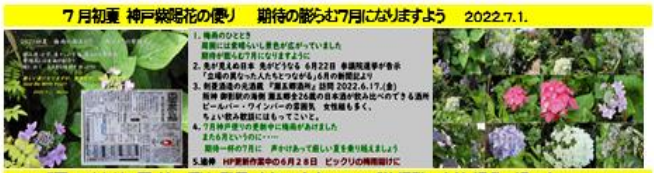
10月 初秋 神戸便り 小さい秋を探して 東播磨を駆ける

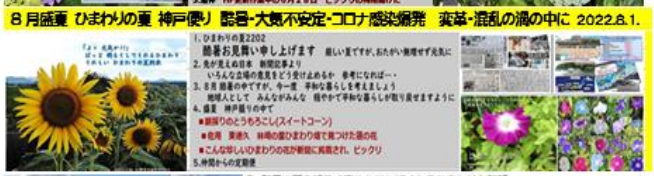
11月 深まりゆく秋 神戸コスモスの便り 美しい秋の夕暮れ そして サプライズ オリックスの優勝

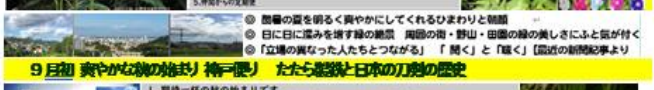
師走 冬晴れ 澄み渡る大阪湾・播磨灘 色々あった一年 真っ赤な紅葉が美しい ゆっくり一年を振り返る

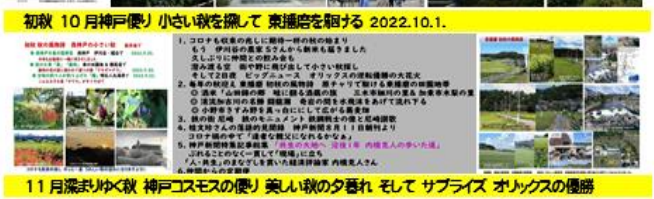












2022 四季折々　From Kobe　毎月々頭にあったことをメモ代わりにぶつぶつと　2022 Kobe

四季折々【From Kobe ・思いつくまま 】From Kobe　kobe2022.pdf

ポストコロナへ 低炭素社会実現への激動の社会変革の時代の幕開けにロシアのウクライナ侵攻

混乱が渦巻くコロナ禍3年目 疲弊する日本社会に思いを寄せて

From Kobe 2022　11 件 老いをひしひしと感じる歳になりましたが、まだまた元気に前向いて

1.【From Kobe 1 月年賀】2022年年の初め 迎春

高齢化が進む中で迎える「ポスト コロナ・低炭素社会の構築」 社会大変革の新時代の幕開け

みんながみんな 穏やかな暮らしが実現できるよう スクラム組んで新しい時代へ第一歩 前向いて

◎ home page 和鉄の道・Iron Road 2021 年総括　コロナ禍の中で一年を振り返って

2.【From Kobe 2 月 如月】 コロナ禍の中で 神戸籠り もうすぐ春が・・ 近況便り

◎ ポストコロナで迎える新時代 激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。

70 有余年の「気力-毎日毎日の思い-」が生きる力　ときには世話にもなりながら、頑張ろうと気分も新た

「コロナ対策と経済・雇用の回復へ 暮らし・雇用・経済の復興」に並行してもう待ったなし

「人類の危機地球温暖化の歯止め 低炭素社会への大転換」

誰もが避けられぬ経験したことのない「令和の 社会・経済の激烈な再編の時代」へのターニングポイント

高齢者には足がすくむ新時代 もう 自分の時代でないと知りつつも、でも立ち止まっては居られない

3.【From Kobe 弥生 3 月】神戸春便り 毎日の須磨 walk　ロシアのウクライナ侵攻 兵庫から「NO WAR」

コロナ禍の中で、ロシアのウクライナ侵攻、無慈悲・悲惨な戦場が眼前に。戦闘の即時停止を!!

◎ 春迎え 2022.2.28 神戸の春迎えの風物詩 いかなご新子漁と須磨離宮公園の梅

◎ 2022年神戸の春の Photo Album

4.【From Kobe 4・5 月】 4 月春爛漫から新緑の5月へ　芽吹き・桜が散って野山は一気に新緑へ

◎　新生の息吹を胸一杯 素晴らしい里山の春を楽しむ

収 録　1. 初めてみた残分 0.00 逆転さよならの3点シュート バスケ B2 リーグ 西宮ストークス 76-75 仙台

2. 飛行船が高倉山を越えていきました これも何年ぶりでしょうか・・・

5.【From Kobe 6 月】梅雨入り目前 新緑が素晴らしい季節に でも先が見えぬ厳しい世相

収 録 1. 仲間が送ってくれた懐かしい小冊子　優しい言葉が詰まっている

2. 中年化する就職氷河期世代 ―非正規雇用540万人の衝撃-の驚き

6.【From Kobe 7 月】初夏 神戸紫陽花の便り　期待の膨らむ7月になりますよう

収 録 1. 神戸新聞 桂文珍 落語見聞録「茗荷宿」

収 録 2.「立場の異なった人たちとつながる」 先が見えぬ日本 参議院選挙が告示 6.22.

7.【From Kobe 8 月】 ひまわりの夏 2022　酷暑・大気不安定・コロナ感染爆発 変革・混乱の渦

◎ 酷暑の夏を明るく爽やかにしてくれるひまわりと朝顔　平和を願って 思いも新た

収 録 最近のインターネット記事より「低炭素社会構築のために」

8.【From Kobe 9 月】爽やかな秋の始まり たたら製鉄と日本の刀剣 蕨手刀からそして東北へ歴史をたどる

収 録　経済評論家 内橋克人氏 没後一年　2022.9.5. 神戸新聞特集「内橋克人の歩いた道」転記

9. 【From Kobe 10 月】 初秋 神戸便り 小さい秋を探して 東播磨を駆ける

収 録 鉄の街 尼崎 鉄のモニュメント設置後約半世紀 鉄鋼戦士の像と尼崎讃歌

10. 【From Kobe 11 月】 深まる秋 神戸コスモスの便り 美しい秋の夕暮れ そして サプライズ オリックスの優勝

周囲はすっかり秋色　夕暮れはツルベ落とし 須磨のサンセットも素晴らしいコスモスの秋景色をスライド動画に

11. 【From Kobe 12 月 師走】 師走 冬晴れ 澄み渡る大阪湾・播磨灘 今年の紅葉がことのほか美しい

Merry Christmas !! God be with You!! われらみんな地球人 一年を振り返りつつ

■ 若者の時代到来を体現してくれたサッカー ワールドカップ この厳しい時代を生きる知恵 期待から確信へ

「あきらめない 一つになれば 奇跡は何度も起きる」

■ うそをつかない「科学の眼」 若者たちへのバトンタッチを日本は急がねば

■ 和鉄の道一年を振り返って

一年を振り返りつつ　2022.12.15. 12

Merry Christmas !!　God be with You!!
われらみんな地球人　一年を振り返りつつ
2022クリスマス　2022.12. 25.

■若者の時代到来を体現してくれたワールドカップ サッカー
この厳しい時代を生きる知恵　期待から確信へ
「あきらめない　一つになれば奇跡は何度も起きる」
■嘘をつかない「科学の眼」
若者たちへのバトンタッチを日本は急がねば
■和鉄の道一年を振り返って
■収録　桂文珍さんの落語的見聞録
神戸新聞11月11日 & 12月８日朝刊より
コロナ禍 最近の日本の世相に文珍さんの頭も絶好調
「世界が一周回って1ドル/３６０円??」
「にわかファンがカタール夢

◎嘘をつかない「科学の眼」を養おう

よく「真実は一つ」とよく言うが、その見え方は色々。だまし絵がそれだ。
いろいろに見える姿・形を見抜く眼。　それがうそをつかぬ「科学の眼」

政治家がよく使う手・即物的・スピードを良しとする近視眼的眼には
幾つもある「真実の姿」が映らない。
それを意図的に利用している節も垣間見える。

いま日本で一番不足しているのが、この「科学の眼」
日本は今　まさにこの科学の眼が試されている。

そんな折に サッカー日本チームの執念の技
１ミリの重なりを見抜いた科学の目の存在を大きく知らしめた。
日本の科学者たちも政治家の手法に取込まれず、もっと科学の目を養い、
声をあげねば。
科学の眼からすれば、真実は幾多の姿をして現れる。
奇跡は一回でなく、真実の姿もいくつもある。
オリジナルを見据える。先端を突き詰める。ルーツに遡る
そして総合・スクラム・　視点解析等々
科学の目を養う方法がいくつも試されて　勝ち得たサッカー日本チームの若者たち
ドーハでのうれしい体現に日本がわいた。
若者の時代到来と強く感じられた本年の年の暮れ。
嘘をつかない「科学の眼」若者たちへのバトンタッチを日本は急がねばと

2022.12.31.　&　2023.1.5.追記　Mutsu Nakanishi　From Kobe

2022 Mutsu

2022　四季折々 Monthly 記録リスト

Home Page 更新時の Top Page Monthly page を集めて収録しています　神戸便り

■ 四季折々 Monthly page 2022

年賀	2月	3月	4月・5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

1月 年賀　迎春　　年の初めに　コロナ禍の中で　一年を振り返って

和鉄の故郷　古代 山陰道日本海と倭を結ぶ和鉄の道 但馬和田山
天空に聳える城は「虎臥城」の名をもつ竹田城

高齢化が進む中で迎える「ポストコロナ・低炭素社会構築」
大変革の新時代 幕開け
みんながみんな穏やかな暮らしが実現できるよう
みんなでスクラム組んで　新しい時代へ　第一歩　前向いて

令和4年2月 如月　神戸籠り近況の便り コロナ禍の中で　もうすぐ春が・・・・

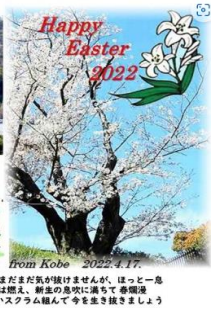
弥生3月 神戸の春便り 毎日の須磨 walk より　ロシアのウクライナ侵攻 NO WAR 2022.2.28

1. 令和4年3月初 春迎え
   - ■ 神戸の春迎えいかなご新子漁解禁で街も人もぱっと明るく
   - ■ 白梅・紅梅の香りと足元には水仙・菜の花 須磨春迎えの三春です
2. 神戸に春到来 海もの山も街も春色に
3. 仲間と出会う定例の喜楽館での福丸さん・そうばさん落語二人
4. ◎ ロシアのウクライナ侵攻　眼にする悲惨な状況に涙
   ウクライナ国美歌 ウクライナの平和の祈り

4月春爛漫から新緑の5月へ　芽吹き・桜から新緑へ 素晴らしい里山の春を楽しむ 2022.4.27.

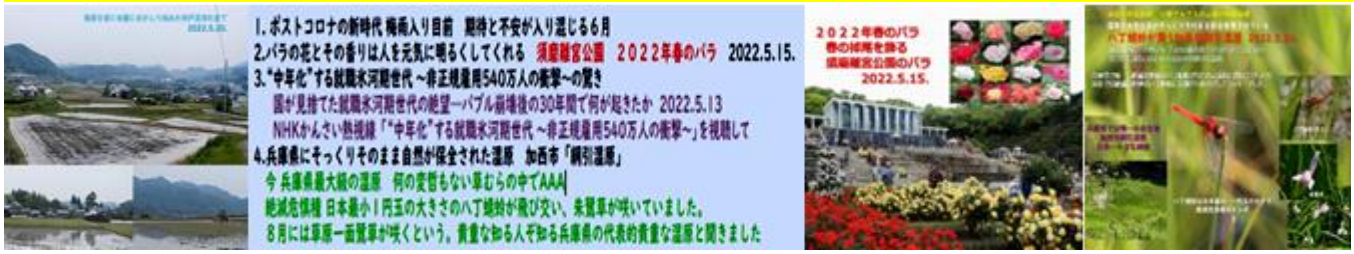
1. 新生の息吹を胸一杯　気持ちも新た 前向いて
2. 令和4年4月17日イースター
3. 年寄りの戯言 当事者意識の欠如した三人称発言
4. 真っ青な青空に野山萌え、日に日に移りゆく春景色

2022年春 西神戸里山の春の絶景
春の妖精「カタクリの花」に出逢えました



from Kobe 2022.4.17.
コロナ疲れの中 4月コロナ蔓延防止令が解かれ、まだまだ気が抜けませんが、ほっと一息
周りを見れば 課題山積の激動の新時代 でも野山は燃え、新生の息吹に満ちて 春爛漫
気分も日々あらた God Be With You!! お互いスクラム組んで 今を生き抜きましょう

6月梅雨入り目前 神戸便り　新緑が素晴らしい季節に でも先が見えぬ厳しい世相　2022.6.1.



７月初夏 神戸紫陽花の便り　期待の膨らむ7月になりますよう　2022.7.1.

1. 梅雨のひととき
   周囲には素晴らいし景色が広がっていました
   期待が膨らむ7月になりますように
2. 先が見えぬ日本 先がどうなる 6月22日 参議院選挙が告示
   「立場の異なった人たちとつながる」6月の新聞記より
3. 剣菱酒造の元酒蔵 『灘五郷酒所』訪問 2022.6.17.(金)
   阪神 御影駅の海側 灘五郷全26蔵の日本酒が飲み比べのできる酒所
   ビールバー・ワインバーの雰囲気　女性組も多く、
   ちょい飲み歓談にはもってこいと。
4. 7月神戸便りの更新中に梅雨があけました
   また6月というのに・‥‥
   期待一杯の7月に　声かけあって厳しい夏を乗り越えましょう
5. 追伸　HP更新作業中の６月２８日　ビックリの梅雨開けに

８月盛夏 ひまわりの夏 神戸便り 酷暑・大気不安定・コロナ感染爆発　変革・混乱の渦の中に 2022.8.1.

1. ひまわりの夏2202
   酷暑お見舞い申し上げます　厳しい夏ですが、おたがい無理せず元気に
2. 先が見えぬ日本　新聞記事より
   いろんな立場の意見をどう受け止めるか　参考になれば‥・
3. 8月 酷暑の中ですが、今一度　平和な暮らしを考えましょう
   地球人として　みんながみんな　穏やかで平和な暮らしが取り戻せますように
4. 盛夏　神戸籠りの中で
   ■朝採りのとうもろこし(スイートコーン)
   ■佐用　東徳久　林崎の里ひまわり畑で見つけた蓮の花
   ■こんな珍しいひまわりの花が新聞に掲載され、ビックリ
5. 仲間からの定期便

◎ 酷暑の夏を明るく爽やかにしてくれるひまわりと朝顔
◎ 日に日に深みを増す緑の絶景　周囲の街・野山・田園の緑の美しさにふと気が付く
◎「立場の異なった人たちとつながる」　「 聞く」と「聴く」【最近の新聞記事より

９月初 爽やかな秋の始まり 神戸便り　たたら製鉄と日本の刀剣の歴史

1. 期待一杯の秋の始まりです
   願いは一つ 穏やかな秋に　街に出て　久しぶりの再会も楽しみたい
2. 足元で白鷺が舞うがごとく咲く自生の鷺草が咲く加古川西岸　加西市網引湿原へ
3. NHK番組歴史探偵「日本の刀剣」視聴
   蕨手刀を手に戦った東北の蝦夷に思いを寄せて古代東北の和鉄の道 資料収集
   青森ねぶたお囃子の音を聞きたくて、BGMにしたスライド動画に
4. 桂文珍さんの落語的見聞録　　神戸新聞８月１１日朝刊より
   コロナ禍の中で「達者な親父になれるかなぁ」
5. 神戸籠り　毎日散歩で　源平一の谷の合戦「一の谷」全体を見下ろす
6. 仲間からの定期便

初秋 10月神戸便り 小さい秋を探して 東播磨を駆ける 2022.10.1.

1. コロナも収束の兆しに期待一杯の秋の始まり
   もう　伊川谷の農家Ｓさんから新米も届きました
   久しぶりに仲間との飲み会も
   澄み渡る空　街や野に飛び出して小さい秋探し
   そして2日夜　ビッグニュース　オリックスの逆転優勝の大花火
2. 毎年の秋迎え 東播磨 初秋の風物詩　原チャリで駆ける東播磨の田園地帯
   ◎ 酒米「山田錦の郷　畦に翻る酒蔵の旗　　三木市細川の里& 加東市木梨の里
   ◎ 清流加古川の名勝 闘龍灘　奇岩の間を水飛沫をあげて流れ下る
   ◎ 小野市きすみ野を真っ白ににして広がる蕎麦畑
3. 鉄の街 尼崎　鉄のモニュメント 鉄鋼戦士の像と尼崎讃歌
4. 桂文珍さんの落語的見聞録　神戸新聞８月１１日朝刊より
   コロナ禍の中で「達者な親父になれるかなぁ」
5. 神戸新聞特集記事総集 「共生の大地へ　没後１年　内橋克人の歩いた道」
   ぶれることのなく一貫して「現場」に立ち
   「人・共生」のまなざしを貫いた経済評論家 内橋克人さん
6. 仲間からの定期便

１１月深まりゆく秋 神戸コスモスの便り 美しい秋の夕暮れ そして サプライズ オリックスの優勝

1. いつもに増して素晴らしいコスモスの秋2022
   ◎南へ帰る渡り蝶の「蝶の道」西六甲の西端　藤袴咲く旗振山山上
   藤袴の花の中で乱舞するアサギマダラ　まるで南へ渡る準備のよう
   ◎ 加古川東岸　広大な田園が広がる稲美野のコスモス畑
   ◎ 赤いそばの花　姫路市香寺恒屋の里の赤いそば畑
   ◎予期せぬ「秋虹」が満開のコスモス畑の上に　志方高畑の郷のコスモス畑
   ◎ 小野市きすみ野　街中に溶け込んで真っ白な蕎麦畑
   ◎西の空を真っ赤に染める秋の夕暮れ　須磨の"Sunset"
2. オリックスの日本シリーズ優勝 おめでとう!!　ありがとう
   オリックス優勝　おめでとう!!　ありがとう
3. 我が家の柿も大豊作　一本しかない柿で１３０個を越える収穫
   知人やご近所にもおすそ分け　今年は大きい野がそろって
   庭では春咲きの花の苗づくり
4. 桂文珍さんの落語的見聞録　神戸新聞８月１１日朝刊より
   コロナ禍の中で「達者な親父になれるかなぁ」
5. 和鉄の道・鉄の話題　先が見えぬ低炭素社会の取組　鉄は今・・・・・
6. 仲間からの定期便

師走 冬晴れ 澄み渡る大阪湾・播磨灘 色々あった一年 真っ赤な紅葉が美しい　ゆっくり一年を振り返る

2022 Kobe

神戸で 思いつくまま From Kobe 2022 記録リスト 2022kobe.pdf

【From Kobe 1月 年賀】 2022年 迎春 年の初め

「ポストコロナ・低炭素社会構築」大変革の新時代 幕開け

- 世界がこぞって舵を切る
  実現は切実な願い カーボンニュートラル50
- コロナ禍で寸断された日常生活・雇用 経済の再建

高齢者には足がすくむ新時代 令和の産業革命
もう自分の時代でないと知りつつも、でも立ち止まっては居られない
みんながみんな穏やかな暮らしが実現できるよう
スクラム組んで 新しい時代へ 第一歩

大量のCO_2ガスを放出する高炉操業が主の日本の鉄鋼業
高度成長期を支えた鉄鋼業も業態大転換の厳しい対応の中
なにか忘れ去られようとしている。
でも 鉄鋼のから 鉄鋼もがんばれ!! とエールを送る

【From Kobe 2022 2月如月】春はすぐそこに

毎日Walk 須磨の散歩道 冬晴れ 久しぶりの大阪湾 風早乗越から高取山に登りました
過酷な中で奮闘している仲間や数多くの人たちにエールを送ります!!
春はすぐそこに

■【From Kobe 2022 2月如月】春はすぐそこに

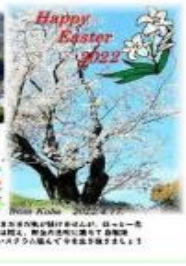
毎日 Walk 須磨の散歩道 冬晴れ 久しぶりの大阪湾 風早乗越から高取山に登りました
過酷な中で奮闘している仲間や数多くの人たちにエールを送ります!! 春はすぐそこに

■【From Kobe 2022 3月 弥生】 神戸にも春到来 神戸の春便り 毎日須磨 walk より

草花が咲き始めた3月澄み渡る空に里山は芽吹き 春霞の中できらきら輝く須磨の海
まだまだコロナ禍の中ですが、春うらら 春の訪れ

● ウクライナ讃美歌「ウクライナへの祈り」 友人が送ってくれた youtube 動画に涙しています

■【From Kobe 2022 ４月 】ポストコロナの新時代の幕開け 2022 年神戸の春便り



新生の息吹に目を向けて　もう自分たちの時代ではないと知りつつも　厳しい時代を前向いて

◆芽吹きから桜が咲いて一機に新緑へ　西神戸里山の春の絶景

収録１．　久しぶりのバスケットボール観戦　奇跡的な一瞬　残分０での逆転劇に出逢いました

収録2．　高倉山を越えて行く飛行船に出逢いました

■【from Kobe 2022 6月】梅雨入り目前 神戸6月の便り

ポストコロナの新時代

期待と不安が入り混じる６月神戸便り　2022.6.1.

梅雨目前　やっとコロナ禍も収束の道をたどるのか…

街に活気が戻って　行動制限もあとわずかの我慢

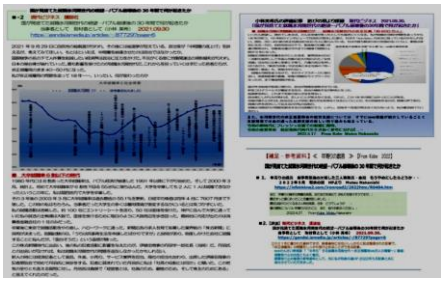
梅雨入りも良し　元気に飛び出して仲間との出会い

老いを元気にと　期待と希望の６月です

収

1. 仲間が送ってくれた懐かしい小冊子　優しいことばが詰まってる
ふと 立ち止まって 小冊子に目をとめることも…
ポストコロナの新時代 スピードだけがもてはやされる今の時代感を変えてゆかねば…

2. “中年化”する就職氷河期世代 ～非正規雇用540万人の衝撃～の驚き
NHKかんさい熱視線 国が見捨てた就職氷河期世代の絶望…
「“中年化”する就職氷河期世代 ～非正規雇用540万人の衝撃～」を視聴して
バブル崩壊後の30年間で何が起きたか 2022.5.13



■　【四季折々・from Kobe2022年 ７月 】

神戸７月初夏　神戸 紫陽花の便り　梅雨の雨上がりをゆったりと

収録１．桂文珍　落語見聞録　茗荷宿　神戸新聞より　我が家も夏の薬味　茗荷がすくすくと

収録２．６月気になった新聞記事より　立場の異なった人たちとつながる

６月２２日参議院選挙が告示 先が見えぬ日本　先がどうなる

【スライド動画】梅雨の雨上がり　2022 雨上がりの紫陽花

HP 更新中の６月２８日梅雨があけました　まだ６月というのに・・…

期待一杯の７月になるように　声かけあって厳しい夏を乗り越えましょう

■【四季折々・from Kobe 2022年８月 】

厳しい夏ですが、無理せず元気に　コロナ感染急拡大・酷暑が続く中で迎えた ひまわりの夏 2022.

◎ 酷暑の夏を明るく爽やかにしてくれるひまわりと朝顔

◎ 日に日に深みを増す緑の絶景　周囲の街・野山・田園の緑の美しさにふと気が付く

◎「立場の異なった人たちとつながる」 「 聞く」と「聴く」【最近の新聞記事より

収録　ポストコロナの新時代　低炭素社会構築のために
今月気になったインターネット記事

収録 1. 自動車メーカーの「下請けイジメ」の記事に思う　2022. 7. 15.
サプライヤーの「ケイレツ格差」もう随分長いなぁ…と
収録 2. 神戸新聞コラム 2022. 7. 29.「正平調 -聞くと聞く-」
& 元阪大総長 臨床哲学の鷲尾清一氏エッセイ「汀にて ー 謙虚な叡智 ー」
収録 3.「GE 帝国盛衰史」Book 紹介コピー　お役に立てばと・・・・　2022. 7. 12.

■【四季折々・from Kobe 2022年９月】期待一杯の初秋　過酷な夏のから初秋へ

朝夕爽やかな風も吹きはじめ、さすがの酷暑ももう少し
季節の替わり目　我が家の庭もすっかり夏から初秋に
気分も変わって　嬉しい秋の訪れです
願いは一つ
穏やかな秋街に出て　久しぶりの再会も楽しみたい

収録　経済評論家　内橋克人氏 没後一年　神戸新聞特集「内橋克人の歩いた道」2022.9.5.転記
添付 和鉄の道 内橋克人 評論関連掲載記事整理

■【四季折々・from Kobe 2022年 10 月 】初秋 10 月 小さい秋を探して

収録 1. 経済評論家　内橋克人氏 没後一年　神戸新聞特集「内橋克人の歩いた道」転記収録
収録２　鉄の街 尼崎　鉄のモニュメント　設置後約半世紀 鉄鋼戦士の像と工都尼崎讃歌

■【四季折々・from Kobe 】2022年 11 月　 2022 コスモスの秋　 2022.11.5.

■【四季折々・from Kobe 】12 月師走 神戸便り 一年を振り返りつつ　2022.12.15. 12

Merry Christmas !!　God be with You!!
われらみんな地球人　一年を振り返りつつ
2022クリスマス　2022.12. 25.

■若者の時代到来を体現してくれたワールドカップ サッカー
　この厳しい時代を生きる知恵　期待から確信へ
　「あきらめない　一つになれば奇跡は何度も起きる」
■嘘をつかない「科学の眼」
　若者たちへのバトンタッチを日本は急がねば
■和鉄の道一年を振り返って
■収録　桂文珍さんの落語的見聞録
　神戸新聞11月11日 & 12月８日朝刊より
　コロナ禍 最近の日本の世相に文珍さんの頭も絶好調
　「世界が一周回って1ドル/３６０円??」
　「にわかファンがカタール夢

◎嘘をつかない「科学の眼」を養おう

よく「真実は一つ」とよく言うが、その見え方は色々。だまし絵がそれだ。
いろいろに見える姿・形を見抜く眼。　それがうそをつかぬ「科学の眼」

政治家がよく使う手・即物的・スピードを良しとする近視眼的眼には
幾つもある「真実の姿」が映らない。
それを意図的に利用している節も垣間見える。

いま日本で一番不足しているのが、この「科学の眼」
日本は今　まさにこの科学の眼が試されている。

そんな折に サッカー日本チームの執念の技
１ミリの重なりを見抜いた科学の目の存在を大きく知らしめた。
日本の科学者たちも政治家の手法に取込まれず、もっと科学の目を養い、
声をあげねば。

科学の眼からすれば、真実は幾多の姿をして現れる。
奇跡は一回でなく、真実の姿もいくつもある。
オリジナルを見据える。先端を突き詰める。ルーツに遡る
そして総合・スクラム・　視点解析等々
科学の目を養う方法がいくつも試されて　勝ち得たサッカー日本チームの若者たち
ドーハでのうれしい体現に日本がわいた。
若者の時代到来と強く感じられた本年の年の暮れ。
嘘をつかない「科学の眼」若者たちへのバトンタッチを日本は急がねばと

2022.12.31.　&　2023.1.5.追記　Mutsu Nakanishi　From Kobe

2022 Mutsu

mutsu 2022.pdf

2022 四季折々 Monthly

毎月々の HP「和鉄の道」の巻頭を飾った Page 収録　神戸便り

年賀	2月	3月	4月・5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

2023.2.1.

1 月 年賀　迎春　年の初めに　コロナ禍の中で　一年を振り返って

2 月 如月　神戸能り近況の便り コロナ禍の中で　もうすぐ春が・・・・・

弥生　3月　ロシアのウクライナ侵攻 NO WAR　神戸の春便り 毎日の須磨 walk

4 月 春爛漫から新緑の5月へ　芽吹き・桜から新緑へ 素晴らしい里山の春

6 月 梅雨入り目前 神戸便り　新緑が素晴らしい季節に でも先が見えぬ厳しい世相

7 月 初夏 神戸紫陽花の便り　期待の膨らむ7月になりますよう

8 月 盛夏 ひまわりの夏　酷暑・大気不安定・コロナ感染爆発　変革・混乱の渦の中に

9 月 爽やかな秋の始まり　たたら製鉄と日本の刀剣 厳手刀からそして東北へ歴史をたどる

10 月 初秋 神戸便り 小さい秋を探して 東播磨を駆ける

11 月 深まりゆく秋 神戸コスモスの便り 美しい秋の夕暮れ そして サプライズ オリックスの優勝

師走 冬晴れ 澄み渡る大阪湾・播磨灘 色々あった一年 真っ赤な紅葉が美しい ゆっくり一年を振り返る

By　Mutsu　Nakanishi

2022 Mutsu

2022　四季折々 Monthly 神戸便り 目 次

Home Page 更新時の Top Page Monthly page を集めて収録しています

■ 四季折々 Monthly page 2022

年賀	2月	3月	4月・5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

1 月 年賀　迎春　　年の初めに　コロナ禍の中で　一年を振り返って

和鉄の故郷　古代 山陰道日本海と倭を結ぶ和鉄の道　但馬和田山
天空に聳える城は「虎臥城」の名をもつ竹田城

高齢化が進む中で迎える「ポストコロナ・低炭素社会構築」
大変革の新時代 幕開け
みんながみんな穏やかな暮らしが実現できるよう
みんなでスクラム組んで　新しい時代へ　第一歩　前向いて

令和4年2月 如月　神戸籠り近況の便り コロナ禍の中で　もうすぐ春が・・・・

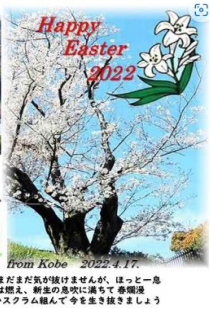
弥生3月 神戸の春便り 毎日の須磨 walk より　ロシアのウクライナ侵攻 NO WAR 2022.2.28

1. 令和4年3月初 春迎え
   - ■ 神戸の春迎えいかなご新子漁解禁で街も人もぱっと明るく
   - ■ 白梅・紅梅の香りと足元には水仙・菜の花 須磨春迎えの三春です
2. 神戸に春到来 海もの山も街も春色に
3. 仲間と出会う定例の喜楽館での福丸さん・そうばさん落語二人
4. ◎ ロシアのウクライナ侵攻　眼にする悲惨な状況に涙
   ウクライナ国美歌 ウクライナの平和の祈り

4 月春爛漫から新緑の5月へ　芽吹き・桜から新緑へ 素晴らしい里山の春を楽しむ 2022.4.27.

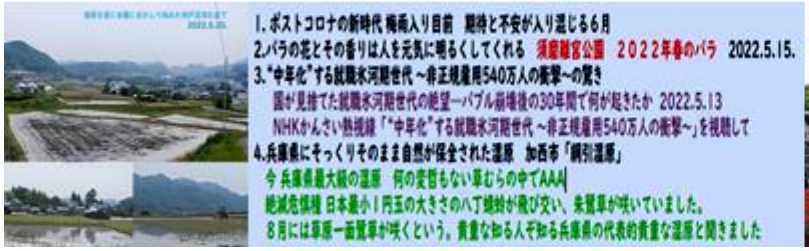
1. 新生の息吹を胸一杯　気持ちも新た 前向いて
2. 令和4年4月17日イースター
3. 年寄りの戯言 当事者意識の欠如した三人称発言
4. 真っ青な青空に野山萌え、日に日に移りゆく春景色

2022年春 西神戸里山の春の絶景
春の妖精「カタクリの花」に出逢えました



コロナ疲れの中 4 月コロナ蔓延防止令が解かれ、まだまだ気が抜けませんが、ほっと一息
周りを見れば 課題山積の激動の新時代 でも野山は燃え、新生の息吹に満ちて 春爛漫
気分も日々あらた God Be With You!!　お互いスクラム組んで 今を生き抜きましょう

6 月梅雨入り目前 神戸便り　新緑が素晴らしい季節に でも先が見えぬ厳しい世相　2022.6.1.



７月初夏 神戸紫陽花の便り　期待の膨らむ7月になりますよう　2022.7.1.

1. 梅雨のひととき
   周囲には素晴らしい景色が広がっていました
   期待が膨らむ7月になりますように
2. 先が見えぬ日本　先がどうなる　6月22日　参議院選挙が告示
   「立場の異なった人たちとつながる」6月の新聞記より
3. 剣菱酒造の元酒蔵 『灘五郷酒所』訪問 2022.6.17.(金)
   阪神 御影駅の海側 灘五郷全26蔵の日本酒が飲み比べのできる酒所
   ビールバー・ワインバーの雰囲気　女性組も多く、
   ちょい飲み歓談にはもってこいと。
4. 7月神戸便りの更新中に梅雨があけました
   また6月というのに・・・・
   期待一杯の7月に　声かけあって厳しい夏を乗り越えましょう
5. 追伸　HP更新作業中の６月２８日　ビックリの梅雨開けに

８月盛夏 ひまわりの夏 神戸便り 酷暑・大気不安定・コロナ感染爆発　変革・混乱の渦の中に 2022.8.1.

1. ひまわりの夏2202
   酷暑お見舞い申し上げます　厳しい夏ですが、おたがい無理せず元気に
2. 先が見えぬ日本　新聞記事より
   いろんな立場の意見をどう受け止めるか　参考になれば・・・
3. ８月 酷暑の中ですが、今一度　平和な暮らしを考えましょう
   地球人として　みんながみんな　穏やかで平和な暮らしが取り戻せますように
4. 盛夏　神戸籠りの中で
   ■朝採りのとうもろこし(スイートコーン)
   ■佐用　東徳久　林崎の里ひまわり畑で見つけた蓮の花
   ■こんな珍しいひまわりの花が新聞に掲載され、ビックリ
5. 仲間からの定期便

◎ 酷暑の夏を明るく爽やかにしてくれるひまわりと朝顔
◎ 日に日に深みを増す緑の絶景　周囲の街・野山・田園の緑の美しさにふと気が付く
◎「立場の異なった人たちとつながる」　「 聞く」と「聴く」【最近の新聞記事より

９月初 爽やかな秋の始まり 神戸便り　たたら製鉄と日本の刀剣の歴史

1. 期待一杯の秋の始まりです
   願いは一つ　穏やかな秋に　街に出て　久しぶりの再会も楽しみたい
2. 足元で白鷺が舞うがごとく咲く自生の鷺草が咲く加古川西岸　加西市網引湿原へ
3. NHK番組歴史探偵「日本の刀剣」視聴
   蕨手刀を手に戦った東北の蝦夷に思いを寄せて古代東北の和鉄の道 資料収集
   青森ねぶたお囃子の音を聞きたくて、BGMにしたスライド動画に
4. 桂文珍さんの落語的見聞録　神戸新聞８月１１日朝刊より
   コロナ禍の中で「達者な親父になれるかなぁ」
5. 神戸籠り　毎日散歩で　源平一の谷の合戦「一の谷」全体を見下ろす
6. 仲間からの定期便

初秋 10 月神戸便り 小さい秋を探して 東播磨を駆ける 2022.10.1.

1. コロナも収束の兆しに期待一杯の秋の始まり
   もう　伊川谷の農家 Sさんから新米も届きました
   久しぶりに仲間との飲み会も
   澄み渡る空　街や野に飛び出して小さい秋探し
   そして2日夜　ビッグニュース　オリックスの逆転優勝の大花火
2. 毎年の秋迎え 東播磨 初秋の風物詩　原チャリで駆ける東播磨の田園地帯
   ◎ 酒米「山田錦の郷　畦に翻る酒蔵の旗　三木市細川の里& 加東市木梨の里
   ◎ 清流加古川の名勝 闘龍灘　奇岩の間を水飛沫をあげて流れ下る
   ◎ 小野市きすみ野を真っ白ににして広がる蕎麦畑
3. 鉄の街 尼崎　鉄のモニュメント 鉄鋼戦士の像と尼崎讃歌
4. 桂文珍さんの落語的見聞録　神戸新聞８月１１日朝刊より
   コロナ禍の中で「達者な親父になれるかなぁ」
5. 神戸新聞特集記事総集　「共生の大地へ　没後１年　内橋克人の歩いた道」
   ぶれることのなく一貫して「現場」に立ち
   「人・共生」のまなざしを貫いた経済評論家 内橋克人さん
6. 仲間からの定期便

１１月深まりゆく秋 神戸コスモスの便り 美しい秋の夕暮れ そして サプライズ オリックスの優勝

1. いつもに増して素晴らしいコスモスの秋2022
   ◎南へ帰る渡り蝶の「蝶の道」西六甲の西端　藤袴咲く旗振山山上
   藤袴の花の中で乱舞するアサギマダラ　まるで南へ渡る準備のよう
   ◎ 加古川東岸　広大な田園が広がる稲美野のコスモス畑
   ◎ 赤いそばの花　姫路市壺寺恒星の里の赤いそば畑
   ◎ 予期せぬ「秋虹」が満開のコスモス畑の上に　志方高畑の郷のコスモス畑
   ◎ 小野市きすみ野　街中に溶け込んで真っ白な蕎麦畑
   ◎西の空を真っ赤に染める秋の夕暮れ　頭部の"Sunset"
2. オリックスの日本シリーズ優勝 おめでとう!!　ありがとう
   オリックス優勝　おめでとう!!　ありがとう
3. 我が家の柿も大豊作　一本しかない柿で１３０個を越える収穫
   知人やご近所にもおすそ分け　今年は大きい野がそろって
   庭では春咲きの花の苗づくり
4. 桂文珍さんの落語的見聞録　神戸新聞８月１１日朝刊より
   コロナ禍の中で「達者な親父になれるかなぁ」
5. 和鉄の道・鉄の話題　先が見えぬ低炭素社会の取組　鉄は今・・・・・
6. 仲間からの定期便

師走 冬晴れ 澄み渡る大阪湾・播磨灘 色々あった一年 真っ赤な紅葉が美しい　ゆっくり一年を振り返る

2022 Mutsu
年賀 1月

1月 年賀　迎春
年の初めに　コロナ禍の中で　一年を振り返って

和鉄の故郷　古代 山陰道日本海と倭を結ぶ和鉄の道　但馬和田山
天空に聳える城は「虎臥城」の名をもつ竹田城

高齢化が進む中で迎える「ポストコロナ・低炭素社会構築」
大変革の新時代 幕開け
みんながみんな穏やかな暮らしが実現できるよう
みんなでスクラム組んで　新しい時代へ　第一歩　前向いて

和鉄の故郷　古代 山陰道日本海と倭を結ぶ和鉄の道　但馬和田山
天空に聳える城は「虎臥城」の名をもつ竹田城

参考和鉄の道　https://www.infokkkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0209asagotakeda00.htm

ポストコロナで迎える新時代　激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。
「**コロナ対策と経済・雇用の回復への暮らし・雇用・経済の復興**」に並行して
もう待ったなし「**人類の危機地球温暖化の歯止め止め　低炭素社会への大転換**」
誰もが避けられぬ経験したことのない
「令和の産業革命　社会・経済の激烈な再編の時代」へのターニングポイント
高齢者には足がすくむ新時代
もう　自分の時代でないと知りつつも、でも立ち止まっては居られない
知力・体力は衰えたとはいえ、足も動くし、まだまだ好奇心もあり。
70有余年の「気力-毎日毎日の思い-」が生きる力
ときには世話にもなりながら、お互いスクラムくんで　頑張りましょう
God be with You!!　仲間の元気は　みんなの応援歌
この新しい時代をみんながみんな笑顔で暮らせるように

先が見えぬ厳しいコロナ禍
困難の中にある仲間に　思いをはせています。
一人で頑張らず、無理せず今はみんなに声あげて!!　.
仲間がいる。仲間の元気はみんなの応援歌
互いに連絡取り合って　元気に前向いて笑顔で今を。

皆様のご健康とご多幸を お祈りいたします
本年もよろしくお願い致します
令和4年　元旦
Mutsu Nakanishi　From Kobe

高齢化が進む中で迎える「ポストコロナ・低炭素社会構築」
大変革の新時代 幕開け
みんながみんな穏やかな暮らしが実現できるよう
みんなでスクラム組んで　新しい時代へ　第一歩　前向いて

我が身に降りかかる過酷な産業・経済・社会の大変革時代の幕開け
令和の産業革命の新時代
どうすればよいのか　人任せではどうにもならぬ厳しい新時代　立ち位置をしっかりと

◎ **世界がこぞって舵を切る　カーボン　ニュートラル50　実現は切実な願い**
地球暴走の歯止め　CO2増加をみんなの力で止めよう
掛け声は心地よいが、我が身に降りかかる産業・経済・社会の大変革
今CO2 増加を食い止めねば地球は暴走　人類破滅の危機　生きとし生けるものみんなに
もう後戻りできぬターニング　ポイントに直面している今
「持続可能な開発目標（SDGs・「カーボン イーブン50」の達成が今世界の最大課題
気候変動による激甚災害に　歯止めをかけて　持続可能な低炭素社会の実現へ
また　CO2排出量の多い大型高炉操業を続けてきた日本の鉄鋼業は生き残れるだろうか・・・・

◎ **コロナ禍で寸断された日常生活・雇用　経済の再建**
みんながみんな　命の危機に直面したコロナ禍
やっとみんなの自己行動節制・ワクチン接種等々でコロナ収束へ
ほっとしたのもつかの間　世界はイプシロン変異株が猛威を振るう第6波が大流行
検疫強化で遅延されてきた日本も　ついに今　市中感染が見つかり、流行化の危機
までのコロナより、感染力は数倍の感染力のイプシロン変異株　高齢者には厳しい。
でも　コロナ禍2年を乗り越えた経験・医療従事者の懸命なネットワーク
そしてワクチン投与もある
みんなの力で第6波を食い止め、取り戻そう　穏やかな日常を

今年一年　いろんな思いが駆け巡る令和4年の始まりです。

まだまだ　好奇心もある。
お互い　気力をふりしぼって、
この厳しいポストコロナの時代を前向いて。
よろしくおねがいします。
いつも勝手な神戸からの便り　お許しください。
God be with You!!
また　元気に出会える日を楽しみにしています。

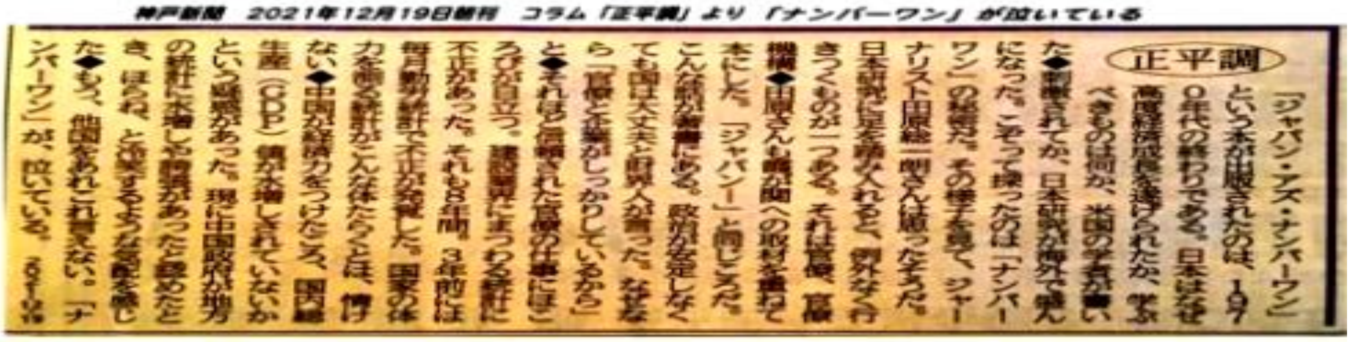
From Kobe　Mutsu　Nakanishi

2021年総括　コロナ禍の中で

home page 和鉄の道・Iron Road を振り返って

今日は目まぐるしく変わる天候とともに 西風我吹き荒れ　師走らしい厳しい寒さの神戸です。
神戸では例年12付きの風物詩、光のルミナリエが今年も中止され、寂しい限りですが、やっと新型コロナも収束の落ち着いた動き。
コロナ変異株「オミクロン」の流行の兆しはアルもののホット一息。街もやっと明るさが戻りつつあります。
油断大敵　マスクと行動の自己規制はかかせませんが・・・・
本年も勝手な風来坊「和鉄の道・*Iron Road*」にお付き合いいただきありがとうございました。
また　一年　相変わらずですが、コロナ禍の中　*"God be with You!!"* の言葉とともにあっという間に*1*年が過ぎてゆく。
つくづく日が経つのが早く感じる歳になったと。
新型コロナ収束に向かいホッとしてましたが、新たな変異株（オミクロン株）流行の兆し。
まだまた　気を緩めることなく頑張らねはと。　本当に我が身命の危険を身近に感じた一年でした。
早く穏やかな暮らしが取り戻せるようにと願っています。
振り返ってみれば　本当に色々あった一年、
home Page の中味も神戸籠もリの中で、厳しいコロナ禍の中で　なんとか明るく前向いてと。
世は情報があふれるデジタル時代　電話も会合もネットでかも見られる情報社会。
でも　はっと気がつ居てみれば、みんな仮想現実・非日常。
みんな今までと変わらぬというのですが、自分ひとりが取り残されているとの不安感。
今ほど顔を突き合わせ、お互い生の会話のできるありがたさを感じたことは無し。仲間に出会いたいなぁと。
そんな中、温暖化による地球環境の激変化が切実・身近に　我が身に降りかかるようになって、待ったなし。
避けることの出来ない脱炭素社会構築へ全世界が舵を切る。ポストコロナと脱炭素の時代　激変する時代に不安一杯。。
みんながみんな穏やかな暮らしを取り戻せるのか・・自分はどうなるのか・・・
今一番　日本が取組遅れの厳しい現実に直面してる。
姿を見せぬ本当の現実がコロナ禍の中で　垣間見え隠れしはじめ、思いもかけず、我が身に降りかかる。
突破口を見いだせぬ日本に苛立ちを感じる様子がホームページ掲載の文面の随所にもありありと。
自分では何も出来ないと感じながら、後ろから今を考える年代になったとつくづく感じてきた一年でもありました。

神戸新聞　2021年12月19日朝刊　コラム「正平調」より「ナンバーワン」が泣いている



正平調

「ジャパン・アズ・ナンバーワン」という本が出版されたのは、1970年代の終わりである。日本はなぜ高度経済成長を遂げられたか、学ぶべきものは何か。米国の学者が書いた◆翻訳されてか、日本研究が海外で盛んになった。こぞって扱ったのは「ナンバーワン」の秘密だ。その様子を見て、ジャーナリスト田原総一朗さんは疑ったそうだ。日本研究に足を踏み入れると、例外なく行きつくものが一つある。それは官僚。高[illegible]◆田原さんも政治家への取材を重ねてきたし、「ジャパン」と同じところだ。こんな結論が著書にある。政治が安定しなくても国は大丈夫と財界人が言った。なぜなら「官僚と企業がしっかりしているから」と◆それほど信頼された官僚の仕事にほころびが目立つ。建設業界にまつわる統計に不正があった。それも8年前。3年前には毎月勤労統計で不正が発覚した。国家の体力を測る統計がこんな体たらくとは。情けない◆中国が経済力をつけたころ、国内総生産（GDP）の数字が水増しされていないかという疑惑があった。現に中国政府が地方の統計に水増しや誤差があったと認めたとき、ほらね、と冷笑するような空気が流れた◆もう、他国をあれこれ言えない。「ナンバーワン」が、泣いている。[illegible]

毎朝見ている神戸新聞のトップ紙面コラム「正平調」にも上記一年の締めくくりとして、日本の状況につい手厳しい言葉が綴られていました。
まもなくこう*1.17.*阪神・淡路大震災記念日がやってくる。　そしてあのルミナリエの灯がついた時を忘れない。
否応なしにさらされる激変の時代の幕開けに、思いも新た。
希望と期待をもって　頑張らねば・・・。
鉄鋼もがんばれ*!!*　がんばろう*!!*

自分の時代でないとの思いはありますが、しっかりとこの時代を前向いて・・

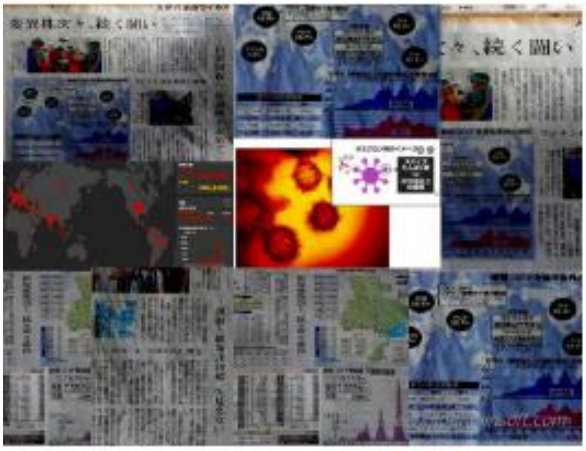
◎「鉄の惑星　地球」　人類の歴史の中で　難局に出会うたびに新たなイノベーションを巻き起こし、
　新しい展開を切り開いてきた鉄。
　長く取り組んできた「鉄の起源・歴史」を　本年春　まとめることが出来た「たたらの源流　鉄の起源　&
　ユーラシア大陸東遷の道」（愛媛大東アジア古代鉄文化センター国際シンポ　聴講記録集成聴講記録）にも
　そんな事象がいくつも記されている。
　*HP*開設以来*20*年を経過した年末には「私の和鉄の道・*Iron Road*」を整理して　眺め直す事もできました。
　これからどんな姿になって、鉄がこの難局を切り開いてくれるのか　それも楽しみな和鉄の道です。
　ポストコロナ　脱差炭素社会がどんな姿で登場するのか　明日の時代の平和で穏やかな暮らしに期待して。
　本当にエポックメーキングな一年　和鉄の道・*Iron Road 2021*でした。

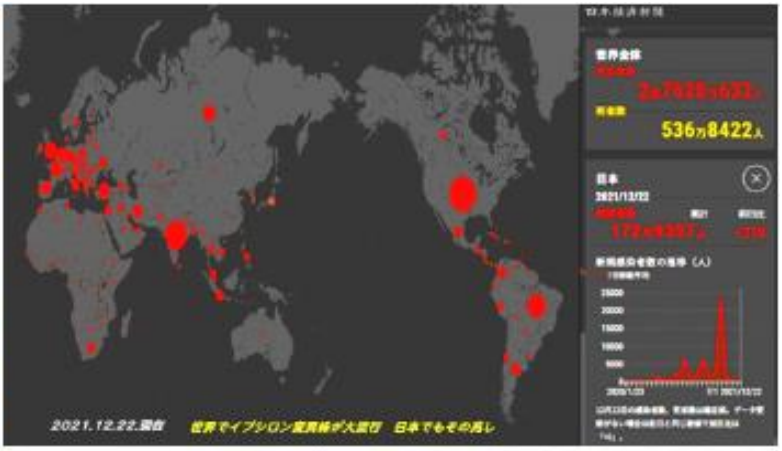
◎　鉄とともに鉄のない縄文の世界にも惹かれ、ずっと*HP*への掲載取組をしてきた「日本の縄文」。
　心優しき縄文人たちが約*1*万年の長きにわたる永続社会をつくってきた日本の縄文
　コロナ禍の中で、長年の夢がかなって、ユネスコ世界文化遺産に登録されたのも嬉しいニュースでした。

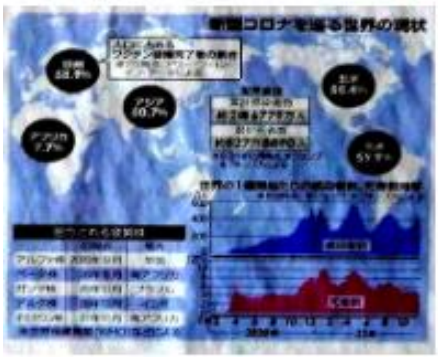
◎　*CO2*排出ストップの厳しい操業携帯移行を迫られる鉄鋼　過酷化する地球環境に歯止めをかけるには待ったなし。
　*CO2*排出量の多い大型高炉操業への依存度の高い日本の鉄鋼業は脱炭素社会構築の中で今一番厳しい立場に置かれ
　ている。　退場を願うと言う人達も数多く、長く鉄鋼の中で育ててもらった私にとっても、一番気になっている。
　今数々の新しい高炉操業変革に取り組んでいる。それがこれから目に見えてくる。
　必ずや日本の鉄鋼の歴史が新しい道を切り開いてくれると期待一杯。　鉄鋼ガンバレ*!!*と。

◎　私ごとですか、本年6月末　足踵骨折で約20年ぶりに入院生活。　足を地面につけられぬ厳しい正つの苦しさや入院高齢者が多いリハビリ病院の現実も知り、元気で健康でいるあがたさもつくづく。
入院・神戸籠りの中で、アルバム整理を兼ねた断舎離。今までの道を振り返る良い機会。忘れかけていた数々の人たちや事柄との交流がありありと。長くかかった整理ですが、自分の生き方を振り返りいい整理ができました。

◎　多くの知人や仲間にも助けてもらいながらも、孫たちも元気に成長。みんなに感謝です。
本当に早く出あいたいなぁとの思いも強いです。
気がかりは　今年も多くの仲間・先輩・知人の訃報に接し、秋送りをしました。
もうそんな歳になつたんやと今の健康に感謝しつつ、から元気の毎日。
毎日　前向いて元気にと本当に一年ありがとうございました。
引き続きよろしくおねがいします。







検疫で稼いだ時間、問われる第6波　オミクロン株市中感染

22日、新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の市中感染が国内で初めて確認された。従来のデルタ株などと比べ、感染力が強いとみられるオミクロン株。今後、欧米のように拡大し、感染「第6波」の到来も懸念される。その日に備え、保健所や病院は状況を注視している。　◇在宅医療強化の必要性指摘

「持続可能な開発目標（SDGs・「カーボン イーブン50」の達成が今世界の最大課題
気候変動による激甚災害に歯止めをかけて　持続可能な低炭素社会の実現へ
最近は産業界の命運を駆けて、業界具体的な取組展開現況発表化が相次いでいる

参考　和鉄の道　2月　政府が策定した「2050年カーボンニュートラル　政府脱炭素社会を目指す14重点項目策定 」

参考 参考2　.【動画】先行する欧州の
化石燃料を使わぬ鉄鋼生産　インターネットBloomberg　home page より
SSAB スウェーデンスティール（株）ほか鉄鋼三社の共同プロジェクト

https://www.bloomberg.co.jp/news/videos/2021-11-24/R32DADT0G1KW01

よく知らなかった「持続可能な開発目標（SDGs」
「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」
インターネット検索で

2015年9月に国際連合加盟国が決議採択

■ 持続可能な開発目標（SDGs）について　https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html

■ 持続可能な開発目標（SDGs）達成に 向けて 日本が果たす役割
SDGsを通じて、豊かで活力ある未来を創る
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/sdgs_gaiyou_202103.pdf

◎ 今月の掲載記事トピックス

■ 和鉄の道 home page 開設 20 年余 「和鉄の道・Iron Road Review」を作成

1．私蔵版「和鉄の道・Iron Road」【Review1】2000・2001 日本の源流・たたらとの出会い

https://www.infokkkna.com/ironroad/2021htm/iron17/R0312MutsuIronRoad2021Aweb.pdf

2．私蔵版「和鉄の道・Iron Road」【Review2】たたら探訪通史（たたらの歴史）

https://www.infokkkna.com/ironroad/2021htm/iron17/R0312MutsuIronRoad2021Bweb.pdf

「和鉄の道・Iron Road since 1999 - 日本の源流・たたら遺跡探訪-」のhome pageを解説して約20年
その年ごとに「和鉄の道」・「風来坊」「四季折々・From Kobe」に合本整理してきましたが、
ライフワークとしてきた「鉄の起源・和鉄の道」の歴史的な流れに沿ったレビューをまとめられていないことが気がかり
長年聴講参加させていただいた愛媛大学村上恭通先生たちの10数年に渡る「鉄の起源・鉄のユーラシア大陸東遷の道」
探求プロジェクトの国際シンポ・成果報告会に毎年聴講参加させていただき、
「愛媛大東アジア古代鉄文化センター国際シンポ聴講記録集成聴講記録 鉄の起源 & ユーラシア大陸東遷の道」
として昨年末にまとめることが出来ました。
本年 コロナ禍の中で、古いアルバム等の断舎離を始めて、日本のたたら製鉄の資料の集成整理にも着手。
今回 私蔵版「私の和鉄の道・Iron Road - 日本の源流・たたら遺跡探訪-」として、home Page 和鉄の道レビューを作成。
かつてよく参考・引用転記させていただいた穴澤義功先生の「古代たたら遺跡の歴史」講演スライド集をインターネットで
見つけ、主要資料として採録転記収録させていただきました。。
素人 誠に勝手な資料ですが、参考になればと。

また、本年11月・12月二インターネットで集めた「低炭素カーボンイーブン50」資料も合わせて掲載。
ポストコロナ 低炭素社会の構築の入口にいる今 令和の産業革命と言える大変革の時代がどんなふうに展開しいゆくのか
社会・産業変革の中で、日本の鉄鋼がどうなってゆくのかもしっかり眺めたいと。
「和鉄の道・Iron Road」の大きな展開 どんなふうに「鉄」の姿が変わって現れてくるのか 興味津々で見守っています。

いずれも勝手気ままな風来坊のファイル。 なにかのお役に立てば・・・・

■ 【2021 年総括 From Kobe 2021 年師走】コロナ禍の中で 2021 年和鉄の道を振り返って

https://www.infokkkna.com/ironroad/2021htm/2021mutsu/fkobeR0312A.pdf

もう 自分の時代ではないと感じる昨今ですが、
まだまだ好奇心旺盛 気力もあり、足も復活。
ときれときれになりそうですが、元気に前向いて発信をと。
後期高齢者だからとは言えなくなった新型コロナへの戦い
そしてポストコロナの時代へ
みんなの一番の願いは穏やかな日常の社会生活を取り戻せること。
前向いてがんばりましょう

先が見えぬ厳しいコロナ禍
困難の中にある仲間に 思いをはせています。
一人で頑張らず、無理せず 今はみんなに声あげて!! .
仲間がいる。仲間の元気はみんなの応援歌
互いに連絡取り合って 元気に前向いて笑顔で今を。

仲間の元気は みんなの応援歌 !!
頑張りすぎず、時には声をあげて !!
お互いスクラム組んで 助け合ってこの難局を乗り越えましょう
笑顔で逢えるのを 楽しみにしています
ワクチン接種も済ませましたが、まだまだ収束は道半ば
まだまた厳しい自己節制の日々が続きますが、どうか 無理せず、
元気に前向いてお過ごしください
また連絡ください *God Be With You!! 2021.師走.*
From Kobe Mutsu Nakanishi

狭い縦走路のドクン中にどっしりと座り
いつも元気をもらうウバメガシノ巨樹

群生するウバメガシの中を歩く
西六甲須磨縦走路で 2021.11.13.

2022 Mutsu
2月 如 月

神戸籠り 近況の便り コロナ禍の中で　もうすぐ春が・・・・・

ポストコロナで迎える新時代 激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。

70 有余年の「気力−毎日毎日の思い−」が生きる力　ときには世話にもなりながら、頑張ろうと気分も新た

Monthly Page 2022 Nenga From Kobe by Mutsu Nakanishi

令和４年２月　厳しいコロナ禍の中ですが、春はすぐそこに

未だにコロナ禍収束が進まぬ中で迎えた令和4年　神戸では本当に身近にコロナ感染・濃厚接触の話が伝わってきて、街歩きも控える毎日、本当に”何かええことないぃかなぁ”と。 厳しい年になりそうですが、お互い元気ださねばと気持ちだけは前向いて。厳しい寒さ 日本海側では大雪がつづきましたが、いかがでしょうか…

でも 2月になって春の兆し　今年は水仙が早くから咲きだしたものの、年の初めに黄色い大輪の花を咲かせる福寿草が咲かず、また蝋梅の花も遅れ、心配しましたが、今庭では 満開の蝋梅にサクラソウも咲きだし、梅の便りも聞かれるようになり、もう春がすぐそこに・・・・・

◆ 昨秋は踵骨折のリハビリに明け暮れ。免許更新の記憶力検査にも四苦八苦やっとパス。免許更新はできたものの片目見えてないとイエローカード。飛び込んだ近くの眼科医は「もうあかんかもしれが、手術する?」と懐疑的。

手術スケジュールも中々とれぬと聞いて、その場で予約。1月27日に手術完了。ホンマに良く見える。ずっと左右アンバランスの眼でしたが、よかったです。そのあと1か月は毎日点眼四回 汗かく過度の運動・山登りはあかんと医者が言う。もう大変です! でも冬でよかったです。 先日 手術後3週間検診も無事パス。

この歳になれば 誰もが身体何処か医者の世話に! 近くの里山歩きも再会これからも、何とかなるやろと

入院も経験して 同年配の数多くの人たちを見て、つくづく健康で自由に歩き回れる喜び 感謝しています。

家内が言うには、次は耳やなぁ・・・と。でもまだ口だけは達者です!

◆ 神戸籠りの毎日ですが、そんな中で PC に送られてきた多数のゴミメール。

怪しいなぁと思いつつ、あまりの信憑性にひかれて、つい好奇心でリンクボタン押して、PC が virus・マルウェア感染。

正常な通信ができずに。 触りまくっている間に、だましだまし使っていた古いデスクトップもダウン。

もう街になくなりつつあるデスクトップ PC を慌てて購入する羽目に。

2月やっと普通に PC 使えるように・・・・

パソコンメールに仕組まれたマルウェア くれぐれもご注意ください。 えらい経験しました。

数千を超えるメールが数回 速射砲のごとく絶え間なく送られてきました。

メールアドレス変えられないし、困りましたが、あちこち電話して対処法を教えてもらって、何とか止まりました。

好奇心でリンク開かぬようご注意ください。でも 自分ではどうにもならぬスマホがつながっていて、助かりました。

◆ 2月7日にモデルナによる3回目のワクチン接種もなんとか完了。

例年の2月のスケジュール 確定申告も17日無事化完了して、ゆっと歩き始められるぞと。

久しぶりに澄み渡る冬晴れの一日 大阪湾の景色を眺めたくて自宅のすぐ南 高取山へ

こんなに澄み渡る大阪湾の景色は頭になし。冬晴れのたまもの スライド動画にして楽しんでます。

◆ 和鉄の道の HP 開設して、約20年集めた資料も膨大。 HP の格納サイトも満杯になり、整理を始めています。

まだまだ、好奇心もあり、HP 維持はしたいのですが、どうなりますやら・・・・・・・。

各地の遺跡・資料館・鉄の歴史・日本の歴史等の特別展やシンポジュームに参加させていただくなど、随分色々な所へ出かけ、多くの先生や研究者の方々にも世話になりました。

HP スタートにイメージした日本の起源・たたら探訪記の取組みも独りよがりですが、なんとか歴史的流れについても理解できたと喜んでいます。今思うと、約20年 このコロナ禍の中 一区切りです。

愛媛大村上恭通先生グループの10余年にわたる「鉄の起源・鉄のユーラシア大陸東遷の道探求プロジェクト」

毎年の成果シンポに聴講参加させていただき、資料集成集として整理させてもらって、和鉄の道 HP の柱に。

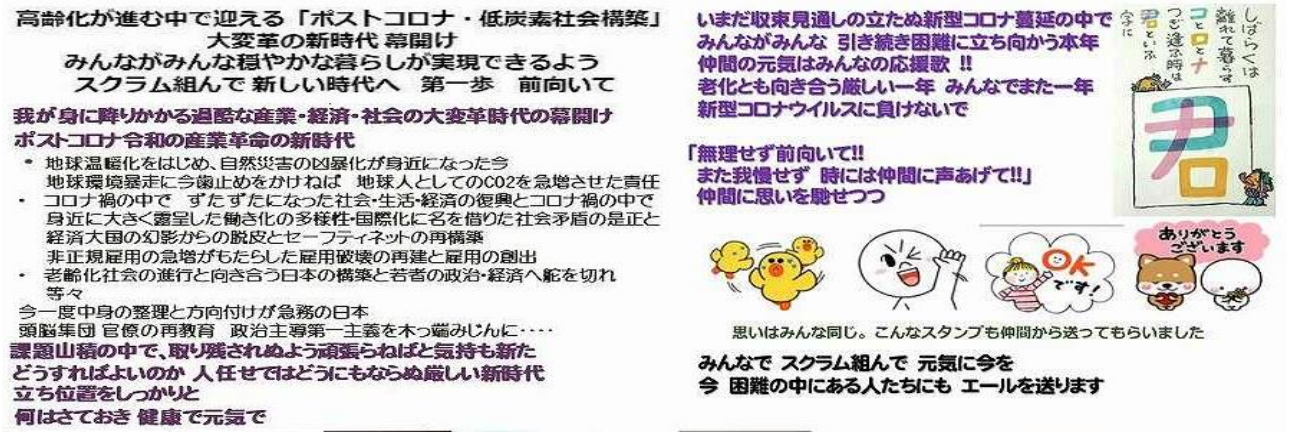
コロナ禍の中で、玉石混合ばらばらのまま HP にリストアップ集積してきた日本起源・たたら製鉄探訪記も見直し、和鉄の道 Review 選集としてまとめることもできました。

昨年一年間の資料合本の 2021 年 Year Book と共にリスト掲載しました。

いずれも大容量ですが、今月のトピックスとして掲載しましたので、ご興味があれば・・・・・・。

◆ 世界が取組む「ポストコロナ・低炭素社会の構築−低炭素カーボンイーブン 50−」その中心になる鉄鋼産業の取組。

今回紹介記事がありませんが、1 月紹介の低炭素カーボンイーブン 50 インターネット採録 11・12 月をご参照に。



まだまだ、自由に風来坊はできませんが、家族ともども元気にやっています。
なにはともあれ、コロナ収束　早く穏やかな暮らしをとりもどしたいと。あれもこれもしたいと待ち遠しい春です。

2月２０日には須磨の弘法さん〔須磨寺弘法市２０&21　阪神間ではお大師さんと呼ぶ〕へ買い出しに。
須磨寺境内の梅も満開に‥‥。
地球環境激変の厳しい時代　低炭素にも協力せねば。
四季がはっきりした日本の春がもうそこまで
毎日をお元気で　　GOT be with you!!
　　　　　　2022.2.22.　Mutsu　Nakanishi

ポストコロナで迎える新時代　激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。
「コロナ対策と経済・雇用の回復へ
　暮らし・雇用・経済の復興」に並行してもう待ったなし
「人類の危機地球温暖化の歯止め止め
低炭素社会への大転換」誰もが避けられぬ経験したことのない
「令和の産業革命　社会・経済の激烈な再編の時代」への
ターニングポイント

高齢者には足がすくむ新時代
もう　自分の時代でないと知りつつも、
でも立ち止まっては居られない
知力・体力は衰えたとはいえ、足も動くし、まだまだ好奇心もあり。

70有余年の「気力-毎日毎日の思い-」が生きる力
ときには世話にもなりながら、
スクラム組んで頑張ろうと気分も新た

God be with You!!　仲間の元気はみんなの応援歌
この新しい時代を笑顔で暮らせるように

◎ 今月の掲載記事トピックス

■ もう 春はそこまで　　冬晴れの2月 須磨界隈 Photo Album

澄み渡る大阪湾の遠望　高取山山頂より　2022.2.11.

ワクチン接種・確定申告も済ませませ ほっと一息 梅が咲き始めた須磨寺の弘法市 2022.2.20.

■ Mutsu Nakanishi HP 和鉄の道 まとめ Review 選集 2022.2.22.

大容量ですが、ご興味があればおひまなときに　スライド動画でも 保管しています。

また、情報やご意見お聞かせください。

1. *和鉄の道・Iron Road 2021 年 Year Book (PDF 電子 Book)*
   home page に掲載してきた記事を年度別に一冊の PDF 電子ブックに整理しました
2. 和鉄の道 home page 開設 20 年余 「和鉄の道・Iron Road Review」を作成
   1.私蔵版「和鉄の道・Iron Road」【Review1】
   2000・2001 日本の源流・たたらとの出会い
   2.私蔵版「和鉄の道・Iron Road」【Review2】 たたら探訪通史(たたらの歴史)
   穴澤功氏講演資料「我が国の製鉄遺跡の歴史」をベースに和鉄の道を眺める
3. 鉄の道・Iron Road Review 選集
   愛媛大東アジア古代鉄文化センター国際シンポ 聴講記録集成
   聴講記録 たたらの源流 鉄の起源 & ユーラシア大陸東遷の道
   1.Eurasia Iron Road 【1】人工鉄の起源
   2.Eurasia Iron Road 【2】ユーラシア大陸東遷の道
   3.Eurasia Iron Road 要約抜粋版 【1】&【2】要約抜粋
4. 2021年11月・12月インターネットから採録「低炭素カーボンイーブン 50」取組
   【PDF】日本の鉄鋼は低炭素カーボンイーブン 50 の時代を生き抜けるのか 鉄の新時代
5. インターネット採録 2022 年 1 月「低炭素カーボンイーブン 50」原子力の取組
   原子力の取組と原子力製鉄への夢実現へ
   【PDF】日本の新技術 安全性の高い小型原子炉に注目
   低炭素イーブン 50 小型高温ガス炉と発電・水素製造の組合せ取組

大容量ですが、ご興味があればおひまなときに・・・・・・・・・ スライド動画でも 保管しています。

Mutsu Nakanishi HP 和鉄の道 まとめ Review 選集 2022.2.22. リンクリスト

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/R0402.htm#topics

また、情報やご意見お聞かせください。

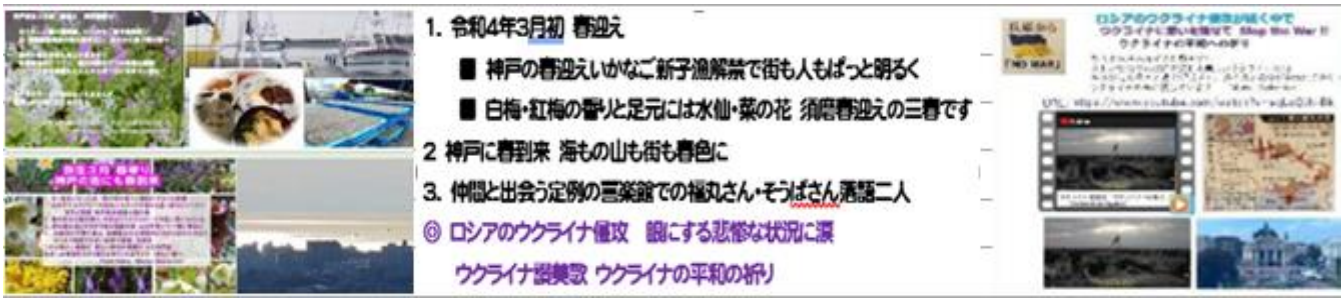
◎2022年2月更新後記

2月22日やっとHP更新ができました。毎度になってしまいましたが、頭まわらずです。
HP年の初めの作業　なかなか進まずです。
1.作業を気楽に進められるように　すでに容量限界に達していたファイル収蔵庫　infokkkna.com ftpサーバーにくわえて
本年掲載資料から新しいファイル収蔵庫 infokkkna2.com ftpサーバー運用を始めています。
年の初めの作業　掲載ファイルのリンクリストをまだ2022年版に帰られていないのもありますが、お許しください。
2.何とか2021年年次ブックも作成できて、やれやれです。
毎度の勝手気ままなHPですが、何とか維持したいと。
よろしくお願いします。
なにはともあれ、元気で前向いてと頑張りたいと。

2022 Mutsu
弥生 3月

弥生3月 春迎え神戸の春便り 須磨の三春 毎日の須磨 walk

ロシアのウクライナ侵攻 NO WAR



弥生３月　神戸の春便り　　毎日の須磨 walk より

1. 令和４年３月初　春迎え　　2022.2.28

神戸の春迎えの風物詩　いかなご新子漁と須磨離宮公園の梅
今年もコロナ感染が蔓延する中での春迎え
■ 神戸の春迎えの風物詩　いかなご新子漁解禁で街も人もぱっと明るく
■ 須磨の春迎え　須磨離宮公園梅林　花の香りが漂う梅の花
白梅・紅梅の香りと足元には水仙・菜の花　須磨春迎えの三春です

2. 令和４年３月半ば　神戸に春到来　海もの山も街も春色に

春うらら　穏やかな春風と日差しに誘われて　神戸須磨の春　毎日 walk より

1. まっ黄色になった丘　菜の花の香りに誘われて多くの笑顔
丘の下ではラグビーの試合にスタンドを埋める真っ赤なジャージー
活気と笑顔　神戸総合運藤公園の春
2. 春の草花が庭を飾り、今年はクリスマスローズの花に思いひとしお
3. 澄み渡る空にキラキラ光る須磨の海　山は芽吹いて一機に春色に
4. 須磨白川の里の里山　高御座山の山頂尾根に忘れられたかのよう
ひっそり鎮座する古い伝承の磐座　夫婦岩
この心地よい春風が　新しい時代の幕開け　4月の門出
未来への希望を大きく膨らませてくれますよう　うれしい春へ
From Kobe　Mutsu Nakanishi

3. １回／Q定例の仲間と出会う喜楽館での福丸さん・そうばさん落語二人会

春を意識した明るい落語４席
帰りは新開地のビアホールで　ちょい飲みランチ
ふぅ～と一息　年度替わり４月へ気分爽快　うれしい春の会

◎ ウクライナ讃美歌　ウクライナの平和の祈り

■ 弥生3月 神戸の春便り 毎日の須磨 walk

【Photo Album】 https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0403MarchSumaweb.pdf

【スライド動画】 https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0403MarchSuma.mp4

■ ウクライナの平和の祈り　ウクライナ讃美歌

【youtube Video】 https://www.youtube.com/watch?v=eqLcQJlt-Bk

弥生３月　神戸の春便り　　毎日の須磨 walk より

1. 令和４年３月初　春迎え　　2022.2.28

神戸の春迎えの風物詩　いかなご新子漁と須磨離宮公園の梅

今年もコロナ感染が蔓延する中での春迎え

２月２８日神戸に春を告げるいかなご新子(稚魚)漁が解禁されて、神戸の街には春の風物詩　いかなごのくぎ煮の活気と明るい顔が戻ってきました。　今年の確定申告も何とか済ませて万々歳
でも　いかなご漁はまだまだ最盛期には程遠く、大阪湾は不良で今年もすぐ休漁に。
明石海峡西の播磨灘ではかつての豊漁からは程遠いのですが、漁獲回復傾向で漁が続けられ、高値ですが、魚屋やスーパーには新子が出回り、神戸の街には春の風物詩　いかなごのくぎ煮を作るにおいとともに活気と笑顔が戻ってきました。
また　１月の寒波の影響か遅れていた梅の花も咲きだし、うれしい春迎え
収束の兆しが見えだしたコロナもこのまま収束してくれればとはみんなの願い。
はやくコロナから解放されたいなぁ。高齢者３回目の接種は３月７日と決まり、ほっと一安心。
ハイキングなどはストップと止められていた白内障の経過観察も順調で、無理はできませんが、毎日 walk に励んでいます。
気がかりはコロナ庭かけてのロシアのウクライナ侵攻が始まり、ウクライナが戦場になりつつあること。ロシアはNO WAR 即刻侵略停止を。

2. 令和４年３月半ばになって　神戸に春到来

春の草花が咲き始めた３月　澄み渡る空に里山は芽吹き、春霞の中できらきら光る須磨の海

まだまだ　厳しいコロナ禍の中ですが、あたたかな日差しに誘われてうれしい春の訪れ

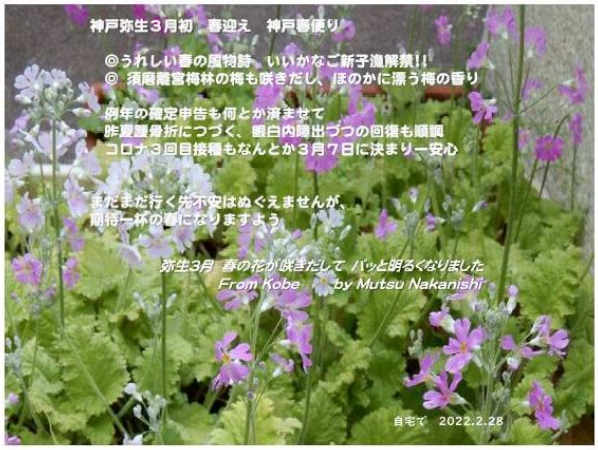
遠くへ出かけられませんが、我が家の庭も春の花で華やか
近くの総合運動公園の丘は菜の花でまっ黄色　笑顔の家族が菜の花の中に埋まってる。
また春のスポーツシーズン開幕で、ジャージ姿で歩く若者たちの姿に元気をもらう。
野山は日に日に芽吹いて春色に　山から眺める大阪湾は澄み渡り、心地よい春の風
いよいよ　神戸に春到来　うれしい春便りを届けます
医療従事者・高齢者の３回目のワクチン接種も順調　若者たちへのワクチン接種も始まり、感染重症者の数も逼迫せず、なんとかコロナ収束の道がみえだし、コロナの蔓延防止例も解除へ舵を切る
でも　疲弊しきった社会・経済の立て直し　そして雇用の回復はまだまたこれから・・・・
厳しい春ですが、前向いて元気に立ち向かわねばと。
一方　ロシアのウクライナ侵攻　ますます激しく、知人が送ってくれたウクライナへの祈りの youtube Video に涙する。
３月１９日 １回／Q 定例の仲間と出会う喜楽館での福丸さん・そうばさん落語二人会。
春を意識した明るい落語４席　帰りは新開地のビアホールで　ちょい飲みランチ　ふぅ～と一息
４月　年度替わりに向かううれしい春の会でした。

勝手気ままな風来坊　神戸からの春便り
スライド動画と Photo Album にまとめてお送りします。
いつもながらの勝手気ままな春便り　今年の桜はどうでしょうか・・・・

高齢老化を日に日に感じる日々ですが、お互い無理せず前向いて　頑張りましょう
God be with You !!　また No WAR　ウクライナの人たちの平和を祈ります

2022.3.22.　From Kobe　Mutsu Nakanishi

神戸の春の春迎え 春の草花が街のあちこちで咲きだして、神戸の海のいかなご新子漁も始まりました



3月1日 神戸に春を告げる「いかなごのシンコ(稚魚)漁」解禁!!
神戸の街には 春の風物詩 いかなごくぎ煮の活気と明るい顔が戻ってきました

明石海峡大橋を境とする東側大阪湾では深刻な不漁
西側播磨灘では資源回復が進む状況

神戸では初日　昨年並みの高価格であったが、午後も引き続き入荷し価格も下がり落ち着いた待動きに、一安心、まだまだ高いが　いかなごを買いまめる人の列も
○大阪湾の貧栄養化は漁獲不良により3･4･5日休漁となり、今後の状況をみる
一方　播磨側は引き続き出漁が続いています。
神戸の街に出回るいかなご新子の値段も2日以降　以前ほどではないが、手の出る価格での売り出しが続いて、新子を買いまめる明るい顔が続いている。

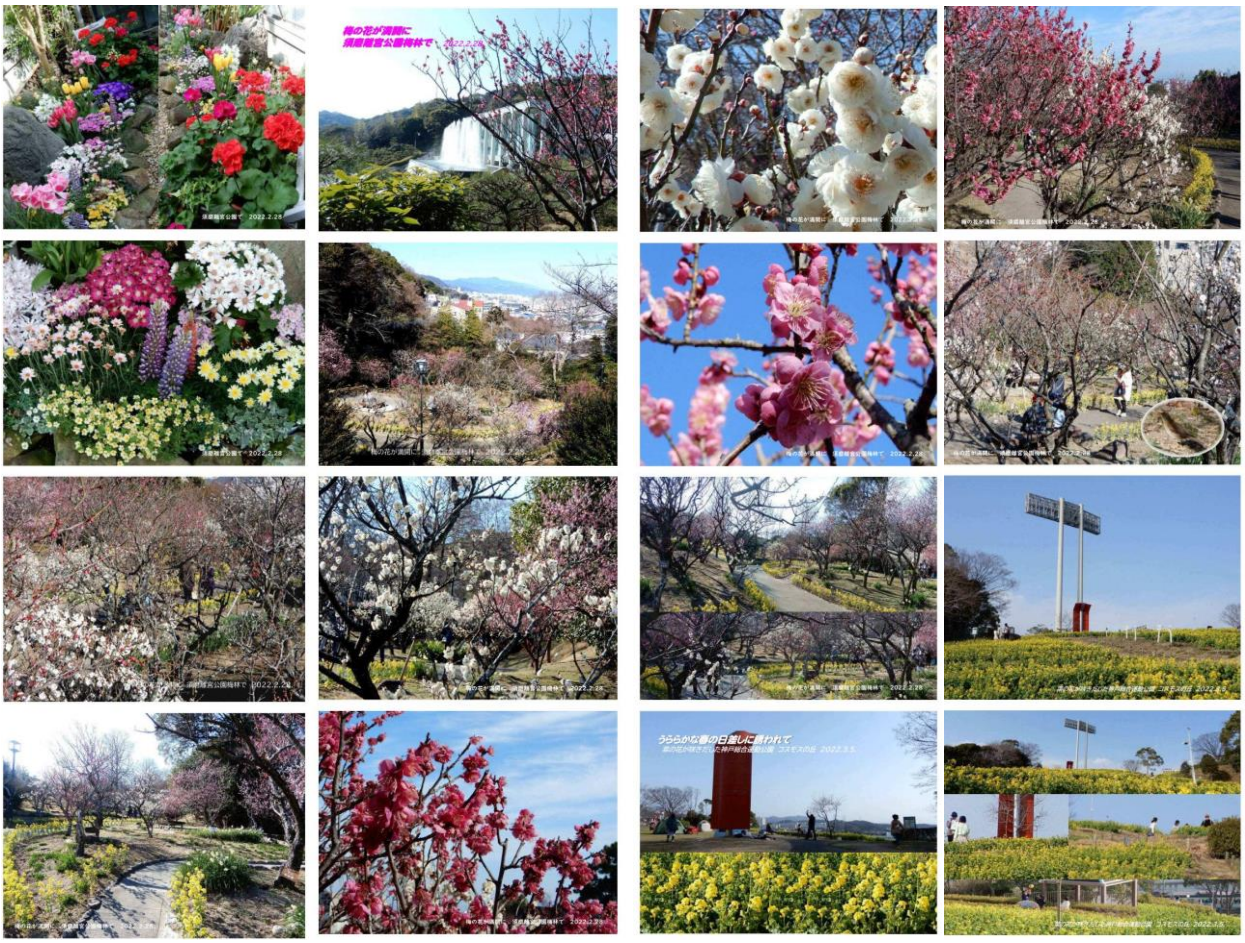
瀬戸内に春を告げるイカナゴのシンコ（稚魚）漁が１日、大阪湾と播磨灘で解禁された。
６年連続の不漁予報が出る中、初日の水揚げは回復の途上を感じさせるスタートとなった。
ここ数年は不漁で、今年も兵庫の漁港の取引では平年の数倍の高値が付いた。
大阪湾で操業する神戸市漁協の漁師らは夜明け前、垂水漁港などから約７０隻に乗って出港。
午前６時２０分、一斉に網を投げ入れた。
神戸市垂水区の垂水漁港では午前８時ごろから漁船が戻り、水揚げの量は昨年を下回ったが、２年前よりは多い約６トンだった。
入札では、仲買人らが体長４センチほどのシンコを品定め。１籠（２５キロ）６～８万円台と、約１０年前の数倍の値が続いた。漁師の福田昌宏さん（３２）は「値段が高いと消費者に届きにくいので微妙な気持ち」と。

大阪湾に流れ込む川のほとんどが自然流でなく、沿岸もコンクリート護岸で、プランクトンが栄養とするリン・チッソが極端に少なくなっている。　一方　播磨側の川はまだまだ田園地帯の泥を含む自然流が多く、また　ため池の意図的放流や沿岸の藻／あし等の育成も始まっている。過剰富栄養による赤潮発生は収まったが、貧栄養化が一番先にいかなご漁に出てきた。　さあ　今後どうなるのでしょうか・・・・・

神戸の春の風物詩　いかなご新子漁
3日夜はいかなご新子の「くぎ煮」・「天ぷら」・「釜上げ」などなどの
うれしい食卓。一杯やって　神戸に春到来。
ついつい飲みすぎに……

我が家でも以前のようにいかなごくぎ煮を知人等に送ることはできなくなりましたが、神戸の春をもたらすいかなご漁　3日夜の食卓にはいかなごのくぎ煮・天ぷら・釜上げでいっぱいやりました。
笑顔で一献　うれしい夕食　ついつい飲みすぎになりました。
家内は「これで我が家のいかなごはおしまい」と。
でもやっぱり　神戸の春はいかなごがなと……

弥生3月 神戸の春便り 毎日の須磨 walk　Photo Album



【Photo Album】 From Kobe 弥生3月 うれしい神戸春便り
弥生3月 神戸の街にも春到来 毎日のwalkより
春の草花が咲き始めた3月 浸み通る空に里山は芽吹き、霞のやすらう3月
まだまだ 厳しいコロナ禍の中ですが、暖かな日差しに誘われて、うれしい春の訪れです
弥生３月 春便り
神戸の街にも春到来
From Kobe Mutsu Nakanishi

2022.3.12. 神戸総合運動公園で ラグビーワンスティーラーズ対ブレ
いよいよスポーツ再開 2022年もんとの連覚覚して行こう

2022.3.12. 神戸総合運動公園 コスモスの丘で

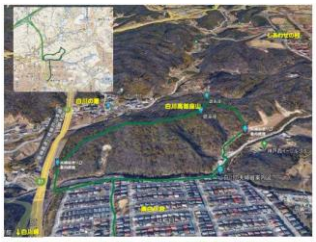
2022.3.12. 神戸総合運動公園 コスモスの丘で

我が家のクリスマスローズ 赤いクリスマスローズは光の加減で黒ユリみたいにも・・
みんな つつましく下向いて咲いてるので、下からデジカメ差し入れて撮りました

クリスマスローズ 花言葉は「いたわり」「慰め」
我が家の庭でも 様々咲いています
本年 室内の鉢入り クリスマスローズ どんな花もあるんやと
我が家のクリスマスローズ 2022.3.11
みんな つつましく下向いて咲いてるので、下からデジカメ差し入れて撮りました

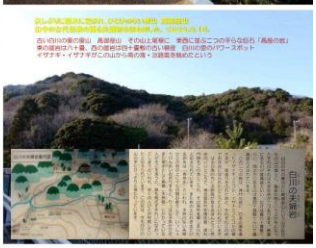
2022.3.14.

2022.3.14.


白川内湾
白川高熊城山
白山神社

2022.3.14. From Kobe Mutsu Nakanishi

2022.3.14.


白山の大岩盤

2022.3月 兵庫県
春の日差しに誘われて 浪速の街歩き 2022.3.14.

2022.3.14.

2022.3.14.

この白川峠周辺で表面が平らな岩石や黒縞地層が数多くみられる理由
2022.3.14. 白川の里に下って

2022.3.14. 白川の里に下って
兵庫から
「NO WAR」
ロシアのウクライナ侵攻が続く中で
ウクライナに思いを馳せて Stop the War !!
ウクライナの平和への祈り
youtube ウクライナ誕美歌「ウクライナの祈り」
クリスマスローズ 花言葉は「いたわり」「慰め」
うれしい春到来
なにはともあれ 毎日を元気に!!
God be with You!!
by Mutsu Nakanishi
病床使用率、50%以下に改善

【2022 From Kobe 弥生３月　神戸の春便り】

収録　ウクライナ讃美歌「ウクライナへの平和の祈り」

Video youtube　ウクライナへの祈り

Prayer for Ukraine（Молитва за Україну）

ロシアのウクライナ侵攻が続く中で
ウクライナに思いを馳せて　Stop the War !!
ウクライナの平和への祈り

知人から送られてきた動画です
きれいな祈りの旋律が流れる美しいウクライナの街
理不尽にも次々と街が破壊され、多くの人の命が奪われてゆく・・・・
ウクライナの今に涙しています　　Mutsu Nakanishi

■　ウクライナ讃美歌　ウクライナへの祈り　https://www.youtube.com/watch?v=eqLcQJlt-Bk

知人から送られてきたウクライナ讃美歌が静かに流れるVideoに涙しています。
NO WAR　即刻停戦を。　理不尽なプーチンロシアの侵略 ウクライナの街の悲惨な街の現状　そして多数の逃げ惑う市民たちの現状。　もう　他人事はとてもや思えない。　現代にもこんなことがおきるのか・・・・と。
かつて１９８０年代のソ連のモスクワやウラルにへ　ラインパイプの技術PRに何度も訪れた時のあの息苦しい時代の事をまざまざと。プーチンは　あの冷戦時代の盟主に戻ろうとしているのか・・・・・
当時ホテルも限定され、　当時のガス工業省や石油工業省訪問等行動も常に監視付き？　写真撮るのも注意して・・・・
プーチンの秘密警察〔ゲーカーエヌティ〕の通りにも何度も通りました。
でも民衆は楽天・おしとよし。そのギャップからくる重苦しさと何が起こるかわからぬ怖さ。実際には何もなかったのですが・・・・。同盟隣国はみな大変だろうと思った記憶があります。
それから約２０数年を経て、こんなことが起きるなんて。
なにはともあれ、この理不尽さと戦争の恐怖まざまざと。
何とかはやく休戦合意が実現しますように。また、プーチンに核のボタンを押させぬようにせねば・・・・。
他人事ではない。「年寄りのえご　プーチンが命令し、若者が死んでゆく」この選択肢のなさを早く停止させねばと。
何はともあれ、ただただ　即刻ウクライナの惨状が回復されますよう祈りつ続けねば…・

NO WAR　このウクライナ讃美歌がウクライナの街に美しく響き流れるよう　即刻停戦が実現しますように !!

God be with You !!　from Kobe　　2022.3.15.　　Mutsu NMakanishi

■ ウクライナの平和の祈り　ウクライナ讃美歌

【youtube Video】 https://www.youtube.com/watch?v=eqLcQJlt-Bk

3月19日今日は嬉しい落語会
もう10数年3ヶ月に一回「パルモア寄席」を引き継いで喜楽館での「福丸そうば神戸53次2人会」
いつものとおり落語会の後ランチしながら軽く一杯やろうとのメールがはいる。
最近はみんなコロナ疲れでメールも途絶えがち。
願ってもない嬉しいメール。
私と同じく眼の手術をしたKさんほかみんなどうしてるかなぁ　会いたいなぁと思っていた矢先のメール。
ワクチン接種も済ませ、なんとかコロナも収束の兆し、久しぶり春がやってきたと心ウキウキ。
10時30分開演の朝席、縮小座席は常連含め、いつもより多い。みんな街へでて元気な笑い聞きたかったのやˆ_ˆ、
落語は例の如く福丸2席そうば 2席
トップは福丸さん
演題は知らぬがあの寅さんの威勢のいい啖呵売の名ゼリフが流れるように進む。初めてあの名ゼリフを最初から終わりまで。こんな落語あったかなぁ‥‥

福丸さん　いつのまにこんな落語いつしこんだのだろう?
これは寅さんワールルドやと！みんな笑顔でひきこまれて春一番。
そうばさんも元気いっぱい。ユーモア一杯の嘘つき話「鉄砲勇助」そして「高津の富」
最後は福丸さんのこれも滑稽話そばの大食いが蟒蛇にのみこまれた話「そば清」
大きくは笑えないが、みんな笑いが絶えなず。ほんまにこの時期　うれしい会でした。
終わった後はいつもの新開地エビスのビアホールでちょい飲み?ランチ
今日の話題は落語の話とみんながすませた白内障手術の一席。
尽きることなく2時間　予定時間終了の声掛けで終了。
はよ　コロナが収まって自由になりたいなぁとおもいつつ、久しぶりの会話に気分も爽快
家に帰ると「コロナ蔓延防止が22日解かれるとの報」そしてバスケ観戦の誘いに孫娘の大学卒業式の誘い。
ご無沙汰の栄太郎にもはよ顔出さねば‥‥　いよいよ桜も咲きだして春本番。うれしい春へ気分も新た
願いは一つ　みんな共々日常の穏やかな生活が取り戻せるよう。
God be with You!!　　2022.3.21.From Kobe　Mutsu Nakanishi

■ **弥生3月 神戸の春便り 毎日の須磨 walk**

【Photo Album】 https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0403MarchSumaweb.pdf

【スライド動画】 https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0403MarchSuma.mp4

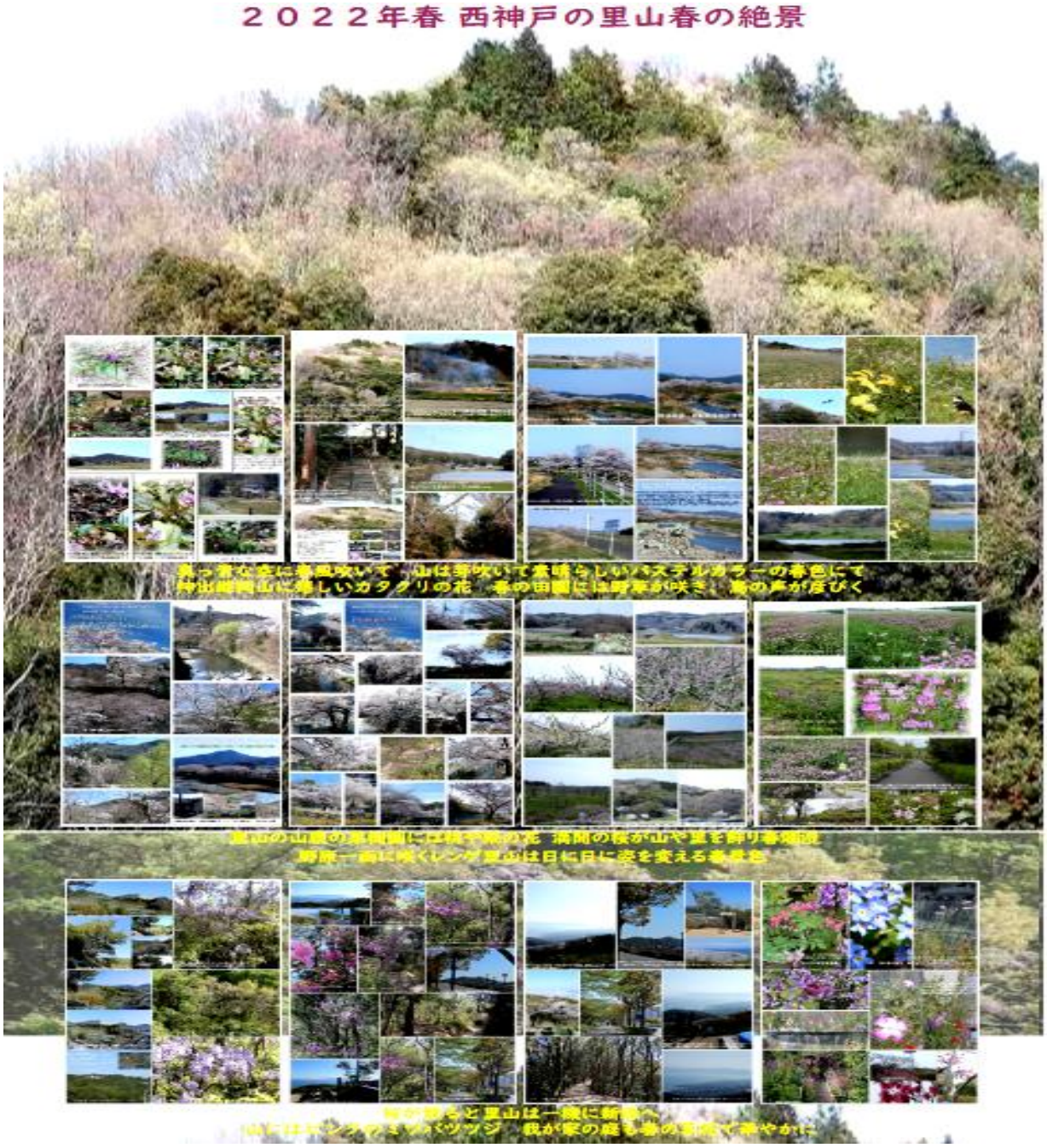
2022 Mutsu
卯月 4 月・皐月5月

4 月春爛漫から新緑の5月へ
芽吹き・桜から新緑へ 素晴らしい里山の春を楽しむ　　2022.4.27.

1. 新生の息吹を胸一杯　気持ちも新た 前向いて
2. 令和4年4月17日イースター
3. 年寄りの繰言 当事者意識の欠如した三人称発言
4. 真っ青な青空に野山萌え、日に日に移りゆく春景色

2022年春 西神戸里山の春の絶景
春の妖精「カタクリの花」に出逢えました

Monthly Page 春爛漫の4月から新緑の5月へ　*From Kobe　by Mutsu Nakanishi*



■ 風来坊 2022年春の記録　2022年春 西神戸の里山春の絶景 スライド動画 & Photo Album

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022walk/22walk04.mp4

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0404.pdf

ポストコロナの新時代　2022年春　新緑の神戸便り
桜が散って野山は一気に新緑へ　新生の息吹を胸一杯　R04.4.27.　Monthlyindex.htm

ポストコロナで迎える新時代　激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。
「**コロナ対策と経済・雇用の回復への暮らし・雇用・経済の復興**」に並行して
もう待ったなし「**人類の危機地球温暖化の歯止め止め　低炭素社会への大転換**」
誰もが避けられぬ経験したことのない
「**令和の産業革命　社会・経済の激烈な再編の時代**」へのターニングポイント
コロナ禍の中　やっと収束の兆し　ポストコロナを見据えて　いろんな事がありました

■2019.1.30 朝日新聞朝刊 オピニオン欄 掲載記事 経済同友会代表幹事 小林喜光氏 記事 転記ご紹介
「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか」
https://www.infokkkna.com/ironroad/2019htm/2019mutsu/fkobe1903kobayashi.pdf

何とか収束の兆しが見え始めたコロナですが、
社会生活や経済・雇用の回復はまだまだこれから
そんな中で 突然飛込んできた許すことのできない
ロシアの理不尽なウクライナ侵攻
こんなことが、今本当に起こるのかと・・・・・

「地球人」・「人のぬくもり」・「一人だけでは
生き抜けぬ」と今ほど身近に感じた事はなし
これこそ 人間が幾多の困難を乗り越え
生き抜いてきた道とはっと気が付く

大変革の時代どう立ち向かってゆけばよいのか・・・・
厳しい春にみんながみんな　生き方を考えねばならぬ時
愚痴は言うまい　"God Be With You!!"
助け合い スクラム組んで前向いて

2022.4.17.　2022イースター に
From Kobe　Mutsu Nakanishi

◎ ウクライナ讃美歌「ウクライナへの祈り」
https://www.youtube.com/watch?v=eqLcQJIt-Bk
◎【和鉄の道】ウクライナに思いを馳せて
by Mutsu Naklanishi
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/ 2022iron/forUkraine.pdf

From Kobe 令和４年4月から新緑の5月へ　神戸の春便り　2022.4.27.

コロナ禍の中　蔓延防止措置が解けて　ほっと一服

芽吹き・桜から新緑へ　素晴らしい里山の春をたのしむ

1. ポストコロナの新時代 2022年春　新緑の５月へ　神戸便り　令和４年の春景色　西神戸の里山散策

桜が散って 野山は一気に新緑へ 新生の息吹を胸一杯　気持ちも新た　前向いて

コロナ禍の中で　足慣らしも兼ねて出かける西神戸の里山歩き　日に日に変わる素晴らしい春の絶景・春景色
根っからの風来坊　思いつくままの勝手な街歩き・里山歩き
思わぬ発見もあって　西神戸の移り行く春を楽しんでいます。
手前勝手なスライド動画集の神戸春便り。
新生の息吹を胸一杯　前向いて と自らをはげます毎日
身近な春　ほっと一息　心地良きひとときの手助けにでもなればと・・
久しぶりに原チャリ走らせ、里山を駆けて気分爽快
どこでも飛び出せる日もまじかと期待一杯
ぐちはいうまい　新生の息吹を胸一杯　前向いてと自らをはげます毎日です。

2. 令和４年４月１７日イースター　　新生の息吹を胸一杯　日々新らた　元気に前向いて

他人事とも思えぬウクライナの惨状
一日も早く戦禍が収まりますように
神共に居まして
変えられるものを 変える「勇気」 .
変えられないものを受け容れる「心の静けさ」
両者を見分ける「叡智」を
ニーバーの祈り　より　.

3. 年寄りの戯言　当事者意識の欠如した三人称発言・会見　もうやめにしたらどうか・・・・・・

先日　ウクライナが協力国として３１か国を上げ、感謝の意を述べた中に日本が入っていないと。
意外とに思われた人も多いかもしれませんが、当然の成り行き。ふむ　ふむと
だって「参加することに意義」「会見することで説明責任」と思わせる一人称でなく３人称での受け答え
最後に「スピード感を持ってやる」と付け加えることを忘れずに。
誰も当事者や意識のない約束事を信用できない。
損な発言・会見が　TVニュースで伝えるケースが日増しに増えている日本
世界の指導者たちの発言と対称的。受け取り方はひとそれぞれですが・・・・・・・・・・
コロナ禍・ロシアのウクライナ侵攻・低炭素社会構築等々数多い課題の中で
一人称で語らず、３人称で締めくくる政治家やエリート層たち
自己の考え・行動が全く語られぬ日本 これが常套句に見える
今の難局を乗り切ってゆけるのだろうか???

難局に際してのリーダー・政治家答弁や記者会見のニュースで誰の眼にも明らかになっ来たことがある。
最近何度も見かける光景。
いつも頭の中で、もやもやしていたことで　みんなに言ってみようかと。
「理解している」「ねばならぬ」「承知している」「・・と思っている」「・・と共に相談協調する」
いつも　これ　なんやねんと。会見で同席・質問者はこれで本当に良いのか・・
「これらの常套句は３人称　あなたはどうするのか? 自分の行動として一人称で答えてほしい」と
なぜ問いただささないのだろうか・・。 もうみんなあきらめの境地なのか
こんな会見で説明責任果たしたといえるだろうか・・・・…
こんな無責任な答えがリーダー層で流行りだしたのはいつの頃からだろうか…
どうも日本の経済成長に陰りが見え、怪しくなりだした頃か??
　例の働き方改革と称して、非正規労働者を急激に増やした時期　先進国との先端技術競争をあきらめ、
近視眼的に 国際競争競争力・コスト削減と称して中・後進国との競争に明け暮れた時期に符合するのでしょうか…
まさに「一番でなければ　いけないのですか・・・・」の時代錯誤の時代である。
今や人口減・老齢化が進む厳しい日本。
この１０年先進国で唯一　経済成長が止まり、今や平均賃金・GDPでも韓国等の中進国並みに。
子供たちや若い人がこれをまねれば、もう日本沈没
取組まねばならぬ課題が山積のポストコロナ 激動の新時代
もう　３人称の受け答えやめて、１人称で。また、軽薄短小のスピード感も　もうやめて。
令和の大産業革命と低炭素社会の推進・コロナからの雇用・経済の再建・ウクライナの支援等々
地球人としてやらねばならぬ課題目白押し。自分の五感を研ぎ澄まして、退治せねばならぬ時。
私は勝手ながら、ニュースの信用度にこの３人称発言を取捨選択することにしています。
先進国のトップクラスは少なくとも１人称での会見。
もう　そろそろ目を覚まして、３人称会見やコメント辞めませんか・・……
そうでなければ、若い人たちに早くバトンタッチしてほしい。
今　日本はそんな危機にあるとおもうのですか・・・・・・

また　年寄りの勝手な無責任発言。まだまだ未消化で お叱りを受けそうですが、
最近ずっと頭にあったことを書き記しました。
最近は益々ひどくなる３人称的発言、さあ　どうでしょうか
春の陽気についつい年寄りのたわごと　また　色々お教えください。
2022.4.27.　From Kobe　Mutsu Nakanishi

4.真っ青な青空に野山萌え、桜も咲いて、新緑へ　新生の息吹　日に日に移りゆく春景色が素晴らしい

桜が散って、一機に新緑に　「自然は決して手を抜かない」といいますが、私の住む西神戸の里山も今年は本当に素晴らしい
コロナ禍の中での毎日walk 移り行く春景色を楽しんでいます。

◆ 日に日に移りゆく素晴らしい春景色中で　トピックス　◆

◎ ここ数年出会えなかった春の妖精「カタクリの花」に出逢えました

神出の里　雌岡山のカタクリ

年々減少して消えてしまうのではないかと心配していた雌岡山カタクリの里回復栽培地のカタクリの花
コロナ禍などで、ここ数年出かけていませんでしたが、久振りに原チャリで駆けて出会いに。

最近の異常気象やコロナ禍の中で　数年ぶりに出会えた神出雌岡山のカタクリ
数は随分少なくなったと感じましたが、菫や雪割草などや春の野草と一緒に咲く春の妖精「カタクリの花」に出会えてしあわせ。 また、神出カタクリの里復活の取組が成就しますよう願っています。本当にうれしい出会いになりました　2022.4.6.

カタクリは氷河期の生き残り　西日本には群生地がほとんど残っていないと思っていましたが、
最近　鳥取県のたたら伝承の残る船通山(鳥上山)や大阪金剛山の山道にも群生地があり、
カタクリが春にはカタクリの花が咲き誇ると聞き、
和鉄の道walkもかねて、カタクリの時期にぜひ訪ねたいと思っています。
カタクリは種から咲くまで７・８年　根には球根があり、種は蟻に運んでもらって生育に適した場所に運ばれ、
翌年の春発芽し細長い葉を出という。
一株の寿命は40～50年　葉に淡緑色の斑紋のあるものとないものがあり、生育の場所と環境で変わるようです。
雌岡山のカタクリにも葉に淡緑色の斑紋のあるものとないものがあり、生育の差と思っていましたが、そうでもないよう。
まだまだ、よくわからぬ神秘の花　春の妖精。
顔を冷たい風に向けて立ち向かい身を震わせる姿に心を奪われます。

◎好奇心一杯の毎日　思いがけない一瞬にも立ち会えました

◆ 西六甲の高倉山を越えてゆく飛行船

高倉山の上から孫たちに「今 高塚山の方へ 飛行船飛んでいったよ」とLine連絡
山の上ではどこに乗ってるのやろか？　燃料は何やろか？
下から 空気温めて･･･ そら違うわ とか･とか大騒ぎ
久しぶりに見る飛行船 言うことはみんなばらばら　真偽のほどは……
みんな 久しぶりの飛行船。昔はよく飛んでいて 空から宣伝やってましたね
その前はドイツの飛行船や等々話題が弾みました。
真っ青な空に飛ぶ飛行船 年寄りには本当に懐かしい。
孫たちは夕方 TVのニュースで知ったが、残念ながら見られなかったと。

2022.4.9.午後 高倉山(おらが山)の山上で　Mutsu Nokonishi

◆ バスケットボール　残分0秒
空中を行く3シュートが決まって逆転サヨナラ勝利に

久しぶりに観戦したバスケットボール　奇跡的瞬間に出会えて興奮

バスケットボールの跡的瞬間　西宮76-75仙台　残分０での鮮やかな逆転勝利
残分2.4秒で得たボールを残分0.1秒で道原が放った３ポイントシュート
ボールは空中で残分0.0　美しいループを描いてリンクへ　３ポイントシュート成功
バスケットボールのこんな奇跡的瞬間に出会えるなんて　初めての出会いに興奮

これぞスポーツ観戦の醍醐味　少しバスケットの経験があり、近くでのB2リーグの試合
ラグビーではラストワンプレーでの得点「ノーホイッスルトライ」
野球では９回裏の逆転ホームラン。アメリカンフットボールにもラストワンプレーがある
でもバスケットで見たほどのスリリングな場面はなかなかない。
なんせ、残り時間は３秒弱。相手必死のでフェンスをかいくぐっての再逆転の３点シュート。初めてみました。
若い時にバスケットを少ししたことがあるのですが、最近のバスケットは大きく変わって、３点シュートが勝敗を決することも多くなりましたが、こんな場面を直接見られるなんて思ってもみませんでした。

◎花かんざしの可愛いチビさん　どこから来たの……・

年々見られなくなったレンゲ畑　西神戸山麓バイパス　伊川谷小寺の里の田園で 2022.4.18.

年々みられなくなってきた里の原っぱ一面をピンクに染めるレンゲ畑　今年は思いもよらず 毎週末 家内が農家の朝市に出かける伊川谷小寺の里のレンゲ畑　車からはよくわからないのですが、walk のたまもの。
ふと「花かんざしのかわいいチビさん どこから来たの…」の歌を口ずさみつつ、原に寝転んで・・・・
花言葉は「心が和らぐ」「幸福」　レンゲ畑復活の兆し 野原一杯にひろがってほしいなっぁ・・・・

◎神戸の一本桜　奥平野の舞桜の今　　元気に樹勢回復の加療中ですが、元気にはなをつけてい

◆ 神戸の街桜 地下鉄大倉山 宇治川楠谷 川沿いの散歩道　2022.4.5.

樹勢回復の加療3年目の
神戸の一本桜「奥平野の舞桜」
すぐ上の丘から見下ろす「舞桜」
元気に花を咲かせていますが、
あの優雅華やかな舞姿を見られるにはまだまだかかりそうです

勝手気ままな風来坊　神戸からの春便り
いつもながらの勝手気ままな春便り
高齢老化を日に日に感じる日々ですが、お互い無理せず前向いて　頑張りましょう出会いに。
God be with You !!　また No WAR　ウクライナの人たちの平和を祈ります
2022.4.27.　　From Kobe　Mutsu Nakanish

ポストコロナで迎える新時代　激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。
「コロナ対策と経済・雇用の回復へ
　暮らし・雇用・経済の復興」「人類の危機地球温暖化の歯止めも
　もう待ったなし。低炭素社会への大転換」
誰もが避けられぬ経験したことのない
「令和の産業革命　社会・経済の激烈な再編の時代」へ
みんながみんな避けることのできぬ厳しいターニングポイント
高齢者には足がすくむ新時代
もう　自分の時代でないと知りつつも、
でも立ち止まっては居られない
知力・体力は衰えたとはいえ、足も動くし、まだまだ好奇心もあり。
70有余年の「気力-毎日毎日の思い-」が生きる力
ときには世話にもなりながら、
スクラム組んで頑張ろうと気分も新た
God be with You!!　仲間の元気はみんなの応援歌
この新しい時代を笑顔で暮らせるように

2022 Mutsu
水無月 6月

梅雨入り目前 神戸便り　緑が素晴らしい季節に　2022.6.1
でも先が見えぬ厳しい世相

「地球人」「人の温もり」「一人では生き抜けぬ」
こんな言葉を今ほど身近に感じた事はなし
はっと気付いた 幾多の困難を乗越え、人間が生きてきた道
大空を吹き来る風を胸一杯　気分も爽快 日々あらた
愚痴は言うまい God be with You!!
お互い声かけあって スクラム組んで 前向いて

ポストコロナの新時代　梅雨入り目前 新緑の中を駆ぬけた2022年春
期待と不安が入り混じる6月神戸便り

北の淡河の里では田に水が張られ、田植えの準備が着々と
一方　兵庫の麦の産地東播磨の加古川沿いの里では麦秋真っ盛り
コロナも何とか落ち着いて、学校再開・春のスポーツ解禁で　街ゆく若者たちの姿も晴れやか
やっとというか　3年ぶりに神戸の街にもにも活気を取り戻しつつあります。
梅雨入りまじかですが、期待一杯の6月です　R04.6.1.

田園に水が入り、田植えの準備に忙しい里
子供たちや学生たちの明るい笑顔　街にも活気
やっと　コロナ禍も収束の道をたどるのか…
行動制限もあとわずかの我慢
梅雨入りも良し　元気に飛び出して
仲間との出会い　老いを元気にと
期待が膨らむ6月です

1. ポストコロナの新時代 梅雨入り目前　期待と不安が入り混じる６月
2.バラの花とその香りは人を元気に明るくしてくれる　須磨離宮公園　２０２２年春のバラ　2022.5.15.
3.“中年化”する就職氷河期世代 ～非正規雇用540万人の衝撃～の驚き
　国が見捨てた就職氷河期世代の絶望…バブル崩壊後の30年間で何が起きたか 2022.5.13
　NHKかんさい熱視線「“中年化”する就職氷河期世代 ～非正規雇用540万人の衝撃～」を視聴して
4.兵庫県にそっくりそのまま自然が保全された湿原　加西市「網引湿原」
　今 兵庫県最大級の湿原　何の変哲もない草むらの中でAAA
　絶滅危惧種 日本最小１円玉の大きさの八丁蜻蛉が飛び交い、朱鷺草が咲いていました。
　８月には草原一面鷺草が咲くという。貴重な知る人ぞ知る兵庫県の代表的貴重な湿原と聞きました

1. ポストコロナの新時代 梅雨入り目前　期待と不安が入り混じる６月

北の淡河の里では田に水が張られ、田植えの準備が着々と
一方　兵庫の麦の産地東播磨の加古川沿いの里では麦秋真っ盛り
コロナも何とか落ち着いて、学校再開・春のスポーツ解禁で　街ゆく若者たちの姿も晴れやか
やっとというか　３年ぶりに神戸の街にもにも活気を取り戻しつつあります。
でも、ポストコロナの厳しい世相の流れにむかんしんではいられない。

ポストコロナで迎える新時代　激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。
「コロナ対策と経済・雇用の回復への暮らし・雇用・経済の復興」に並行して
もう待ったなし「人類の危機地球温暖化の歯止め止め　低炭素社会への大転換」
誰もが避けられぬ経験したことのない
「令和の産業革命　社会・経済の激烈な再編の時代」へのターニングポイント

「地球人」「」人の温もり」「一人では生き抜けぬ」こんな言葉を今ほど身近に感じた事はなし。
はっと気づいた「幾多の困難を乗り越え、人間が生き抜いてきた道

大空を吹き来る風を胸一杯　気分も爽快　日々新らた
７０余年　毎日の思いが生きる力に
愚痴は言うまい　God be With You!!”
互い声かけあって　スクラム組んで　前向いて
身近な春　ほっと一息　心地良きひとときの手助けにでもなればと・・
久しぶりに原チャリ走らせ、里山を駆けるもよし
どこでも飛び出せる日もまじかと期待一杯
ぐちはいうまい　新生の息吹を胸一杯　前向いて

2.　バラの花とその香りは人を元気に明るくしてくれる

須磨離宮公園　２０２２年春のバラ　2022.5.15.

日曜日に出かけたこともあって、大勢の人で一杯。
本年は特に大輪の赤いバラが印象的。
園内のあちこちで花をかぐ姿が見られ、
みんな人に接したいんだと。

本年は特に赤いバラが印象的でした

バラの花とその香りは人を元気に明るくしてくれる　2022.5.15.　須磨離宮公園　２０２２年春のバラ

3．“中年化”する就職氷河期世代 ～非正規雇用540万人の衝撃～の驚き

国が見捨てた就職氷河期世代の絶望…バブル崩壊後の30年間で何が起きたか 2022.5.13
NHKかんさい熱視線「“中年化”する就職氷河期世代 ～非正規雇用540万人の衝撃～」を視聴して

先月のhome page 「５月　新緑からの便り」に下記「年寄りの戯言」を掲載。
でも　自分ながら具体的な対応提言がないなぁ・・・・・と。
そんな矢先にNHK「関西熱視線」2022.5.13.番組「中年化する就職氷河期世代-非正規雇用者５４０万の衝撃-」を視聴

「就職氷河期世代と呼ばれる「現在の社会・働き手の中核をなす2021年現在37歳～51歳の人たち約2500万人」のうち約５４０万人(雇用労働者の約1/3)の非正規雇用の人たちが、中年を迎え、「一人であがいても　どうにもならず、先の希望を失い、あきらめの中で生活をしている」と。
その実態は本人の責任ではない政治が推進した「非正規雇用・自己責任の押し付け政策」の犠牲。
しかも、現場実態を全く見ない丸投げ政策の実態による無責任さの中で引き起こされた事が大きく浮かび上ってきた。」と指摘している。

うすうす感じてはいましたが、いつも頭の中でもやもやしていたことが、
実に刺激・衝撃的な実態データーで示され、その実態が明瞭に示された
今また「非正規雇用」の言葉の中に隠された数々の実態が覆い隠されたまま、
「ポストコロナ令和の新時代」の言葉が躍っている。
コロナ禍の中でも垣間見える日本社会の危うさでもあるが、年寄りにとっては、
もう自分の時代ではないと知りつつも、未来へ向けて見逃せぬ日本社会の課題と。
年寄りの戯言ですが、ご参考になればと　番組で示された映像抜粋し、内容をご紹介。

◆ **【和鉄の道】【年寄りの戯言・NHK 総合　関西熱視線番組紹介】**

国が見捨てた就職氷河期世帯の絶望　中年になって　バブル崩壊後３０年の間に何が起きたか

「中年になった就職氷河期 非正規雇用者の実態」を視聴して　驚きと非正規雇用に思う　2022. 5. 15.

◎ https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0406NHKkansainetsusisenweb.pdf

また、番組視聴後インターネットを調べていて　下記に示した小林美希氏の評論「国が見捨てた就職氷河期世代の絶望・・・・バブル崩壊後３０年間で何が起きたか取材者(小林美希)」の資料に出会いました。

◆ **現代ビジネス　講談社　2021.9.13.** 小林美希氏の評論

「国が見捨てた就職氷河期世代の絶望・・バブル崩壊後３０年間で何が起きたか」当事者・取材者(小林美希)として

◎ https://gendai.ismedia.jp/articles/-/87729?page=6

２０２１年に書かれた資料ですが、NHKかんさい熱視線
「“中年化”する就職氷河期世代 ～非正規雇用540万人の衝撃～」番組の内容骨子とよく整合整理された
内容でしたので、視聴したNHK資映像資料とは別によく調べ書き込まれた資料　是非ご一読ください。

2022.5.16.　　Mutsu Nakanishi

4.兵庫県にそっくりそのまま自然が保全された湿原　加西市「網引湿原」
今 兵庫県最大級の湿原　何の変哲もない草むらの中で
絶滅危惧種 日本最小１円玉の大きさの八丁蜻蛉が飛び交い、朱鷺草が咲いていました。
８月には草原一面鷺草が咲くという。貴重な知る人ぞ知る兵庫県の代表的貴重な湿原と聞きました

四季折々訪ねる小野市須磨アルプスの西端　鴨池の尾根越し北側の山中　全く知りませなんだ。
南網引の村のはずれ糖塚山の山懐 森の中の山道を抜けると周囲を林に囲まれて、人工物を排除保全された広い草むら。
こんな近くに今も手つかずの湿原が残っている。大きな池も隣接し、尾瀬の木道歩きを思い浮かべながらの湿原歩き。
しゃがみ込んで草むらに目を凝らし、デジカメを拡大してのぞき込む。
「いた!!」赤い小さなトンボが２匹じゃれている。また　突然　薄ピンクの朱鷺草もファインダーの中に現れた。
眼を放すと風がくさむらを揺らしてわたってゆく。ゆったりと時が楽しみ。
デジカメでは　中々鮮明画像撮れずでした。いつまでも手を入れずに残してほしいなぁと。
ついでながら　八丁蜻蛉は京都北山「八丁平」が名前の起こりと思ってきましたが、どうも岡崎市「八丁町」起源説
が有力らしい。８月　鷺草がさいた頃にたずねようと思います。

◆【風来坊】梅雨入り目前 久しぶりに原チャリで駆ける東播磨 加古川沿い風来坊walk　2022.5.24.
麦秋の東播磨 & 知らなかった絶滅危惧種八丁蜻蛉の兵庫県唯一の自生地　加西市網引湿原の記録と紹介

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0406EharimaBakusyuweb.pdf

---

ポストコロナで迎える新時代　激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。
「コロナ対策と経済・雇用の回復へ
　暮らし・雇用・経済の復興」「人類の危機地球温暖化の歯止めも
　もう待ったなし。低炭素社会への大転換」
誰もが避けられぬ経験したことのない
「令和の産業革命　社会・経済の激烈な再編の時代」へ
みんながみんな避けることのできぬ厳しいターニングポイント
高齢者には足がすくむ新時代
もう　自分の時代でないと知りつつも、
でも立ち止まっては居られない
知力・体力は衰えたとはいえ、足も動くし、まだまだ好奇心もあり。
70有余年の「気力-毎日毎日の思い-」が生きる力
ときには世話にもなりながら、
スクラム組んで頑張ろうと気分も新た
God be with You!!　仲間の元気はみんなの応援歌
この新しい時代を笑顔で暮らせるように

---

home page top のBGM
ちょっと雰囲気を替えたくて

自分で気にいっている元気の出る歌

<Sound1 >【おげんきですか
<Sound2>【映像詩　河島英五が歌う「大阪の歌」】
<Sound3>　河島英五「野風増」
<Sound3> Philosophy For Old Age.mp
<Sound4> Sissel - You Raise Me Up
<Sound5> Country Road 口笛演奏で
<Sound6> Anly 「笑顔」
<sound7> innisfree.mp3

Sissel の「You Raise Me Up」 を６月のHPのBGMとして流しました

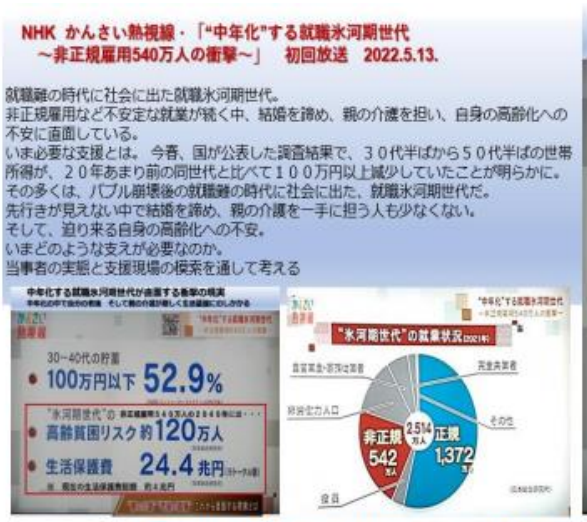
■ 掲載記事トピックス 2022年 6月神戸便り

1.【年寄りの戯言・番組紹介】NHK 関西熱視線 2022.5.15

国が見捨てた就職氷河期世代の絶望 中年になって バブル崩壊後30年の間に何が起きたか

「視聴中年になった就職氷河期非正規雇用者の実態」を視聴して 非正規雇用に思う

非正規雇用者 540万人の衝撃　もう びっくり 日本は こんなにひどい国になってしまったのかと・・・・



就職氷河期世代とは一般に 1970年～1982年、または1984年までに生まれた
2021年現在37歳～51歳の年齢の人たち約2500万人を指す。
現在の社会・働き手の中核をなす人たちで そのうち約５４０万人が非正規雇用(雇用労働者の約1/3)である。

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0406NHKkansainetsusisenweb.pdf

■ 絶滅危惧種 八丁トンボが草木の間を舞う自然がそっくりそのまま保存されている兵庫の湿原 加西市 網引湿原

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0406EharimaBakusyuweb.pdf

◎　2022年6月更新後記　2022年6月更新の中で　　2022. 6. 1.

狭い縦走路のドクン中にどっしりと座り
いつも元気をもらうウバメガシノ巨樹

群生するウバメガシの中を歩く
西六甲須磨縦走路で

いつも元気を貰う妙法寺
車の里の車の里大歳神社のの大楠

最近巨樹の生き様をTV等で見る機会多し。
先日　葉が前部落ち、枯れ木に近くなっても、樹木は根さえ生きていれば、根元からえ新しい芽・枝を出す。
動けぬ塾は樹木は常にその準備をしていると。
根は水分と共に土壌細菌と共生することで、動けぬ身を補完しあっている。
このため、土壌細菌を活性化する酸素が根に供給されないと根が死んで、息の根を止められてしまうのだと。
巨樹のあのたくましいごつごつした巨体は本体が切られても本体が折れても、準備してきた根元や　切られた幹から、
新し芽をだし生き延びてきた生きざまそのものだと。
私たちが巨樹に惹かれるのもそんな生物共生・循環を知らずとも知っているからかも・・…・・・
樹木医はこの巨樹の生きざまを助け、樹勢を回復させてやるのだという。

梅雨目前　やっとコロナ禍も収束の道をたどるのか…
街に活気が戻って　行動制限もあとわずかの我慢　梅雨入りも良し
元気に飛び出して仲間との出会い　老いを元気にと
期待が現実に変わる6月になればいいなあ・・・・・

なんとかコロナが収まって　みんなの笑顔が見られるよう。
新しい時代の第一歩　社会・経済・産業・生活　どれもこれもが　激動・革新の新時代
一歩踏み出せば、万事まわりだす　　そんな期待と希望の開けるはじまりになりますように
また、今回　Top page から　ウクライナの祈りを外しましたが、重いと願いは変わらず。
一日も早く、停戦が実現し、ウクライナ人々の平和が訪れますように。
毎度の勝手気ままなHPですが、何とか維持したいと。よろしくお願いします。
なにはともあれ、元気で前向いて頑張ります。

もう　自分の時代ではないと感じる昨今ですが、
まだまだ好奇心旺盛　気力もあり、足も復活。
不定期になりそうですが、元気に前向いて発信をと。
後期高齢者だからとは言えなくなった新型コロナへの戦い
そしてポストコロナの時代へ
みんなの一番の願いは穏やかな日常の生活を取り戻せること
前向いてがんばりましょう

困難の中にある仲間に　思いをはせています。
みんな老いと向き合う年に
一人で頑張らず、無理せず　みんなに声あげて!!　.
仲間がいる。仲間の元気はみんなの応援歌
互いに連絡取り合って　元気に前向いて笑顔で今を。

仲間の元気は　みんなの応援歌 !!
頑張りすぎず、時には声をあげて !!
お互いスクラム組んで
助け合ってこの難局を乗り越えましょう
笑顔で逢えるのを　楽しみにしています
ワクチン接種も済ませましたが、
まだまだ収束は道半ば
どうか　無理せず、元気に前向いて
お過ごしください

また連絡ください　　*God Be With You!!*
From Kobe　　*Mutsu Nakanishi*

2022 Mutsu
文月 7月

7月初夏 神戸紫陽花の便り

期待の膨らむ7月になりますよう　2022.7.1.

初夏　梅雨の雨上がり　雨に濡れた紫陽花の清純な美しさ
ちょっぴり憂鬱な時季ですが、雨が降るからこそ美しい梅雨の絶景
そっと顔をよせて、ゆったりとした時を独り楽しむ
好奇心一杯で過ごす毎日 walk　まだまだ元気です .

1. 梅雨のひととき
周囲には素晴らいし景色が広がっていました
期待が膨らむ7月になりますように
2. 先が見えぬ日本 先がどうなる 6月22日 参議院選挙が告示
「立場の異なった人たちとつながる」6月の新聞記より
3. 剣菱酒造の元酒蔵 『灘五郷酒所』訪問 2022.6.17.(金)
阪神 御影駅の海側 灘五郷全26蔵の日本酒が飲み比べのできる酒所
ビールバー・ワインバーの雰囲気　女性組も多く、
ちょい飲み歓談にはもってこいと。
4. 7月神戸便りの更新中に梅雨があけました
また6月というのに……
期待一杯の7月に　声かけあって厳しい夏を乗り越えましょう
5.追伸　HP更新作業中の6月28日　ビックリの梅雨開けに

田圃に水が入り、周りの山が水に映える里　街にも活気　子供たちや学生たちの明るい笑顔
やっとコロナ禍も収束の道をたどるのか…
先が見えぬ厳しい世相に　気候変動・激甚化する自然災害が追い打ちをかける日々
気が休まらぬが、ほっと わが身や周囲を見渡す、雨も良し
期待が膨らむ7月になるようにと自らをはげます毎日
仲間との出会い　老いを元気に!!

神戸７月初夏 神戸紫陽花の便り2022.7.1.　　期待が膨らむ７月になるよう 熱中症にも気を付けて

1. 梅雨のひととき
   周囲には素晴らいし景色が広がっていました
   期待が膨らむ7月になりますように
2. 先が見えぬ日本 先がどうなる 6月22日 参議院選挙が告示
   「立場の異なった人たちとつながる」6月の新聞記より
3. 剣菱酒造の元酒蔵『灘五郷酒所』訪問 2022.6.17.(金)
   阪神 御影駅の海側 灘五郷全26蔵の日本酒が飲み比べのできる酒所
   ビールバー・ワインバーの雰囲気　女性組も多く、
   ちょい飲み歓談にはもってこいと。
4. 7月神戸便りの更新中に梅雨があけました
   また6月というのに・・・・
   期待一杯の7月に　声かけあって厳しい夏を乗り越えましょう

5.追伸　HP更新作業中の6月２８日　ビックリの梅雨開けに

6.更新トピックス

1. 梅雨のひととき　周囲には素晴らいし景色が広がり　期待が膨らむ7月になりますように

初夏 梅雨の雨上がり 雨に濡れた紫陽花の清純な美しさ　ちょっぴり憂鬱な時季ですが、
雨が降るからこそ美しい梅雨の絶景 そっと顔をよせて、ゆったりとした時を独り楽しむ
ルーチン化した毎日walkですが、梅雨の晴れ間の周りの美しさにはっと気が付き、
デジカメで撮ってスライドに。
この６月もそんなphotoにご満悦。もう後がないと感じることが多い最近。
今でないとの思いもひとしお。元気にいまを駆け抜けねば……と。
私の非日常　デジカメでとらえた西神戸の梅雨のひととき　まだ好奇心もあり
今日は何があるか?ときょろきょろ　出会った人との会話も楽し。
おもいつくまま　気の向くままの風来坊　　とにかく　元気に過ごしています

もう何年振りでしょうか　高御位山の登山道に咲く可憐な笹百合に出逢いました
また、山頂の磐座に座っての展望も　2022.6..12.

須磨西六甲の縦走路から眺めるくっきり見える大阪湾・明石海峡　播磨灘　2022.6.7.
大阪湾に浮かぶ関空・明石海峡 淡路島全景 播磨灘に小豆島　姫路沖の家島群島もくっきりと

2. 先が見えぬ日本　先がどうなる　6月２２日参議院選挙が告示

「立場の異なった人たちとつながる」 6月の新聞記事より

6月２２日参議院選挙が告示され、7月１０日の投票に。
マスコミを通して、各党が数々の選挙公約を論じているが、やっぱり響かない。
政治家の発言の軽さ・当事者責任のなさ・仲間意識が支えの政治が今も露呈し続けている。
世界・地球・そして日本がどうなるか　その瀬戸際の中で、日本は益々複雑化する「人・社会・生活」に目をつぶり、IT・情報がもたらした物・マネー重視の「軽薄短小・集中・効率・スピード・同化」の負の遺産をいまだに引きずっていると見える。
今や世界は人重視・多様化に舵を切り始めたのに……
「仲間意識の強い頂点同調・丸投げ・余裕のないマネーゲーム」の中で「自己の変革・革新」の道を閉ざしてきた日本。アベノミクスと称して言葉に酔う政治は願い下げにしてほしい。未だに大企業の品質保証・検査結果の偽装が続く現実は日本の状況をよく表している。
欧米の「Copy exactly 」と日本の「日々改善　即実行」の運用について、論議したことがあるが、未だにこの理念がしめす運用理解のない日本が寂しはい。
頂点同調・丸投げを武器に経験重視を振りまわす時代ではない。
この６月の新聞記事やコラムには　先行き不安の中での参議院選挙の中での相変わらずの政治に中央追従型丸投げの人間軽視を批判する立場の論がいくつも見られるようになった。

先が見えぬ厳しい世相に　気候変動・激甚化する自然災害が追い打ちをかける日々、
コロナもやっと落ち着いて、まだまだ予断はできませんが、収束の兆し
気が休まらぬが、そぼふる梅雨の雨も良し
ほっと一息 わが身や周囲を見渡し、先を考えねばと。

年寄りの戯言　当事者意識の欠如した三人称発言・会見　もうやめにしたらどうか・・
２０２２年5月　和鉄の道　HP より　Mutsu Nakanishi

ポストコロナで迎える新時代　激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。
「**コロナ対策と経済・雇用の回復への暮らし・雇用・経済の復興**」に並行して
もう待ったなし「**人類の危機地球温暖化の歯止め止め　低炭素社会への大転換**」
誰もが避けられぬ経験したことのない
「**令和の産業革命　社会・経済の激烈な再編の時代**」へのターニングポイント

混乱する変革の時代の中で　人と人のつながりを考える *From Kobe*
６月神戸新聞焦点/争点より「立場を超えた人とつながる」

17 文化　2022年（令和4年）6月10日　金曜日　神戸新聞

文化

焦点／争点

5月　安心して老いられる社会

立場を超え人とつながる

このほかの注目論考

「ゼレンスキーへの危うい『熱狂』と、リベラル言論人の衰退を問う」
（「現代ビジネス」5月10日）

「『今度はインターセクショナリティが流行ってるんだって？』」
（「現代思想」5月号）

「古くて新しい民主主義を考える」
（「世界思想」春号）

■ From Kobe ７ 月収録 ６ 月の新聞記事より「立場の異なった人たちとつながる」

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0407newspaperA.pdf

3. 剣菱酒造の元酒蔵 『灘五郷酒所』訪問 2022.6.17.(金)

阪神 御影駅の海側 灘五郷全26蔵の日本酒が飲み比べできる酒所

ビールバー・ワインバーの雰囲気　女性組も多く、

ちょい飲み歓談にはもってこい

友人たちとランチを楽しんで帰ってきた家内が目を輝かせて「阪神御影駅南、今話題という「灘五郷酒所」知ってるか？　食事もできるようだし、友達たちと 訪ねたいなぁと盛り上がったが、女だけでいけるやろか？」という。
インターネットでも見たし、何度も歩いた酒蔵背の町の一角。「私も興味津々 週末混んでるやろから、金曜日の昼のぞきにいこか・・・」と。
インターネットで営業日調べて、行ってきました。
街の居酒屋の雰囲気かと思っていましたが、ビールバー・ワインバー等カウンターバーのおしゃれな雰囲気。
入口で 3000円/人 10枚?組のチケットを買うシステム。
リストにある酒の飲み比べも酒の肴もちょっとした食事も・・ビールもカクテルもジュースもメニューにありました。

今日は灘五郷の飲み比べセット（灘の5つ酒蔵の酒五種とそれぞれに合わせた酒の肴 添えられた解説メニューを見ながら味わうのも楽し）
また、この場所を提供した酒蔵剣菱の代表銘柄の3種盛(毎秋訪ねる東播磨 剣菱の酒米の郷の酒3種)
灘の酒蔵それぞれの数多い銘柄 知っているのも 知らぬのも メニューからみつけて 楽しむのも良し。
けっこうほろ酔いかげん 家内も上機嫌 女性組も多く、酒蔵の街歩きの後のちょい飲み歓談にはもってこいと。

「剣菱酒造」の元酒蔵を利用し、酒どころ灘五郷・全26蔵の日本酒が飲み比べできる「灘五　郷酒所」がオープン
灘五郷とは神戸市の灘区、東灘区と西宮市の海岸沿い、5つの酒造りエリア
「西郷」「御影郷」「魚崎郷」「西宮郷」「今津郷」を総称する名称 灘五郷の蔵元全26蔵とコラボしてできた店と聞く。
毎年秋稲穂が実る頃東播磨の田園に灘の酒米「山田錦」の旗が翻るのを見に行くのが楽しみで、それが縁というか…
よく知る蔵元「剣菱酒造」の元酒蔵を利用して作られたと聞いて、酒の味はわかりませんが・・・・
混んでないのを期待して、家内と二人、金曜日の午後に
ビールバー・ワインバーの雰囲気 女性組も多く、ちょい飲み歓談にはもってこいと。

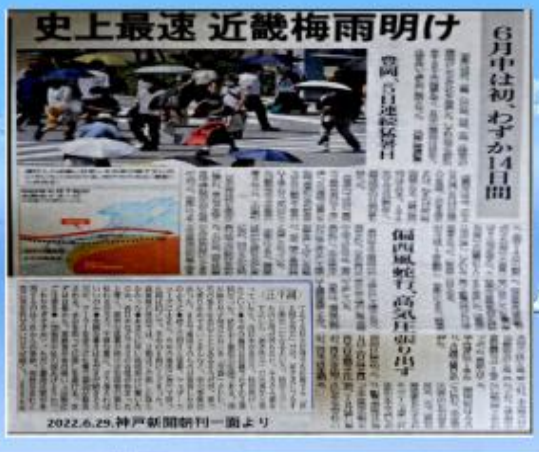
■ 灘五郷酒所

詳細は公式 home page で

https://nadagogo.com/

なんとかコロナが収まって みんなの笑顔が見られるよう。
新しい時代の第一歩 社会・経済・産業・生活どれもが 激動・革新の新時代
一歩踏み出せば、万事まわりだす 期待と希望の開ける始まりになりますように
また、Top page から ウクライナの祈りを外しましたが、思いと願いは変わらず。
一日も早く、停戦が実現し、ウクライナ人々の平和が訪れますように。

4.７月神戸便りの更新中に梅雨があけました
また６月というのに・・…期待一杯の７月になるように
声かけあって厳しい夏を乗り越えましょう



【風來坊】６月の近隣walkをスライド動画に
■須磨西六甲の縦走路から眺めるくっきり見える大阪湾・明石海峡　播磨灘　2022.6.7.
■高御位山の登山道に咲く可憐な笹百合に出逢いました
また、山頂の磐座に座っての展望も　2022.6.12.

【追伸】７月更新の HP page にかききれませんでしたが、
早い異例の梅雨が明けた途端　猛暑になりました
また　コロナもじわじわ増加の兆し
ウクライナの情勢も混沌と
巷ではやたらに参議院選挙のポスターが目につきますが、
今の世相に新しい風を吹きこんでくれるのでしょうか‥‥

2022. 7. 1. 神戸新聞朝刊より

酷暑の夏　いつも頭に浮かぶのは　「平和な暮らし」の事
なにはさておいても　何とかウクライナに平和がもどりますように
願いとは裏腹に　本当に厳しい酷暑　自然災害も牙をむきそうな気配。
この暑さがコロナを吹き飛ばしてくれたらも　一つぐらい酷暑も特典があれば‥・
どうか　「自分の身は自分で守る」の意気
無理せず　声かけあって　この時節を乗り越えましょう

■ 掲載記事トピックス　　2022年 7 月初夏　神戸便り

≪口酒井遺跡の詳細は下記掲載の和鉄の道で≫　新装なった伊丹博物館の伊丹市の歴史展示 2022.6.13.

縄文・弥生 日本人のルーツ縄文と弥生人の共生に思いを馳せて

関西での「水田稲作の始まり」と「縄文人と弥生人の共生」を明らかにした伊丹市口酒井遺跡の展示

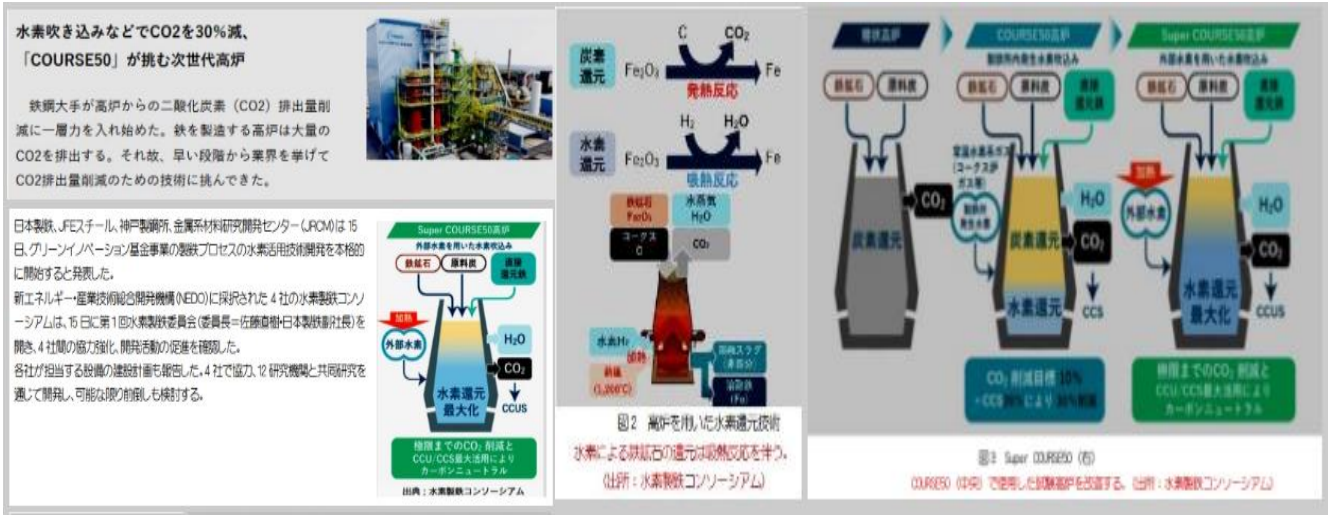
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022iron/22iron05.pdf

---

【鉄の話題 低炭素社会構築に向けて】 【情報紹介 インターネットより】高炉での水素製鉄に向けて　2022.7.1.

CO2 排出量のきわめて多い高炉製鉄をどうする 次世代高炉の前倒し検討

高炉３社、設備計画報告 水素製鉄開発を本格始動　次世代高炉共同研究、前倒し検討



◎ https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0407NewsHseitetsuweb.pdf

◎ https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022iron/22iron06.pdf

---

【風來坊】６月の近隣walkをスライド動画に
■須磨西六甲の縦走路から眺めるくっきり見える大阪湾・明石海峡　播磨灘　2022.6.7.
■高御位山の登山道に咲く可憐な笹百合に出逢いました　また、山頂の磐座に座っての展望も　2022.6.12.

もう何年振りでしょうか 高御位山の登山道に咲く可憐な笹百合に出逢いました
また、山頂の磐座に座っての展望も 2022.6..12.

◎202２年7月更新後記　202２年7月更新の中で　2022.7.1.

なんとかコロナが収まって みんなの笑顔が見られるよう。
一日も早く、停戦が実現し、ウクライナ人々の平和が訪れますように。
新しい時代の第一歩 社会・経済・産業・生活 どれもこれもが 激動・革新の新時代
一歩踏み出せば、万事まわりだす そんな期待と希望の開けるはじまりになりますように

毎度の勝手気ままなHPですが、何とか維持したいと。よろしくお願いします。
なにはともあれ、元気で前向いて頑張ります。

【追伸】７月更新の HP page にかききれませんでしたが、
早い異例の梅雨が明けた途端　猛暑になりました
また　コロナもじわじわ増加の兆し
ウクライナの情勢も混沌と
巷ではやたらに参議院選挙のポスターが目につきますが、
今の世相に新しい風を吹きこんでくれるのでしょうか‥‥

酷暑の夏　いつも頭に浮かぶのは　「平和な暮らし」の事
なにはさておいても　何とかウクライナに平和がもどりますように　2022. 7. 1. 神戸新聞朝刊より
願いとは裏腹に　本当に厳しい酷暑　自然災害も牙をむきそうな気配。
この暑さがコロナを吹き飛ばしてくれたらも　一つぐらい酷暑も特典があれば‥・
どうか　「自分の身は自分で守る」の意気
無理せず　声かけあって　この時節を乗り越えましょう

2022 Mutsu
葉月 8月

盛夏 ひまわりの夏 神戸便り 2022.8.1.

酷暑・大気不安定・コロナ感染爆発　変革・混乱の渦の中に

◎ 酷暑の夏を明るく爽やかにしてくれるひまわりと朝顔
◎ 日に日に深みを増す緑の絶景　周囲の街・野山・田園の緑の美しさにふと気が付
◎「立場の異なった人たちとつながる」「聞く」と「聴く」【最近の新聞記事より

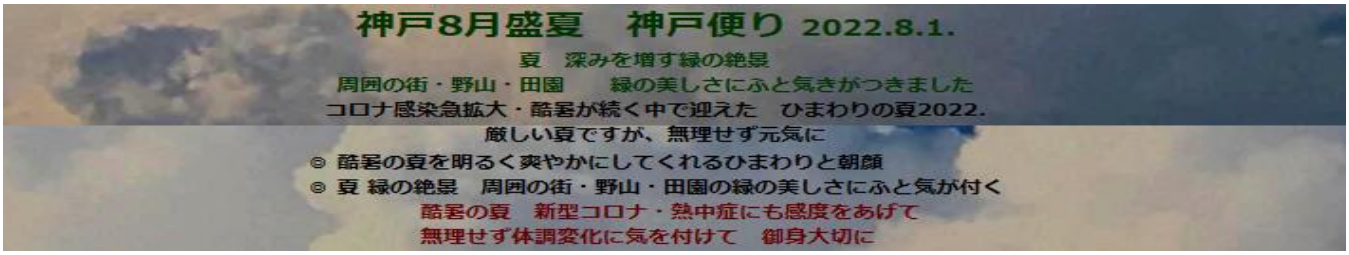
1. ひまわりの夏2202
酷暑お見舞い申し上げます　厳しい夏ですが、おたがい無理せず元気に
2. 先が見えぬ日本　新聞記事より
いろんな立場の意見をどう受け止めるか　参考になれば・・・
3. 8月 酷暑の中ですが、今一度　平和な暮らしを考えましょう
地球人として　みんながみんな　穏やかで平和な暮らしが取り戻せますように
4. 盛夏　神戸篭りの中で
■朝採りのとうもろこし(スイートコーン)
■佐用　東徳久　林崎の里ひまわり畑で見つけた蓮の花
■こんな珍しいひまわりの花が新聞に掲載され、ビックリ
5. 仲間からの定期便

酷暑・大気不安定の中で 新型コロナの感染爆発 世は厳しい変革混乱の渦に
先が見えぬ厳しい世相に 気候変動・激甚化する自然災害が追い打ちをかける
気が休まらぬが、「自分の身は自分で守る心意気」God be With You!! 元気に前向いて

酷暑　不安定な気象が激甚化 「もう自分だけは・・・」「日本だけは・・・」が通用しない世相・時代に
厳しい状況の中で、日本のほころびが見え、みんながみんな先が見通せぬ。
皆が皆 気が休まらぬ昨今。
でも ひとりじゃない　時には声を上げて がんばらないで!!
仲間がいる 仲間の笑顔・思いは みんなの応援歌
お互い声かけあって、スクラム組んで この厳しい夏を乗り切りましょう
今はコロナにかからぬことが一番 無理せず 自らをお守り下さい。

2022ひまわりの夏 2022.7.13.　青田が広がる東播磨の田園地帯を原チャリで駆ける

ひまわりの夏到来に小野のひまわりとの出会いと青田が広がる東播磨夏の絶景



今日真っ青な空に湧き上がる入道雲の写真が撮れました　2022.8.3.　山麓バイパス遊歩道で

夏 緑一色になった我が街　若草の丘・車田園地周辺　緑の絶景　毎日walkの中で

北神戸丹生山の北側に広がる谿河の里で
夏の青田が広がる田園地帯　実りの秋を約束する夏の緑の絶景

1. ひまわりの夏 2202

酷暑お見舞い申し上げます　きびしい夏ですが、お互い無理せず元気に

3年ぶり　千種川が流れ下る古代たたらの里の段丘のひまわり畑にも行ってきました

ぱっと周囲を明るくしてくれるひまわり　また、夏の朝を清々しくしてくれる朝顔　2022年ひまわりの夏の到来です

酷暑ですが、まだまだ不安定な天候 激甚化する気象変化にも気を付けて　入道雲　毎日 walk の中で

2.「立場の異なった人たちとつながる」【2】最近の新聞記事より

先が見えぬ日本 新聞記事より いろんな立場の意見をどう受け止めるか

コロナ・政治・経済・世界等々の TV ニュース報道や新聞に自分とのギャップを感じることが多い

「何も変わらぬこの閉塞感と不安感。心地よい、ゆでガエル状態」

地球人であることを思い知らされた激動の新時代 立ち止まってはいられない

年老いたといえども立ち位置をしっかり見据えたい。

自分も「変わる」「変えねばならぬ」と 参考になれば‥‥

■ 神戸新聞からの抜き書きより

◎ ＜ 謙虚な叡智＞ 「汀にて」 希望という名の方向感覚　　2022.7. 29.神戸新聞朝刊

元大阪大学総長　鷲田 清一

〈謙虚な叡智〉

希望という名の方向感覚

汀(みぎわ)にて　鷲田清一

すべてを知ることはできないが、何も知らないでいることもできない。そんな中途半端な場所にひとは置かれている。そのことを、わたしたちはこの10年ほどのあいだに、いやというほど思い知らされてきた。

原子力発電の安全性について、気候変動の原因について、感染症への対応について、わたしたちは専門家とよばれる人たちの意見の相違にため息をつき、じぶんで調べだしてこんどは迷路に入り込み、焦燥感と不安だけが残る、そんな寂しい思いをためこんできた。

そしてロシアによるウクライナ侵攻。つい先日、4度目のコロナのワクチン接種を受けに近所のクリニックを訪れたら、その日受付をされていな[illegible]さまの傍らにウクライナの歴史の本があった。わたしもまた読みはじめていたのと同じ本である。みなさん同じ思いをされているのだなと思った。

後ろめたさ

わたしの場合、ウクライナ史の勉強はある後ろめたさから始まった。これまでアフリカや中東で同じような侵攻や内戦が起こっても詳しく調べようとしなかったのに、なぜウクライナの事情は調べようと思ったのかという関心の発、もしくは「偏見」の理由は何かとまずは訝しんだ。

そのあと、こんどはこの地域の地理と歴史へのおのれの知識の貧弱さが情けなくなった。

専門のことがらでなければ、研究職にある者と一般の市民のあいだに、基本、差はない。しいていえば、前者の探究のほうがわずかにしつこいというくらいだろうが、それとて日頃の癖というか、職業病みたいなものでしかない。ただ、すべてを知り尽くすことのできない問題、たぶん最終的な答えは出ないだろう問題に直面したとき一転して生活上重要な問題ほどその色が濃い―そのあたりで引き返すかは人によって異なる。

最近、こんな文章に目がとまった。

（論理を明白な言葉で語るのは、鬨の声を上げるのにも似て、気持ちは高揚するだろう。しかし、そうしなくては気持ちが高揚しないのはための貧しさか、国内不安定のためであることが少なくない。しっかりした実績を上げており、小さい声であっても妥当なことを述べ続けるのも、長い目で見れば一つの信用につながる。）

政治学者・高坂正堯の遺稿「世紀の国際政治と安全保障の基本問題」（「外交フォーラム」9巻7号、1996年6月）にあった文章だ。ある事態を見究めようとして、その複雑さに耐えきれないで、手持ちの図式でさっさと割り切ってしまう、そういう態度を諫めている。

先のウクライナ問題一つとりあげてもそうだが、社会的現象というものは、歴史のコンテクストが複雑に重層していて、わずかな視力では捉えられぬものである。そのことを失念しまうと、高坂の主著の一つ、「国際政治　恐怖と希望」（1966年初版、2017年改版）にも手を伸ばした。そして、透視力のある人というのはこういう考え方をするものかと、あらためて感じ入った。

懐疑的であれ

この本で高坂は、世界から戦争というものがなくならないその理由について、政治的な力関係と、国境を跨ぐ経済交流（というより格差）と、諸国それぞれの価値体系という三つの視点から重層的に論じつつ、軍備縮小と平和維持の絶望的な難しさと、その困難の認識の上に立った「謙虚な叡智」の必要を説いている。

すぐに楽観せずにつとめて懐疑的であること、一つの視点で性急に結論を引きださないことを、問題ごとに強調している。

一例だけあげると、たとえば「言論の自由」についてこう述べる。

（言論の自由が認められていることは、政府の行動を監視し、制約するための必要条件であるけれども、言論の自由があれば必ず政府が制約されているわけではない。言論の自由は、人びとの画一性が強い現代の巨大社会では政府の行動に対する支持を生み出し、政府の力を強めるという面もある）

意見のために声を上げずに、どこまで潜水できるか。つまり問題が複雑すぎてすぐに答えが出なくても、どこまで事態のその複雑性に耐えられるかという、そうした知性の耐性を、この本は体現している。そのとき重要なのは、つねに懐疑的であることであるが、さらにそれ以上に重要なこととして、高坂は「希望」という名の方向感覚を培っておくことをあげている。半世紀以上前の本だが、汀際に立ち尽くすわたしたちの背中をそっと押してくれたような気がする。

わしだ・きよかず　1949年京都市生まれ。京都大大学院博士課程修了。元大阪大学総長、前京都市立芸術大学長。せんだいメディアテーク館長。専門は臨床哲学。「モードの迷宮」（サントリー学芸賞）、「『聴く』ことの力」（桑原武夫学芸賞）など著書多数。

◎「この秋、心に響く追悼演説を待ちたい」　神戸新聞コラム「正平調」2022.7.30 朝刊より

与野党の思惑がらみで　秋に先送りされた安倍信三元総理の国会での追悼演説

正平調

1960（昭和35）年10月、テロで非業の死を遂げた当時の社会党、浅沼稲次郎委員長の党葬が執り行われた。多くの関係者が参列し、詩人の草野心平は詩を贈った◆ただ人々の心をつかんだのは国会での池田勇人首相の追悼演説だろう。首相はこう語りかけた。「沼は演説百姓よ／よごれた服にボロカバン／きょうは本所の公会堂／あすは京都の辻の寺」◆西日本新聞の記者から池田の秘書に転じた伊藤昌哉が草稿を書いた。「沼は演説百姓よ」のくだりは青年期、浅沼とともに社会主義運動に身を投じた友の詩を引用した◆安保闘争の熱が冷めやらぬ中、自民党の首相が社会主義の活動家の詩を国会で読み上げ、激しく対立してきた野党の政治家の死を悼む。さまざまな思惑があっただろうが、その光景が国民の心に深く刻まれたことは想像に難くない◆安倍晋三元首相の追悼演説が、与野党の対立によって時期を先送りし、秋に実施される方向だという。自民党内では、盟友で前幹事長の甘利明氏が演説する方向で調整していたと報じられ、野党だけでなく与党からも異論の声が上がっている◆池田首相の演説は静まりかえった議場に響き、ハンカチを手にする与野党議員の姿が見られた。この秋、心に響く追悼演説を待ちたい。

2022・7・30

◎ コロナの感染 週間感染者数は日本が世界最多に

困難が渦巻くポストコロナの新時代　どうすればよいのか??? 新聞岸の拾い読み　参考になれば・・・

災害の時代に求められる進化　神戸新聞　2202.7.31.朝刊　針路21より

針路21

コミュニティー防災

客員論説委員　室崎 益輝

災害の時代に求められる進化

地球温暖化の影響もあって、雨の降り方が変化し、記録的な豪雨災害が相次ぐ状況にある。その一方で、新型コロナに代表される強力な感染症が、世界中にまん延している。加えて、南海トラフ沖地震のような巨大地震の発生も、間近に迫っている。災害が巨大化し、頻発化し、多様化し、複合化し、長期化する「災害の時代」を迎えている。寺田寅彦の言葉を借りるまでもなく、最近の自然の凶暴化と社会の脆弱化の中で、災害はダイナミックに進化し、不幸なことに災害の時代に突入してしまった。

ところで、災害が進化すると、防災も進化しなければならない。新しい災害に向き合うために、それに見合う新しい防災がいる。災害の時代を抜け出すために、旧弊にとらわれない新たな挑戦がいる。

だが、私たちは、この時代が求めている防災の進化をはかろうとしているだろうか。法制を見ても、災害救助法や災害対策基本法という、過去の比較的平和な時代につくられた基本システムから、脱し切れていない。コミュニティーの防災を見ても、隣組時代の型にはまった防災から、脱し切れていない。

2面に続く

針路21

コミュニティー防災

1面から続く

今一度、私たちを取り巻く災害の動向が、いかなる進化を求めているかを考えてみよう。

結論から言うと、災害の巨大化は連携協働を、多様化は公衆衛生と個別対応を、長期化は生活復興を求めている。

災害の巨大化は、それに立ち向かう人間や組織が大きくなること、そのために力を合わせることを求めている。多様な担い手が協働して、その力を合わせて総力戦を挑むことが、大規模な災害に向き合ううえで欠かせない。

災害の多様化は、社会の基盤や体質を根底から強くすることを求めている。場当たり的な対症療法ではなく、体質そのものの抜本改善を求めているのだ。健康のための公衆衛生が求められるように、防災のための公衆衛生力が求められ、SDGsが強調している貧困や差別といった災害の背後要因を正すことが求められている。

災害の多様化に対しては、被災の多様化も進んでいる。被災者が多様化しているためである。外国人も、アレルギー体質の子供もいる。経済も地域社会も進んでいる。その中で取り組まれる救災や復興は、個々の状況に細やかに向き合うことが避けられない。被災者それぞれに寄り添う、個別支援計画やケースマネジメントが求められるゆえんである。

長期化は、間接被害の軽減に傾注することや生活再建に力を入れることを求めている。時間とともに変化する苦しみの「時間積分値」をいかに緩和するかが問われている。生活だけでなく生活やなりわいの復旧に努めることが求められている。ここでは、人権を大切にする視点、命や復興という視点も大切になる。

地縁型から橋渡し型に変質を

こうした新たな防災へのニーズは、課題を包括的に捉えると、運動を横断的に組み立てることを、を日常的に進めることを、祭として展開している。

ニーズに応えるうえで、地域密着型の防災、持続的で日常的な「コミュニティー防災」の重要性が高まっている。そのために、防災の視点でコミュニティーのあり方を見直すことが避けられない。

ソフトウエアやヒューマンウエアを重視する防災に切り替えること、環境や福祉、さらには教育との融合を図る防災に切り替えること、公衆衛生として生活スタイルや社会文化の改変を図る防災に切り替えることが欠かせない。

新たな防災では、住んでいる人だけによる防災ではなく、地域に関わり合いのあるすべての人による防災のコミュニティーに執着していては、駄目である。

学校や事業所、防災士やケースワーカー、市民団体やNPOなどを巻き込んだ、協働のコミュニティーに転換しなければならない。地縁型といわれるボンド（結束）型と言われる日本型のコミュニティーから、機能的あるいはブリッジ（橋渡し）型と言われる近未来型に変質しなければならない。

それぞれの持ち味を持ち寄って足し算あるいは掛け算の形で、コミュニティー防災力の向上を意図的にも高めるようにしなければならない。多様なつながりで日常的かつ多面的に助け合うという、新しいコミュニティー防災が求められている。

そこでは、コミュニティー主導のボトムアップ型の地区防災計画の取り組みを進めること、「みんなで」「近くに」連携する新たな連携システムの構築を図ること、ライフスタイルの改善につながる持続的な防災を進めること、高齢化したコミュニティーでも生き生きとした防災を展開することが、可能になる。

小学校と地域コミュニティーが一体となった防災、事業所が積極的に参加する防災、世代や職種を超えてつながる防災を、つくりだしていきたい。

（むろさき・よしてる＝CODE海外災害援助市民センター代表）

◆このシリーズは、随時掲載します。

全文の copy：https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/R0408tp06.jpg

---

「感染しない　人にも感染させない」との防備をそれぞれ　今一度再確認

命の危険　感度をあげて、御身大切に‥‥・　異変を感じたら　頑張らずに直ぐに声をあげよう!!

3.　8月酷暑の中ですが、今一度　平和な暮らしを考えましょう

「命は宝」地球人として　みんながみんな　穏やかで平和な暮らしが取り戻せますように

暑い夏になるといつも頭をよぎるのは「命は宝」「広島」「平和ってなんだろう」
「戦後」の言葉が見消え、高度情報化の刹那・仮想現実に彩られて、「自己責任」の競争社会に戸惑う日本。今年ほど「地球人としての自分」を考えたことはなし
ロシアの侵攻によるウクライナの悲惨な現実と核の危機・歯止めがかからぬ世界的コロナ感染の大流行・CO2地球環境変化による激甚災害等々
われら地球人　自分さえよければ‥ではどうにもならず。
地球規模　人類が生き延びてきた道「相手を思いやる心」今一度かみしめよう「平和ってなんだろう」
2013年夏　広島で当時小学1年生だった安里有土君が朗読した詩「へてわって　すてきだねだね」がいまも頭の片隅にあります。
いま　世界各地でそして日本で幾多の困難に直面し、闘っている人たちに感謝を込めて　連帯のエールを送ります。

小学1年生、安里有生君の詩「へいわって すてきだね」全文

2013.6.23. 沖縄全戦没者追悼式で 1年生の安里有生君が朗読

へいわって なにかな。
ぼくは、かんがえたよ。
おともだちとなかよし。
かぞくが、げんき。
えがおであそぶ。
ねこがわらう。
おなかがいっぱい。
やぎがのんびりあるいてる。
けんかしてもすぐなかなおり。
ちょうめいそうがたくさんはえ、
よなぐにうまが、ヒヒーンとなく。
みなとには、フェリーがとまっていて、
うみには、かめやかじきがおよいでる。
やさしいこころがにじになる。
へいわっていいね。へいわってうれしいね。
みんなのこころから、
へいわがうまれるんだね。

せんそうは、おそろしい
「ドドーン、ドカーン。」
ばくだんがおちてくるこわいおと。
おなかがすいて、くるしむこども。
かぞくがしんでしまって なくひとたち。

ああ、ぼくは、へいわなときにうまれてよかったよ。
このへいわが、ずっとつづいてほしい。
みんなのえがおがずっと、つづいてほしい。

へいわなかぞく、
へいわながっこう、
へいわなよなぐにじま、
へいわなおきなわ、
へいわなせかい、
へいわってすてきだね。

これからも、ずっとへいわがつづくように
ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。

へいわってなにかな。ぼくは、かんがえたよ。
ねこがわらう。おなかがいっぱい。やぎがのんびりあるいてる。ちょうめいそうがたくさんはえ、よなぐにうまが、ヒヒーンとなく。
みんなのこころから、へいわがうまれるんだね。
これからも、ずっとへいわがつづくように、
ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。

安里有生／詩　長谷川義史／画

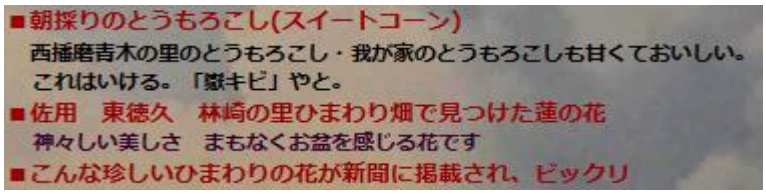
- **平和を願って 決意も新たに!!**

- ◆ Photo「原爆資料館 & オバマさんの折り鶴」
- ◆ 映像展示資料原爆を投下された広島

平和憲法は日本の柱 平和憲法を守ろう
国の大きな転換点 今 声を上げねば !!
平和を今 自分の頭で考えましょう

---

4. ひまわりの夏 神戸籠りの中で Photo



■ 朝採りのとうもろこし(スイートコーン)

宍粟切窓峠手前の山郷 青木の里で見つけた朝採りのとうもろこしテント

我が家のとうもろこし

佐用切窓峠の手前の山里で朝採りのスイートコーンを売るテントを見つけた。
テントの中で 朝採取したスイートコーンをきれいに整えているのを見て、かつてよく送ってもらった津軽岩木山山麓の里の生で食べられる「嶽キビ」を思い出し、早速孫たちの土産に。
ご近所でもらって家内が育てているとうもろこしが我が家の庭にもあり、もう採取する時期。
家内が「今のお勧めは朝早く収穫、生で食べるのととうもろこしご飯」が最近のお勧めと近くの農家さんから聞いてきた。早速朝早く起きてトウモロコシの収穫。
眼を輝かせて生取りたてのトウモロコシをかじる。
西播磨青木の里のとうもろこし・我が家のとうもろこしも甘くておいしい。「これはいける。
「津軽 岩木山の嶽キビ」や」と。

我が家の庭 朝早く起きて収穫した朝採りのとうもろこし

とうもろこしご飯もピカーでトウモロコシの香り・甘さ初めての経験。
孫たちも大喜びでした。 我が家のとうもろこしもうれしい。早速苗を貰ったご近所にもご報告。
また、毎年夏行く西播磨佐用のひまわり畑 また一つ楽しみが増えました。

■ 佐用 東徳久 林崎の里ひまわり畑で見つけた蓮の花

神々しい美しさ まもなくお盆を感じる花です 2022.7.21.

佐用 東徳久 林崎の里ひまわり畑で見つけた蓮の花 神々しい美しさ まもなくお盆を感じる花です

■こんな珍しいひまわりの花、ビックリ

ひまわりの夏にこんな珍しいひまわりの話題が・・・・
ひまわりの花の中に小さなひまわりの花が顔を出したと
激動酷暑の時代 思いもよらぬことが…びっくりです

「真夏の太陽」さらに情熱的に!?

ヒマワリの花の中に花

尼崎の会社・家庭菜園部が栽培「かわいい」と評判

農家も驚く珍事
正体は「貫生花」

ヒマワリの花の中に花が咲いた＝尼崎市道意町5

2022. 7. 29. 神戸新聞朝刊より

「貫生花」というらしい

「バラ」や「菊」の花でも起こるらしい。

花の真ん中からつぼみが作られて花が咲いたりする現象という。

普通、花形成のプロセスでは雌しべができると成長を止める。
貫生花は花形成の段階で雌しべができてからも成長をしつづけるために花の中に繰り返して花が形成される現象。

雌しべが変異しやすい品種に起こりやすいようです。
「ヒマワリで見られるのはとても珍しい」といい、
また、突然変異とは別物という。
—インターネットより—

最近は品種改良が進んで、いろいろの品種があるので出会えるかも????
一度見つけたいものですが、その気で 毎度さがさぬと見過ごすのでしょう
また探すトライしてみた。

我が家の朝顔の花びらにもこんな小さなバッタが乗っているのを見つけました

また、我が家の朝顔の花びらにもこんな小さなバッタが3匹も乗っているのを見つけました。
この夏の新しい発見 同じ見るでも「見る」「観る」では大違い。
言葉のマジック こちらもこの夏目にしました。 心せねばと。

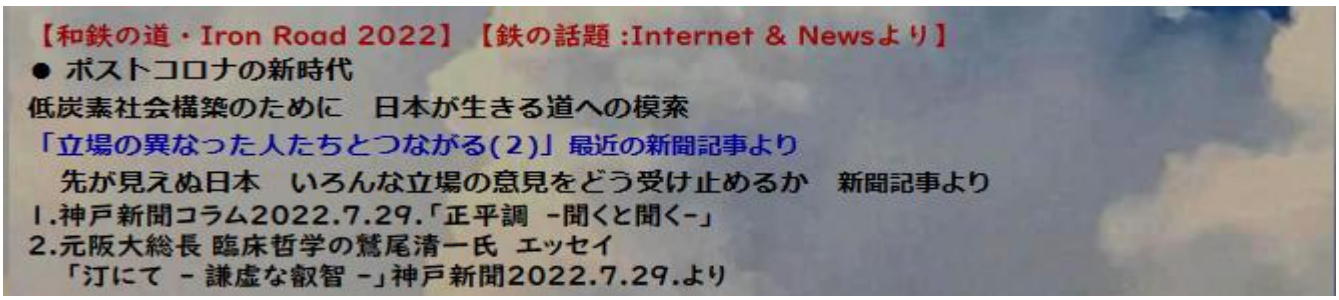
5. 仲間からの定期便 8月

小冊子「ニューモラル」8月より

２０２２盛夏の便り

ありがとうございます　本当に厳しい夏　みんな無理なさらぬよう

■ 掲載記事トピックス 2022年 8 月 ひまわりの夏 2022 神戸便り



参　考　From Kobe8 月　ひまわりの夏 2022　神戸便りより

インターネットで見つけた巨大企業トヨタの記事に最近の世相を重ねて

要　旨　自動車メーカーの「下請けイジメ」の記事に思う

サプライヤーの「ケイレツ格差」もう随分長いなぁ…と　By Mutsu Nakanishi From Kobe

全文: https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0408A.pdf

インターネット検索をしていて、下記の用紙の記事を見つけました。

思いは人それぞれですが、日本では「ケイレツ格差」「正規/非正規雇用の格差」「東京と地方の格差」等々

厳しい格差社会の急伸が中間層の衰退を招き、日本衰退の大きな原動力、日本の疲弊を招いた根本にあると

言えないか‥　この格差問題に目をつぶっての明るい低炭素社会の実現はありえないと‥‥

【参考】日本製鉄「逆張り戦略」で過去最高益！ 国内リストラ効果だけじゃない“2 つの収益源”

生産能力縮小によるコスト削減や鉄鋼の値上げで業績が回復する日本製鉄。2022.7.7 4:55 国内製鉄事業の動向に注目が集まる同社だが、実はその利益の 3 分の 1 は「別の収益源」が支えて 日本製鉄の業績が復活している。

新型コロナウイルス感染拡大前の 2020 年 3 月期は、事業利益が 2844 億円の赤字に 落ち込んだが、22 年 3 月期は一転、過去最高となる 9381 億円をたたき出した。

好業績の要因は、直接的には長年低迷していた国内製鉄事業の改革が功を奏したことが大きい。

一つは、トヨタ自動車を筆頭とする大口顧客向けの「ひも付き」価格で、大幅な値上げを断行したことだ。

「世界一高品質だが、世界一安値」とやゆされる国内の鋼材だが、原料炭などの原料価格の高騰は限界を超えている。

21 年以降、原料高騰の価格転嫁とともに、付加価値に見合うマージンを獲得する強気の交渉を進めてきた。

さらに、その前提として「買いたたき」を生む元凶だった余剰生産設備を削減。粗鋼生産能力で年間 1000 万トンを減じる大リストラを断行し、固定費削減も行った。

まさに不退転の決意である。長年赤字に沈んでいた国内製鉄事業の中核である単体の営業利益が大幅に回復、全体の利益を押し上げた。規模の大きい国内製鉄事業の改革が全体の業績の行方を担うのは、当然ではあるが‥‥

上記記事 巨大企業トヨタ自動車に挑んだ日本製鉄の不転退のリーダーシップがあぶりだした数々の課題 やっと表に出てきた巨大自動車企業の横暴と日本の「ケイレツ格差」が生む社会問題と捉えるのもあながち間違いでないとおもうのですが‥‥

どう考えるかは人それぞれですが‥

【風来坊】ひまわりの夏 近隣 walk をスライド動画に

■夏の朝を爽やかにしてくれる朝顔 2022 年夏 朝顔帳　■ひまわりの夏 2022

202年夏 我が家のの朝顔帳：https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0408asagaoalbum.mp4

佐用町旧南光のひまわり畑：https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0408sayohimawari.mp4

小野市ひまわりの丘のひまわり畑：https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0408onohimawari.mp4

◎ 2022年８月更新後記 2022年８月更新の中で　2022.8.4.

毎年の夏の HP 更新の定番にしてきた「ひまわりの夏」「我が家の朝顔帳」今年もやっとお送りできました。
本当に厳しい夏 さわやかな夏をお送りしたかったのですが、また ぶつぶつとお許しください。
4回目のワクチン接種も済んで 家族ともども元気に過ごしています。
なにわともあれ 穏やかでへいわなくらしをいちにちもはやく取り戻したいと願うひまわりの夏 2022 です

2022.8.3. 山麓バイパス遊歩道で やっと真っ青な空にもくもくと湧き上がる入道雲の写真が撮れた。
青空にもくもくと立ちあがる入道雲で HP のトップをかざろうとしましたが、今年は天候不順でうまくゆかず。
それでいて、各地で酷暑・集中豪雨。 神戸でも今晴れていると思うとにわか雨 山の向こうでは集中豪雨の知らせ。
もう地球環境がのっぴきならぬところに来ていると感じます。
いつもなら、水分補給しながらの散歩道ですが、炎天下 水分補給できないまま約 6Km の walk。予想以上の消耗。
途中自動販売機の「リンゴなっちゃん」も売り切れ。 炎天下とは言え、こんなに消耗が激しいとは…ビックリ。
朝 定期問診受けた医院で「水と塩・体調管理 コロナと熱中症 歩くのもほどほどに」と言われたとこでしたが・・・・・・
身をもっての体験でした。みんな どうしてるのかなぁ・・・・
「１日野良仕事 それが１番や」としいう Y さん 日中は家よりも外でという F さん 絵筆もって全国行脚の O さん
皆 炎天下 無理せぬよう。歩くのがきつくなったという M さん・T さん その後いかがでしょうか・・・・・・
老化・病気と闘っている多くの仲間たち そして関東や山口の仲間たち Line やメールで近況や嬉しい話題を提供してくれる仲間たちずいぶん世話になった先輩諸氏や多くの方々ほか みんなみんなどうか体調に気を付けて。
関東の友人からは「畑は楽し自給食 曲がった心は野菜に遺伝 曲がり野菜も 業のうち???」と野菜 Photo 便り
みんなみんなありがとう。 TV や新聞等で日本各地の映像がでてくるとふと懐かしい顔を思い出しつつ、
「弱気になったら あかん!!」と自らを励ます毎日です。
酷暑にも負けず、コロナにも どうか無理せずに
Got Be With You!!　From Kobe　ひまわりの夏 HP 更新を終えて
2022.8.5.　Mutsu　Nakanishi

2022 Mutsu
長月 ９月

９月 爽やかな秋の始まり たたら製鉄と日本の刀剣の歴史
蕨手刀から そして東へ北へ歴史をたどる

Monthly Page 令和４年9月 過酷な夏のから初秋へ
朝晩めっきり、爽やかな風も吹きはじめ、さすがの酷暑ももう少し
秋の始まり９月神戸便り 2022.9.1.

横尾道ほか 須磨毎日の散歩道の山裾に果たせ台湾ユリが咲き、夏の終わりを告げています

近くの里では秋の味覚の出荷に大忙し
伊川谷の農家Sさんから「イチジクの出荷が始まり、ジャム用のも残しているよ」との電話
今か今かと待っていた家内は イチジクジャム作りに大わらわ
コロナ煜発で中々神戸の外へは出にくい毎日ですが、夏から初秋へ 嬉しい秋の訪れ

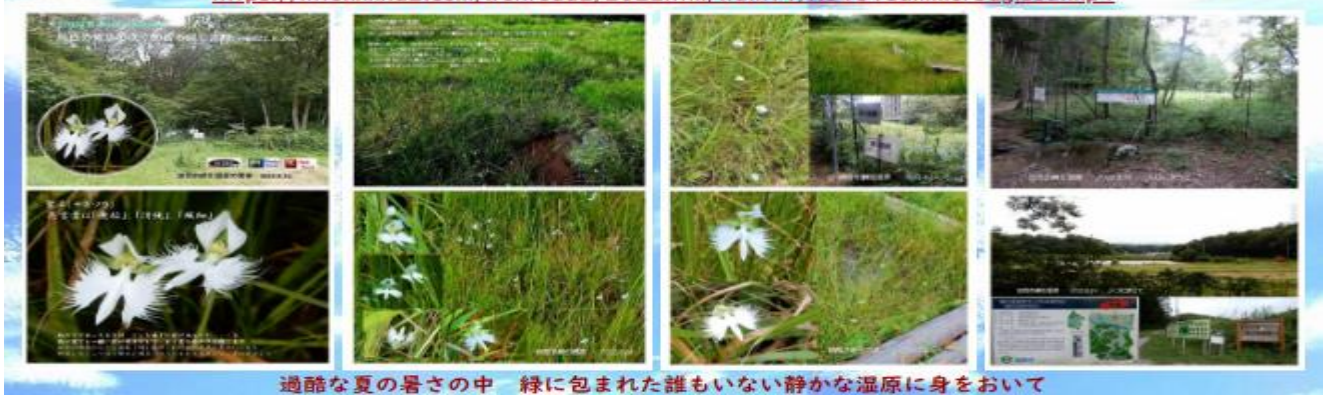
元気でお過ごしでしょうか……
連絡もなかなかとれぬ中で 老化してゆくわが身を感じる毎日ですが、
「自分の身は自分で守る」の心意気
引き続き感度をあげて 我慢せず 助けの声をあげて!!
仲間がいる 互いに連絡とりあって また再会できますよう
「過酷な夏 そしてコロナ禍も もう少し もう少し」と自らを励ましつつ
仲間みんなにエールを送ります

でも ひとりじゃない 時には声を上げて がんばらないで!!
仲間がいる 仲間の笑顔・思いは みんなの応援歌
お互い声かけあって、スクラム組んで この厳しい夏を乗り切りましょう
今はコロナにかからぬことが一番 無理せず 自らをお守り下さい。
また、台風・集中豪雨など自然災害にもご注意ください
相も変わらずですが、秋の始まり9月神戸便りをお届けします

God be With You!! 元気に前向いて
厳しい夏から 爽やかな秋へ
2022.9.1. From Kobe *Mutsu Nakanishi*

足元の野草の中 白鷺が舞うがごとくに自生の鷺草が咲く
緑に包まれた加西市網引湿原 2022.8.21.

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0409SummerSagisou.mp4



過酷な夏の暑さの中 緑に包まれた誰もいない静かな湿原に身をおいて

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0409SummerSagisou.mp4

９月初 爽やかな秋の始まり 神戸便り2022.9.1.

1．期待一杯の秋の始まりです
願いは一つ　穏やかな秋に　街に出て　久しぶりの再会も楽しみたい
2.足元で白鷺が舞うがごとく咲く自生の鷺草が咲く加古川西岸　加西市網引湿原へ
3.NHK番組歴史探偵「日本の刀剣」視聴
蕨手刀を手に戦った東北の蝦夷に思いを寄せて古代東北の和鉄の道 資料収集
青森ねぶたお囃子の音を聞きたくて、BGMにしたスライド動画ににして楽しんでいます
4.桂文珍さんの落語的見聞録　　神戸新聞８月１１日朝刊より
コロナ禍の中で「達者な親父になれるかなぁ」
5．神戸籠り　毎日散歩で　源平一の谷の合戦「一の谷」全体を見下ろす
6.仲間からの定期便

1．期待一杯の秋の始まりです

近くの里では秋の味覚の出荷に大忙し 「イチジクの出荷が始まり、ジャム用のも残しているよ」と伊川谷の農家Ｓさん。
今か今かと待っていた家内は イチジクジャム・甘露煮作りなどに大張り切り。早速秋の味覚 イチジクの味覚を満喫
伊川谷の農家Ｓさんには いつも いつも 感謝です。
長コロナ爆発で中々神戸の外へは出にくい毎日ですが、 夏から初秋へ 嬉しい秋の訪れ
いこと街に行かれず、知らなかったのですが、三宮の路線バスに長い連結バスが葉しっさているのにビックリ

2. 足元で白鷺が舞うがごとく咲く自生の鷺草が咲く 加古川西岸 加西市網引湿原へ 2022.8.21.

「鷺草が咲く夏の終わり 網引湿原の見事な美しさ」と湿原で教えてもらって楽しみにしていた加西市網引湿原
我が家の鷺が咲くのを見て、原チャリ走らせ湿原に.

2回目で、場所はよく知る加古川西岸 小野アルプス福甸峠の直ぐ北側 北の加西市側からしかない四方を里山で囲まれた湿原。 こんな所に地元でよく管理された湿原があるとビックリでした。
今回も出会ったのは一人だけ。 でもみんなお目当てはでも お目当てはみんな鷺草の花。自生種は中々見られない。
約一時間うれしい湿原独り占めに。 北条鉄道が走る加西市南網引の里から眺める加西の田園風景も緑一杯
この時節ならではと・・・ 心地よし。

---

3. NHK 番組歴史探偵「日本の刀剣」視聴 2022.8.20.

頭未整理だった日本の刀剣の歴史 そして 思い入れたっぷりの古代の歴史に残る東北蝦夷の雄「アテルイ」。
蕨手刀を手に戦った東北の蝦夷に思いを寄せて 番組視聴と共に日本刀とたたら製鉄並びに古代東北の和鉄の道の資料収集をしました。 この資料収集の過程で、具体的な刀鍛冶の作業と共に玉鋼の小割りや日本刀の波紋等々しっかり映像で見ることが出へ来て、スライド動画にもして 久し振りに懐かしい東北の古代史や日本刀の作り方などを眺めています

蕨手刀を手に戦った東北の蝦夷に思いを寄せて古代東北の和鉄の道 資料収集

青森ねぷたのお囃子の音を聞きたくて、BGM にしたスライド動画にして楽しんでいます

NHK 番組歴史探偵「日本の刀剣」視聴を機会に古代東北の鉄・日本刀の歴史と共に、
頭の整理がついていない「製鉄」「刀剣」の製作・製造技法について、インターネットを調べて、新しい資料調べ。
まだ、一部ですが、以前にはなかった映像資料等もくわえ、頭の整理が進みました。

■ 日本刀の源流「蕨手刀」に思いを寄せて NHK 歴史探偵「日本の刀剣」視聴記録&資料収集

スライド動画 ：https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0409warabite.mp4

Web file ： https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0409warabiteweb.pdf

2022.8.20. Mutsu Nakanishi

また、少し、長くなりましたが、日本刀ブームの今 思い入れ一杯の「古代 東北蝦夷の鉄」
「征夷大将軍坂之上田村麻呂と蕨手刀を手に戦った蝦夷の族長 阿弖流為」
両者の交流・平和の願いを記した碑がある京都清水寺の阿弖流為・母禮顕彰碑を久し振りに訪ねました。

清水山将軍塚が見下ろす清水寺の舞台のすぐ下 緑に包まれて 蝦夷の族長 阿弖流為と母禮の顕彰碑

京都清水寺の阿弖流為・母禮顕彰碑を久し振りに訪ねました　2022.8.21.

参 考 蝦夷の雄「アテルイ」の痕跡「京都清水寺・将軍塚」

https://infokkkna.com/ironroad/2016htm/1603tpb01aterui.pdf

---

4. 桂文珍さんの落語的見聞録 神戸新聞8月11日朝刊より

コロナ禍の中で「達者な親父になれるかなぁ」

毎月楽しみにしているユーモアたっぷり、
それでいてぴりっとした落語を ネタにした世相の時事放談
今月の落語の「枕」にいつも新聞でしっかり探す「補聴器」「薬・サプリメント」 そして「デイ・ブイ・デー(DVD)」の社長の元気な姿
年寄り みんな同病 みすかされてるなぁ。　　こちとらも ふむふむと。
そして落語「茶屋迎え」へ そして落語の落ちへ
文珍さんに座布団 1枚
元気な親父たちの登場に はんぶんうらやましく
みんな一緒をやなぁと嬉しくも・・・・・

文珍さんの落語見聞録« 8月» 達者な親父になれるかな
神戸新聞2022.8.11.朝刊より

2022年(令和4年)8月11日 木曜日

文化

落語的見聞録

桂文珍

達者な親父になれるかな

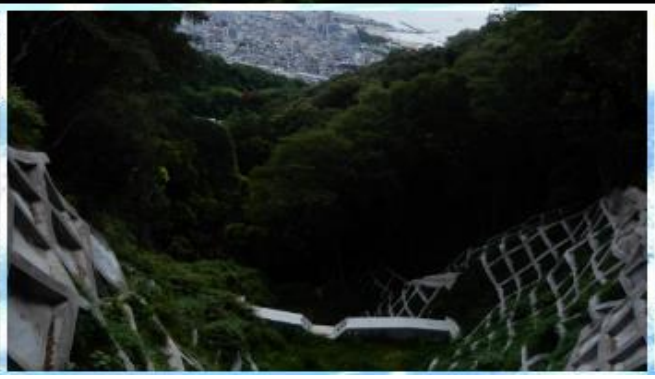
≪ 全文のリンク≫

桂文珍さんの落語的見聞録 神戸新聞8月11日朝刊より

コロナ禍の中で「達者な親父になれるかなぁ」

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/R0409tp01.jpg

5. 神戸籠り 毎日散歩で　■源平一の谷の合戦「一の谷」全体を見下ろす



久し振りに鉄拐山頂上と一の谷を下る分岐崖の上から一の谷・須磨の浦がみはらせるときづいて、デジカメに収めました
源平一の谷の合戦　鵯越の逆落とし 義経が逆落としの場所をよくわかっていない。
西六甲縦走路　鉄塊山山頂脇の崖の砂防工事が済んで一の谷から須磨海岸全体が見通せるようになりました。
まさか　この崖を一の谷を駆け下りたのではないと思うのですが……
現在「鵯越」の地名が残るのはずっと北　古戦場「一の谷・須磨浦」には随分遠い。
西六甲「一の谷」今も砂防工事が続く厳しい下り道　ロマンを秘めた散歩道です

■ 掲載記事トピックス

【スライド動画】NHK 歴史探偵「日本の刀剣」視聴記録&資料収集 2022.9.1.

コロナ禍の中 ほっと一息にでもなれば・・・・・

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0409warabite.mp4

◎ 2022年９月更新後記　　2022年９月更新の中で　2022.9.1.

9月1日 夏から初秋への神戸便り HP 更新ができました。

8月「ひまわりの夏」の更新を終えて 毎回同じコロナ禍・低炭素社会への変革時代の記事。・・・・・

もう朝顔帳も掲載できたし、9月更新 今回はパスやと・・・・・・

でも 8月下旬の散歩でながめた空の清々しさ。

そして 教えてもらった網敷湿原に咲く自生の鷺草の美しさ等々。この夏の終わりの清々しい絶景 いまでないと伝わらぬと。

また 4月からほったらかしになっていた NHK の番組歴史探偵「日本の刀剣」の視聴記録も放散してしまうと。

また、今回はコロナ禍・低炭素社会への変革時代の記事作成も中だるみです。

この異常気象の中での酷暑とコロナ禍爆発のきびしい自己行動節制の中で見たこの夏のすがすがしい絶景をぜひ伝えたいと

9月更新の資料準備を始めた次第です。

めまぐるしく天候が変化する今年の夏 入道雲が消えた初秋の秋の空 素晴らしい初秋の秋「水行末 風来末 運行末」

自生の鷺草が咲く加西市網引湿原の入口 南網引の里から眺める北に広がる加西市の田園地帯　2022.8.21.

また 今年も祇園祭もスポーツ観戦も足止め お伝え出来ず。 8月16日 京都の大文字にも行けず、NHK TV の送り火 の中継をみながら 先に逝った仲間や多くの人々を思い浮かべつつ 盆送りをしました。

一方 まだまだ 酷暑ですが 秋はもうすぐそこに

◎ めまぐるしく天候が変化する今年の夏 入道雲が消えた初秋の秋の空 素晴らしい初秋の秋

「水行末 風来末 運行末」 秋晴れの清々しい空の絶景

◎ 自生の鷺草が咲く加西市網引湿原 南網引の里から眺める北に広がる加西市の田園地帯　2022.8.21.

南の里山山中には純白の鷺が舞うがごとくに咲く鷺草 網引湿原この時期だけの絶景

夏から初秋へ 厳しい時節の中ですが、爽やかな神戸絶景の便りになれば幸いです

老化・病気と闘っている多くの仲間たち そして関東や山口の仲間たち
Line やメールで近況や嬉しい話題を提供してくれる仲間たち
ずいぶん世話になった先輩諸氏や多くの方々ほかみんなみんなどうか体調に気を付けて
TV や新聞等で日本各地の映像がでてくると ふと懐かしい顔を思い出しつつ、
「弱気になったら あかん!!」「弱気になったら あかん!!」と自らを励ます毎日
再会できるのを楽しみに Got Be With You!!
From Kobe 9月初秋の始まり HP 更新を終えて
2022.8.5. Mutsu Nakanishi

「命は宝」地球人として みんながみんな 穏やかで平和な暮らしが取り戻せますように

暑い夏になるといつも頭をよぎるのは「命は宝」「広島」「平和ってなんだろう」
「戦後」の言葉が見消え、高度情報化の刹那・仮想現実に彩られて、「自己責任」の競争社会に戸惑う日本。今年はほど「地球人としての自分」を考えたことはなし
ロシアの侵攻によるウクライナの悲惨な現実と核の危機・歯止めがかからぬ世界的コロナ感染の大流行・CO2地球環境変化による激甚災害等々
われら地球人 自分さえよければ‥ではどうにもならず。
地球規模 人類が生き延びてきた道「相手を思いやる心」今一度かみしめよう「平和ってなんだろう」
2013年夏 広島で当時小学1年生だった安里有生君が朗読した詩「へいわって すてきだね」がいまも頭の片隅にあります。
いま 世界各地でそして日本で幾多の困難に直面し、闘っている人たちに感謝を込めて 連帯のエールを送ります。

小学1年生、安里有生君の詩 「へいわって すてきだね」 全文

2013.6.23. 沖縄全戦没者追悼式で 1年生の安里有生君が朗読

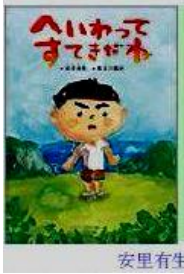
へいわって なにかな。
ぼくは、かんがえたよ。
おともだちとなかよし。
かぞくが、げんき。
えがおであそぶ。
ねこがわらう。
おなかがいっぱい。
やぎがのんびりあるいてる。
けんかしてもすぐなかなおり。
ちょうめいそうがたくさんはえ、
よなぐにうまが、ヒヒーンとなく。
みなとには、フェリーがとまっていて、
うみには、かめやかじきがおよいでる。
やさしいこころがにじになる。
へいわっていいね。へいわってうれしいね。
みんなのこころから、
へいわがうまれるんだね。

せんそうは、おそろしい
「ドドーン、ドカーン。」
ばくだんがおちてくるこわいおと。
おなかがすいて、くるしむこども。
かぞくがしんでしまって なくひとたち。

ああ、ぼくは、へいわなときにうまれてよかったよ。
このへいわが、ずっとつづいてほしい。
みんなのえがおがずっと、つづいてほしい。

へいわなかぞく、
へいわながっこう、
へいわなよなぐにじま、
へいわなおきなわ、
へいわなせかい、
へいわってすてきだね。

これからも、ずっとへいわがつづくように
ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。



へいわってなにかな。ぼくは、かんがえたよ。
ねこがわらう。おなかがいっぱい。やぎがのんびりあるいてる。ちょうめいそうがたくさんはえ、よなぐにうまが、ヒヒーンとなく。
みんなのこころから、へいわがうまれるんだね。
これからも、ずっとへいわがつづくように、ぼくも、ぼくのぼくのできることからがんばるよ。

安里有生／詩 長谷川義史／画

平和を願って 決意も新たに!!

- ◆ Photo「原爆資料館 & オバマさんの折り鶴」
- ◆ 映像展示資料原爆を投下された広島

平和憲法は日本の柱 平和憲法を守ろう
国の大きな転換点 今 声を上げねば !!
平和を今 自分の頭で考えましょう

もう 自分の時代ではないと感じる昨今ですが、
まだまだ好奇心旺盛 気力もあり、足も復活。
不定期になりそうですが、元気に前向いて発信をと。
後期高齢者だからとは言えなくなった新型コロナへの戦い
そしてポストコロナの時代へ
みんなの一番の願いは穏やかな日常の生活を取り戻せること
前向いてがんばりましょう

困難の中にある仲間に 思いをはせています。
みんな老いと向き合う年に
一人で頑張らず、無理せず みんなに声あげて!!
仲間がいる。仲間の元気はみんなの応援歌
互いに連絡取り合って 元気に前向いて笑顔で今を。

仲間の元気は みんなの応援歌 !!
頑張りすぎず、時には声をあげて !!
お互いスクラム組んで
助け合ってこの難局を乗り越えましょう
笑顔で逢えるのを 楽しみにしています
ワクチン接種も済ませましたが、
まだまだ収束は道半ば
どうか 無理せず、元気に前向いて
お過ごしください

また連絡ください God Be With You!!

From Kobe Mutsu Nakanishi

狭い縦走路のドクン中にどっしりと座り
いつも元気をもらうウバメガシノ巨樹

群生するウバメガシの中を歩く
西六甲須磨縦走路で

いつも元気を貰う妙法寺
車の里の車の里大歳神社のの大楠

ユネスコ世界遺産 北東北・北海道の縄文遺跡
日本人の心の故郷「縄文」を世界の人に知ってもらいたい
家族・仲間に思いを寄せつつ平和の願いもまたひとしお
平和で穏やかな暮らしが ひろく行き渡るよう
一万年も平和で豊かな生活が続いた時代
世界に類のない日本の「縄文」
そのエンジンは「他人を思いやる心」

ジョージ・カーリンの名言 「老いを楽しく生きるために」

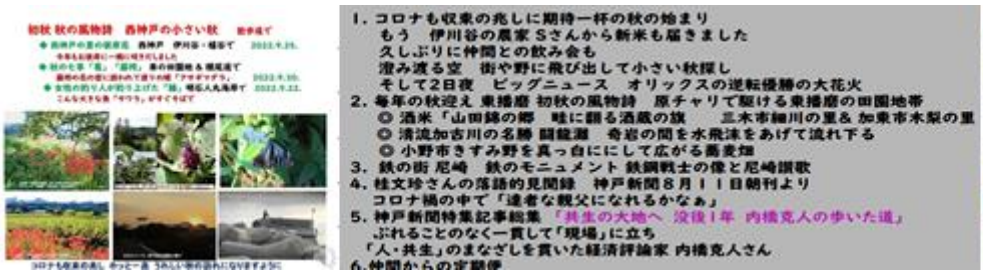
http://www.drmaltz.jp/?p=4183

「ストレスをためずに100まで」と。
なかなかむつかしい時代。それだけに心に響く。

- ■ 要約「老いを楽しく生きるために」
- ■ 紹介日本語訳全文

2022 Mutsu
神無月 10月

初秋 10月神戸便り
小さい秋を探して 東播磨を駆ける 2022.10.1.



澄み渡る空に爽やかな秋風 里では 彼岸花が満開に野を飾って 稔りの秋の始まり
コロナも収束の兆しに 小さな秋を探して戸外へ まだまだ無理はできませんがうれしい秋の訪れ
秋の七草 フジバカマの密に 渡りの蝶 アサギマダラがやってきています
何とはなしに気分も晴れやか 小さい秋 小さい秋 み～つけた

元気でお過ごしでしょうか……
やっと神戸龍りを脱して。久し振り「仲間の元気かい!!」もできました
でも 厳しい世相 引き続き感度をあげて 我慢せず 助けの声をあげて!!
「自分の身は自分で守る」の心意気
仲間がいる 互いに連絡とりあって また再会できますよう
仲間みんなにエールを送ります
相も変わらずですが、初秋10月神戸便りをお届けします
ひとりじゃない 時には声を上げて がんばらないで!!
仲間がいる 仲間の笑顔・思いは みんなの応援歌
お互い声かけあって、スクラム組んで 乗り切ってゆきましょうましょう
今はコロナにかからぬことが一番 無理せず 自らをお守り下さい。
God be With You!! 元気に前向いて
爽やかな秋 小さい秋を探して
2022.10.1. From Kobe Mutsu Nakanishi

秋の七草 葛の花はこんな花でした

Monthly Page　10月初秋神戸便り 小さい秋を探して　2022..10.1.

初秋の散歩道 里の秋を飾るヒガンバナと藤袴の密に集まる渡りの蝶 アサギマダラ

1. コロナも収束の兆しに期待一杯の秋の始まり
　もう　伊川谷の農家 Sさんから新米も届きました
　久しぶりに仲間との飲み会も
　澄み渡る空　街や野に飛び出して小さい秋探し
　そして2日夜　ビッグニュース　オリックスの逆転優勝の大花火
2. 毎年の秋迎え 東播磨 初秋の風物詩　原チャリで駆ける東播磨の田園地帯
　◎ 酒米「山田錦の郷　畦に翻る酒蔵の旗　三木市細川の里＆加東市木梨の里
　◎ 清流加古川の名勝 闘龍灘　奇岩の間を水飛沫をあげて流れ下る
　◎ 小野市きすみ野を真っ白にして広がる蕎麦畑
3. 鉄の街 尼崎　鉄のモニュメント 鉄鋼戦士の像と尼崎讃歌
4. 桂文珍さんの落語的見聞録　神戸新聞８月１１日朝刊より
　コロナ禍の中で「達者な親父になれるかなぁ」
5. 神戸新聞特集記事総集　「共生の大地へ　没後１年　内橋克人の歩いた道」
　ぶれることのなく一貫して「現場」に立ち
　「人・共生」のまなざしを貫いた経済評論家 内橋克人さん
6. 仲間からの定期便

1. コロナも収束の兆しに期待一杯の初秋 あれもこれもしたい

稔りの秋を約束する真っ赤な彼岸花があぜを飾り、
野には藤袴の蜜を吸う 西渡ってゆく蝶「アサギマダラの」姿
澄み渡る空を見上げて深呼吸 街や野に飛び出して小さい秋探し

早くも伊川谷の農家 Sさんから新米も届き、久しぶりに仲間との飲み会も
2日夜 ビッグニュース オリックスの逆転優勝のビッグニュース
家内と二人 TV・スマホ2台の多元中継 2年連続の優勝
フランチャイズを大阪に移しましたが、オリックスは神戸の球団やと。
今年も秋の大プレゼント おめでとう。

元気でお過ごしでしょうか……
やっと神戸籠りを脱して。久し振り「仲間の元気かい!!」もできました
でも 厳しい世相 引き続き感度をあげて 我慢せず 助けの声をあげて!!

相も変わらずですが、初秋10月神戸便りをお届けします
ひとりじゃない　時には声を上げて がんばらないで!!
「自分の身は自分で守る」の心意気
仲間がいる 互いに連絡とりあって また再会できますよう
仲間みんなにエールを送ります
　God be With You!! 元気に前向いて
　爽やかな秋　小さい秋を探して
　2022.10.1.　From Kobe　　Mutsu Nakanishi

2. 毎年の秋迎え 東播磨 初秋の風物詩 原チャリで駆ける東播磨の田園地帯 2022.9.12.

爽やかな秋の風が吹き始めると毎年出かける小さい秋 東播磨の里景色

◎ 酒米「山田錦の郷 畦に翻る酒蔵の旗　　三木市細川の里＆加東市木梨の里
◎ 清流加古川の名勝 闘龍灘　奇岩の間を水飛沫をあげて流れ下る
◎ 小野市きすみ野を真っ白ににして広がる蕎麦畑
◎ よく整備された見学施設「加西市青野ヶ原西に残る鶉野飛行場滑走路跡地と諸施設の戦争遺産」

今年はちょっと季節感がずれて、まだ初秋に少し早く夏の東播磨定番の里景色とは異なっていましたが、それはそれで逆に今まで見られなかった多くの発見も。水飛沫をあげて流れ下る登龍灘の豪快な姿に神戸籠りのうっぷん晴らしも久しぶり。 また、第二次世界大戦の痕跡がそっくり保存されている加西市の鶉野飛行場跡地と戦争遺群を訪れられたのは今回の特に大きなトピックス。

山に囲まれた広い田園空間に忽然と現れた加西市の鶉野飛行場跡地と諸施設の戦争遺産。 沖縄だけでなくこんな瓢湖の内陸の奥にも戦争の痕跡。 悲惨なウクライナの現状を思い起こしつつ、まさに劇画じゃない戦争の現実がこの日本の中の身近にも起こるんだと。

広い滑走路の真ん中で、大空を見上げて平和のありがたさを感じつつ、胸一杯の空気を吸い込みました。

神戸籠り脱出の1日 東播磨の田園を駆ける爽快感も胸一杯に。

詳細は今月掲載の風来坊 「東播磨の田園地帯　初秋の里の絶景を訪ねて原チャリで駆ける」でご覧ください

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0410EHarimaweb.pdf

---

3. 鉄の街 尼崎 鉄のモニュメント 鉄鋼戦士の像と尼崎讃歌 〔 Photo 拡大 〕

工都の「光」と「闇」の象徴

阪神尼崎駅前に設置半世紀 鉄鋼戦士の像 と クスノキ

繁栄の陰で公害問題深刻化

工業の神様と労働者を表現

銀行進出記念 空気浄化願い

Copyright 2022 神戸新聞社 All Rights Reserved.

10月1日　神戸新聞朝刊に上記の記事が掲載され、全く知らずでビックリしました。
「工都の「光」と「闇」の象徴　−阪神尼崎駅前に設置されて半世紀　鉄鋼戦士の像とクスノキ −」の記事
記事の作者は鉄鋼戦士の像を工都尼崎「闇」の象徴として記事を書いたのかもしれないが・・・

私の故郷「尼崎」そして、鉄鋼会社に勤務した私にとっては感慨深い「工都 尼崎の象徴『鉄鋼戦士の像』」
故郷の記事の「鉄鋼戦士の像」の写真とその碑文に感激で涙した。
阪神工業地帯の中核として日本の高度成長を支え、人口５０万の大都市の繁栄「鉄鋼の街 尼崎」・「工都尼崎」。
街が緑に溢れ「関西一住みやすい街」に変貌する中で、この「工都 尼崎・鉄鋼の街」の言葉が、「公害」・「犯罪」の悪イメージの代表として、まるで禁句のごとく、また、「鉄の街の歴史」を封印しているように扱われてきた昨今、私には歯がゆくて仕方なかった。

この像と碑文を今後とも、「工都尼崎」の歴史の生き証人として ずっと維持してほしいもの。
また、この先　蓄積してきた技術を展開して、脱炭素社会へむけて　新しい工都の姿を見せてくれる象徴になってくれたらと。
私情一杯の言いぐさで申し訳ありません。

今や尼崎の姿は「住みやすい街 関西No1」「関西穴場の街No1」と多くの人に評価されて人気急上昇中。
でも忘れてはならないのは　尼崎の「人情」「きさくで飾らぬ絆」等々の街の財産は かつて、日本各地から数多くの人たちがやってきて、鉄鋼の街でお互いが接しあってできた気質。変わりゆく街ですが、いわば「工都 尼崎」の財産。
「工都尼崎の歴史」を消し去らず、大事にしてほしいなあと。

鉄鋼戦士像の台座に刻まれた製作者 胡本蟹平氏の碑文の詩は
まさに「工都 尼崎の讃歌」「鉄の街 尼崎の歴史記念碑」そのものではないか・・・
「躍進する工都 尼崎の姿
　踏みしめる大地 火と燃ゆる情熱
　　鉄の響きも たくましく
　　　永遠に輝く 繁栄の鍵は守り継がれる」
約半世紀　維持して守り継がれてきた この像に思い入れ一杯です。
ありがとう。私にとってはいつも誇らしい街　尼崎である。

蛇足ながら　私がよく紹介する東北 北上市の市民憲章には
「あの高嶺　鬼すむ誇り　その瀬音　久遠の賛歌
　　この大地　燃えたついのち　ここは　北上　」
背後に聳える奥羽山脈を「鬼住む誇り」と誇らしく歌い、
北上市のHPのトップにも大きく掲げられている。

4. 桂文珍さんの落語的見聞録　9月 神戸新聞９月８日朝刊より

「昔も今も怖いものは怖い」

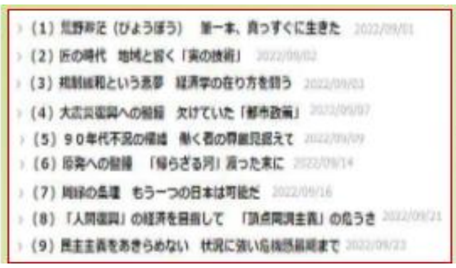
毎月楽しみにしているユーモアたっぷり、
それでいてぴりっとした落語をネタにした世相の時事放談
今月は 電車中で　若者に混じってスマホをいじる元気な親父さんの話
電話番号いじっていたら「生前は色々おせわになりまして・・・・・」と
あるある・・・沢山昔の仲間の電話番号残っている
そして落語「木の葉狐」の話から落語の落ちへ

やっとコロナも落ち着いて　みんなどうしているかなぁ・・・・
１０月中旬　仲間と一緒の落語を聞く例会
久し振りの顔合わせ　楽しみにしています。

■ 紹介記事全文
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/R0410tpa41.pdf

5.「共生の大地へ　没後1年 内橋克人の歩いた道」【1】～【9】総集　神戸新聞特集連載より

ぶれることなく一貫して「現場」に立ち「人」・「共生」のまなざしを貫いた経済評論家



いつも時代を先取りしたすごい洞察力と現場に立って人間重視で　日本の経済・暮らしを見つめてきた
経済評論家 内橋克人さんの姿勢を簡潔に神戸新聞特集記事として綴られた記事をまとめ整理して転載しました。

■ https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0410RememberUchihashiweb.pdf

6. 仲間からの定期便 10 月

◎ M.A さんから
小冊子「ニューモラル」10 月号より
<Photo 上> <Photo 下>

◎ T.O さんから
来年のカレンダー (希望の方要連絡と)

いつもありがとうございます
今でなくてはとの思いも強い毎日ですが、God be with You!!
お互い何はともあれ、毎日をお元気で

■ 掲載記事トピックス 小さい秋を探して西神戸・東播磨の初秋の里景色

■ 和鉄の道・Iron Road 鉄の話題 9月インターネット・新聞より

私の私情一杯の記事の記録ですが、なにかのお役に立てばと HP に収録させていただきました。

製鉄遺跡探訪の記事ではありませんが、いずれも 私にとっては記憶に留めておきたい記事３件
1. 神戸新聞特集「内橋克人さん 共生の大地へ 没後１年 内橋克人の歩いた道」 転記整理収録
ぶれることのなく一貫して「現場」に立ち「人・共生」のまなざしを貫いた経済評論家 内橋克人さん
2. 朝日新聞デジタル 調査80年、見えてきた布留遺跡 「物部氏の拠点」研究成果発表
日本の国造りと鉄に興味津々で通った古代大和探訪 天理の布留遺跡の新しい調査報告会のニュース
3. 工都 尼崎 鉄のモニュメント 鉄鋼戦士の像と間人に刻まれた 工都尼崎讃歌 神戸新聞ニュースより
私の故郷 尼崎に 設置されて半世紀という 全く知らずでビックリしました

■ 風来坊・Country walk

初秋 10 月神戸便り 小さい秋を探して 西神戸・東播磨の初秋の里景色を2つのスライド動画に

初秋 西神戸の小さい秋 初秋の散歩道で 西神戸・東播磨の初秋の里景色を駆ける

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0410SmallAutum.mp4

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0410EHarima.mp4

◎ 2022年 10 月更新後記　2022年 10 月更新の中で　2022.10.1.

10 月 7 日　やっと　10月　初秋　小さな秋を探して　神戸便り HP 更新ができました。
色んな事が起こった今年の夏　でも　やっと新型コロナ収束の足音が全国的に高くなってうれしい初秋。
医療関係者の絶大なる働きで　随分重症化リスクも軽減されてきたと感謝一杯です。
西神戸近郊の初秋を楽しむことができ、すばらしかった東播磨の里景色を発信したいと・…。
今回はそれだけの発信になってしまいました。
田園の初秋の里景色　日本の原風景　ゆったりとした時が流れるひとときです。
心やすめにでもなれば・・・・・
また、オリックスの逆転優勝も本当にうれしい秋になりました。
家内と二人　TV とスマホ２台前において　阪神/オリックス/ソフトバンクの多元中継
やっぱり引っ張るのは若手やないとあかん　後は地道にコツコツとやなぁ・・・と
仲間とやっと飲み会、みんないうのは、笑顔で出逢えるのは元気な仲間ばかりやと。
出会える仲間のありがたさとうれしさ。嬉しい秋の訪れ。
出逢えぬまま逝った仲間が残念で悔しいが　そんな仲間の分まで頑張ろうと献杯して・・・・。
初秋 まだまだ先行き不安が募る日々ですが、 爽やかな秋の神戸の便りになれば幸いです
TV や新聞等で日本各地の映像がでるとふと懐かしい顔を思い出す。
老化・病気と闘っている多くの仲間たち　そして関東や山口の仲間たち
Line やメールで近況や嬉しい話題を提供してくれる仲間たち
ずいぶん世話になった先輩諸氏や多くの方々ほか
みんなみんな　どうか体調に気を付けて　　こっちも　気を付けます。
「弱気になったら　あかん!!」「弱気になったら　あかん!!」と
自らを励ます毎日　再会できるのを楽しみに
　Got Be With You!!
　From Kobe　初秋　HP 更新を終えて
　　2022.10.7.　　Mutsu　Nakanishi

最近配信されてきたインターネットニュースで「静かに姿を消す Intelk Pentium/Celelon ブランド」の記事を目にしました。
コンピューター革命が起こった時代「インテル入ってます」の時代のブランド。
私にもインテルと一緒に駆けた時代がありました。
もう「つわものどもの夢のあと」ですが・・・・・

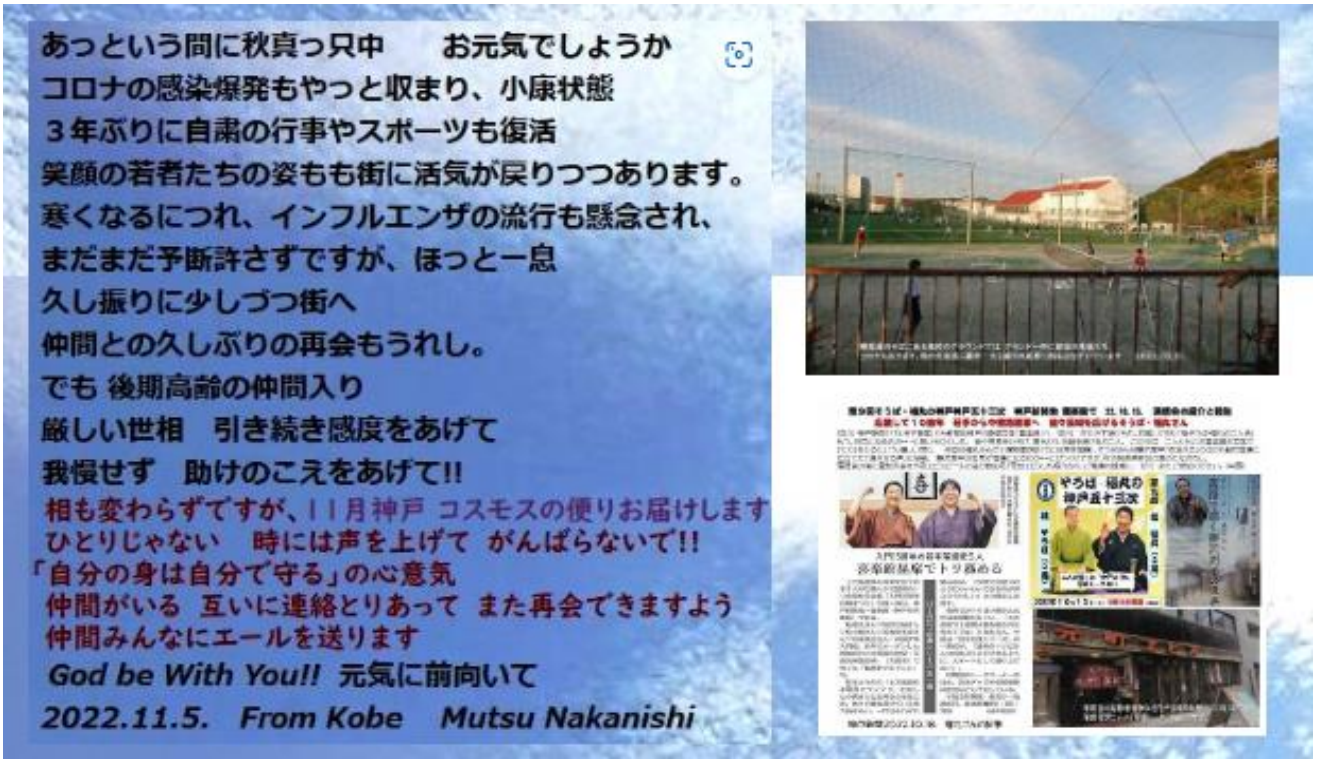
https://news.mynavi.jp/techplus/article/semicon-237/

今月掲載した「尼崎　鉄鋼戦士の像」も老齢になった今　胸に響いて懐かしい。
仲間の訃報が入ると 秋の夜長 自分のたどった道と重ねながら　おもいにふけることも多くなりました。
これも老齢を前向いて生きる道の一つかと。　でも時代が変わりゆく　しっかりと受け止めねばと。
　　かつての重なる時代にふけりつつ、追記。

　昨夜　スマホに「疲れたた　あかん」と話しかけたら
「毎日ご苦労様です　今夜はぐっすり睡眠とりましょう」 と。
　答えてくれるんや!!

2022 Mutsu
霜月 11 月

11 月 深まりゆく秋 神戸コスモスの便り　　2022.11.5.
美しい秋の夕暮れ そして サプライズ オリックスの優勝



■ 11月秋 monthly 神戸コスモスの便り■

by Mutsu Nakanishi 2022.11.5.

1. いつもに増して素晴らしいコスモスの秋2022
   あっという間に秋真っ盛り　実りの秋到来
   3年ぶり・・　何もかも違って見える嬉しい秋景色
   コロナの感染爆発も収まり小康状態
   自己行動節制も解けて　秋の行事やスポーツも復活
   街に笑顔の若者の姿が日増しに、街にも笑顔と活気
   家を出て 秋の空気を胸一杯!!

   いつもに増して素晴らしい　コスモスの秋2022
   ◎南へ帰る渡り蝶の「蝶の道」西六甲の西端　藤袴咲く旗振山山上
   藤袴の花の中で乱舞するアサギマダラ　まるで南へ渡る準備のよう
   ◎ 加古川東岸　広大な田園が広がる稲美野のコスモス畑
   ◎ 赤いそばの花　姫路市香寺恒屋の里の赤いそば畑
   ◎予期せぬ「秋虹」が満開のコスモス畑の上に　志方高畑の郷のコスモス畑
   ◎ 小野市きすみ野　街中に溶け込んで真っ白な蕎麦畑
   ◎西の空を真っ赤に染める秋の夕暮れ　須磨の"Sunset"
   素晴らしい西神戸・東播磨の秋景色をスライド動画にして楽しんでいます

   掲載スライド動画は更新記事リンクからアクセスしてご覧ください。
2. オリックスの日本シリーズ優勝
   オリックス優勝　おめでとう!!　ありがとう
   10月に続いて、ビッグニュースで始まった11月
   「仲間が一つになれば　奇跡は何度も起きる」何度奇跡が起きたことか…
   大音響でベートーベン第九「歓喜」のメロディーがで球場一杯に
   この厳しい時代を生きる知恵　期待から確信へ
   「あきらめない
   一つになれば　奇跡は何度も起きる」と
3. 我が家の柿も大豊作　一本しかない柿で130個を越える収穫
   知人やご近所にもおすそ分け　今年は大きい野がそろって
   庭では春咲きの花の苗づくり
4. 桂文珍さんの落語的見聞録　神戸新聞8月11日朝刊より
   コロナ禍の中で「達者な親父になれるかなぁ」
5. 和鉄の道・鉄の話題　先が見えぬ低炭素社会の取組　鉄は今・・・・・
6. 仲間からの定期便

1. いつもに増して素晴らしい コスモスの秋 2022

■　掲載スライド動画は更新記事リンク　今月掲載「風来坊」からアクセスしてご覧ください

---

2. オリックスの日本シリーズ優勝　オリックス優勝 おめでとう!!　ありがとう

10 月に続いて、ビッグニュースで始まった 11 月

この厳しい時代を生きる知恵 期待から確信へ「あきらめない 一つになれば 奇跡は何度も起きる」と

「仲間が一つになれば　奇跡は何度も起きる」何度奇跡が起きたことか…

大音響でベートーベン第九「歓喜」のメロディーが球場一杯に

---

3. 我が家の柿も大豊作　甘い甘い柿の収穫が楽しみ

神戸に移り住んで約40年を超える思い出の柿の老木が庭の片隅にある。
野鳥たちも知っていて、何匹もついばみに来る。
今年も野鳥がついばむの頃合いをみて、柿の木によじ登ってもぎ取る。
昨年は登れず、高ばさみで切り落として、
下で家内が受けて取ることしか出来なかったが、今年は大丈夫。
今年は鳥たちにも少し残して１３０個を越える大収穫
知人やご近所にもおすそ分け。
真っ赤に熟した柿も歯応えのある硬いのも甘くておいしい。
朝食のパンにイチジクのジャムが終わって次は柿ジャム　これも楽しみ。
伊川谷の農家の人が言うには今年はこの西神戸何処でも大豊作だと。
もう一つ我が家の秋作業　家内はせっせと春の花　秋植えの花の苗づくり。
私は片隅で今年登場した鉢植えのレモンに興味津々。
実が二つ随分大きくなってきた。
まもなくもぎ取って　焼酎のレモン割にしようとひそかに待っている。

ちょっぴりですが、コロナ禍から解放されたうれしい秋の喜びです。
このままコロナが収束することを祈るのみですが、
５回目のコロナワクチン接種券が届きました。

---

4. 桂文珍さんの落語的見聞録　神戸新聞 10 月13 日朝刊より

「亡き人から 電話があったら?!」　【読みにくいので PDF 原文ファイル】

文化

落語的見聞録

桂文珍

亡き人から電話があったら?!

2022年(令和4年)
10月13日
木曜日
神戸新聞社

神戸新聞

「亡き人から電話があったら」に思わず「ある ある」と.

高齢になって、最近は訃報にに接する機会が多くなった。
メールやTEL等のアドレス帳にそのまま残っていて、
ふと 仲間を思い起こすこともある。
また、家族で仲間のアドレスを共有されていて、
そのアドレスに仲間をみて、びっくりすることも……。
私もいくつか 残している。

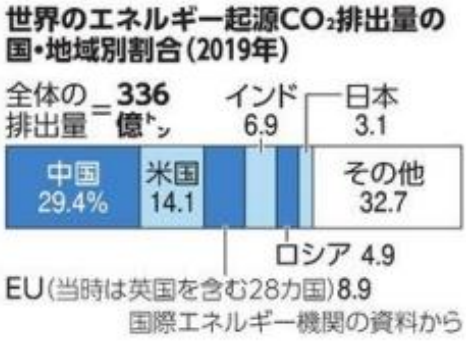
いつかまた 元気な声やメールが来るかもと‥‥
11月2日クリスチャンの諸魂日・逝去者記念の日
わたしも毎年11月は墓参
また、野路菊が咲くと丘に登って、遠くをなが"めつつ
先に逝った仲間を偲ぶ
まもなく 野路菊が丘一面に咲く。
「待ってるよ!」といわれたら
やっぱり「ゴメン! もうちょっとこっちに」と。

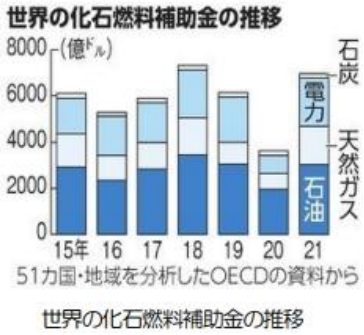
文珍さん
「アイコン」「アカウン塔」に「ログ院」「ナンパンダ!」
ほんまによう頭がめぐってる。
高齢 ふっとばせ!! のメッセージ
思わずにやりと。
2022.11.5. Mutsu

11月は毎年欠かせない亡くなった人たちに思いを馳せる「秋送り 」

私も野路菊の丘に登って先に逝った仲間や先輩諸氏に思いを馳せました

5. 和鉄の道・鉄の話題　internet News より 低炭素社会実現のために





世界の化石燃料補助金の推移

JFE は鋼材値上げを進める（JFE スチールの製鉄所）

化石石燃料への補助金が世界で倍増 脱炭素に逆行「今年はさらに増加」　２０２２．１１月 news より

先が見えぬ低炭素社会の取組　鉄は今どうなんだろう・・

低炭素社会実現のための日本の取組むべき道が見えてこない　　朝令暮改　後はなしのツブテ…

旗振る産・学・官　　具体的取組の具体的な進行評価や次なる目標がはっきりしない

１年たっても２年たっても同じ話ばかり。　絵に描いた餅の「工程表」＆ 「・・ねばならぬ」と。

工程表に描かれた途中取組成果が見えてこない。さっぱりわからぬ。

最後さえ成果・帳尻合わせができればとのほおかむり。　政治主導・丸投げ政治の悪癖か・・…

◎　私の私情メモ　　今思っていること　自分の発言を読み返せるよう。　そんな一部です。

ビックリするようなことが次々と明らかになり、気になったことをメモに

和鉄の道・鉄の話題　先が見えぬ低炭素社会の取組　鉄は今・・・・・
　低炭素社会実現のための日本の取組むべき道
　旗振る産・学・官の具体的取組の中味進行と次なる目標がはっきりしない

◎政府は未だに場当たり的　声をかけるだけで先頭に立つ気がなし
◎海外が日本の新しい産業に目を向けてくれねば、補助金だけでは明日はなし。
◎いまだに一人　円安容認を経済復興の旗頭にする政策
　これ強い産業あっての政策ではないか　技術立国日本は今はなし。
　いい例が今　日本に海外の観光バイヤー・高級中古買い物ツアー　日本では　自国では手の出ないものが手に入る
　　逆に日本からワーキングホリデーを利用して海外で働く若者が急増　同じ労働が海外では数倍の賃金で
◎大企業・財界・労働組合　年寄りの仲間意識・経験だけではどうにもならぬ先がない時代に……
　なんせ　日本にはマニュアル・絵に描いた餅のロードマップのみ。
　推進リーダ・具体的なチェック・フォローの実践がない。いまだに品質偽装　それもなれ合いかも・・…
　TV番組の再放送がおもしろい　昔はきっちり理詰めの筋書き組立て　今のは無理やり複雑にして、
　役者ばかりにスポットライト　スリラー組み立ての面白さが全くなし。まさに世相の反映か・・…
◎朝令改暮　つれもていこらでは沈没する

このロシアのウクライナ侵攻・Postコロナの中で　ばらばらですが、次々と日本の課題が噴出している。
個別の課題に見えるが、病根は一つ
　奇跡は起こる　それも意外なところから・・・・・・・・
　みんなが持ってるプロジェクトXの芽　NHKドラマが示したように
　それを引き出すのは誰なのか・……
　発想の転換　人の眼には意外と映る潮流がきっと埋もれていると。

口先ではなく　若い人・女性の眼をいれ、逆に高齢者の働きをオールラウンドから決められた守備範囲の中で
モグラたたきを制限して　新しい潮流を組み込まねば……と思う。
関西には「やってみなはれ」の風がある。　この課題はリスクマネージメント
それこそ　このリスクマネージメントをAIに担わせれば　もっとスムーズにいくと思うのですが・・…

どうも自分も上記のおなじむじなやなあ・・・・とも
頭もやもやで整理がつかず、最近のニュース等から頭に浮かぶことを書き出してみました。
勝手な私のメモ書き　年寄りの戯言とお許しください。
　　2022.11.5.　From Kobe　Mutsu Nakanishi

6. 仲間からの定期便 11月

◎ H.Aさんから
小冊子「ニューモラル」11月号が届きました
11月23日は勤労感謝の日「楽しむ心も大切に」と

◎ N.Mさんから
秋色満載の動画<<いい一日を!!>>が届きました
5回目のワクチン接種112.21にと。

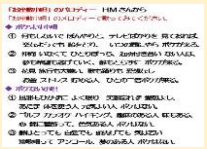
◎ H.Mさんから 同窓会にいってきました
お座敷小唄のパロディ 大合唱しましたと

■ 仲間からの定期便 11月 リンク リストです

◎ H.Aさんから
小冊子「ニューモラル」11月号が届きました
11月23日は勤労感謝の日「楽しむ心も大切に」と
Photo 上　Photo 下

◎ N.Mさんから
秋色満載の動画<<いい一日を!!>>が届きました
5回目のワクチン接種112.21にと。
【動画】いい日一日を!!

◎ H.Mさんから 同窓会にいってきました
お座敷小唄のパロディ 大合唱しましたと
お座敷小唄のパロディ



いつもありがとうございます
今でなくてはとの思いも強い毎日ですが、God be with You!!
お互い何はともあれ、毎日を元気に
厳しい時節ですが、この秋を元気で

7. 今月掲載記事 トピックスから

■ 11月秋 神戸コスモスの便り

本年の秋、周りを見渡せば、ゆっくりと時が流れる日本の秋の原風景
神戸の田舎の美しい秋景色 この秋景色を発信したいと。
コスモスが咲く西神戸・東播磨の田園風景を4つのスライド動画に
毎年眺めるコスモスの秋ですが、今年は行動規制が解けて ひとしお

■ 和鉄の道・Iron Road 鉄の話題

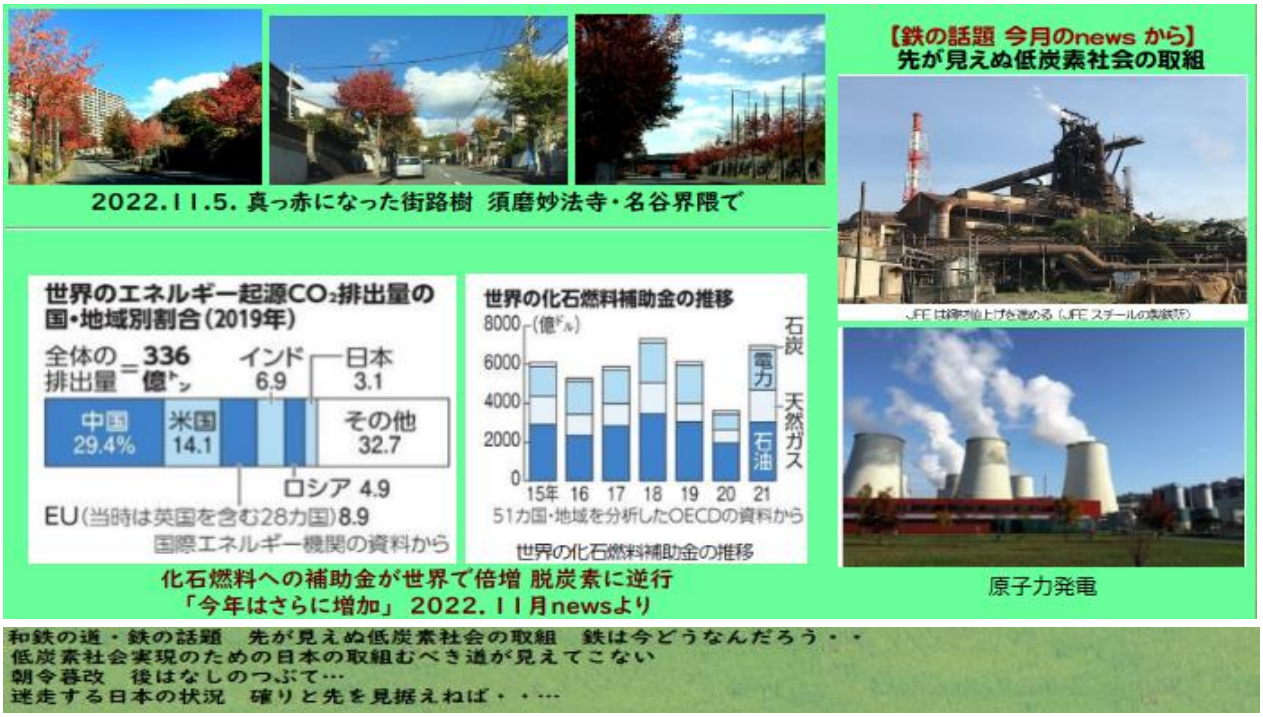
コロナ・ロシアノウクライナ侵攻で世界が混乱する中で
具体的推進成果が見えぬ政府が旗ふる低炭素社会構築取組

◆ 今月掲載記事 トピックスのリンク https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/R0411.htm#TOPICS

相も変わらずですが、11月秋 神戸 コスモスの便りをお届けします
「自分の身は自分で守る」の心意気
でも ひとりじゃない 時には声を上げて 一人で がんばらないで!!
仲間がいる 互いに連絡とりあって また再会できますよう
仲間みんなにエールを送ります
God be With You!! 元気に前向いて
2022.11.1. From Kobe Mutsu Nakanishi

掲載記事トピックス 秋 11 月 神戸コスモスの便り

■ 和鉄の道･Iron Road　鉄の話題 11 月インターネット･新聞より



◎ 私の私的情報メモ　目に留まった最近のニュース収集 2022.11 月

■ 風来坊･Country walk　11 月　【 スライド動画 4 編 ； 西神戸・東播磨のコスモスの秋 】

澄み渡る空に爽やかな秋風に　満開のコスモスが揺れ、南へ帰りを急ぐ渡りの蝶が 空を舞う
秋の収穫も無事澄んで田園地帯は素晴らしい秋景色　日本の原風景
戸外に飛び出して　西神戸・東播磨の秋の風物詩 コスモスの秋 を楽しむ!!
　4つのスライド動画にして 秋の夜長をゆったりと

◆ 今月掲載記事 トピックスのリンク　https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/R0411.htm#TOPICS

◎ 2022年 11 月更新後記 2022年 11 月更新の中で　2022.11.5.

2022.11.5. 真っ赤になった街路樹 須磨妙法寺・名谷界隈で

11月更新パスしようかなあと思っていましたが、、コロナ感染の自己行動規制が緩んで、
約3年ぶり 秋のイベントやスポーツが開催されるようになり、街に活気が……
一方 世相は引き続き混乱の中 数多くの日本の課題が見えてきました。
としよりにはもう何もできませんが、先行き不透明感がただようなか、 なにか日本だけが取り残されているとの焦りも……
そんな本年の秋ですが、周りを見渡せば、ゆっくりと時が流れる日本の秋の原風景
毎年眺めるコスモスの秋到来 神戸の田舎の美しい秋景色
やっぱりこの秋景色を発信したいと。

まとまりのないHP更新になりましたが、まだまだ先行き不安が募る日々の中
爽やかな秋の神戸の便りになれば幸いです
TVや新聞等で日本各地の映像がでるとふと懐かしい顔を思い出す。
老化・病気と闘っている多くの仲間たち そして関東や山口の仲間たち
Lineやメールで近況や嬉しい話題を提供してくれる仲間たち
ずいぶん世話になった先輩諸氏や多くの方々ほか
みんなみんな どうか体調に気を付けて
こっちも 気を付けます。

「弱気になったら あかん!!」「弱気になったら あかん!!」と
自らを励ます毎日 再会できるのを楽しみに

Got Be With You!!
From Kobe 深まりゆく秋 コスモスの便り HP更新を終えて
2022.11.5. Mutsu Nakanishi

もう 自分の時代ではないと感じる昨今ですが、
まだまだ好奇心旺盛 気力もあり、足も復活。
不定期になりそうですが、元気に前向いて発信をと。

後期高齢者だからとは言えなくなった新時代
みんなの一番の願いは穏やかな日常の生活再建
まず 第一歩 前向いて

困難の中にある仲間に 思いをはせています。
みんな老いと向き合う年に
一人で頑張らず、無理せず みんなに声あげて!!
仲間がいる。仲間の元気はみんなの応援歌
互いに連絡取り合って 元気に前向いて笑顔で今を。

仲間の元気は みんなの応援歌 !!
頑張りすぎず、時には声をあげて !!
お互いスクラム組んで
今を前向いて

笑顔で逢えるのを 楽しみにしています
ワクチン接種も済ませましたが、
まだまだ収束は道半ば
どうか 無理せず、元気にお過ごしください

また連絡ください God Be With You!!

From Kobe Mutsu Nakanishi

狭い縦走路のドクン中にどっしりと座り
いつも元気をもらうウバメガシノ巨樹

群生するウバメガシの中を歩く
西六甲須磨縦走路で

いつも元気を貰う妙法寺
車の里の車の里大歳神社のの大楠

2022 Mutsu
師走 12月

師走 冬晴れ 澄み渡る大阪湾・播磨灘　2022.12.15.
色々あった一年を ゆっくり振り返る

この厳しい時代を生きる知恵　期待から確信へ
「あきらめない　一つになれば　奇跡は何度も起きる」

12月トップ　新しい時代の始まりを告げるがごとく
ワールドカップカタール世界大会で、日本の若い選手たちが躍動
新しい時代の道を示すがごとくに!!
10・11・12月 本物の奇 跡が3度も　おめでとう!!
新しい時代を切り開く若者たちに乾杯!!

師走 冬晴れのすがすがしい一日の始まり　2022.12.5. 高倉山からの遠望
澄み渡る大阪湾・播磨灘
神戸の街の向こう　生駒山を背に大阪湾沿岸のまちなみがくっきりと
明石大橋の向こう　播磨灘には小豆島・家島群島　加古川沿岸には白煙を排く製鉄所が見える

左:大阪を背後に神戸の街　右: 明石海峡から播磨灘　背後に小豆島が遠望

家島群島が浮かぶ播磨灘を背に播磨平野　右端に神鋼加古川の高炉群が見える
白煙を上げる元気製鉄所を眺めるのは幾つになってもうれしい

２０２２．１２月初め　神戸の街で

神戸の街に灯るミナリエがの灯がことしも中止になりましたが、
コロナとの３年にわたる付き合いの中で、コロナの実態が少しづつわかってきた。
ワクチン接種・医療関係者の献身的な加療経験ノウハウとうのちくせきと治療薬も
認可。行動の自主規制も何となく緩和され、街があかるさをとりもどしつつ
新型コロナ収束の道がやっとみえ、街に活気が出てきた師走になりました。
コロナハ波の流行がひそかに進行中ですか、
なんとかこのまま収束してほしいと願っています。

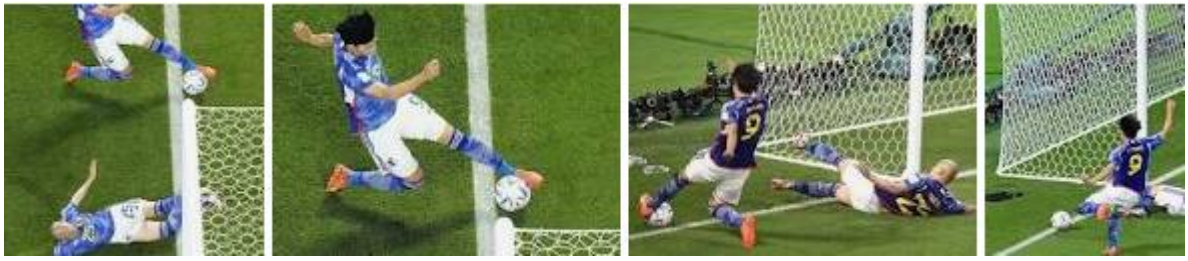
高齢化が進む中で迎える「ポストコロナ・低炭素社会構築」 大変革の新時代 幕開け
はじめて気が付いた戦争の悲惨・核戦争の危機ゲームの世界が今現実にわが身に降りかかる
島国として守られてきた「ぬるま湯日本」が、厳しい現実にさらされている。
みんな地球人「自分さえよければ・・・ではどうにもならぬ」新時代が目前に世界と共に生きる時代の模索・取組推進の時代の幕開けを実感した年でした。
かつて 何もわからぬ私たち若者の背を多くの人たちが「 とにかく やってみなはれ…」と押してくれた時代のように。 また、あの震災の暗闇の中で 走り回ってくれた若者たちとの姿もふつふつと・・・・
「もう新しい時代は 若者の手で」と。そんな時代の到来を痛感した2022年になりました
そんな 思いもあってみていたこともあったのか、本年後半には 若者たちの強い意志の塊が
数多くの「奇跡の姿」を見せてくれた年でもありました。
「あきらめない 一つになれば 奇跡は何度も起きる」「偶然ではない 奇跡の姿は何度でも・・・」 と。
もう はっきりと期待が膨らむ「明日は若者の時代」だと・・・・・
かつて「とにかく やってみなはれ」と若者たちを後押ししてくれた時代のように若者たちを応援したい。
また、老いたと言えども まだまだ元気 足も動くし、好奇心もある。
主役は若者へ 片隅で 自分の役割をコツコツと・・・ そんな思いの2022年師走です。

コロナ感染防止の自己行動規制・神戸籠りではや3年。 ことしで終わりにできるかなぁ
もう自由に飛び出してみたい。行きたいとこは ここかしこ
勝手気ままな風来坊の記録 来年もよろしく。
厳しい年の暮れですが、明日への希望をねがって 「Merry Christmas!!」
本年のクリスマスカードを送ります。

Merry Christmas !! God be with You!!
「われらみんな地球人」に思いを寄せて
2022 クリスマス 2022.12. 25. by Mutsu Nakanishi From Kobe

■ うそをつかない「科学の眼」 若者たちへのバトンタッチを日本は急がねば

10・11・12 月 奇跡が3度も 目の前で起きた。 若者たちが世界へ飛び出し、躍動したこの12月
気負わず 粘りぬく神髄を見たせてくれた
年寄りも みんながみんな これぞ これからの厳しい時代の生き方に見えた
自分流にいえば、知力の衰えを自覚して
好奇心・気力・行動で 仲間と共にスクラム組んで臆せず役割を果たそうと。



ワールドカップ世界大会 「1mm の奇跡」 新しい時代の幕開けをしめすがごとくに・・・・

◎ 嘘をつかない「科学の目」を養おう
よく「真実は一つ」とよく言うが、その見え方は色々。だまし絵がそれだ。
いろいろに見える姿・形を見抜く目。 それがうそをつかぬ「科学の目」
政治家がよく使う手・即物的・スピードを良しとする近視眼的目には幾つもある「真実の姿」が映らない。
それを意図的に利用している節も垣間見える。
いま日本で一番不足しているのが、この「科学の目」 日本は今 まさにこの科学の眼が試されている。

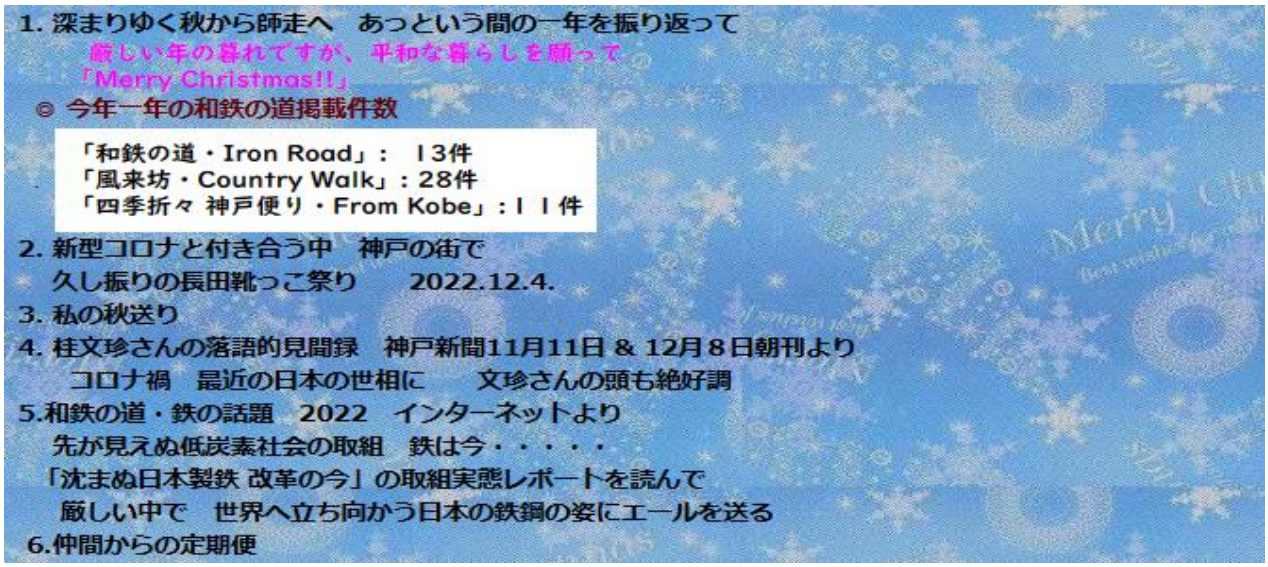
そんな折に サッカー日本チームの執念の技 1ミリの重なりを見抜いた科学の目の存在を大きく知らしめた。
日本の科学者たちも政治家の手法に取り込まれず、もっと科学の目を養い、声をあげねば。
科学の目からすれば、真実は幾多の姿をして現れる。 奇跡は一回でなく、真実の姿もいくつもある。
オリジナルを見据える。先端を突き詰める。ルーツに遡る そして総合・スクラム・ 視点解析等々
科学の目を養う方法がいくつも試されて勝ち得たサッカー日本チームの若者たち
カタールでのうれしい体現に日本がわいた。

若者の時代がきているとつよく感じられた本年の年の暮れになりました。
うそをつかない「科学の眼」 若者たちへのバトンタッチを日本は急がねばと
穏やかな暮らしが実現できるようスクラム組んで 新しい時代へ 前向いて 第一歩
和鉄の道 HP お付き合いありがとうございます。
来年もよろしく
God be with You!! も口癖に
高齢で迎えるポストコロナ・変革の厳しい新時代を前向いて みんなの力で取り戻そう 穏やかな日常を
今年一年 いろんな思いが駆け巡る師走です
忘れてはならぬ第一歩 コロナワクチン接種12月15日に受けます。
2022.12.2.15. FROM KOBE Mutsu Nakanishi

須磨 名谷の街路樹で
色鮮やかだった街路樹も１２月落葉がはじまり、落ち葉を踏む音が心地よい
初冬の訪れをかんじる街景色になりました

「IRON ROAD 和鉄の道」

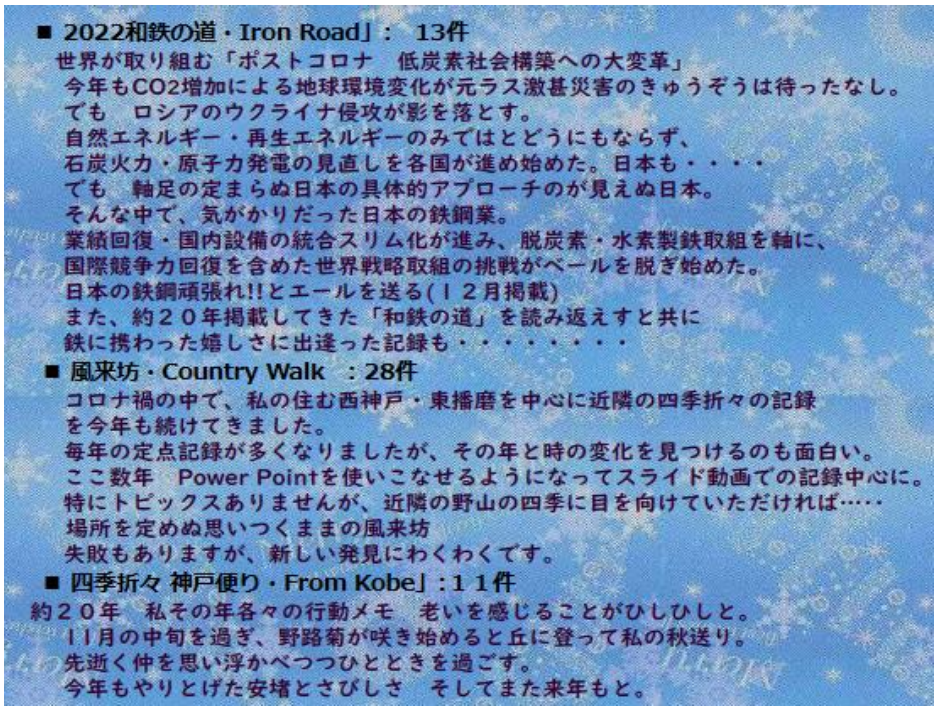
Monthly Page 令和４年12月師走 神戸便り 2022.12.15.



1. 深まりゆく秋から師走へ　*あっという間の一年を振り返って　「Merry Christmas!!」*

今までに経験したことがないことが色々あった一年。
コロナ禍の中で、日本の緊急医療システムの破綻・過酷自然災害の続発。
そして、ロシヤのウクライナ侵攻の残虐さと大国の傘に頼る虚しさ。
科学・モノづくり立国と叫べども気が付いてみれば、日本は先進国に遠く及ばず、中進国にも追い抜かれる現実。
そんな現実にもほうかむり。「自分たちでなければ」の心地よい言葉の都合主義のバラまき政治
みんなが気づきだしたおかしな日本の一年。
本年掲載してきた「和鉄の道」よくまあ　同じことをぶつぶつ言ってきたなぁ・・・・と。
ずっと感じていた若者たちへの世代交代の必要性でも　希望はある。
嬉しい news　世帯交代を体現してくれたサッカー日本チームの若者たち。
最後までぶつぶつの一年。お許しください。

◎ 今年一年の和鉄の道掲載件数



2. 新型コロナと付き合う中 神戸の街で　久し振りの長田靴っ子祭り 2022.12.4.

毎年１２月に開催されてきた長田靴っ子まつりが開催。ほんとうに久しぶり。
家内とふたり出かけて、蝶安値のウォーキングシューズを２足づつ。
みんな靴袋を抱かえてうれしそう。みんな街に出るのを待ちかねてたんだと。
「近くにおいしいインド料理・カレーの店がある」という家内の仲間情報でインドカレーの昼食。
大きな「ナン」がついたカレーに懐かしさ一杯。
インド料理が好きだったペナンのＳさんを思い出しつつのランチ。おいしかったです。
当分ウォーキングシューズは買わんでよし。久しぶりのうれしい神戸の街歩きになりました。

3. 私の秋送り 2022.11.15.夕

山腹を真白に野路菊が咲く横尾道　野路菊の丘に登って　先に逝った仲間を思い浮かべつつの秋送り。
寂しくもあるが、本年一年元気に過ごせたわが身を感謝しつつ、「風来坊」が元気を貰う秋送りです。

■ 【Photo Album】　横尾山山腹の丘一面を真っ白にして　野路菊の花が咲きはじめました
私の秋送り 2022　横尾山麓 横尾道 野路菊の丘で
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022walk/22walk25.pdf

4. 桂文珍さんの落語的見聞録　神戸新聞 11月11日 & 12月8日朝刊より

コロナ禍　最近の日本の世相に　文珍さんの頭も絶好調

「世界が一周回って１ドル/３６０円??」＆ 「にわかファンがカタール夢」

【読みにくいので　PDF 原文ファイル】

和鉄の道・鉄の話題 2022 インターネットより

5. 日経ビジネス誌「沈まぬ日本製鉄 改革の今」の取組実態レポートを読んで
厳しい中で 世界へ立ち向かう日本の鉄鋼の姿にエールを送る

日経ビジネス副編集長 上阪欣史のものづくりキングダム　沈まぬ日本製鉄（1）～(5)

https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00289/111500039/

この１１月中旬　日本の鉄鋼の雄　日本製鉄の姿を赤裸々に取材した日経ビジネス誌の特集連載記事の一部をインターネット検索で見つけて収録を始めた。

経済誌の限界はあるが、この１０年そして今後の１０年を見据えた鉄鋼の雄　日本製鉄の今の姿等々
かつて鉄鋼会社で仕事をした端くれの私には　いつも気にかかっていた日本の鉄鋼の行く末
身を置いた時を重ねながら収録整理しました。
ばらばらでしか情報が伝えられてこぬ日本の低炭素社会への大変革の今
日本製鉄の姿から眺めることができたと。　ご参考になれば…・

■今月の和鉄の道　掲載記事
日経ビジネス誌「沈まぬ日本製鉄 改革の今」の取組実態レポートを読んで
厳しい中で　世界へ立ち向かう日本の鉄鋼の姿にエールを送る

2022.11.25. From Kobe　Mutsu Nakanishi

◎ https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0412NipponSteel.pdf
◎ https://www.infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022iron/22iron13.pdf

---

6. 仲間からの定期便　仲間からの定期便　12 月

◎ M.A さんから　小冊子「ニューモラル」12 月号 － 「おかげさま」を感じる時 － が届きました
2022年年の暮れ ゆっくり日常をふりかえって

＜Photo 拡大リンク＞

＜Photo 拡大リンク＞

いつもありがとうございます
今でなくてはとの思いも強い毎日ですが、お互い何はともあれ、毎日を元気に

■　掲載記事トピックス　12 月 師走の神戸便り

1.　日経ビジネス誌「沈まぬ日本製鉄 改革の今」の取組実態レポートを読んで
厳しい中で 世界へ立ち向かう日本の鉄鋼の姿にエールを送る

■ 日経ビジネス副編集長 上阪欣史のものづくりキングダム 沈まぬ日本製鉄（1）～(5)
https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00289/111500039/

■ 今月の和鉄の道 掲載記事 日経ビジネス誌「沈まぬ日本製鉄 改革の今」の取組実態レポートを読んで
厳しい中で 世界へ立ち向かう日本の鉄鋼の姿にエールを送る 2022.11.25. From Kobe
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0412NipponSteel.pdf

2. 紅葉した神戸の街 walk をスライド動画に　自己行動規制も少し緩くなって ふらっと風来坊

ことしの紅葉は特に鮮やか　京都にも紅葉を訪ねました　(photo リンクで Pdf &動画再生)

■ 12月掲載記事 トピックス リンク

■ https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/R0412.htm#紅葉した神戸の街walkをスライド動画に

◎2022年 12 月更新後記　2022.12.15.

遅れましたが、何とかHP 更新が出来ました。今回もいろんなことに眼が行って、おまけに頭まわらず、空中分解して、荒っぽい作りになってしまいました。本当に一年お付き合いありがとうございました。

引き続きよろしくお願いします。お互い　今を元気に　前向いて

2022.12.15.　Mutsu Nakanishi　From Kobe

2022 四季折々　From Kobe　　kobe2022.pdf

神戸で 思いつくまま　From Kobe　2022

2023. 2.1.

狭い縦走路のドクン中にどっしりと座り
いつも元気をもらうウバメガシノ巨樹

群生するウバメガシの中を歩く
西六甲須磨縦走路で

いつも元気を貰う妙法寺
車の里の車の里大歳神社のの大楠

最近巨樹の生き様をTV等で見る機会多し。
先日　葉が前部落ち、枯れ木に近くになっても、
樹木は根さえ生きていれば、根元から新しい芽・枝を出すという。
動けぬ塾は樹木は常にその準備をしていると。
根は水分と共に土壌細菌と共生することで、動けぬ身を補完しあっている。
それで、根の周辺が固められるなど、土壌細菌を活性化する酸素が
根に供給されないと息の根を止められてしまうのだと。

巨樹のあのたくましいごつごつした巨体は本体が切られても折れても、
切られても切られても準備してきた根元や切られた幹から、
新し芽をだし生き延びてきた生きざまそのものだと。
私たちが巨樹に惹かれるのもそんな「生物共生・循環」を本能的に知っているからかも・・・・・・・

もう　自分の時代ではないと感じる昨今ですが、
まだまだ好奇心旺盛　気力もあり、足も復活。
不定期になりそうですが、元気に前向いて発信をと。

後期高齢者だからとは言えなくなった新時代
みんなの一番の願いは穏やかな日常の生活再建
まず　第一歩　前向いて

困難の中にある仲間に　思いをはせています。
みんな老いと向き合う年に
一人で頑張らず、無理せず　みんなに声あげて!!
仲間がいる。仲間の元気はみんなの応援歌
互いに連絡取り合って　元気に前向いて笑顔で今を。

仲間の元気は みんなの応援歌 !!
頑張りすぎず、時には声をあげて !!
お互いスクラム組んで
今を前向いて

笑顔で逢えるのを 楽しみにしています
ワクチン接種も済ませましたが、
まだまだ収束は道半ば
どうか 無理せず、元気にお過ごしください

また連絡ください　God Be With You!!

From Kobe　Mutsu Nakanishi

Mutsu Nakanishi　From Kobe

2022 四季折々　From Kobe

四季折々【From Kobe ・思いつくまま 神戸便り】　From Kobe 目 次　kobe2022.pdf

ポストコロナへ 低炭素社会実現への激動の社会変革の時代の幕開けにロシアのウクライナ侵攻

混乱が渦巻くコロナ禍3年目 疲弊する日本社会に思いを寄せて

From Kobe 2022　11 件 老いをひしひしと感じる歳になりましたが、まだまた元気に前向いて

1.【From Kobe 1 月年賀】2022年年の初め 迎春

高齢化が進む中で迎える「ポスト コロナ・低炭素社会の構築」 社会大変革の新時代の幕開け

みんながみんな 穏やかな暮らしが実現できるよう スクラム組んで新しい時代へ第一歩 前向いて

◎ home page 和鉄の道・Iron Road 2021 年総括　コロナ禍の中で一年を振り返って

2.【From Kobe 2 月 如月】 コロナ禍の中で 神戸籠り もうすぐ春が・・ 近況便り

◎ ポストコロナで迎える新時代 激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。

70 有余年の「気力-毎日毎日の思い-」が生きる力　ときには世話にもなりながら、頑張ろうと気分も新た

「コロナ対策と経済・雇用の回復へ 暮らし・雇用・経済の復興」に並行してもう待ったなし

「人類の危機地球温暖化の歯止め 低炭素社会への大転換」

誰もが避けられぬ経験したことのない「令和の 社会・経済の激烈な再編の時代」へのターニングポイント

高齢者には足がすくむ新時代 もう 自分の時代でないと知りつつも、でも立ち止まっては居られない

3.【From Kobe 弥生 3 月】神戸春便り 毎日の須磨 walk　ロシアのウクライナ侵攻 兵庫から「NO WAR」

コロナ禍の中で、ロシアのウクライナ侵攻、無慈悲・悲惨な戦場が眼前に。戦闘の即時停止を!!

◎ 春迎え 2022.2.28 神戸の春迎えの風物詩 いかなご新子漁と須磨離宮公園の梅

◎ 2022年神戸の春の Photo Album

4.【From Kobe 4・5 月】 4 月春爛漫から新緑の5月へ　芽吹き・桜が散って野山は一気に新緑へ

◎ 新生の息吹を胸一杯 素晴らしい里山の春を楽しむ

収 録　1. 初めてみた残分 0.00 逆転さよならの3点シュート バスケ B2 リーグ 西宮ストークス 76-75 仙台

2. 飛行船が高倉山を越えていきました これも何年ぶりでしょうか・・・

5.【From Kobe 6 月】梅雨入り目前 新緑が素晴らしい季節に でも先が見えぬ厳しい世相

収 録 1. 仲間が送ってくれた懐かしい小冊子　優しい言葉が詰まっている

2. 中年化する就職氷河期世代 ―非正規雇用540万人の衝撃-の驚き

6.【From Kobe 7 月】初夏 神戸紫陽花の便り　期待の膨らむ7月になりますよう

収 録 1. 神戸新聞 桂文珍 落語見聞録「茗荷宿」

収 録 2.「立場の異なった人たちとつながる」 先が見えぬ日本 参議院選挙が告示 6.22.

7.【From Kobe 8 月】 ひまわりの夏 2022　酷暑・大気不安定・コロナ感染爆発 変革・混乱の渦

◎ 酷暑の夏を明るく爽やかにしてくれるひまわりと朝顔　平和を願って 思いも新た

収 録 最近のインターネット記事より「低炭素社会構築のために」

8.【From Kobe 9 月】爽やかな秋の始まり たたら製鉄と日本の刀剣 蕨手刀からそして東北へ歴史をたどる

収 録 経済評論家 内橋克人氏 没後一年　2022.9.5. 神戸新聞特集「内橋克人の歩いた道」転記

9. 【From Kobe 10 月】初秋 神戸便り 小さい秋を探して 東播磨を駆ける

収 録 鉄の街 尼崎 鉄のモニュメント設置後約半世紀 鉄鋼戦士の像と尼崎讃歌

10. 【From Kobe 11 月】深まる秋 神戸コスモスの便り 美しい秋の夕暮れ そして サプライズ オリックスの優勝

周囲はすっかり秋色 夕暮れはツルベ落とし 須磨のサンセットも素晴らしいコスモスの秋景色をスライド動画に

11. 【From Kobe 12 月 師走】師走 冬晴れ 澄み渡る大阪湾・播磨灘 今年の紅葉がことのほか美しい

Merry Christmas !! God be with You!! われらみんな地球人 一年を振り返りつつ

■ 若者の時代到来を体現してくれたサッカー ワールドカップ この厳しい時代を生きる知恵 期待から確信へ

「あきらめない 一つになれば 奇跡は何度も起きる」

■ うそをつかない「科学の眼」 若者たちへのバトンタッチを日本は急がねば

■ 和鉄の道一年を振り返って

【 From Kobe　2022 年賀】 2022 年　歳の初めに

from Kobe　Mutsu Nakanishi

fkobeR04
nenga.pdf

和鉄の故郷　古代 山陰道日本海と倭を結ぶ和鉄の道　但馬和田山
天空に聳える城は「虎臥城」の名をもつ竹田城

参考 和鉄の道・https://www.infokkkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0209asagotakeda00.htm

高齢化が進む中で迎える「ポストコロナ・低炭素社会構築」
大変革の新時代 幕開け
みんながみんな穏やかな暮らしが実現できるよう
スクラム組んで 新しい時代へ 第一歩 前向いて

ポストコロナで迎える新時代　激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。
「コロナ対策と経済・雇用の回復への暮らし・雇用・経済の復興」に並行して
もう待ったなし「人類の危機地球温暖化の歯止め止め　低炭素社会への大転換」
誰もが避けられぬ経験したことのない
　「令和の産業革命　社会・経済の激烈な再編の時代」へのターニングポイントに
高齢者には足がすくむ新時代
もう　自分の時代でないと知りつつも、でも立ち止まっては居られない
知力・体力は衰えたとはいえ、足も動くし、まだまだ好奇心もあり。
70 有余年の「気力 - 毎日毎日の思い -」が生きる力
思いは誰も同じ　　時とには世話にもなりながら、スクラム組んで頑張りましょう。.
God be with You!!　仲間の元気はみんなの応援歌

この新しい時代を笑顔で暮らせるように

皆様のご健康とご多幸を お祈り致します
本年もよろしくお願いします
令和４年　元旦
Mutsu Nakanishi From Kobe

我が身に降りかかる過酷な産業・経済・社会の大変革時代の幕開け　令和の産業革命の新時代
「どうすればよいのか?
人任せではどうにもならぬ厳しい新時代　立ち位置をしっかりと」との思いも新た

◎ 世界がこぞって舵を切る　カーボン　ニュートラル 50　実現は切実な願い
地球暴走の歯止め　CO2 増加をみんなの力で止めよう
掛け声は心地よいが、我が身に降りかかる産業・経済・社会の大変革
今 CO2 増加を食い止めねば地球は暴走　人類破滅の危機　生きとし生けるものみんなに

もう後戻りできぬターニングポイントに直面している今
「持続可能な開発目標（SDGs・「カーボン イーブン 50」の達成が今世界の最大課題
気候変動による激甚災害に　歯止めをかけて　持続可能な低炭素社会の実現へ
また　CO2 排出量の多い大型高炉操業を続けてきた日本の鉄鋼業は生き残れるだろうか?

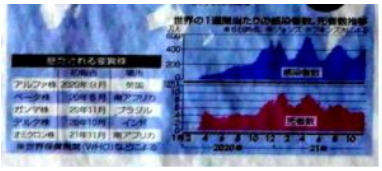
◎ コロナ禍で寸断された日常生活・雇用　経済の再建
みんながみんな　命の危機に直面したコロナ禍 やっとみんなの自己行動節制・ワクチン接種等々で
コロナ収束へと、ほっとしたのも束の間　世界はイプシロン変異株が猛威を振るう第６波が大流行
検疫強化で遅延されてきた日本も　ついに今　市中感染が見つかり、流行化の危機
いまでのコロナより、感染力は数倍の感染力のイプシロン変異株　高齢者には厳しい。
でも　コロナ禍２年を乗り越えた経験・医療従事者の懸命なネットワークや　ワクチン投与もある
みんなの力で第６波を食い止め、取り戻そう　穏やかな日常を
今年一年　いろんな思いが駆け巡る令和４年の始まりです。

高齢化が進む中で迎える「ポストコロナ・低炭素社会構築」　大変革の新時代 幕開け
みんながみんな穏やかな暮らしが実現できるよう
スクラム組んで 新しい時代へ　第一歩

まだまだ　好奇心もある。　お互い　気力をふりしぼって、
この厳しいポストコロナの時代を前向いて。
よろしくおねがいします。
いつも勝手な神戸からの便り
お許しください。

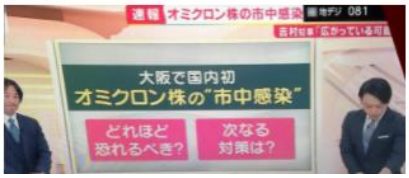
God be with You!!
元気に出会える日を楽しみにしています。
From Kobe
Mutsu　Nakanishi

2021 年総括　コロナ禍の中で　home page 和鉄の道・Iron Road を振り返って



検疫で稼いだ時間、問われる第6波
オミクロン株市中感染

22日、新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の市中感染が国内で初めて確認された。従来のデルタ株などと比べ、感染力が強いとみられるオミクロン株。今後、欧米のように拡大し、感染「第6波」の到来も懸念される。その日に備え、保健所や病院は状況を注視している。　◇在宅医療強化の必要性指摘



厳しい寒さの中で迎えた令和４年　　神戸では例年風物詩ともなった光のルミナリエが今年も中止されましたが、やっと新型コロナも収束の落ち着いた動きに。コロナ変異株「オミクロン」の流行の兆しが進んでホット一息。街もやっと明るさが戻りつつあります。　油断大敵　マスクと行動の自己規制はかかせませんが・・・・

本年も勝手な風来坊「和鉄の道・Iron Road」にお付き合いいただきありがとうございました。
また一年相変わらずですが、コロナ禍の中　〝God be with You!!〟の言葉とともにあっという間に１年が過ぎてゆく。つくづく日が経つのが早く感じる歳になりました。
新型コロナ収束に向かいホッとしていましたが、新たな変異株（オミクロン株）流行の兆し。
　まだまだ気を緩めることなく頑張らねばと。
本当に我が身命の危険を身近に感じた一年でした。早く穏やかな暮らしが取り戻せるようにと願っています。
振り返ってみれば本当に色々あった一年、
home Page の中味も神戸籠もりの中で、厳しいコロナ禍の中でなんとか明るく前向いてと。
世は情報があふれるデジタル時代　電話も会合もネットでも見られる情報社会。
でも　はっと気が付く景色はみんな仮想現実・非日常。
みんな今までと変わらぬというのですが、自分ひとりが取り残されているとの不安感。
今ほど顔を突き合わせ、お互い生の会話のできるありがたさを感じたことはなし。
仲間に出会いたいなぁと。
そんな中、温暖化による地球環境の激変化が切実・我が身に降りかかるようになって、待ったなし。
避けることの出来ない脱炭素社会構築へ全世界が舵を切る。
ポストコロナと脱炭素の時代　激変する時代に不安一杯。
みんながみんな穏やかな暮らしを取り戻せるのか・・自分はどうなるのか・・・
今一番　日本が取組遅れの厳しい現実に直面してると見える。
姿を見せぬ本当の現実がコロナ禍の中で　垣間見え隠れしはじめ、思いもかけず我が身にも降りかかる。

突破口を見いだせぬ日本に苛立ちを感じる様子がホームページ掲載の文面の随所にもありありと。
自分では何も出来ないと感じながら、後ろから今を考える年代になったとつくづく感じてきた一年でもありました。

神戸新聞　2021年12月19日朝刊　コラム「正平調」より「ナンバーワン」が泣いている

正平調

「ジャパン・アズ・ナンバーワン」という本が出版されたのは、1970年代の終わりである。日本はなぜ高度経済成長を遂げられたか、学ぶべきものは何か、米国の学者が書いた◆刺激されてか、日本研究が海外で盛んになった。こぞって探ったのは「ナンバーワン」の秘密だ。その様子を見て、ジャーナリスト田原総一朗さんは思ったそうだ。日本研究に足を踏み入れると、例外なく行きつくものが一つある。それは官僚、官僚機構◆田原さんも霞が関への取材を重ねて本にした。「ジャパンI」と同じころだ。こんな話が著書にある。政治が安定しなくても国は大丈夫と財界人が言った。なぜなら「官僚と企業がしっかりしているから」と◆それほど信頼された官僚の仕事にほころびが目立つ。建設業界にまつわる統計に不正があった。それも8年間。3年前には毎月勤労統計で不正が発覚した。国家の体力を測る統計がこんな体たらくとは、情けない◆中国が経済力をつけたころ、国内総生産（GDP）値が水増しされていないかという疑惑があった。現に中国政府が地方の統計に水増しや誇張があったと認めたとき、ほらね、と冷笑するような気配を感じた◆もう、他国をあれこれ言えない。「ナンバーワン」が、泣いている。　2021・12・19

毎朝見ている神戸新聞のトップ紙面コラム「正平調」にも上記一年の締めくくりとして、
日本の状況につい手厳しい言葉が綴られていました。
まもなく　1.17.　阪神・淡路大震災記念日がやってくる。　あのルミナリエの灯がついた時を忘れない。
希望と期待をもって　頑張らねば・・・。

「持続可能な開発目標（SDGs・「カーボン イーブン50」の達成が今世界の最大課題
気候変動による激甚災害に歯止めをかけて　持続可能な低炭素社会の実現へ
最近は産業界の命運を駆けて、業界具体的な取組展開現況発表化が相次いでいる

参考　和鉄の道　2月　政府が策定した「2050年カーボンニュートラル　政府脱炭素社会を目指す14重点項目策定」

否応なしにさらされる激変の時代の幕開けに思いも新た。
自分の時代でないとの思いはありますが、しっかりとこの時代を前向いて。
コロナ禍と同じ。誰しも避けることのできない大変革の時代　令和の産業革命といわれる大変革
もし　この低炭素社会実現に失敗すれば、歯止めの利かぬ地球暴走へまっしぐら。いわば地球人／生きとし生きるすべてに激変環境の猛威が多いかかることに。
生活・社会・経済そしてわが身にもフルかかる大変革　人任せにできぬ所以。　身震いする思いの入り口に。

◎「鉄の惑星　地球」　人類の歴史の中で　難局に出会うたびに新たなイノベーションを巻き起こし、新しい展開を切り開いてきた鉄。その鉄がこの厳しい時にもまた、力を発揮するだ　ろう。
長く取り組んできた「鉄の起源・歴史」を昨春まとめることが出来た「たたらの源流　鉄の起源 & ユーラシア大陸東遷の道」（愛媛大東アジア古代鉄文化センター国際シンポ　聴講記録集成聴講記録）にもそんな事象がいくつも記されている。

HP 開設以来 20 年を経過した年末には「私の和鉄の道・Iron Road」を整理して眺め直す事もできました。
これからどんな姿になって、鉄がこの難局を切り開いてくれるのか　楽しみな和鉄の道。

ポストコロナ　脱差炭素社会がどんな姿で登場するのか　明日の時代の平和で穏やかな暮らしに期待して。
本当にエポックメーキングな一年　和鉄の道・Iron Road 2021 でした。

参考 参考2 .【動画】先行する欧州の
化石燃料を使わぬ鉄鋼生産　インターネットBloomberg　home page より
SSAB スウェーデンスティール（株）ほか鉄鋼三社の共同プロジェクト

地球46億年　「鉄」が幾多の困難を切り開き、今の時代へと続いている。
鉄の惑星地球の上で　幾多の生物とともに生命をつないできた我々
必ずや「鉄」が窮地を乗り越える道を示してくれるだろうと。
「鉄鋼は剛柔にして、時に応じて態を変える。先人の知恵に学べ」
「歴史・時代の流れをみよ」と教えられました。
鉄の黒光りとまばゆい輝き　「鉄の肌光と閃光」
炒鋼の美しい輝きにも魅せられ、俺たちも頑張ろうと

私がなにを思ってきたか　それがいまの私をつくっている
あなたがなにを考えてきたか　それがいまのあなたそのもの
世界はみんなのこころで決まる　世界はみんなのこころで変わる
谷川俊太郎　「こころの色」より

私がなにを思ってきたか　それがいまの私をつくっている
あなたがなにを考えてきたか　それがいまのあなたそのもの
世界はみんなのこころで決まる　世界はみんなのこころで変わる
谷川俊太郎　「こころの色」より

大量の CO_2 ガスを放出する高炉操業が主の日本の鉄鋼業
**　高度成長期を支えた鉄鋼業も業態大転換の厳しい対応の中　なにか忘れ去られようとしている。**
でも　鉄鋼のから　鉄鋼もがんばれ!!　とエールを送る

◎　鉄のない縄文の世界にも惹かれ、ずっとHP への掲載取組をしてきた「日本の縄文」。
　心優しき縄文人たちが約 1 万年の長きにわ たる永続社会をつくってきた日本の縄文
　コロナ禍の中で、長年の夢がかなって、ユネスコ世界文化遺産に登録されたのも嬉しい
　ニュースでした。

◎　CO2 排出ストップの厳しい操業形態移行を迫られる鉄鋼。
　過酷化する地球環境に歯止めをかけるには待ったなし。
　CO2 排出量の多い大型高炉操業依存度の高い日本の鉄鋼業は脱炭素社会構築の中で今一番厳しい立場に置かれている。退場を願うと言う人達も数多く、長く鉄鋼の中で育ててもらった私にとって、一番気になっているが、今　数々の新しい高炉操業変革に取組んでいる。それがこれから目に見えてくるだろう。
　必ずや日本の鉄鋼の歴史が新しい道を切り開いてくれると期待一杯。鉄鋼ガンバレ!!と。

◎　私ごとですか、６月末　足踵骨折で約 20 年ぶりに入院生活。
　足を地面につけられぬ厳しい正つの苦しさや入院高齢者が多いリハビリ病院の現実も知り、
　元気で健康でいるあがたさもつくづく。
　入院・神戸籠りの中で、アルバム整理を兼ねた断舎離。今までの道を振り返る良い機会。
　忘れかけていた数々の人たちや事柄との交流がありありと。
　長くかかった整理ですが、自分の生き方を振り返りいい整理ができました。

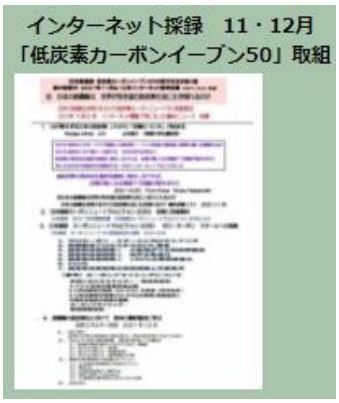
◎　多くの知人や仲間にも助けてもらいながらも、孫たちも元気に成長。みんなに感謝です。
　本当に早く出あいたいなぁとの思いも強いです。
　気がかりは　多くの仲間・先輩・知人の訃報に接し、秋送りをしました。
　もうそんな歳になったんやと今の健康に感謝しつつ、から元気の毎日。毎日前向いて元気にと
　本当にありがとうございました。　　引き続き　本年もよろしくおねがいします。

本当にエポックメーキングな一年　和鉄の道・Iron Road 2021 でした。
２０２２年　高齢者にとっても本当に厳しい年になりそうですが、新しい時代の実現に希望を託し、
穏やかで　平和な都市となりますよう頑張りましょう。

2021年 和鉄の道 トピックス

コロナ禍　行動自己節制の神戸籠りの中で、たたら遺跡探訪-」として、約 20 年 home page に掲載してきた記事の読み返し・整理。　私蔵版 Review「私の和鉄の道・Iron Road　－ 日本の源流」をまとめました。

約２０年年次ブックには整理してきましたが、中身はばらばら・・・・。　何とか時代を通して眺める資料を作りたいと長年思ってきた一部です。



「和鉄の道・Iron Road　since 1999　－ 日本の源流・たたら遺跡探訪-」の home page を解説して約 20 年その年ごとに「和鉄の道」・「風来坊」「四季折々・From Kobe」に合本整理してきましたが、ライフワークとしてきた「鉄の起源・和鉄の道」の歴史的な流れに沿ったレビューをまとめられていないことが気がかりでした。
昨年初めに、長年聴講参加させていただいた愛媛大学村上恭通先生たちの 10 数年に渡る「鉄の起源・鉄のユーラシア大陸東遷の道」探求プロジェクトの国際シンポ・成果報告会に毎年聴講参加させていただき、
「愛媛大東アジア古代鉄文化センター国際シンポ聴講記録集成聴講記録　鉄の起源 & ユーラシア大陸東遷の道」として昨年末にまとめることが出来ました。

コロナ禍の中で思い立って、古いアルバム等の断舎離を始めて、日本のたたら製鉄の資料の集成整理にも着手。
今回 私蔵版「私の和鉄の道・Iron Road　－ 日本の源流・たたら遺跡探訪-」として、home Page　和鉄の道レビューを作成できました。
かつてよく参考・引用転記させていただいた穴澤義功先生の「古代たたら遺跡の歴史」講演スライド集をインターネットでみつけ、主要資料として採録転記収録させていただきました。。
素人　誠に勝手な資料ですが、参考になればと。

また、11 月・12 月ニインターネットで集めた「低炭素カーボンイーブン 50」資料も合わせて掲載。ポストコロナ　低炭素社会の構築の入口にいる今　令和の産業革命と言える大変革の時代がどんなふうに展開しいゆくのか　社会・産業変革の中で、日本の鉄鋼がどうなってゆくのかもしっかり眺めたいと。「和鉄の道・Iron Road」の大きな展開　どんなふうに「鉄」の姿が変わって現れてくるのか　興味津々でいます。
いずれも　勝手気ままな風来坊の雑記帳ですが、何かのお役に立てば……

この冬　実は大量の迷惑メールに見舞われ、古いパソコンでは　対応できず、ついにパソコンもアウトとなって、新しい PC での対応に大わらわ。和鉄の道掲載記事の新しい収蔵庫として　infokkkna2.com サーバーを立ちあげ、データー整理収蔵を始めています。　こんなこともあって、歳初めにも関わらず、新しい掲載記事をホームページに掲載できずでした。　まだ、すっきりサーバー運用手席ておらず、新しい掲載してのサーバー運用できていませんが、お許しください。

２０２２年2月　歳初めの掲載記事を整理しつつ　　From Kobe　Mutsu Nakanishi

From Kobe 令和4年　如月　もうすぐ春が・・・・

令和4年2月　如月　もうすぐ春が・・・・　2022.2.11.
毎日散歩　冬から春へ2022年2月　　澄み渡る空　きらきら光る須磨の海
久しぶりに大阪湾を眺めたくなって　風早乗越から高取山に登りました

2022.2.11.　高取山山頂 高取神社より東　神戸の街越しに大阪湾遠望　すっきり澄み渡る大阪湾岸遠望は澄みきった冬のたまもの
大阪湾の背後　大阪から堺・和泉の沿岸続く背後に南北に連なる生駒山から奈良の山並みが見える
左端奥に六甲の山並みの裾に広がる神戸の市街地　海には神戸港を形成する六甲アイランド・ポートアイランドそして神戸空港島が浮かぶ

From Kobe　2月
神戸籠り近況の便り　令和４年２月　如月　もうすぐ春が・・・・・
2022.2.22.　Mutsu Nakanishi

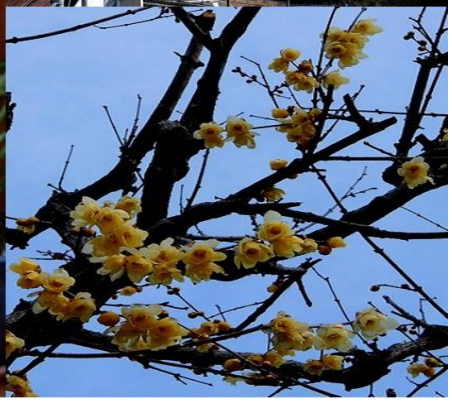
未だにコロナ禍収束が進まぬ中で迎えた令和4年
神戸では本当に身近にコロナ感染・濃厚接触の話が伝わってきて、街歩きも控える毎日、
本当に"何かええことないいかなぁ"と。
厳しい年になりそうですが、お互い元気ださねばと気持ちだけは前向いて。
厳しい寒さ　日本海側では大雪がつづきましたが、いかがでしょうか…
でも　2月になって春の兆し
今年は水仙が早くから咲きだしたものの、年の初めに黄色い大輪の花を咲かせる福寿草が咲かず、
また蝋梅の花も遅れ、心配しましたが、今庭では　満開の蝋梅にサクラソウも咲きだし、
梅の便りも聞かれるようになり、もう春がすぐそこに……
昨秋は踵骨折のリハビリに明け暮れ。つぎは免許更新の記憶力検査に四苦八苦やっとパス。
免許更新はできたものの片目見えてないとイエローカード。
飛び込んだ近くの眼科医は「もうあかんかもしれが、手術する？　」と懐疑的。
手術スケジュール中々とれぬと聞いて　1月27日せねばと手術完了。
ホンマに良く見えるようになり、よかったのですが、毎日点眼四回
そして過度の運動・山登りはあかんと医者が言う。もう大変です！
でも手術後3週間検診も無事パス。そろそろと近くの里山歩きも再会。
この歳になれば　誰もが何処か医者の世話に！
入院も経験して　同年配の数多くの人たちを見て、つくづく健康で歩き回れることに感謝せねばと。
家内が言うには、次は耳やなぁ…と。でもまだ口だけは達者です！
そんな神戸籠りの毎日　おかしいとおもいつつ　送られてきたメールに好奇心でちょっとボタン押して、
virus・マルウェア感染。ブックパソコンに続いて、だましだまし使っていたデスクトップもアウト。
もう街になくなりつつあるデスクトップPCを慌てて購入する羽目に。
やっと普通にPC使えるように……
パソコンメールに仕組まれたマルウェア　くれぐれもご注意ください。　好奇心でリンク開かぬよう。

幸い2月7日にモデルナによる3回目のワクチン接種も完了。
例年の2月のスケジュール　確定申告も17日無事化完了　ゆっと歩き始められるぞと。
久しぶりに澄み渡る冬ばれの一日　大阪湾の景色を眺めたくて自宅のすぐ南　高取山へ
また2月20日には須磨の弘法さん（須磨寺弘法市20&21　阪神間ではお大師さんと呼ぶ ）へ買い出しに。
須磨寺境内の梅も満開に……。
地球環境激変の厳しい時代　低炭素にも協力せねば。 四季がはっきりした日本の春がもうそこまで
ありがとうございます　j毎日をお元気で　　GOT be with you!!
2022.2.22.　Mutsu　Nakanishi

令和４年２月如月〔如月〕
もうすぐ　春です

2月後半 接種1日100万回
3回目 自治体に協力要請

令和４年２月如月〔如月〕
いまだコロナ収束見通せず　オブシロン株大流行の中で
日本海側の各地で大雪に見舞われた冬
冬と春が交錯する中でやっと春の兆し
世相は一段と厳しさが増す日々　コロナに負けないで!!
もうすぐ春です
花言葉は「慈しみ」「ゆかしさ」「先導」
一つ一つの花に花言葉を探す
今年は咲き始めるのが随分遅れましたが、
澄み渡る空をバックに美しく
春迎えの花です
2022.2.8. 蝋梅



2022.2.11.　高取山山頂 高取神社より東　神戸の街越しに大阪湾遠望　すっきり澄み渡る大阪湾岸遠望は澄み切った冬のたまもの
大阪湾の背後　大阪から堺・和泉の沿岸続く背後に南北に連なる生駒山から奈良の山並みが見える
左端奥に六甲の山並みの裾に広がる神戸の市街地　海には神戸港を形成する六甲アイランド・ポートアイランドそして神戸空港島が浮かぶ

若草の丘から眺める南側　正面　高取山
若草の丘の山の間から　くっきりと大阪湾対岸がみえ、今日の散歩は高取山から大阪湾を眺めることに

妙法寺川の流れ下る窪地　車田園地　　2022.2.11

▲高取山
20220211 毎日散歩　風早乗越から高取山へ　澄み渡る須磨の海
神戸市立若草小
神戸星城高
神戸市立妙法寺小
神戸妙法寺郵便局
神戸市立横尾中
南白川台ハイツ
▲高取山
グレーシア須磨 アルテピア III番街-2
神戸横尾郵便局

▲摩耶山
▲再度山
▲菊水山
神戸港
しあわせの村 芝生広場
しあわせの村
神戸拘置所
神戸市立ひよどり台小
カインズ神戸 ひよどり台店
北山腹展望所
風早乗越
飛竜寺
▲高取山
20220211 毎日散歩　風早乗越から高
北須磨ドライビング スクール
車田園地
兵庫県警察本部 警備部機動隊
神戸市立白川小
北須磨病院
神戸市立妙法寺小
Google Earth

高取山から北に延びで神戸市須磨区/長田区を分ける鵯越の尾根筋の乗越　風早乗越東の長田区　2022.2.11.
丸山の谷筋に広がる住宅地の北側に西六甲　鵯越・菊水山・鍋蓋山・再度山・摩耶山の山々が連なる
この乗越の南側すぐに高取山があり、この坂の下から北へ丸山・鵯越・菊水山を経て六甲に続く西六甲の縦走路が伸びている。　冬晴れの午後、すっきりと西六甲の山並みがよく見える

高取山北山腹 飛竜寺境内から眺める鵯越　2022.2.11.
飛竜寺の墓園越左西側　鵯団地・名谷ニュータウン　右東側　丸山団地・鵯越の峠へ登る山麓バイパス

高取山北山腹 飛竜寺境内から高取山北山腹端にある東展望所の横で六甲縦走路に出る　すぐ南山腹側　大阪湾側高取神社の石段です
2022.2.11.

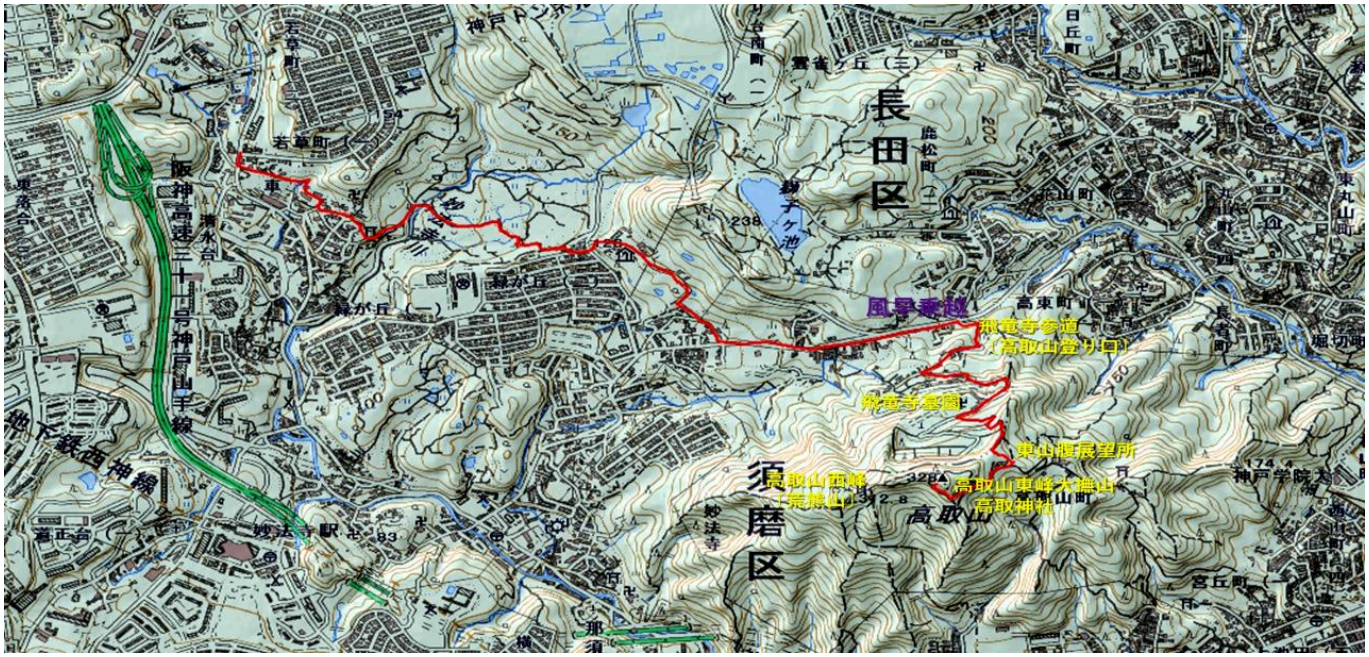
2022.2.11.　正面に堂々とした姿で座る摩耶山　その手前下には丸山の谷を埋め尽くす長田の街
高取山北山腹から、東山腹へ回りこんで、東展望所に出る。
風早乗越から高取山の北山腹　飛竜寺の境内を抜けて高取山山頂へ向かういつもの散歩道の東展望所

丸山の谷の中を東西に山麓バイパスが駆け抜けてゆくのが見える。
また、直ぐ、神戸電鉄の電車が鵯越へ登り、さらに北の菊水山のトンネルをぬけて、鈴蘭台から
摩耶山の裏側に回り込んで、有馬へぬけてゆく。
神戸電鉄が登山電車と実感できるすごい場所　また、この摩耶山の裏側にも神戸裏六甲の街並みが隠れている

摩耶山
再度山
鍋蓋山
菊水山
高取山
2022.2.11. 正面に堂々とした姿で座る摩耶山 その手前下には丸山の谷を埋め尽くす長田の街
高取山北山腹から、東山腹に回りこんで 東展望所に出る。
鵯越から高取山の北山腹 飛竜寺の境内を抜けて高取山山頂へ向かういつもの散歩道の東展望所
山麓バイパスが駆け抜けてゆくのが見える。
また 同じく神戸電鉄の電車が鵯越へ登り、さらに北の菊水山のトンネルをぬけて、鈴蘭台から
摩耶山の裏側に回り込んで、有馬へぬけてゆく。
神戸電鉄が登山電車と実感できるすごい場所 また、この摩耶山の裏側にも神戸裏六甲の街並みが隠れている

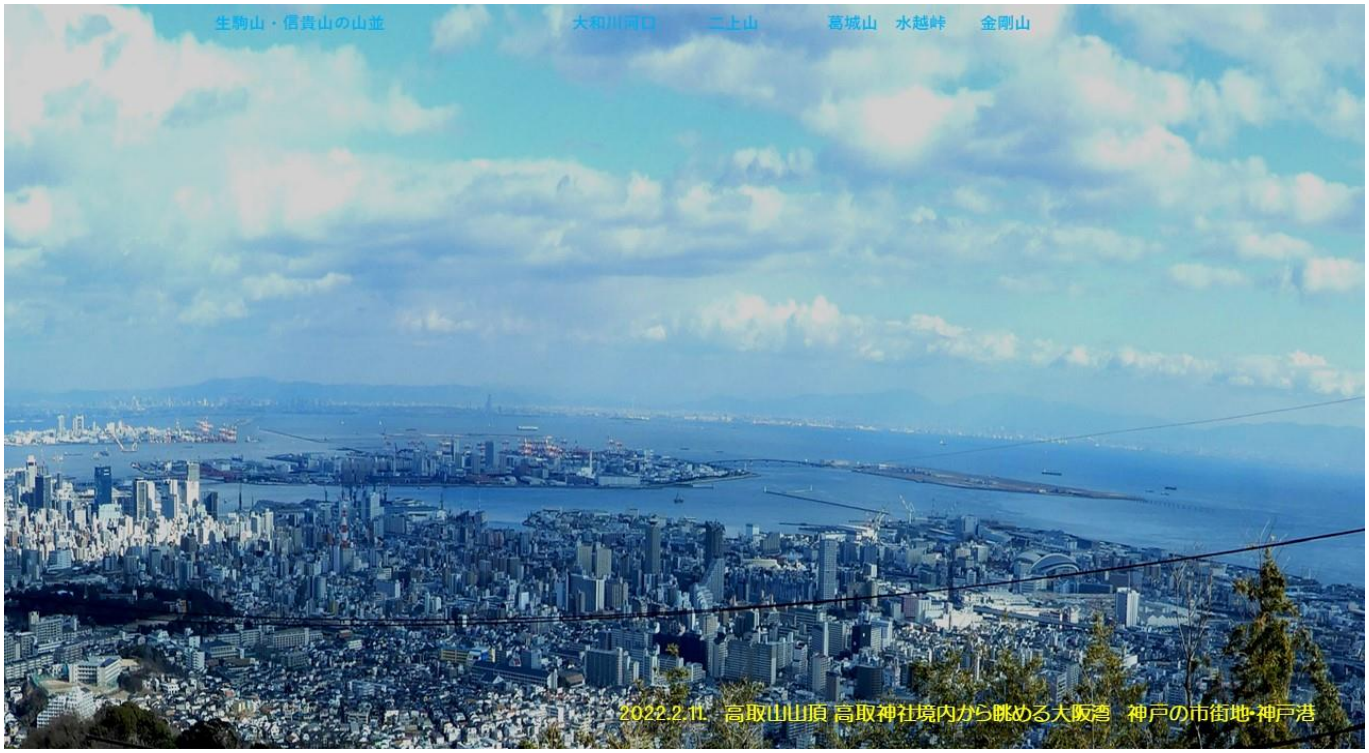
2022.2.11. 高取山東展望所より
摩耶山を背に丸山の崖を登る神戸電鉄の電車
西六甲 摩耶山を背に丸山の崖を上る神戸電鉄

2022.2.11. 高取山東展望所より摩耶山を眺める
西六甲 摩耶山を背に丸山の崖を上る神戸電鉄



2022.2.11.　高取山山頂 高取神社より東　神戸の街越しに大阪湾遠望　すっきり澄み渡る大阪湾岸遠望は澄みきった冬の贈り物
大阪湾の背後　大阪から堺・和泉の沿岸続く背後に南北に連なる生駒山から奈良の山並みが見える
左端奥に六甲の山並みの裾に広がる神戸の市街地　海には神戸港を形成する六甲アイランド・ポートアイランドそして神戸空港島が浮かぶ

2022.2.11.　高取山山頂 高取神社より東　神戸の街越しに大阪湾遠望　すっきり澄み渡る大阪湾岸遠望は澄みきった冬のたまもの
大阪湾の背後　大阪から堺・和泉の沿岸続く背後に南北に連なる生駒山から奈良の山並みが見える
左端奥に六甲の山並みの裾に広がる神戸の市街地　海には神戸港を形成する六甲アイランド・ポートアイランドそして神戸空港島が浮かぶ



2022.2.11.　高取山山頂 高取神社境内から眺める大阪湾　神戸の市街地･神戸港

2022.2.11.　高取山山頂 高取神社境内から眺める大阪湾　南西部　正面右に紀淡海峡　淡路島･明石海峡
この鳥居の上が高取山東峰（三角点のある大撫山）　右鳥居向こうに須磨の海に落ちる西六甲の山並　鉢伏山･旗振山～横尾山が見える･

2022.2.11.　高取山山頂（東峰 大撫山）から眺める大阪湾全景

2022.2.11.　高取山山頂（東峰 大撫山）眺める大阪湾
高取神社境内の北面展望所から望遠鏡で眺める人達が見える

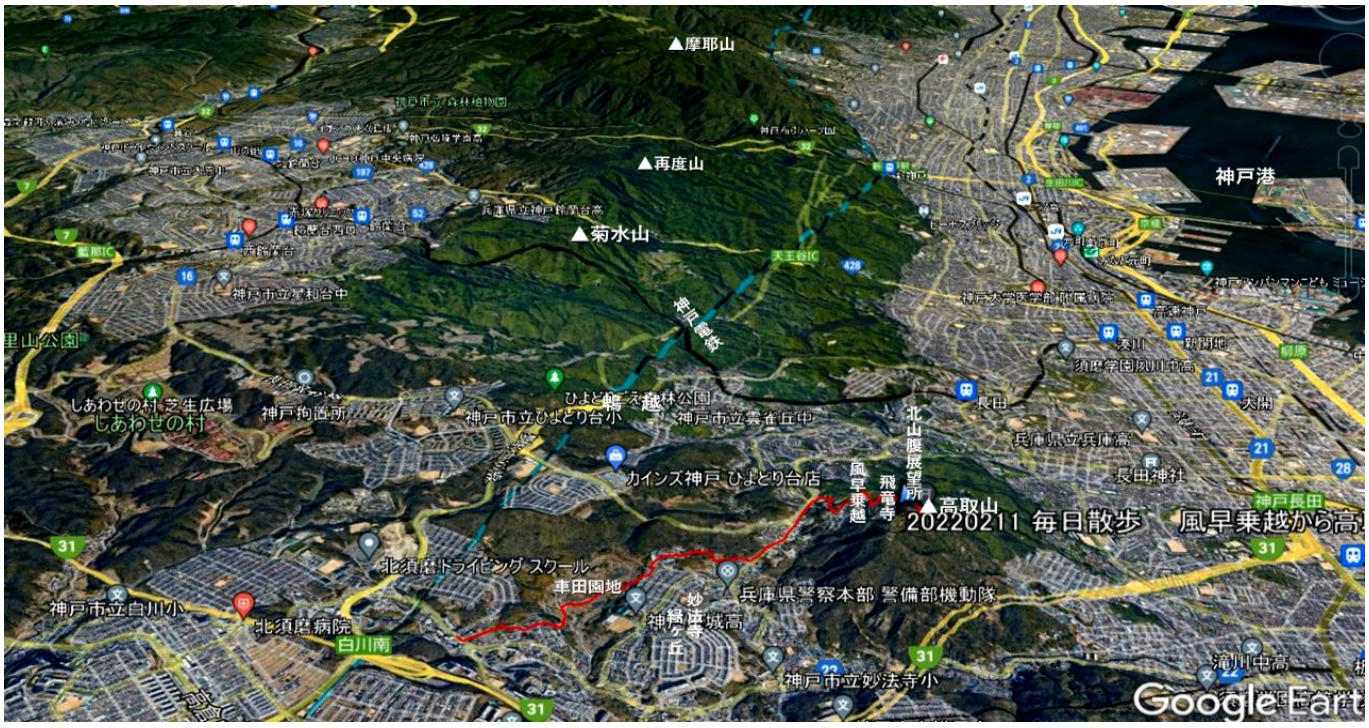
2022.2.11.　高取山山頂より南西に連なる西六甲の山並みし日暮れの陽光を浴びて輝く須磨の海
左手前から須磨アルプス(東山・馬の背・横尾山)の山並が伸び
その後ろに　右から栂ノ尾山・鉄拐山・旗振山・鉢伏山
そして淡路島との間にきらきら輝く須磨浦・明石海峡が見える

2022.2.11・　夕暮れ近く　　須磨浦海岸　鉢伏山・旗振り山の向こうで　陽光を浴びて輝く須磨の海
遠く和歌山と淡路島の間　紀淡海峡に浮かぶ友が島もぼんやり見えている
いつもながら　光り輝く海は好き　でも　うまく写真が撮れずです

2022.2.11　西峰(荒熊山)との鞍部まで行って、今日はもと来た道をゆっくり引き返し
して、再度、霞み渡る大阪湾の景色を楽しみながら帰りました。

2022.2.11.　高取山山頂 高取神社境内から眺める大阪湾　神戸の市街地･神戸港

2022.2.11.　高取山山頂 高取神社より東　神戸の街越しに大阪湾遠望　すっきり澄み渡る大阪湾岸遠望は澄みきった冬のたまもの
大阪湾の背後　大阪から堺･和泉の沿岸続く背後に南北に連なる生駒山から奈良の山並みが見える
左端奥に六甲の山並みの裾に広がる神戸の市街地　海には神戸港を形成する六甲アイランド･ポートアイランドそして神戸空港島が浮かぶ



２月２０日は須磨の弘法さん　　須磨寺境内の梅も満開に‥‥　　2022.2.20.
〔須磨寺弘法市２０&21　阪神間ではお大師さんと呼ぶ〕へ買い出しに。

２月２０日&21日は須磨寺の弘法さんへ買い出しに。境内の梅も満開に‥‥　　2022.2.20.
〔須磨寺弘法市２０&21　阪神間ではお大師さんと呼ぶ〕。

２月２０日&21日は須磨寺の弘法さん…　　2022.2.20.
〔阪神間ではお大師さんと呼ぶ〕。

From Kobe　2月
神戸籠り近況の便り　令和４年２月　如月　もうすぐ春が・・・・・
2022.2.22.　Mutsu Nakanishi

未だにコロナ禍収束が進まぬ中で迎えた令和4年
神戸では本当に身近にコロナ感染・濃厚接触の話が伝わってきて、街歩きも控える毎日、
本当に"何かええことないいかなぁ"と。
厳しい年になりそうですが、お互い元気ださねばと気持ちだけは前向いて。
厳しい寒さ　日本海側では大雪がつづきましたが、いかがでしょうか…
でも　2月になって春の兆し
今年は水仙が早くから咲きだしたものの、年の初めに黄色い大輪の花を咲かせる福寿草が咲かず、
また蝋梅の花も遅れ、心配しましたが、今庭では　満開の蝋梅にサクラソウも咲きだし、
梅の便りも聞かれるようになり、もう春がすぐそこに・・・・・・
昨秋は踵骨折のリハビリに明け暮れ。つぎは免許更新の記憶力検査に四苦八苦やっとパス。
免許更新はできたものの片目見えてないとイエローカード。
飛び込んだ近くの眼科医は「もうあかんかもしれが、手術する？　」と懐疑的。
手術スケジュール中々とれぬと聞いて　1月27日せねばと手術完了。
ホンマに良く見えるようになり、よかったのですが、毎日点眼四回
そして過度の運動・山登りはあかんと医者が言う。もう大変です！
でも手術後3週間検診も無事パス。そろそろと近くの里山歩きも再会。
この歳になれば　誰もが何処か医者の世話に！
入院も経験して　同年配の数多くの人たちを見て、つくづく健康で歩き回れることに感謝せねばと。
家内が言うには、次は耳やなぁ…と。でもまだ口だけは達者です！
そんな神戸籠りの毎日　おかしいとおもいつつ　送られてきたメールに好奇心でちょつとポタン推して、
virus・マルウェア感染。ブックパソコンにつづいて、だましだまし使っていたデスクトップもアウト。
もう街になくなりつつあるデスクトップPC購入する羽目に。
やっと普通にPC使えるように・・・・
パソコンメールに仕組まれたマルウェア　くれぐれもご注意　好奇心でリンク開かぬよう。

幸い2月7日にモデルナによる3回目のワクチン接種も完了。
例年の2月のスケジュール　確定申告も17日無事化完了　ゆっと歩き始められるぞと。
久しぶりに澄み渡る冬ばれの一日　大阪湾の景色を眺めたくて自宅のすぐ南　高取山へ
また2月20日には須磨の弘法さん（須磨寺弘法市20&21　阪神間ではお大師さんと呼ぶ ）へ買い出しに。
須磨寺境内の梅も満開に・・・・。
地球環境激変の厳しい時代　低炭素にも協力せねば。　四季がはっきりした日本の春がもうそこまで
ありがとうございます　j毎日をお元気で　　GOT be with you!!
2022.2.22.　Mutsu　Nakanishi

高齢化が進む中で迎える「ポストコロナ・低炭素社会構築」
大変革の新時代 幕開け
みんながみんな穏やかな暮らしが実現できるよう
スクラム組んで 新しい時代へ　第一歩　前向いて

我が身に降りかかる過酷な産業・経済・社会の大変革時代の幕開け
ポストコロナ令和の産業革命の新時代

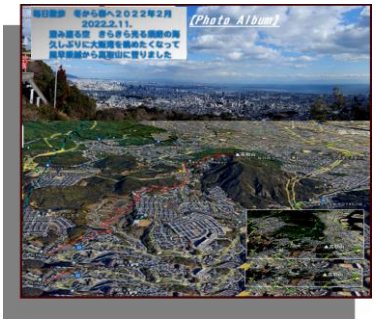
- 地球温暖化をはじめ、自然災害の凶暴化が身近になった今
  地球環境暴走に今歯止めをかけねば　地球人としてのCO2を急増させた責任
- コロナ禍の中で　ずたずたになった社会・生活・経済の復興とコロナ禍の中で
  身近に大きく露呈した働き化の多様性・国際化に名を借りた社会矛盾の是正と
  経済大国の幻影からの脱皮とセーフティネットの再構築
  非正規雇用の急増がもたらした雇用破壊の再建と雇用の創出
- 老齢化社会の進行と向き合う日本の構築と若者の政治・経済へ舵を切れ
  等々

今一度中身の整理と方向付けが急務の日本
頭脳集団 官僚の再教育　政治主導第一主義を木っ端みじんに・・・・
課題山積の中で、取り残されぬよう頑張らねばと気持も新た
どうすればよいのか 人任せではどうにもならぬ厳しい新時代
立ち位置をしっかりと
何はさておき 健康で元気で

【 和鉄の道・Iron Road 】:掲載リンク

■ From Kobe 令和4年２月　如月　神戸もうすぐ春が近況便り
https://infokkkna2.com/ironroad2/dock2/mutsu/fkobeR0402.pdf
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0402.pdf

■ 【風来坊】　【スライド動画】& 【Photo Album】
令和4年2月　如月　もうすぐ春が・・・・　2022.2.11.
毎日散歩　冬から春へ２０２２年2月　　澄み渡る空　きらきら光る須磨の海
久しぶりに大阪湾を眺めたくなって　風早乗越から高取山に登りました



【スライド動画】
https://infokkkna2.com/ironroad2/dock2/walk/22walk01.mp4
【Photon Album】
https://infokkkna2.com/ironroad2/dock2/walk/22walk01.pdf

【From Kobe 2022 弥生3月 】神戸の春便り

収録　Video 映像　ウクライナ讃美歌「ウクライナの祈り」

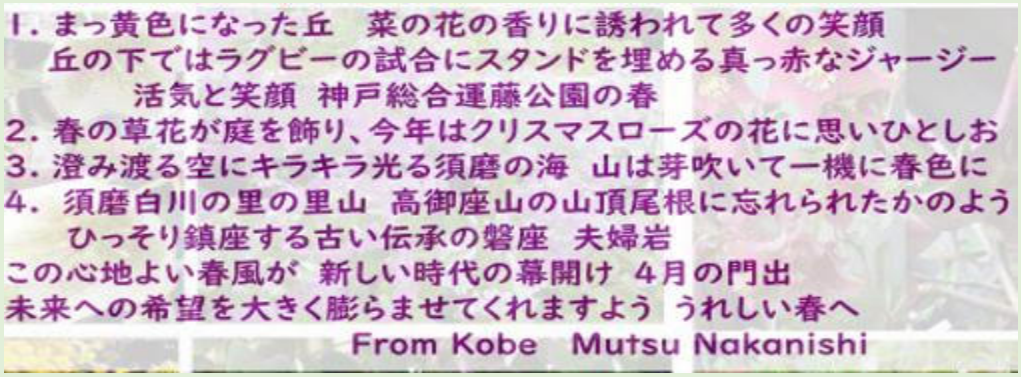
弥生３月　神戸の春便り　　毎日の須磨 walk より

1. 令和４年３月初　春迎え　　2022.2.28

神戸の春迎えの風物詩　いかなご新子漁と須磨離宮公園の梅
今年もコロナ感染が蔓延する中での春迎え
- ■ 神戸の春迎えの風物詩　いかなご新子漁解禁で街も人もぱっと明るく
- ■ 須磨の春迎え　須磨離宮公園梅林　花の香りが漂う梅の花
  白梅・紅梅の香りと足元には水仙・菜の花　須磨春迎えの三春です

2. 令和４年３月半ば　神戸に春到来　海もの山も街も春色に

春うらら　穏やかな春風と日差しに誘われて　神戸須磨の春　毎日 walk より



3. １回／Q 定例の仲間と出会う喜楽館での福丸さん・そうばさん落語二人会

春を意識した明るい落語４席
帰りは新開地のビアホールで　ちょい飲みランチ
ふぅ～と一息　年度替わり４月へ気分爽快　うれしい春の会

◎ ウクライナ讃美歌　ウクライナの平和の祈り

◆ PDF　弥生３月　神戸の春便り　　毎日の須磨 walk より
【Photo　Album】https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0403MarchSumaweb.pdf
【スライド動画】　https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0403MarchSuma.mp4
◎ ウクライナ讃美歌　ウクライナの平和の祈り
【youtube Video】https://www.youtube.com/watch?v=eqLcQJlt-Bk

From Kobe 2022

弥生３月　神戸の春便り　　毎日の須磨 walk より

1. 令和４年３月初　春迎え　　2022.2.28

神戸の春迎えの風物詩　いかなご新子漁と須磨離宮公園の梅
今年もコロナ感染が蔓延する中での春迎え

２月２８日神戸に春を告げるいかなご新子(稚魚)漁が解禁されて、神戸の街には春の風物詩　いかなごのくぎ煮の活気と明るい顔が戻ってきました。　今年の確定申告も何とか済ませて万々歳
でも　いかなご漁はまだまだ最盛期には程遠く、大阪湾は不良で今年もすぐ休漁に。
明石海峡西の播磨灘ではかつての豊漁からは程遠いのですが、漁獲回復傾向で漁が続けられ、高値ですが、魚屋やスーパーには新子が出回り、神戸の街には春の風物詩　いかなごのくぎ煮を作るにおいとともに活気と笑顔が戻ってきました。
また　１月の寒波の影響か遅れていた梅の花も咲きだし、うれしい春迎え
収束の兆しが見えだしたコロナもこのまま収束してくれればとはみんなの願い。
はやくコロナから解放されたいなぁ。高齢者３回目の接種は３月７日と決まり、ほっと一安心。
ハイキングなどはストップと止められていた白内障の経過観察も順調で、無理はできませんが、毎日 walk に励んでいます。
気がかりはコロナ庭かけてのロシアのウクライナ侵攻が始まり、ウクライナが戦場になりつつあること。ロシアはNO WAR 即刻侵略停止を。

2. 令和４年３月半ばになって　神戸に春到来

春の草花が咲き始めた３月　澄み渡る空に里山は芽吹き、春霞の中できらきら光る須磨の海
まだまだ　厳しいコロナ禍の中ですが、あたたかな日差しに誘われてうれしい春の訪れ

遠くへ出かけられませんが、我が家の庭も春の花で華やか
近くの総合運動公園の丘は菜の花でまっ黄色　笑顔の家族が菜の花の中に埋まってる。
また春のスポーツシーズン開幕で、ジャージ姿で歩く若者たちの姿に元気をもらう。
野山は日に日に芽吹いて春色に　山から眺める大阪湾は澄み渡り、心地よい春の風
いよいよ　神戸に春到来　うれしい春便りを届けます
医療従事者・高齢者の３回目のワクチン接種も順調　若者たちへのワクチン接種も始まり、感染重症者の数も逼迫せず、なんとかコロナ収束の道がみえだし、コロナの蔓延防止例も解除へ舵を切る
でも　疲弊しきった社会・経済の立て直し　そして雇用の回復はまだまたこれから・・・・
厳しい春ですが、前向いて元気に立ち向かわねばと。
一方　ロシアのウクライナ侵攻　ますます激しく、知人が送ってくれたウクライナへの祈りの youtube Video に涙する。
３月１９日 １回／Q 定例の仲間と出会う喜楽館での福丸さん・そうばさん落語二人会。
春を意識した明るい落語４席　帰りは新開地のビアホールで　ちょい飲みランチ　ふぅ～と一息
４月　年度替わりに向かううれしい春の会でした。

勝手気ままな風来坊　神戸からの春便り
スライド動画と Photo Album にまとめてお送りします。
いつもながらの勝手気ままな春便り　今年の桜はどうでしょうか・・・・

高齢老化を日に日に感じる日々ですが、お互い無理せず前向いて　頑張りましょう
God be with You !!　また No WAR　ウクライナの人たちの平和を祈ります

2022.3.22.　　From Kobe　Mutsu Nakanishi

【　2022弥生３月　神戸の春　Photo Album 】

弥生３月　神戸の春便り　　毎日の須磨 walk より

1. 令和４年３月初　春迎え　　2022.2.28

神戸の春迎えの風物詩　いかなご新子漁と須磨離宮公園の梅
今年もコロナ感染が蔓延する中での春迎え
■ 神戸の春迎えの風物詩　いかなご新子漁解禁で街も人もぱっと明るく
■ 須磨の春迎え　須磨離宮公園梅林　花の香りが漂う梅の花
白梅・紅梅の香りと足元には水仙・菜の花　須磨春迎えの三春です

2. 令和４年３月半ば　神戸に春到来　海もの山も街も春色に
春うらら　穏やかな春風と日差しに誘われて　神戸須磨の春　毎日 walk より

1. まっ黄色になった丘　菜の花の香りに誘われて多くの笑顔
丘の下ではラグビーの試合にスタンドを埋める真っ赤なジャージー
活気と笑顔 神戸総合運動公園の春
2. 春の草花が庭を飾り、今年はクリスマスローズの花に思いひとしお
3. 澄み渡る空にキラキラ光る須磨の海 山は芽吹いて一機に春色に
4. 須磨白川の里の里山 高御座山の山頂尾根に忘れられたかのよう
ひっそり鎮座する古い伝承の磐座 夫婦岩
この心地よい春風が 新しい時代の幕開け 4月の門出
未来への希望を大きく膨らませてくれますよう うれしい春へ
From Kobe　Mutsu Nakanishi

3. １回／Q 定例の仲間と出会う喜楽館での福丸さん・そうばさん落語二人会
春を意識した明るい落語４席
帰りは新開地のビアホールで ちょい飲みランチ
ふぅ～と一息　年度替わり４月へ気分爽快　うれしい春の会

◎ ウクライナ讃美歌　ウクライナの平和の祈り

◆ PDF　弥生３月　神戸の春便り　　毎日の須磨 walk より
【Photo　Album】
【スライド動画】
◎ ウクライナ讃美歌　ウクライナの平和の祈り
【youtube Video】https://www.youtube.com/watch?v=eqLcQJlt-Ek

弥生３月　神戸の春便り　　毎日の須磨 walk より

1. 令和４年３月初　春迎え　　2022.2.28
神戸の春迎えの風物詩　いかなご新子漁と須磨離宮公園の梅
今年もコロナ感染が蔓延する中での春迎え

２月２８日神戸に春を告げるいかなご新子(稚魚)漁が解禁されて、神戸の街には春の風物詩　いかなごのくぎ煮の活気と明るい顔が戻ってきました。　今年の確定申告も何とか済ませて万々歳
でも　いかなご漁はまだまだ最盛期には程遠く、大阪湾は不良で今年もすぐ休漁に。
明石海峡西の播磨灘ではかつての豊漁からは程遠いのですが、漁獲回復傾向で漁が続けられ、高値ですが、魚屋やスーパーには新子が出回り、神戸の街には春の風物詩　いかなごのくぎ煮を作るにおいとともに活気と笑顔が戻ってきました。
また　１月の寒波の影響か遅れていた梅の花も咲きだし、うれしい春迎え
収束の兆しが見えだしたコロナもこのまま収束してくれればとはみんなの願い。
はやくコロナから解放されたいなぁ。高齢者３回目の接種は３月７日と決まり、ほっと一安心。
ハイキングなどはストップと止められていた白内障の経過観察も順調で、無理はできませんが、毎日 walk に励んでいます。
気がかりはコロナ庇かけてのロシアのウクライナ侵攻が始まり、ウクライナが戦場になりつつあること。ロシアは NO WAR 即刻侵略停止を。

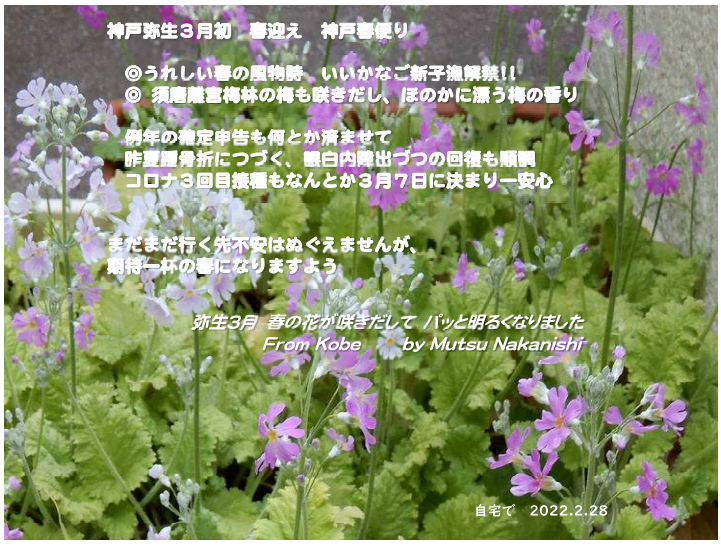
2. 令和４年３月半ばになって　神戸に春到来
春の草花が咲き始めた３月　澄み渡る空に里山は芽吹き、春霞の中できらきら光る須磨の海
まだまだ　厳しいコロナ禍の中ですが、あたたかな日差しに誘われてうれしい春の訪れ

遠くへ出かけられませんが、我が家の庭も春の花で華やか
近くの総合運動公園の丘は菜の花でまっ黄色　笑顔の家族が菜の花の中に埋まってる。
また春のスポーツシーズン開幕で、ジャージ姿で歩く若者たちの姿に元気をもらう。
野山は日に日に芽吹いて春色に　山から眺める大阪湾は澄み渡り、心地よい春の風
いよいよ　神戸に春到来　うれしい春便りを届けます
医療従事者・高齢者の３回目のワクチン接種も順調　若者たちへのワクチン接種も始まり、感染重症者の数も逼迫せず、なんとかコロナ収束の道がみえだし、コロナの蔓延防止例も解除へ舵を切る
でも　疲弊しきった社会・経済の立て直し　そして雇用の回復はまだまだこれから・・・・
厳しい春ですが、前向いて元気に立ち向かわねばと。
一方　ロシアのウクライナ侵攻　ますます激しく、知人が送ってくれたウクライナへの祈りの youtube Video に涙する。
３月１９日 １回／Q 定例の仲間と出会う喜楽館での福丸さん・そうばさん落語二人会。
春を意識した明るい落語４席　帰りは新開地のビアホールで ちょい飲みランチ　ふぅ～と一息
４月　年度替わりに向かううれしい春の会でした。

勝手気ままな風来坊　神戸からの春便り
スライド動画と Photo Album にまとめてお送りします。
いつもながらの勝手気ままな春便り　今年の桜はどうでしょうか・・・・

高齢者化を日に日に感じる日々ですが、お互い無理せず前向いて　頑張りましょう
God be with You !!　また No WAR　ウクライナの人たちの平和を祈ります

2022.3.22.　　From Kobe　Mutsu Nakanishi



3月1日 神戸に春を告げる「いかなごのシンコ(稚魚)漁」解禁!!
神戸の街には 春の風物詩 いかなごくぎ煮の活気と明るい顔が戻ってきました

明石海峡大橋を境とする東側大阪湾では漁獲な不漁
西側播磨灘では資源回復が進む状況

神戸では初日　昨年並みの高価格であったが、午後も引き続き入荷し価格も下がり
落ち着いた荷動きに、一安心。まだまだ高いが　いかなごを買い求める人の列も
○大阪湾の貧栄養化は漁獲不良により3･4･5日休漁となり、今後の状況をみる
一方　播磨側は引き続き出漁が続いています。
神戸の街に出回るいかなご新子の値段も2日以降　以前ほどではないが、手の出る価格での売り出しが続いて、新子を買い求める明るい顔が続いている。

瀬戸内に春を告げるイカナゴのシンコ（稚魚）漁が１日、大阪湾と播磨灘で解禁された。
６年連続の不漁予報が出る中、初日の水揚げは回復の途上を感じさせるスタートとなった。
ここ数年は不漁で、今年も兵庫の漁港の取引では平年の数倍の高値が付いた。
大阪湾で操業する神戸市漁協の漁師らは夜明け前、垂水漁港などから約７０隻に乗って出港。
午前６時２０分、一斉に網を投げ入れた。
神戸市垂水区の垂水漁港では午前８時ごろから漁船が戻り、水揚げの量は昨年を下回ったが、２年前よりは多い約６トンだった。
入札では、仲買人らが体長４センチほどのシンコを品定め。１籠（２５キロ）６～８万円台と、約１０年前の数倍の値が続いた。漁師の福田昌宏さん（３２）は「値段が高いと消費者に届きにくいので微妙な気持ち」と。

大阪湾に流れ込む川のほとんどが自然流でなく、沿岸もコンクリート護岸で、プランクトンが栄養とするリン・チッソが極端に少なくなっている。　一方　播磨側の川はまだまだ田園地帯の泥を含む自然流が多く、また　ため池の意図的放流や沿岸の藻／あし等の育成も始まっている。過剰富栄養による赤潮発生は収まったが、負栄養化が一番先にいかなご漁に出てきた。　さあ　今後どうなるのでしょうか・・・・・

神戸の春の風物詩　いかなご新子漁
3日夜はいかなご新子の「くぎ煮」・「天ぷら」・「釜上げ」などなどの
うれしい食卓。一杯やって　神戸に春到来。
ついつい飲みすぎに・・・・・・・

我が家でも以前のようにいかなごくぎ煮を知人等に送ることはできなくなりましたが、神戸の春をもたらすいかなご漁　3日夜の食卓にはいかなごのくぎ煮・天ぷら・釜上げでいっぱいやりました。
笑顔で一献　うれしい夕食　ついつい飲みすぎになりました。
家内は「これで我が家のいかなごはおしまい」と。
でもやっぱり　神戸の春はいかなごがなと・・・・

須磨離宮公園で　2022.2.28

梅の花が満開に
須磨離宮公園梅林で　2022.2.28.

須磨離宮公園で　2022.2.28

梅の花が満開に　須磨離宮公園梅林で　2022.2.28.

梅の花が満開に　須磨離宮公園梅林で　2022.2.28.

梅の花が満開に　須磨離宮公園梅林で　2022.2.28

梅の花が満開に　須磨離宮公園梅林で　2022.2.28.

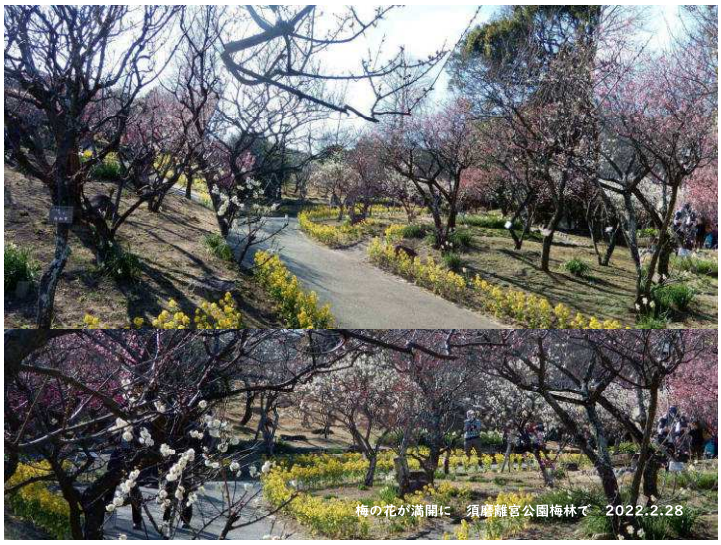
梅の花が満開に　須磨離宮公園梅林で　2022.2.28

梅の花が満開に　須磨離宮公園梅林で　2022.2.28

梅の花が満開に　須磨離宮公園梅林で　2022.2.28

梅の花が満開に　須磨離宮公園梅林で　2022.2.28

梅の花が満開に　須磨離宮公園梅林で　2022.2.28


梅の花が満開に　須磨離宮公園梅林で　2022.2.28

菜の花が咲きだした神戸総合運動公園　コスモスの丘　2022.3.5.

うららかな春の日差しに誘われて
菜の花が咲きだした神戸総合運動公園　コスモスの丘　2022.3.5.

菜の花が咲きだした神戸総合運動公園　コスモスの丘　2022.3.5.

【Photo Album】 From Kobe 弥生3月 うれしい神戸春便り
弥生3月 神戸の街にも春到来　　毎日のwalkより
春の草花が咲き始めた3月 澄み渡る空に里山は芽吹き、霞の中でキラキラ光る海
まだまだ 厳しいコロナ禍の中ですが、暖かな日差しに誘われて、うれしい春の訪れです

菜の花が咲きだした神戸総合運動公園 コスモスの丘 2022.3.5.

須磨　神戸女子大横て　2022.2.28

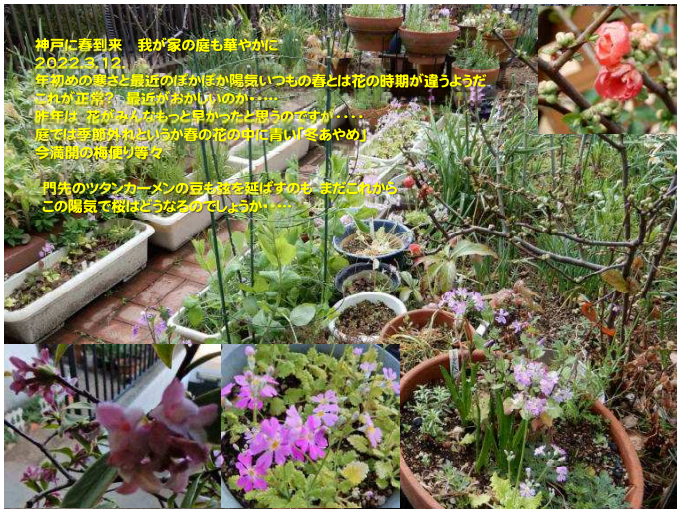
梅の花が満開に　須磨離宮公園梅林て　2022.2.28

2022.3. 12. 神戸総合運動公園 コスモスの丘で

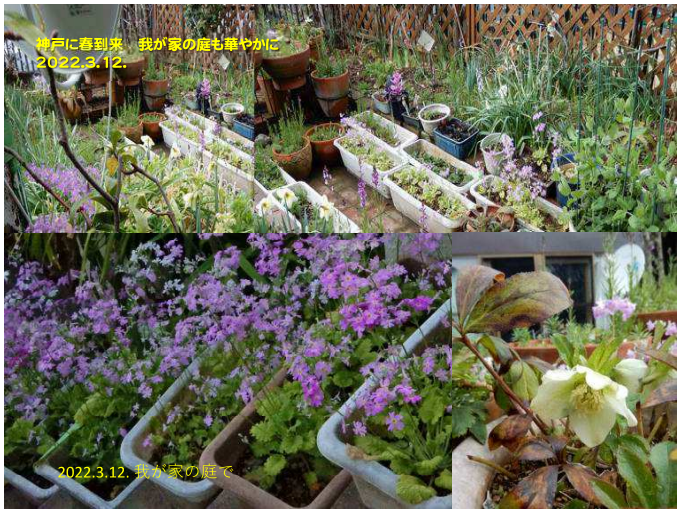
2022.3. 12. 神戸総合運動公園 コスモスの丘で

2022.3. 12. 神戸総合運動公園 コスモスの丘で

2022.3. 12. コスモスの丘の登り口 神戸総合運動公園 ユニバー競技場で
ラグビートップワン スティーラーズ対リコー戦
いよいよスポーツの春 コロナもなんとか このまま収束してほしい。


神戸に春到来 我が家の庭も華やかに
2022.3.12.
年初めの暖さと最近のぽかぽか陽気いつもの春とは花の時期が違うようだ
これが正常？ 最近がおかしいのか・・・・
昨年は、花がみんなもっと早かったと思うのですが・・・・
庭では季節外れというか春の花の中に青い「冬あやめ」
今満開の梅便り等々
門先のツタンカーメンの豆も芽を延ばすのも まだこれから
この陽気で桜はどうなるのでしょうか・・・・

2022.3. 12. 神戸総合運動公園で ラグビートップワン スティーラーズ対リコー戦
いよいよスポーツの春 コロナもなんとか このまま収束してほしい。


神戸に春到来 我が家の庭も華やかに
2022.3.12.
2022.3.12. 我が家の庭で

我が家のクリスマスローズ 赤いクリスマスローズは光の加減で黒ユリみたいにも・・
みんな つつましく下向いて咲いてるので、下からデジカメ差し入れて撮りました

クリスマスローズ 花言葉は「いたわり」「慰め」
我が家の庭でも 精一杯咲いています

我が家のクリスマスローズ 2022.3.12.
みんな つつましく下向いて咲いてるので、下からデジカメ差し入れて撮りました

暖かい日差しの中で　山の上から須磨の海を眺める 2022.3.14.
澄み渡る空とと春霞が交錯する春の須磨の海の絶景

大阪湾沿岸と淡路島に挟まれた紀淡海峡　旗振り山より

須磨浦から明石海峡 淡島全景 旗振り山より

キラキラ輝く春の明石海峡　旗振り山 2022.3.14.

西神戸・明石の街の向こうに キラキラ輝く春の播磨灘 旗振り山 2022.3.14.

鉄拐山山頂より眺める六甲連山全景 2022.3.14.

鉄拐山より眺める大阪湾沿岸がくっきりと　久しぶりに 二上山・大阪国際空港も眺められました 2022.3.14.

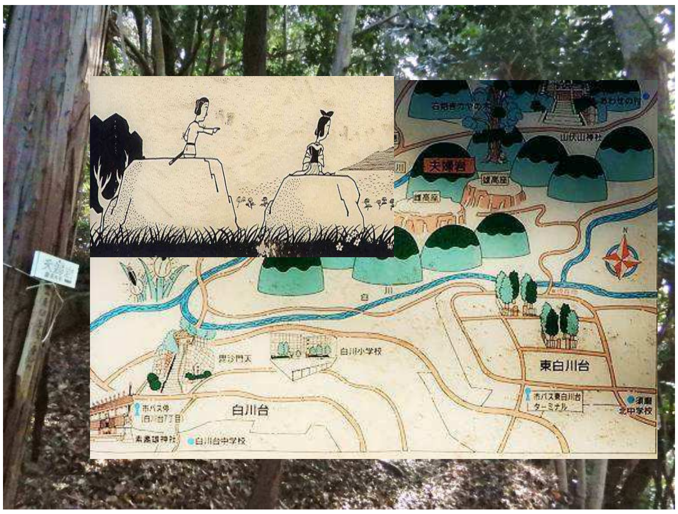
鉄拐山より眺める西六甲・東六甲の山並み 左奥には丹生山塊　澄み渡る春の贈り物 2022.3.14.

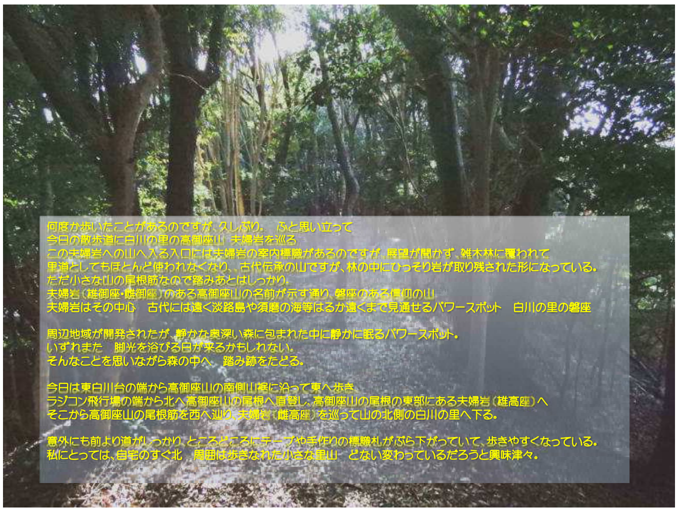
自宅のすぐ北側　今はほとんど人が入らぬ白川高御座山静かな森に包まれた尾根筋に
60畳と40畳の平坦な巨岩磐座が今は忘れられたかのようにひっそり眠っている
古代播磨/摂津の国境近く 今風に言えば忘れられたパワースポット
白川峠 白川の里 古代伝承の山 高御座山の夫婦岩〔雄高座・雌高座〕

須磨　白川峠　　高御座山　夫婦岩・雄高座　　須磨　白川峠　　高御座山　夫婦岩・雌高座
2009.5.20.walk Photo

【参考】「風来坊2009」
神戸　白川峠　夫婦岩　摂津／播磨国境の証し??　裏山の白川峠に磐座を訪ねる
https://infokkkna.com/ironroad/2009htm/walk6/0906shirakawa00.htm

久しぶりに樹木に包まれ、ひとけのない里山 高御座山
山中の古代伝承の残る夫婦岩を訪ねました。2022.3.16.
古い白川の里の里山　高御座山　その山上尾根に　東西に並ぶ二つの平らな巨石「高座の岩」
東の雄岩は六十畳、西の雌岩は四十畳敷の古い磐座　白川の里のパワースポット
イザナギ・イザナギがこの山から南の海・淡路島を眺めたという





何度か歩いたことがあるのですが、久しぶり。　ふと思い立って
今日の散歩道に白川の里の高御座山　夫婦岩を巡る
この夫婦岩への山へ入る入口には夫婦岩の案内標識があるのですが、展望が聞かず、雑木林に覆われて
里道としてもほとんど使われなくなり、、古代伝承の山ですが、林の中にひっそり岩が取り残された形になっている。
ただ小さな山の尾根筋なので踏みあとはしっかり。
夫婦岩（雄御座・雌御座）のある高御座山の名前が示す通り、磐座のある信仰の山
夫婦岩はその中心　古代には遠く淡路島や須磨の海等はるか遠くまで見通せるパワースポット　白川の里の磐座

周辺地域が開発されたが、静かな奥深い森に包まれた中に静かに眠るパワースポット。
いずれまた　脚光を浴びる日が来るかもしれない。
そんなことを思いながら森の中へ　踏み跡をたどる。

今日は東白川台の端から高御座山の南側山裾に沿って東へ歩き、
ラジコン飛行場の端から北へ高御座山の尾根へ直登し、高御座山の尾根の東部にある夫婦岩（雄高座）へ
そこから高御座山の尾根筋を西へ辿り、夫婦岩（雌高座）を巡って山の北側の白川の里へ下る。

意外にも前より道がしっかり、ところどころにテープや手作りの標識札がぶら下がっていて、歩きやすくなっている。
私にとっては、自宅のすぐ北　周囲は歩きなれた小さな里山　どない変わっているだろうと興味津々。

高御座山の南側山裾に沿って東へ歩き、ラジコン飛行場の端から北へ　尾根筋へ直登
夫婦岩・雄高座へ　踏み跡を辿る。　2022.3.16.午後
そこは樹木に包まれ、静まり返った別世界　すぐ隣には大きな団地や幹線道路があるとは思えぬ

夫婦岩・雄高座へ　雄高座の案内標識前
樹木に包まれて丘の上に巨岩 夫婦岩・雄高座が見える　2022.3.16.

白川夫婦岩　高御座山　広さ60畳といわれる夫婦岩・雄高座　2022.3.16.
かつては淡路島まで見通せたというが、今はひっそり樹木に包まれている

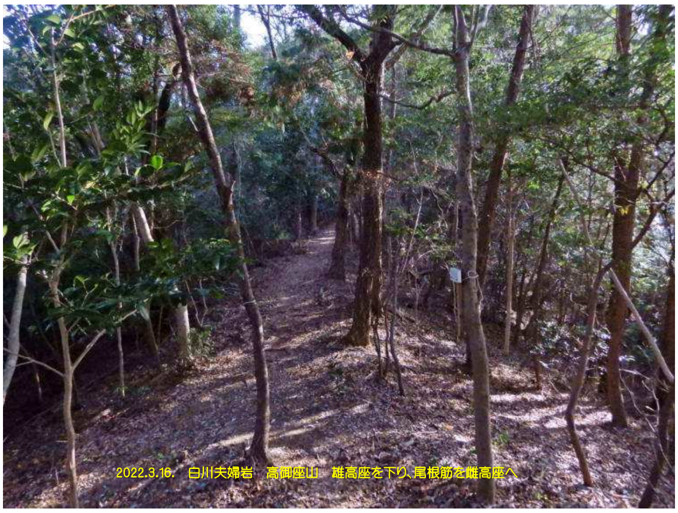
白川夫婦岩　高御座山　広さ60畳といわれる夫婦岩・雄高座　2022.3.16.

この白川峠周辺で表面が平らな岩石や累積地層が数多くみられる理由

かつて、この一帯には古神戸湖と名づけられている巨大な湖があり、現在の神戸市須磨区、北区あたりから三田周辺にまで水をたたえていた。
湖にたまった火山灰がかたまってできた凝灰岩と泥岩、また河原に堆積した砂や礫が固まることによりできた砂岩、礫岩により構成された地層。〔神戸層群〕
このような層状になった地層露出したところがいくつも見られる
基本的には凝灰岩、泥岩、砂岩、礫岩の4層からなっているのが特徴。白い凝灰岩の分厚い地層が幾重にも層状に重なっており、この白川峠周辺は完全な形の植物化石を多く含むことでも知られている。
このような層状に堆積した地層が、風化する中、柔い砂岩や泥岩等が洗い流され、特に尾根筋に連なるいくつもの丘の頂上部等では地層がむき出しになり、層状に堆積した礫・泥岩層が、夫婦岩にみられるような平らたい岩板として数多くみられる。

白川の里　伊川沿いの里道で見つけた地層露出

この高御座山の山中の尾根筋では　夫婦岩だけでなく　丘の頂上周辺等ほかの場所でも
表面が平坦な岩が数多く見つけられる



2022.3.16.　白川夫婦岩　高御座山　雄高座を下り、尾根筋を雌高座へ

2022.3.16.　白川夫婦岩　高御座山　雄高座から雌高座へ

2022.3.16.　白川夫婦岩　高御座山　雌高座　ここからも　視界が開けない

2022.3.16.　白川夫婦岩　高御座山　畳40畳といわれる雌高座

2022.3.16.　白川夫婦岩　高御座山　雌高座を林の中から見上げる

2022.3.16.　白川夫婦岩　高御座山　雌高座をを降りて尾根筋をさらに西へ
やっぱり　海が遠望できれば、本当に素晴らしかっただろうと
今でも少し切り開いて　雄・雌高座を展望台になれば、素晴らしいハイキングコースになるだろう
全く展望が聞かずで、西六甲の縦走路が鉄拐山を巻いていたが、数年前頂上部が整備され、春ミツバツツジ
の咲く大阪湾絶好の展望所になっています。ここも播磨/摂津の国境　素晴らしい展望所になると・

2022.3.16.　白川夫婦岩　高御座山　雌高座からさらに西へ　白川の里へ
この尾根筋の白川の里近く　岩の向こうに見える堂々とした樹木
森の巨人というそうですが、理由は知らず。　まもなく白川の里へ

2022.3.16.　白川夫婦岩　高御座山　雌高座からさらに西へ　白川の里へ
ところどころ現れる尾根のこぶ（尾根張り出しの丘）には幾つも平坦な巨岩が見える

2022.3.16.　白川夫婦岩　高御座山　西へ延び尾根筋の西端近く
森の中　だらだら　どこでも歩けるように
ところどころに紐が巻き付けられているので　歩きやすい。

2022.3.16.　白川夫婦岩　高御座山　西へ延び尾根筋の西端近く
樹木の中を抜けると　先が明るくなり、白川の里　高速道路の金網
この金網に沿って南へ下れば　高御座山の尾根筋の南側へ回り込め
南の白川峠・東白川台へ　　久しぶりの夫婦岩　以前より歩きやすくなったと。

2022.3.16.　白川夫婦岩　高御座山　尾根筋の西端　白川の里からの夫婦岩登り口

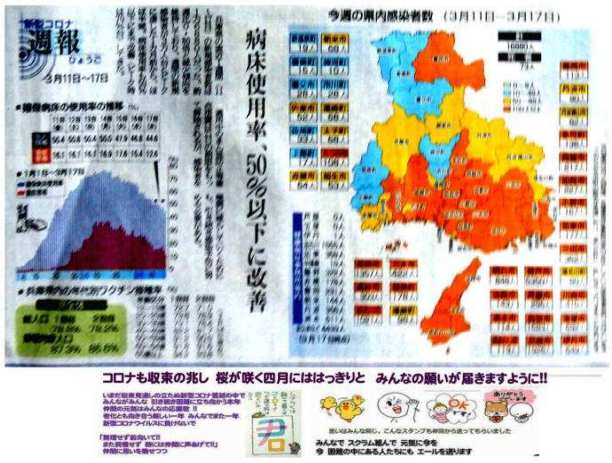
2022.3.16.　白川夫婦岩　高御座山　尾根筋の西端　白川の里からの夫婦岩登り口
金網に沿って南へ白川の里に下って　集落の中に降りて、　白川峠・東白川台へ

山はすっかり春色　山を下って南の東白川台側から眺める白川高御座山頂上部の尾根
Photo 右手の尾根上に樹木に包まれてに夫婦岩（雌高座・雄高座）がある　　2022.3.14.

2022.3.16.　白川夫婦岩　高御座山　尾根筋　　南東側　東白川台登り口周辺より
右手奥の惨状部に夫婦岩がある

山は芽吹いて　すっかり春色　白川の里・白川峠周辺にも春到来　2022.3.14.
山を下って南の東白川台側から眺める白川高御座山頂部の尾根筋

春のぽかぽか陽気に誘われて
久しぶりに樹木に包まれ、ひとけのない里山　高御座山　山中
古代巫女の祭る夫婦岩を訪ねました。2022.3.16.
山もすっかり春色　以前寄り随分歩きやすくなって・・・
山中　樹木に包まれた高座にすわって、耳を澄まして・・・
白川の里の春を感じることができました



兵庫から
「NO WAR」

ロシアのウクライナ侵攻が続く中で
ウクライナに思いを馳せて Stop the War !!
ウクライナの平和への祈り

知人から送られてきた動画です
きれいな祈りの旋律が流れる美しいウクライナの街
理不尽にも次々と 街が破壊され、多くの人の命が奪われてゆく・・・・

美しい旋律と一つ一つの祈りの言葉に涙しました

youtube ウクライナ讃美歌「ウクライナの祈り」
https://www.youtube.com/watch?v=eqLcQJlt-Bk

クリスマスローズ 花言葉は「いたわり」「慰め」
我が家の庭でも 精一杯咲いています

我が家のクリスマスローズ 2022.3.12.
みんな つつましく下向いて咲いてるので、下からデジカメ差し入れて撮りました

【2022 From Kobe 弥生３月　神戸の春便り】
収録　ウクライナ讃美歌「ウクライナへの平和の祈り」

Video youtube　ウクライナへの祈り

Prayer for Ukraine（Молитва за Україну）

ロシアのウクライナ侵攻が続く中で
ウクライナに思いを馳せて　Stop the War !!
ウクライナの平和への祈り

知人から送られてきた動画です
きれいな祈りの旋律が流れる美しいウクライナの街
理不尽にも次々と街が破壊され、多くの人の命が奪われてゆく・・・・
ウクライナの今に涙しています　　Mutsu Nakanishi

■　ウクライナ讃美歌　ウクライナへの祈り　https://www.youtube.com/watch?v=eqLcQJlt-Bk

知人から送られてきたウクライナ讃美歌が静かに流れるVideoに涙しています。
NO WAR　即刻停戦を。　理不尽なプーチンロシアの侵略 ウクライナの街の悲惨な街の現状　そして多数の逃げ惑う市民たちの現状。　もう　他人事はとてもや思えない。　現代にもこんなことがおきるのか・・・・と。
かつて１９８０年代のソ連のモスクワやウラルにへ　ラインパイプの技術PRに何度も訪れた時のあの息苦しい時代の事をまざまざと。プーチンは　あの冷戦時代の盟主に戻ろうとしているのか・・・・・
当時ホテルも限定され、　当時のガス工業省や石油工業省訪問等行動も常に監視付き？　写真撮るのも注意して・・・・
プーチンの秘密警察〔ゲーカーエヌティ〕の通りにも何度も通りました。
でも民衆は楽天・おしとよし。そのギャップからくる重苦しさと何が起こるかわからぬ怖さ。実際には何もなかったのですが・・・・。同盟隣国はみな大変だろうと思った記憶があります。
それから約２０数年を経て、こんなことが起きるなんて。
なにはともあれ、この理不尽さと戦争の恐怖まざまざと。
何とかはやく休戦合意が実現しますように。また、プーチンに核のボタンを押させぬようにせねば・・・・。
他人事ではない。「年寄りのえご　プーチンが命令し、若者が死んでゆく」この選択肢のなさを早く停止させねばと。
何はともあれ、ただただ　即刻ウクライナの惨状が回復されますよう祈りつ続けねば…・

NO WAR　このウクライナ讃美歌がウクライナの街に美しく響き流れるよう　即刻停戦が実現しますように !!

God be with You !!　from Kobe　　2022.3.15.　　Mutsu NMakanishi

3月19日今日は嬉しい落語会
もう10数年3ヶ月に一回「パルモア寄席」を引き継いで喜楽館での「福丸そうば神戸53次2人会」
いつものとおり落語会の後ランチしながら軽く一杯やろうとのメールがはいる。
最近はみんなコロナ疲れでメールも途絶えがち。
願ってもない嬉しいメール。
私と同じく眼の手術をしたKさんほかみんなどうしてるかなぁ　会いたいなぁと思っていた矢先のメール。
ワクチン接種も済ませ、なんとかコロナも収束の兆し、久しぶり春がやってきたと心ウキウキ。
10時30分開演の朝席、縮小座席は常連含め、いつもより多い。みんな街へでて元気な笑い聞きたかったのやˆ_ˆ、
落語は例の如く福丸2席そうば　2席
トップは福丸さん
演題は知らぬがあの寅さんの威勢のいい啖呵売の名セリフが流れるように進む。初めてあの名セリフを最初から終わりまで。こんな落語あったかなぁ‥‥

県内感染者数 なお高水準
「まん延防止」きょうまで

福丸さん　いつのまにこんな落語いつしこんだのだろう?
これは寅さんワールルドやと！みんな笑顔でひきこまれて春一番。
そうばさんも元気いっぱい。ユーモア一杯の嘘つき話「鉄砲勇助」そして「高津の富」
最後は福丸さんのこれも滑稽話そばの大食いが蟒蛇にのみこまれた話「そば清」
大きくは笑えないが、みんな笑いが絶えなず。ほんまにこの時期　うれしい会でした。
終わった後はいつもの新開地エビスのビアホールでちょい飲み?ランチ
今日の話題は落語の話とみんながすませた白内障手術の一席。
尽きることなく2時間　予定時間終了の声掛けで終了。
はよ　コロナが収まって自由になりたいなぁとおもいつつ、久しぶりの会話に気分も爽快
家に帰ると「コロナ蔓延防止が22日解かれるとの報」そしてバスケ観戦の誘いに孫娘の大学卒業式の誘い。
ご無沙汰の栄太郎にもはよ顔出さねば‥‥　いよいよ桜も咲きだして春本番。うれしい春へ気分も新た
願いは一つ　みんな共々日常の穏やかな生活が取り戻せるよう。
God be with You!!　　2022.3.21.From Kobe　Mutsu Nakanishi

弥生３月　神戸の春便り　Link List

◆ PDF　弥生3月　神戸の春便り　　毎日の須磨walkより
【Photo Album】https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0403MarchSumaweb.pdf
【スライド動画】　https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0403MarchSuma.mp4
◎ ウクライナ讃美歌　ウクライナの平和の祈り
【youtube Video】https://www.youtube.com/watch?v=eqLcQJlt-Bk

Fkobe
R0404.pdf

【From Kobe 2022年4月　2022 四季折々　From Kobe 2022

新生の息吹に目を向けて　もう自分たちの時代ではないと知りつつも　厳しい時代を前向いて

◆芽吹きから桜が咲いて一機に新緑へ　西神戸里山の春の絶景

収録1．久しぶりのバスケットボール観戦　奇跡的な一瞬　残分０での逆転劇に出逢いました
収録2．高倉山を越えて行く飛行船に出逢いました

ポストコロナで迎える新時代　激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。
「コロナ対策と経済・雇用の回復への暮らし・雇用・経済の復興」に並行して
もう待ったなし**「人類の危機地球温暖化の歯止め止め　低炭素社会への大転換」**
誰もが避けられぬ経験したことのない
「令和の産業革命　社会・経済の激烈な再編の時代」へのターニングポイント

野山は燃えて新生の息吹に満つ令和4年の春　桜が散ると一機に新緑に
待ってはくれない素晴らしい春景色が映りゆく。
街に目を転じれば、わが身にも厳しい課題山積のポストコロナの新時代
God be with You!! も口癖に　神戸の里山歩きができる幸せの便りです
もう自分の時代ではないと知りつつも、地球人の一員　出来る事を前向いて
ぐちはいうまい　新生の息吹を胸一杯　前向いてと自らをはげます毎日
無理は禁物と頭に入れて　エネルギーの注入　元気に戸外へ飛び出して

コロナ禍の中　やっと収束の兆し　ポストコロナを見据えてきたこの春いろんな事がありました。
中でもウクライナへのロシアの侵略と戦争の現実に、「こんなことが今　わが身の身近で起こるのか・・」と涙する毎日です。
こんなにリアルにまた切実感をもって戦争の脅威がまざまざと。いかにぬるま湯の中にいるかがまざまざと。
激変する地球環境の課題も待ったなし。　否応なしに地球人であることを思い知らされた激動の新時代　立ち止まってはいられない。　お届ける神戸からの春便り　コロナ禍の中で　足慣らしもかねて出かける西神戸の里山歩き。
思わぬ発見もあって　日々変化する素晴らしい春の絶景・春景色。今回の更新はそんな西神戸の移り行く春を　Photo Album と勝手なスライド動画集に。　　ほっと一息　心地良きひととき　皆様のエネルギーの手助けにでもなれば・・・・

2022.4.27.　From Kobe　Mutsu Nakanishi

2022 春　西神戸の里山 春の絶景 Photo Album

1.春の妖精 カタクリの花　西神戸 神出 雌岡山 カタクリの里で　2022.4.6.
2. 年々見られなくなったレンゲ畑　西神戸山麓バイパス　伊川谷小寺の里の田園で 2022.4.18.
3. 本年の桜便り 京都洛北八瀬の山桜と 神戸の街桜 地下鉄大倉山 宇治川楠谷 川沿いの散歩道
◆比叡山の西山麓 洛北八瀬の山桜　四季折々墓参を兼ねて訪れる八瀬ですが、芽吹きの山と桜は初めて 2022.4.
◆神戸の街桜 地下鉄大倉山 宇治川楠谷 川沿いの散歩道　2022.4.5.
4. 神戸フルーツの主生産地 押部谷 性海寺の里山の春景色 2021.4.7.
5. 西六甲縦走路 鉄拐山山腹のミツバツツジ　2022.4.9. & 4.17.
6. 鵯越の道　若草の丘の裏 白川峠から伊川源流をさかのぼってひよどり台へ 4.25.
7. 妙法寺 車集落の田園地で　2022.4.22.

1. 春の妖精 カタクリの花　西神戸 神出 雌岡山 カタクリの里で　2022.4.6.

最近の異常気象やコロナ禍の中で　数年ぶりに出会えた神出雌岡山のカタクリ
数は随分少なくなったと感じましたが、菫や雪割草などや春の野草と一緒に咲く春の妖精「カタクリの花」に出会えてしあわせ。 また、神出カタクリの里復活の取組が成就しますよう願っています。 本当にうれしい出会いになりました　2022.4.6.

私の一番好きな春の花のひとつ
早春 日陰の斜面で真正面に林立して、冷たい風に立ち向かい身を震わせる愛らしい姿に心揺さぶられる。
ずっと毎春 原チャリ走らせ、通った佐用弦谷のカタクリの里へも足が遠のき、またこの里の人たちが守ってきた雌岡山のカタクリ栽培地も高齢化とこのコロナ禍で 花が随分減少し、消えてしまうのか…と。
数年ぶりに訪れ、数は減りましたが、元気な姿が見られました。 また昔のようにカタクリの花が咲き誇る里に復活してほしいと。

2. 年々見られなくなったレンゲ畑　西神戸山麓バイパス　伊川谷小寺の里の田園で 2022.4.18.

年々みられなくなってきた里の原っぱ一面をピンクに染めるレンゲ畑　今年は思いもよらず 毎週末 家内が農家の朝市に出かける伊川谷小寺の里のレンゲ畑　車からはよくわからないのですが、walk のたまもの。
ふと「花かんざしのかわいいチビさん どこから来たの…」の歌を口ずさみつつ、原に寝転んで・・・・
花言葉は「心が和らぐ」「幸福」　レンゲ畑復活の兆し 野原一杯にひろがってほしいなっぁ・・・・

3. 本年の桜便り 京都洛北八瀬の山桜と 神戸の街桜 地下鉄大倉山 宇治川楠谷 川沿いの散歩道

京都洛北八瀬 2022.4.1.

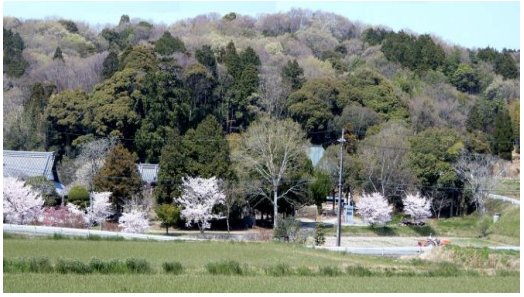
神戸宇治川の散歩道

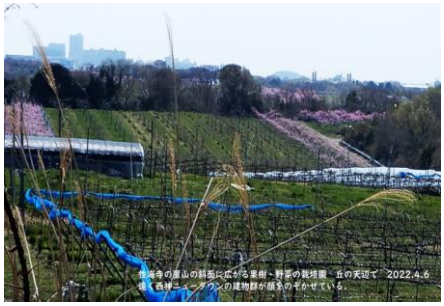
◆ 比叡山の西山麓 洛北八瀬の山桜　何度も四季折々墓参を兼ねて訪れる八瀬ですが、芽吹きの山と桜は初めて 2022.4.1.

◆ 神戸の街桜 地下鉄大倉山 宇治川楠谷 川沿いの散歩道　2022.4.5.

樹勢回復の加療３年目の
神戸の一本桜「奥平野の舞桜」
すぐ上の丘から見下ろす「舞桜」元気に花を咲かせていますが、あの優雅華やかな舞姿を見られるにはまだまだかかりそうです

4. 神戸フルーツの主生産地 押部谷 性海寺の里山の春景色 2021.4.7.





5. 西六甲縦走路 鉄拐山山腹のミツバツツジ

須磨六甲の象徴 今年も新緑の樹林の中で咲く ピンクの三つ葉つつじ 花言葉は「節制」

6. 鵯越の道　若草の丘の裏 白川峠から伊川源流をさかのぼってひよどり台へ

7. 妙法寺 車集落の田園地で　2022.4.22.

妙法寺川の源流地で、自宅のある若草の丘と南の緑ヶ丘の間に広がる車集落の田園地。東には南北に延びる鵯越の尾根　西には横尾山から北へ　白川台・白川峠へと丘が続き、周囲　いずれの丘も　もう新しい住宅地に整備されている中で、ここだけがすっぽり家のない貴重な散策路　緑の田園地。かつて、幕末には神戸亜炭の主生産地として、開港神戸港を支えたという。なぜ　ここだけが取り残されたのか???　　良く知らないが、四季折々私の散歩道。

北へ丘を登ったとところに車集落があり、その端に鎮守大歳神社があり、巨樹大楠が見下ろしている。四季折々　いつも眺めに行く散歩道でもある。

この新緑の季節は特ににきにいった散歩道

高取山への登り道です。

我が家の庭や門先も　春の花で　春爛漫　　毎日　さあ　どこへ歩こうかと楽しみ。

長時間歩くと痛みがでた足も、骨折した骨も問題なしの健診結果を得て、靴を変えたり、足の手入れも教えてもらって随分楽に。また、白内障手術の眼も回復順調。　久しぶりに乗った原チャリの視野も随分広くなった感じ。

衰えた足の回復で、もう　山歩きもできそう。　夏にはとうでができるかなあ・・・・

何はともあれ、このまま順調にコロナ収束を期待しています。

◆　これらの西神戸２０２２春の絶景のwalk　スライド動画・　Photo Album にしてHP 個々file 掲載しています。

風来坊・COUNTRY WALK <4 月春便り更新 2022.4.27. New 掲載記事リスト>

https://infokkkna.com/ironroad/walk22list.htm

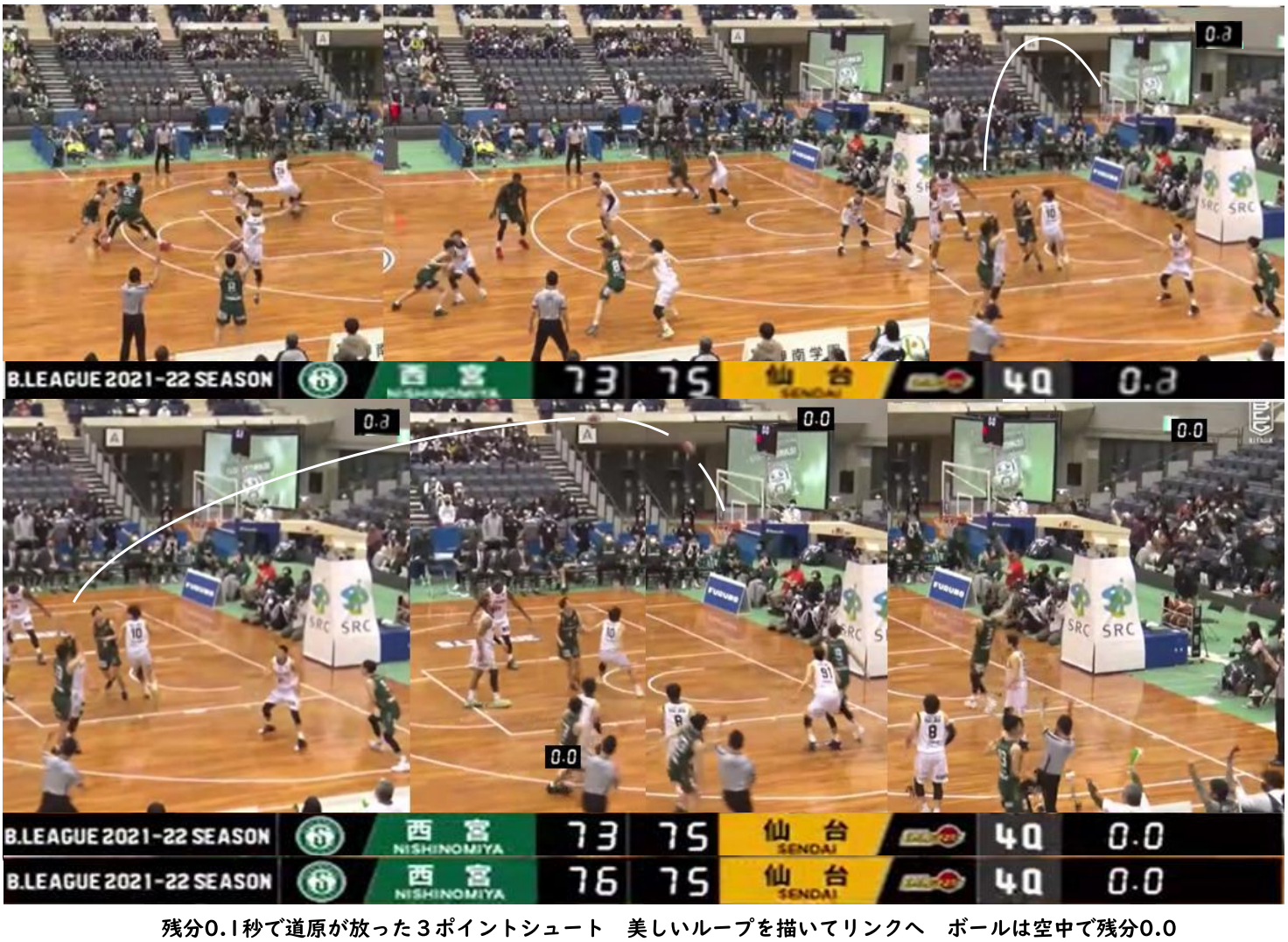
西宮ストークス 76-75 仙台 2022.4.2. グリーンアリーナ神戸

久しぶりに観戦したバスケットボール　奇跡的瞬間に出会えて興奮

バスケットボールの跡的瞬間　西宮76-75仙台　残分０での鮮やかな逆転勝利
残分2.4秒で得たボールを残分0.1秒で道原が放った３ポイントシュート
ボールは空中で残分0.0　美しいループを描いてリンクへ　３ポイントシュート成功
バスケットボールのこんな奇跡的瞬間に出会えるなんて　初めての出会いに興奮

これぞスポーツ観戦の醍醐味　少しバスケットの経験があり、近くでのB2リーグの試合
ラグビーではラストワンプレーでの得点「ノーホイッスルトライ」
野球では９回裏の逆転ホームラン。アメリカンフットボールにもラストワンプレーがある
でもバスケットで見たほどのスリリングな場面はなかなかない。
なんせ、残り時間は３秒弱。相手必死のでフェンスをかいくぐっての再逆転の３点シュート。初めてみました。
若い時にバスケットを少ししたことがあるのですが、最近のバスケットは大きく変わって、３点シュートが勝敗を決することも多くなりましたが、こんな場面を直接見られるなんて思ってもみませんでした。

ほかの感染もそうですが、今回もまた、デジカメで瞬間とらえられず。
インターネットにアップされたダイジェスト版動画より画像切り出しました。



残分0.1秒で道原が放った３ポイントシュート　美しいループを描いてリンクへ　ボールは空中で残分0.0
３ポイントシュート成功　西宮76-75仙台　残分０での鮮やかな逆転勝利

残分3.0秒　仙台のシュートで　仙台75-73西宮　仙台が逆し、西宮の負けを覚悟し、お尻を上げたのですが・・・・

逆転されて右へ攻める西宮　タイムをとって残分2.4秒の攻め
コート中央でボールをもらった道原　すぐにリンクに向かい 残分0.1秒で３ポイントシュートを放つ
ボールは空中で残分0.0　　その結果は・・・・・・・・

残分3.0秒仙台のシュートで　仙台75-73西宮　仙台が逆転

残分0.1秒で道原が放った３ポイントシュート　美しいループを描いてリンクへ　ボールは空中で残分0.0
　　３ポイントシュート成功　西宮76-75仙台　残分０での鮮やかな逆転勝利
バスケットボールのこんな奇跡的瞬間に出会えるなんて　初めての出会いに興奮

西宮ストークス 76-75 仙台　2022.4.2. グリーンアリーナ神戸

残分0.0 西宮 道原の逆転3ポイントシュート成功で西宮76-75仙台の逆転勝利
西宮ストークス 76-75 仙台 2022.4.2. グリーンアリーナ神戸

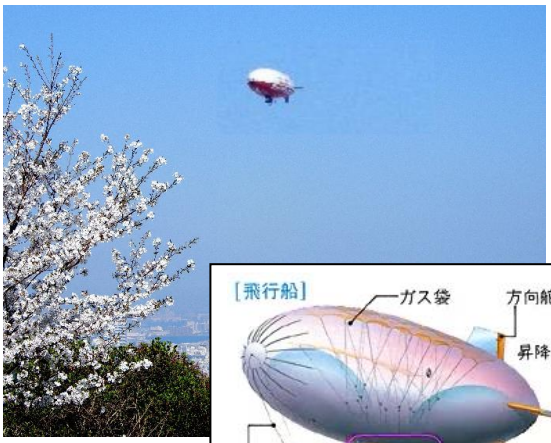
5年ぶりという 国内各地を飛行中の飛行船が高倉山を越えて西へ

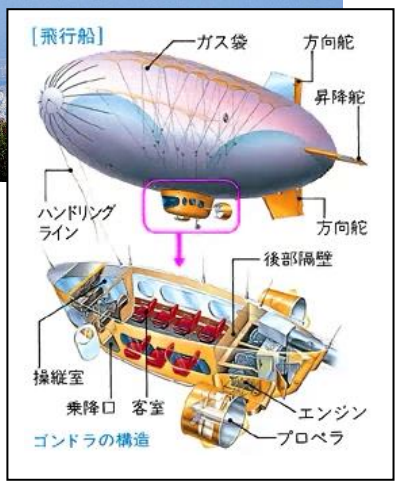
もう 何年振りか 久しぶりに飛行船 それも頭の上を越えてゆきました 2022.4.9.午後

5年ぶり国内各地を飛行中の飛行船、神戸の空に 2022.4.9.
「新スーパードライ号」関東・北海道にも登場するという

飛行船「新スーパードライ号」は、4月5日(火)から4月10日(日)に神戸拠点に関西エリア、4月14日(木)から4月17日(日)に佐賀空港を拠点に九州エリア、4月22日(金)から4月26日(火)に千葉・野田市木野崎地を拠点に関東エリア、4月29日(金)から5月1日(日)に岩手県一関市を拠点に仙台など東北エリア、5月10日(火)に北陸エリア、5月13日(金)から5月15日(日)に名古屋エリアをめぐります。
その後も関東、北海道での飛行が予定されています。

神戸空港を飛び立ち、神戸の街の上を飛ぶ飛行船 港から高倉山を越えていきました
4月9日の高倉山から旗振り山のwalk 高倉山の上で眺めました。翌日インターネットニュースで飛行船の正体がわかりました





高倉山の上から孫たちに「今 高塚山の方へ 飛行船飛んでいったよ」と Line 連絡
山の上ではどこに乗ってるのやろか? 燃料は何やろか?
下から 空気温めて・・・ そら違うわ とかとか大騒ぎ
久しぶりに見る飛行船 言うことはみんなばらばら 真偽のほどは……
みんな 久しぶりの飛行船。 昔はよく飛んでいて 空から宣伝やってましたね
その前はドイツの飛行船や等々談義が弾みました。
真っ青な空に飛ぶ飛行船 年寄りには本当に懐かしい。
孫たちは夕方 TV のニュースで知ったが、残念ながら見られなかったと。

2022.4.9.午後 高倉山(おらが山)の山上で Mutsu Nakanishi

Fkobe R0406.pdf

【四季折々・from Kobe 】６月　梅雨入り目前　神戸６月の便り

ポストコロナの新時代 期待と不安が入り混じる6月 神戸便り　2022.6.1.　Mutsu Nakanishi

収録１.　仲間が送ってくれた懐かしい小冊子　　優しいことばが詰まってる
　　ふと　立ち止まって　小冊子に目をとめることも・・・
　　ポストコロナの新時代　スピードだけがもてはやされる今の時代感を変えてゆかねば・・・
収録２.　中年化”する就職氷河期世代 ～非正規雇用 540 万人の衝撃～の驚き
　　国が見捨てた就職氷河期世代の絶望…バブル崩壊後の 30 年間で何が起きたか　2022. 5. 13
　　NHK かんさい熱視線 「“中年化”する就職氷河期世代 ～非正規雇用 540 万人の衝撃～」を視聴

北の淡河の里では田に水が張られ、田植えの準備が着々と。一方　兵庫の麦の産地東播磨の加古川沿いの里では麦秋真っ盛り。コロナも何とか落ち着いて、学校再開・春のスポーツ解禁で　街ゆく若者たちの姿も晴れやか
やっとというか　３年ぶりに神戸の街にも活気を取り戻しつつあります。
梅雨目前　新緑が素晴らしい季節に　田圃にはき水が入り、田植えの準備に忙しい田園地帯の素晴らしい里景色
やっとコロナ禍も収束の道をたどるのか…　街にも活気が戻って 行動制限もあとわずかの我慢
自由気ままに　マスクはずして飛び出して　仲間との出会い　老いを元気にと　期待と希望の６月です

バラの花とその香りは人を元気に明るくしてくれる　2022.5.15.　須磨離宮公園　２０２２年春のバラ

本年は特に赤いバラが印象的でした

でも、ポストコロナの厳しい世相の流れに無関心ではいられない。ウクライナの惨状
また　NHK 関西熱し線“中年化”する就職氷河期世代 ～非正規雇用 540 万人の衝撃～の驚きが突き付けた
「就職氷河期世代の絶望　非正規労働者５４０万人」の現状にも胸が痛む。
　現在教育現場でも非正規教員が１１万人を超え、もう２０年を越えて１年契約のさすらいを繰り返しているとも聞く。
世がもてはやしているポストコロナ・低炭素社会構築の中で、この悲惨な階層化した日本の行く末が心配になる。
　年寄りにとっても この先１０年が見通せぬ厳しさ。ノー天気ではいられない。

「地球人」「」人の温もり」「一人では生き抜けぬ」こんな言葉を今ほど身近に感じた事はなし。
はっと気づいた 「幾多の困難を乗り越え、人間が生き抜いてきた道
大空を吹き来る風を胸一杯　気分も爽快　日々新らた　７０余年　毎日の思いが生きる力に
愚痴は言うまい　God be With You!!”　互い声かけあって　スクラム組んで　前向いて
身近な春　ほっと一息　前向いて

私の方はあいかわらず、勝手きままな風来坊　近くの里歩きや山歩き　スピード感一杯で駆け抜けた西神戸の春を楽しんでいます。５月　やっと原付に乗って加古川西岸まで足が延ばせました。また、横尾山の岩稜　馬の背を歩くのも控えていたのですが、足の回復も順調です。
もっとも　先日　若い女性にすいすいと坂道を追い抜かれて、「負けへんで」と追ったのですが、追いつくことできず、体力の回復はまだまだ。
「足踵など骨くっつけばすぐ回復できる」と思っていましたが、「地に足がつかない」ということは　大変なこと。
みな様も　これぐらいと思わず、体力維持と体調には十分ご留意を。また　頭の体操も忘れずに……
そんなことで、５月もデジカメ持って、毎日移りゆく春景色探索をホームページに。
あっという間に気が付けば６月　コロナの接種も４回目が始まると聞く。頑張らねばと思う毎日です。
なんとかゴルデンウイークのコロナ爆発も起こらなかったようだ。　仲間に会える機会もまじか　楽しみにしています。
また、加古川西岸を原チャリ走らせる中で、加西市「網引き湿原」に出会いました。
行動半径が広がると知らなかったことにもいろいろ出逢えてうれしい限り。
仲間との出会い　三宮「栄太郎の元気かい」も落語会も　もっと多くの仲間と出会いたい。
今でなければの思いも募る。なにはともあれ、お互い　無理せず元気に。
勝手な便り　お許しください。

2022.6.1.　from Kobe　Mutsu Nakanishi

◆ 兵庫にも「自然の姿そのままに保全された湿原」がすぐ近くの小野アルプス西端の山中に。びっくりしました
日本一小さい絶滅危惧種の「八丁蜻蛉」や　小さな小さな薄ピンクの花「朱鷺草」にも出逢えてラッキー

兵庫県にそっくりそのまま自然が保全された湿原　加西市「網引湿原」

今 兵庫県最大級の湿原　何の変哲もない草むらの中で
絶滅危惧種 日本最小１円玉の大きさの八丁蜻蛉が飛び交い、朱鷺草が咲いていました。
８月には草原一面鷺草が咲くという。貴重な知る人ぞ知る兵庫県の代表的貴重な湿原と聞きました

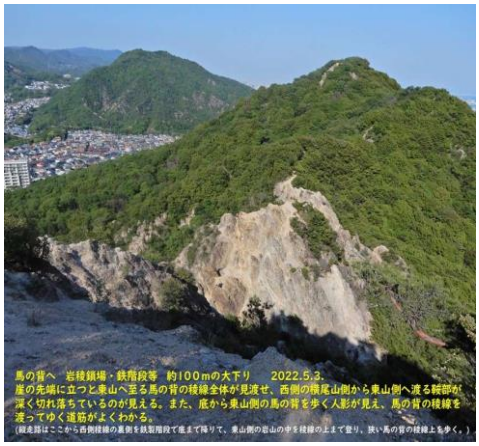
四季折々訪ねる小野市須磨アルプスの西端　鴨池の尾根越し北側の山中　全く知りませなんだ。
南網引の村のはずれ糖塚山の山懐 森の中の山道を抜けると周囲を林に囲まれて、人工物を排除保全された広い草むら。
こんな近くに今も手つかずの湿原が残っている。大きな池も隣接し、尾瀬の木道歩きを思い浮かべながらの湿原歩き。
しゃがみ込んで草むらに目を凝らし、デジカメを拡大してのぞき込む。
「いた!!」赤い小さなトンボが２匹じゃれている。また　突然　薄ピンクの朱鷺草もファインダーの中に現れた。
眼を放すと風がくさむらを揺らしてわたってゆく。ゆったりと時が楽しみ。

デジカメでは　中々鮮明画像撮れずでした。いつまでも手を入れずに残してほしいなぁと。
ついでながら　八丁蜻蛉は京都北山「八丁平」が名前の起こりと思ってきましたが、どうも岡崎市「八丁町」起源説が有力らしい。８月　鷺草がさいた頃にたずねようと思います。

◆ 西六甲にもアルプスに負けぬ岩稜の縦走路がある

新緑の西六甲　須磨アルプス　栂尾山・横尾山 馬の背 walk　　2022.5.3.

開設された「山スタンプラリーコース　六甲山満喫（須磨-高取山）」スタンプ採取に久しぶり



真っ青な晴天 横尾山の狭い岩稜尾根 馬の背を歩くのも久しぶりで 気分爽快 うれしい縦走でした

梅雨目前　やっとコロナ禍も収束の道をたどるのか…
街に活気が戻って　行動制限もあとわずかの我慢　梅雨も良し　元気に飛び出して仲間と出会いたい
老いを元気にと　期待が現実に変わる6月になればいいなあ・・・・・
なんとかコロナが収まって　みんなの笑顔が見られるよう。

狭い縦走路のドクン中にどっしりと座り
いつも元気をもらうウバメガシノ巨樹

群生するウバメガシの中を歩く
西六甲須磨縦走路で

いつも元気を貰う妙法寺
車の里の車の里大歳神社のの大楠

最近巨樹の生き様をTV等で見る機会多し。
先日　葉が前部落ち、枯れ木に近くになっても、樹木は根さえ生きていれば、根元からえ新しい芽・枝を出す。
動けぬ塾は樹木は常にその準備をしていると。
根は水分と共に土壌細菌と共生することで、動けぬ身を補完しあっている。
このため、土壌細菌を活性化する酸素が根に供給されないと根が死んで、息の根を止められてしまうのだと。
巨樹のあのたくましいごつごつした巨体は本体が切られても本体が折れても、準備してきた根元や　切られた幹から、
新し芽をだし生き延びてきた生きざまそのものだと。
私たちが巨樹に惹かれるのもそんな生物共生・循環を知らずとも知っているからかも・・…・・・
樹木医はこの巨樹の生きざまを助け、樹勢を回復させてやるのだという。

新しい時代の第一歩　社会・経済・産業・生活
どれもこれもが　激動・革新の新時代
一歩踏み出せば、万事まわりだす
そんな期待と希望の始まりになりますよう。
また、今回　Top page　から
「ウクライナの祈り」を外しましたが、
思いと願いは変わらず。
一日も早く停戦が実現し、ウクライナ人々に
平和が訪れますように。

毎度の勝手気ままな HP ですが、
何とか維持したいと。よろしくお願いします。
なにはともあれ、元気で前向いて頑張ります

もう　自分の時代ではないと感じる昨今ですが、
まだまだ好奇心旺盛　気力もあり、足も復活。
不定期になりそうですが、元気に前向いて発信をと。
後期高齢者だからとは言えなくなった新型コロナへの戦い
そしてポストコロナの時代へ
みんなの一番の願いは穏やかな日常の生活を取り戻せること
前向いてがんばりましょう

困難の中にある仲間に　思いをはせています。
みんな老いと向き合う年に
一人で頑張らず、無理せず　みんなに声あげて!!　.
仲間がいる。仲間の元気はみんなの応援歌
互いに連絡取り合って　元気に前向いて笑顔で今を。

仲間の元気は　みんなの応援歌 !!
頑張りすぎず、時には声をあげて !!
お互いスクラム組んで
助け合ってこの難局を乗り越えましょう
笑顔で逢えるのを　楽しみにしています
ワクチン接種も済ませましたが、
まだまだ収束は道半ば
どうか　無理せず、元気に前向いて
お過ごしください

また連絡ください　　God Be With You!!

From Kobe　　Mutsu Nakanishi

収録1.　仲間が送ってくれた懐かしい小冊子　優しいことばが詰まってる

ポストコロナの時代を生きる知恵が詰まっていました　ふと 立ち止まって 小冊子に目をとめることも・・・
ポストコロナの新時代 スピードだけがもてはやされる時代感も変えてゆかねば・・・・と。

2022.6.1. Mutsu NMakanishi

もう20数年前千葉県柏に単身赴任していた時 国道16号線沿いにあるうどん屋さんでこの小冊子をみつけ、会社の朝会などで簡単なあいさつによく使わせてもらったことがある。 表裏の表紙を飾るフレーズや中味にもやさしい言葉の数々。なつかしい倫理啓発運動の冊子です。

先日久しぶりに古い仲間と二人で「栄太郎元気かい!!」をやった時に、ひょんなことから、仲間が今もその啓発運動に参加していると聞いて、送ってもらった小冊子。
懐かしく当時を思い出すとともに、冊子の中にポストコロナの時代を生きる言葉や知恵が満載。
肩がこらぬというが、ふと 頭に残る優しさ。
毎朝の新聞朝のコラム「天声人語」「余禄」「正平調」でもそんな言葉に出会うことが多い。
判りやすく日常の生活に即したフレーズの数々。
なつかしく、新鮮でした。

そんな中から一つ目に留まった5月30日は「ゴミゼロの日」の紹介。

ポストコロナの新時代 地球人として低炭素循環の社会構築が必須のキーワードとして毎日数々の言葉が踊っている。
新聞各紙にも数多く企業取組が毎日報じられているが、何か企業宣伝・技術偏重ばかりの記事で、日常生活と社会変化にまで立ち入った記事に出会うのはごくまれ。
昨日の新聞にも「これから大量に発生する老朽化した太陽電池パネルの粗大ごみ」の記事。
また、数々の高度情報社会の構築の中で発生している粗大ゴミの資源化が指摘され、都市鉱山等と呼ばれるそれら資源ごみ再生の先端に日本の技術があるという。
ふと「資源ごみ」の言葉と共に 毎日日常の「分別ごみ出し収集」もその一翼と。

後期高齢者になって「粗大ゴミ」とも呼ばれ、日常社会からの疎外感がますます強くなっていますが、
「毎日のゴミ出し参加が低炭素社会構築の大切な第一歩。その一翼を担って参加している」とうれしくなる。
仲間が送ってくれた冊子にさりげなく語り掛けてくれる言葉の数々。送ってくれた仲間に感謝をこめて、
ほっと一言 今月の「ぶつぶつ」に。
どんな社会になるのかまだまだ判りませんが、「地球人」として誰もが取組む第一歩 元気に毎日を。

2022.6.1. From Kobe　Mutsu Nakanishi

「五三〇（ゴミゼロ）運動」に学ぶこと

毎年五月三十日は「ゴミゼロの日」とされています。これは昭和四十年代、愛知県豊橋市の山岳会で「自分のゴミは自分で持ち帰りましょう」を合言葉とする「五三〇（ゴミゼロ）運動」が提唱されたことが発端だそうです。その後、官民一体の活動となって全国に広まり、平成五年には厚生省（現在の厚生労働省）が、五月三十日を初日とする「ごみ減量化推進週間」を制定。現在は五月三十日から六月五日の「環境の日」までが「ごみ減量・リサイクル推進週間」とされています。

五月三十日には、ゴミ拾いをはじめとする環境美化活動のほか、ゴミの減量や再資源化を促す啓発活動などが各地で行われます。

「五三〇運動」は、もともと「ゴミを拾うこと」だけでなく、「ゴミを拾う活動を通じて、ポイ捨てしない心を育むこと」を目的としたものだといいます。この取り組みは、大切なことを教えてくれているようです。

道端のゴミを拾う経験をした人は、きっと「決められた場所以外にはゴミをよい環境をつくるには、何より、ここで暮らす私たち一人ひとりの「心」と「行動」が重要ではないかと思うのです。

いろんな小冊子が溢れる時代に、ちょっと手に取ってみるのも　年おいての自分磨きの一つかも・・・・

収録2. NHKかんさい熱視線「"中年化"する就職氷河期世代～非正規雇用５４０万人の衝撃～の驚き」を視聴して
中年化する就職氷河期世代～非正規雇用５４０万人の衝撃～の驚き　2022.5.13.
国が見捨てた就職氷河期世代の絶望　バブル崩壊後の３０年間で何が起きたか

国が見捨てた就職氷河期世代の絶望…バブル崩壊後の 30 年間で何が起きたか

NHK かんさい熱視線　2022.5.13

「“中年化”する就職氷河期世代 ～非正規雇用 540 万人の衝撃～」を視聴して
その具体的な現状　国の施策実態のレポートに　ビックリ今
令和の新時代を迎えて、老獪よりもフレッシュな頭の必要性をつくづく感じています。
令和の産業革命　低炭素時代時代を生き抜く参考になれば……

就職氷河期世代とは一般に　1970 年～1982 年、または 1984 年までに生まれた
2021 年現在 37 歳～51 歳の年齢の人たち約 2500 万人を指す。
現在の社会・働き手の中核をなす人たちで　そのうち約５４０万人が非正規雇用(雇用労働者の約 1/3)である。

「２０２２年5月　和鉄の道　Hp　-新緑神戸からの便り-」に下記年寄りの戯言を掲載
でも、自分ながら具体的な対応提言がないなぁ・・・と思っていた矢先に
上記掲題に示したNHKTV 番組「関西熱視線　2022.5.13.」に出会いました。

「就職氷河期世代と呼ばれる「現在の社会・働き手の中核をなす 2021 年現在 37 歳～51 歳の人たち約 2500 万人」のうち約５４０万人(雇用労働者の約 1/3)の非正規雇用の人たちが、中年を迎え、
「一人であがいても　どうにもならず、先の希望を失い、あきらめの中で生活をしている」と。
その実態は本人の責任ではない政治が推進した「非正規雇用・自己責任の押し付け政策」の犠牲。
しかも、現場実態を全く見ない丸投げ政策の実態に基づく無責任さの中で引き起こされたことが
大きく浮かび上ってきている。」

「非正規雇用」の言葉の中に隠された数々の実態が覆い隠されたまま、今また「ポストコロナ
令和の新時代」の言葉が躍っている。
コロナ禍の中でも垣間見える日本社会の危うさでもあるが、
年寄りにとっては、もう自分の時代ではないと知りつつも、未来へ向けて見逃せぬ日本社会の課題と。
年寄りの戯言ですが、ご参考になればと。

【和鉄の道・Iron Road】【年寄りの戯言・番組紹介】　NHK 関西熱視線　20220515
国が見捨て就職氷河期世代の絶望　中年になってバブル崩壊後３０年の間に何が起きたか
「中年になった就職氷河期非正規雇用者の実態」を視聴して非正規雇用に思う
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0406NHKkansainetsusisenweb.pdf

国が見捨てた就職氷河期世代の絶望…バブル崩壊後の 30 年間で何が起きたか

■ 1. 年寄りの戯言　当事者意識の欠如した三人称発言・会見　もうやめにしたらどうか・・

２０２２年5月　和鉄の道　HP より　Mutsu Nakanishi

いつも頭の中で、もやもやしていたことですが、みんなに言ってみようかとの戯言です。
日本の指導者たちの発言・会見の様子が TV ニュースで伝えるケースが日増しに増えているが、
世界の指導者たちの発言と対称的。受け取り方はひとそれぞれですが・・・・・・・・・・
先日　ウクライナが協力国として３１か国を上げ、感謝の意を述べた中に日本が入っていないと。
意外と思われた人も多いかもしれませんが、当然の成り行き「ふむ　ふむ」と
だって 「参加することに意義」「会見することで説明責任」と思わせる一人称でなく３人称での応答受け答え
そして　最後には「スピード感を持ってやる」と付け加えることを忘れずに・・・・・・・。
相手に映っている顔は「当事者や意識のない約束事を信用できない」と。
コロナ禍・ロシアのウクライナ侵攻・低炭素社会構築等々
数多い課題の中　一人称で語らず、３人称で締めくくる日本の政治家や企業エリート層たち。
自己の考え・行動を全く語らず 常套句。これで　今の難局を乗り切ってゆけるのだろうか???

難局に際してのリーダー・政治家答弁や記者会見のニュースで誰の眼にも明らかになったことがある。
最近何度も見かける光景。
「理解している」「ねばならぬ」「承知している」「・・と思っている」「・・と共に相談協調する」
　いつも　これなんでやねんと。会見で同席・質問者はこれで本当に納得し、報道するのか・・・・
「これらの常套句は３人称　あなたはどうするのか? 自分の行動として一人称で答えてほしい」と
　なぜ問いださないのだろうか・・。 もうみんなあきらめの境地なのか
　こんな会見で説明責任果たしたといえるだろうか・・・・…
こんな無責任な答えがリーダー層で流行りだしたのはいつの頃からだろうか…
どうも日本の経済成長に陰りが見え、怪しくなりだした頃か??
例の働き方改革と称して、非正規労働者を急激に増やした時期は先進国との先端技術競争をあきらめ、
近視眼的に 国際競争力・コスト削減と称して　中・後進国との競争に明け暮れた時期に符合するのか?
まさに「一番でなければ　いけないのですか・・・・」の錯誤の時代である。
今や人口減・老齢化が進む厳しい日本。この１０年先進国で唯一　経済成長が大きく鈍り、
今や平均賃金・GDP でも韓国等の中進国並みに。子供たちや若い人がこれをまねれば、もう日本沈没
取組まねばならぬ課題が山積のポストコロナ 激動の新時代
もう　３人称の受け答えやめて、１人称で。また、軽薄短小のスピード感も　もうやめて。
令和の大産業革命と低炭素社会の推進・コロナからの雇用・経済の再建・ウクライナの支援等々
地球人としてやらねばならぬ課題目白押し。自分の五感を研ぎ澄まして、退治せねばならぬ時。
私は勝手ながら、ニュースの信用度にこの３人称発言を取捨選択することにしています。
先進国のトップクラスは少なくとも１人称での会見。
もう　そろそろ目を覚まして、３人称会見やコメント辞めませんか・・……
そうでなければ、若い人たちに早くバトンタッチしてほしい。
今　日本はそんな危機にあるとおもうのですか・・・・・・

また　年寄りの勝手な無責任発言。まだまだ未消化で お叱りを受けそうですが、
最近ずっと頭にあったことを書き記しました。
最近は益々ひどくなる３人称的発言、さあ　どうでしょうか
春の陽気についつい年寄りのたわごと　また　色々お教えください。

2022.4.27.　　From Kobe　Mutsu Nakanishi

国が見捨てた就職氷河期世代の絶望…バブル崩壊後の 30 年間で何が起きたか

■-2　現代ビジネス　講談社

国が見捨てた就職氷河期世代の絶望…バブル崩壊後の 30 年間で何が起きたか

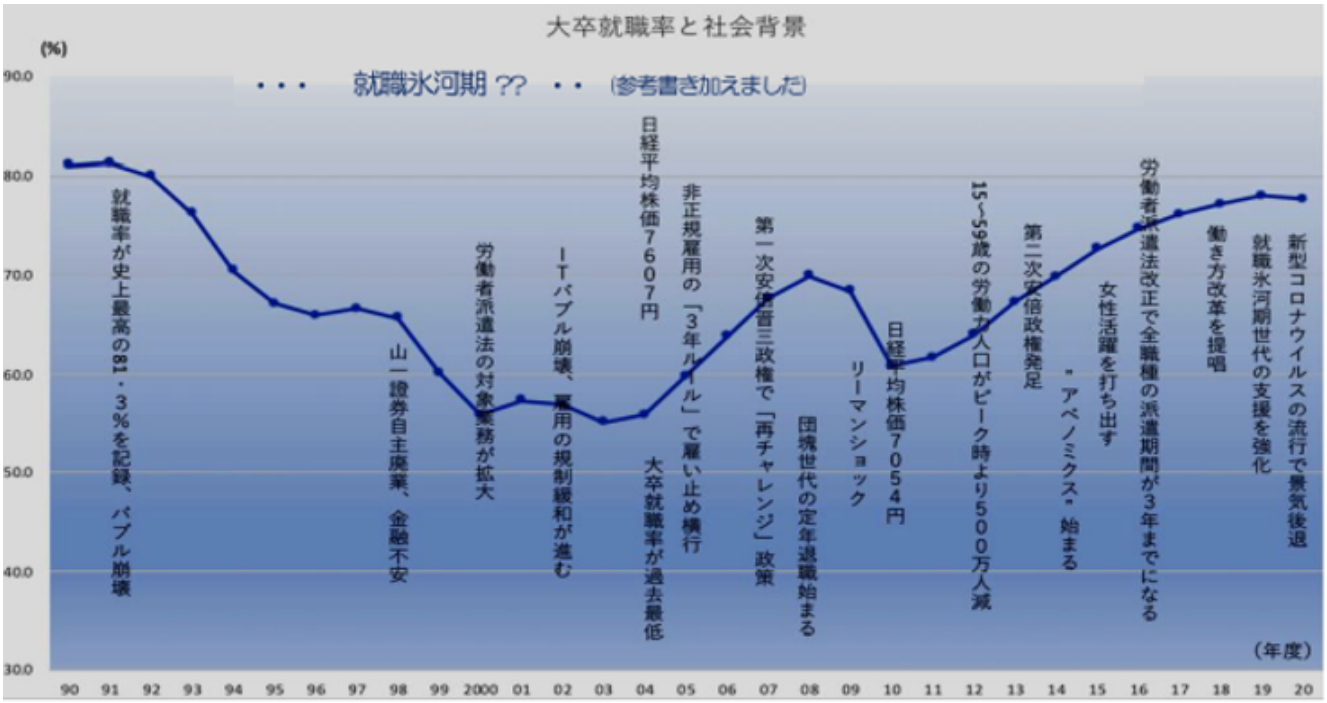
当事者として　取材者として（小林 美希）　2021.09.30

https://gendai.ismedia.jp/articles/-/87729?page=6

2021 年 9 月 29 日に自民党の総裁選が行われ、その後には総選挙が控えている。政治家が「中間層の底上げ」を訴えるが、考えてみてほしい。もとはといえば、中間層を崩壊させたのは政治ではなかったか。

国際競争の名の下で人件費を削減したい経済界は政治に圧力をかけた。不況がくる度に労働関連法の規制緩和が行われ、日本の屋台骨が崩れていった。最も影響を受けたのが就職氷河期世代だ。これからを担っていくはずだった若者たちが、非正規雇用のまま 40～50 代になった。

私が非正規雇用の問題を追って 18 年――。いったい、何が変わったのか



■　大卒就職率 6 割以下の時代

1980 年代には 8 割あった大卒就職率は、バブル経済が崩壊した 1991 年以降に下がり始めた。そして 2000 年 3 月、統計上、初めて大卒就職率が 6 割を下回る 55.8%に落ち込んだ。大学を卒業しても 2 人に 1 人は就職できなかったというこの年に、私は関西地方で大学を卒業した。

その 3 年後の 2003 年 3 月に大卒就職率は過去最低の 55.1%を更新。日経平均株価は同年 4 月に 7607 円まで下落した。この時の私はもちろん、当事者だった大学生の多くは雇用環境が激変するなかにいるとは気づかずにいた。

私の就職活動は苦戦した。約 100 社にエントリーシートを送り、50 社は面接を受けた。神戸に住んで大学に通っていた私の就活の主戦場は大阪で、面接を受けるために毎日のように大阪周辺を歩き回った。最終的に内定が出たのは消費者金融会社の 1 社のみだった。

卒業後に東京で就職活動をやり直し、ハローワークに通った。新聞広告の求人を見て応募した業界紙の「株式新聞」に採用が決まった。就職試験の日、「うちは民事再生法を申請したばかりですが」と説明があり、倒産しかけた会社に就職することに悩んだが、「面白そうだ」という直感が勝った。

この株式新聞時代に出会い、後の私の記者活動に影響を与えたのが、伊藤忠商事の丹羽宇一郎社長（当時）だ。丹羽氏との出会いがなければ、私は就職氷河期世代の問題を追及しなかったかもしれない。

新人の時には経済記者として食品、外食、小売り、サービス業界を担当。商社の担当も加わり、出席した伊藤忠商事の記者懇談会で初めて丹羽氏に挨拶をする。記者に囲まれていた丹羽氏に私は「社長の役割とは何か」と聞いた。この若気の至りとも言える質問に対し、丹羽氏は真顔で「経営者とは、社員のため、顧客のため、そして株主のためにある」と答えてくれたのだった。

■「なにかおかしい」　若者が疲れ切っている…なぜ？

株式新聞入社から１年後の 2001 年の初夏、毎日新聞が発刊（現在は毎日新聞出版）する『週刊エコノミスト』編集部に契約社員として転職した。私はだんだんと雑誌の仕事に慣れていき、天職と思って没頭していた。

深夜や明け方に及ぶ校了作業は達成感があり、職場で夜を明かして新聞をかぶってソファで寝ていたこともあった

これはマスコミ特有の働き方かと思っていたが、この頃、金融、製造、サービス業などに就職していった友人たちも長時間労働というケースが多かった。そのうち、充実感とは違った何かがあると感じ「なにかおかしい。

若者が疲れ切っている」と首をかしげるようになっていった。

その疑問が確信に変わったのは、2003 年前後に上場企業の決算説明会で経営者や財務担当役員らが強調した言葉を聞いてからだ。

「当社は非正社員を増やすことで正社員比率を下げ、利益をいくら出していきます」

2001 年の IT バブル崩壊から間もなくてして企業利益がＶ字回復し「失われた 10 年」が終わるかのように見えた。

私はこの利益回復は非正規雇用化で人件費を削減したことによるものに過ぎないと見た。

これでは経済を支える労働者が弱体化すると感じた私は、若者の非正規雇用の問題について企画を提案した。

『週刊エコノミスト』の読者層の年齢は高く、若者の雇用問題をテーマにしても読まれないという理由で、企画はなかなか通らなかった。さらに世間で浸透していた「フリーター」という言葉の印象が自由を謳歌しているイメージが強く、若者は甘いという風潮があるなかでは、ハードルが高かった。

悩んだ私は、再び、若気の至りの行動に出た。伊藤忠商事の丹羽氏にアポイントをとって、企画が通らないこと、企画が通らなければ転職したほうが良いか迷っていると人生相談をしたのだ。

若者の非正規雇用化が中間層を崩壊させ、消費や経済に影を落とすと見ていた丹羽氏は「同じことを３度、上司に言ってごらんなさい。３度も言われれば根負けして上司は必ず折れるから」とアドバイスしてくれた。

私は企画が通らないまま非正社員として働く若者の現場取材を進めた。

その頃、ある会合で話したコンビニ大手の社長が「息子がフリーターで……」と悩む胸の内を明かしたことがヒントになり、デスクや編集長を説得した。

「子どもの就職や結婚を心配するのは立場を超えて一緒のはず。読者の子どもを想定して、タイトルを若者とせず、娘や息子に変えたらどうか」企画を提案し始めてから数か月経った 2004 年５月、ついに第２特集で「お父さんお母さんは知っているか　息子と娘の“悲惨”な雇用」を組むことが実現した。

非正規雇用に関するデータを探し、マクロ経済への影響など当時は存在しなかったデータはシンクタンクのエコノミストに試算してもらった。

この特集について慶応大学（当時）の金子勝教授や東京大学の児玉龍彦教授がそれぞれ大手新聞の論壇コーナーで取り上げてくれたことで、続編が決定。第１特集となって「娘、息子の悲惨な職場」がシリーズ化した。

■富の二極分化で「中間層崩壊」

この頃の若年層の失業率は約 10%という高さで、10 人に１人が失業していた。

内閣府の「国民生活白書」（2003 年版）により、2001 年時点の 15～34 歳のフリーター数が 417 万人に上ると公表されると社会の関心が若者の雇用問題に向いたが、企業側の買い手市場は続き、労働条件は悪化していく。

パート・アルバイト、契約社員や派遣社員として働き、休日出勤やサービス残業の日々でも月給が手取り 16 万円から 20 万円程度のまま。正社員でも離職率の高い業界や会社での求人が多く、ブラック職場のため過労で心身を崩すケースが続出した。

社会保険料の負担から逃れるために業務請負契約を結ぶ例まで出現。大企業や有名企業ほど、「嫌なら辞めろ。代わりはいくらでもいる」というスタンスで、若者が使い捨てにされた。こうした状況に警鐘を鳴らすためには、経営者の見方を取り上げなければならないのではないか。

2005 年 1 月 4 日号の『週刊エコノミスト』では、ロングインタビュー「問答有用」のコーナーで経済界の代表的な経営者であった丹羽氏に中間層の崩壊について語ってもらった。この時点で、若者の労働問題について本気で危機感を持つ経営者は私の知る限りでは他にいなかった。丹羽氏はこう語った。

> 富（所得）の 2 極分化で中間層が崩壊する。
> 中間層が強いことで成り立ってきた日本の技術力の良さを失わせ、日本経済に非常に大きな影響を与えることになる。中間層の没落により、モノ作りの力がなくなる。同じ労働者のなかでは「私は正社員、あなたはフリーター」という序列ができ、貧富の差が拡大しては、社会的な亀裂が生まれてしまう。
> 戦後の日本は差別をなくし、平等な社会を築き、強い経済を作り上げたのに、今はその強さを失っている。
> 雇用や所得の 2 極分化が教育の崩壊をもたらし、若い者が将来の希望を失う。
> そして少子化も加速する。10～15 年たつと崩壊し始めた社会構造が明確に姿を現す。
> その時になって気づいても「too late」だ。
> 企業はコスト競争力を高め、人件費や社会保障負担を削減するためにフリーターや派遣社員を増やしているが、長い目でみると日本の企業社会を歪なものにしてしまう。
> 非正社員の増加は、消費を弱め、産業を弱めていく。
> 若者が明日どうやってご飯を食べるかという状況にあっては、天下国家は語れない。
> 人のため、社会のため、国のために仕事をしようという人が減っていく。
> それが今、現実のものとなっている。

■　「3年ルールという分岐点」　格差はこうして固定・拡大化した

丹羽氏のインタビューが掲載された年の 8 月 8 日、小泉純一郎首相（当時）が郵政民営化を掲げた解散総選挙に打って出て圧勝し、規制緩和路線に拍車がかかっていく。

小泉郵政選挙の投開票は 9 月 11 日。その 1 週間後の 9 月 18 日には一般派遣の上限期間が 3 年とされる改正労働者派遣法が公布され、2 週間待たずの 9 月 30 日施行で、いわゆる派遣の「3 年ルール」ができた。

　この 3 年ルールとは、表向きには派遣で同じ職場で 3 年が過ぎたら正社員や契約社員などの直接雇用にすることを促す改正だったが、実際には多くの派遣社員が 3 年の期間直前で契約を打ち切られることになった。

同じ年に労働基準法も改正されて非正規雇用の上限期間が 3 年になったことで、非正社員が“3 年でポイ捨て”され、非正規雇用のまま職場を転々とせざるを得ない労働環境が整備された。

1995 年に旧日経連が出した「新時代の『日本的経営』」で雇用のポートフォリオが提唱され、景気の変動によって非正規雇用を調整弁とする固定費削減が図られて 10 年経った 2005 年に「3 年ルール」ができた。

ここが分岐点となり、日本は格差を固定化させ、格差を拡大させる路線を歩んでしまったのではないだろうか。

本来なら、2007 年から団塊世代の定年退職が始まるため人手不足を補うという意味で、まだ 20～30 代前半で若かった就職氷河期世代を企業に呼び込むチャンスがあったはずだ。

大卒就職率はリーマンショック前の 2008 年 3 月に 69.9%まで回復したが、卒業後数年が経った非正社員は置き去りにされた。

■　問題提起し続けるために

小泉郵政選挙を機に私は、「もし自分が政治家だったら、何を問題にし、何の制度を変えていくか」ということを、より強く意識するようになった。就職活動をしていた大学時代に講座を聴いて影響を受けた、朝日新聞大阪本社の新妻義輔編集局長（当時）の言葉を思い出していた。

「人の苦しみを数字で見てはいけない。構造問題に苦しむ人が 1 人でもいるのなら、それを書くのが記者だ」

新妻氏は若い記者時代に森永ひ素ミルク事件（1955 年に森永乳業の粉ミルクにひ素が混入して多くの被害者が出た事件）を追っていた。事件の担当医に「被害者は何%か」と数字を聞いた時に、医師から注意を受けた経験からの教訓だという。就職氷河期世代が抱える問題は、まさに非正規雇用を生み出す法制度という構造問題が起因しているはず。それを問題提起し続けることは、私の役割なのではないか。

労働問題に特化するには組織にいては限界があると考えた私は、小泉郵政選挙から 1 年半後の 2007 年、フリーのジャーナリストになった。

■　絶望とあきらめムードが蔓延した

第一次安倍晋三政権（2006 年９月から 2007 年９月）が就職氷河期世代向けに「再チャレンジ」政策をとったが、政権が短命に終わるとともに支援は下火になった。
2008 年のリーマンショックが襲い、就職氷河期世代だけでない多くの人が職を失った。
政府は就職氷河期世代の支援というよりは、支援事業を担う民間企業を支援したと言える。
国は 15～34 歳の「フリーター」対策の目玉政策として 2004～06 年に「ジョブカフェ」のモデル事業を行っており、同モデル事業を行った経済産業省から委託を受けた企業が異常に高額な人件費を計上していたのだ。

調べると、ジョブカフェ事業ではリクルート社が自社社員について１人日当たりで 12 万円、コーディネーターに同９万円、キャリアカウンセラーに同７万 5000 円、受付事務スタッフに同５万円という“日給”を計上していたことが分かった。
『週刊 AERA』（2007 年 12 月３日号、同年 12 月 10 日号）でスクープ記事を執筆すると、国会でも問題視された。このジョブカフェでは委託事業が何重にも再委託され、税金の無駄も指摘した。昨年問題になった新型コロナウイルスの感染拡大の対策で多額の委託料が電通に支払われているにもかかわらず、何重にも委託されている問題はなんら変わっていないのだ（参照「給付金『再々々々委託』の深い闇…10 年以上前から全く変わっていない」）。

就職支援事業が企業の食い物にされる一方で、就職氷河期世代の非正社員がやっと正社員になれるかもしれないというところで契約を打ち切られる。そうしたことが繰り返され、いくら頑張っても報われずに絶望の淵に追いやられた。
正社員になったとしてもブラック職場で追い詰められ、心身を崩して社会復帰できないケースも少なくはない。
こうした状況が続いたことで、絶望と諦めのムードが蔓延した。

参照「給付金『再々々々委託』の深い闇…10 年以上前から全く変わっていない
https://gendai.ismedia.jp/articles/-/73236

■　繰り返される再委託問題

新型コロナウイルスの感染拡大によって営業自粛を余儀なくされ、影響を受けた事業者のための「持続化給付金」業務の再委託問題が、大きな波紋を広げている。
各報道によれば、経済産業省から委託を受けた「一般社団法人サービスデザイン推進協議会」は、電通、パソナ、IT サービスのトランスコスモスによって 2016 年５月に設立されている。
そのサービスデザイン推進協議会が、委託費の 97%を電通に再委託して「丸投げ」していることが分かった。
経済産業省からサービスデザイン推進協議会に 769 億円で委託され、そこから 20 億円が差し引かれて 749 億円で電通に再委託されたという。
再委託を受けた電通は「管理・運営費」として 103 億円を差し引き、電通の子会社５社に 645 億円で事業を外注。その電通子会社５社はといえば、またも 417 億円を外注費として使い、パソナに 170 億円、トランスコスモスに 29.8 億円、大日本印刷に 102 億円、テー・オー・ダブリューに 115 億円の委託費が流れているという。

■ 2010 年代に何が起きたか

2009 年３月に日経平均株価はバブル崩壊後最安値の 7054 円をつけ、2010 年３月の大卒の就職率は 60.8%に落ち込んだ。

2012 年 12 月に第２次安倍内閣が発足すると、あたかも「アベノミクス」によって新卒の就職率が高まったかのように見えた。しかし、それは、団塊世代が完全にリタイアするタイミングが重なったことによるもので、15～59 歳の労働力人口がピーク時より 500 万人減っていたことが後押ししただけだった。

安倍政権が打ち出した「女性活躍」の名の下で、企業は人手不足を補うためにブランクのある“優秀な”主婦の採用に乗り出し始め、専業主婦の間には「働いていないと肩身が狭い」という意識が一時的に広がった。

一方で、相も変わらず就職氷河期世代は置き去りにされた。

2015 年に専門職も含めた派遣で全職種の上限期間が３年になり、同年は労働契約法が改正されて有期労働契約が５年続くと労働者が希望すれば期間の定めのない「無期労働契約」に転換できるようになった。

2005 年にできた「3 年ルール」と同様、制度は悪用され、派遣は３年で“ポイ捨て”、非正規雇用の全般でも５年で“ポイ捨て”が広がった。

安倍政権で内閣府に就職氷河期世代支援推進室が設置され、2019 年に「就職氷河期世代支援プログラム」が策定され、３年間で 30 万人を正社員化すると掲げたが、国は就職氷河期世代の中心層を 2018 年時点で 35～44 歳として（次ページ図）、最も支援が難しい 40 代後半や 50 歳を過ぎた層に重点を置かずにいる。

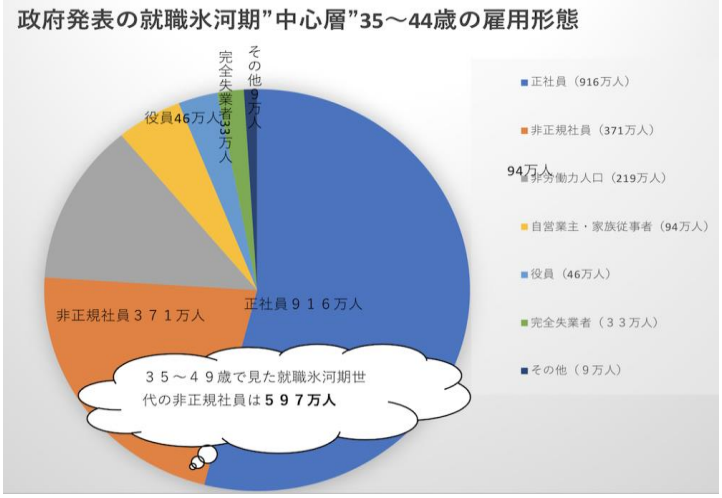
そして、支援プログラムがこれまでの施策の焼き直しの域を脱しないことから、就職氷河期世代の絶望は深まった。

■ 就職氷河期の問題解決は困難だが‥‥就職氷河期世代の非正社員「約 600 万人」

いったん絶望し、諦めてしまえば、どんな支援があったとしても届きにくくなる。私が就職氷河期の問題を追ってから 18 年が経つ。16 年前のインタビューで丹羽氏が言及した通り、もはや「too late」の状況に陥っているのかもしれない。現在、35～49 歳の非正社員は約 600 万人に膨らんでいる。もはや誰も解決の糸口を掴めないくらい、事態は深刻になる一方だ。自民党政治の下で、製造業の日雇い派遣が解禁され、労働者派遣は今や全ての職種で期間の上限が３年になった。

就職氷河期世代を置き去りにしたまま、業界団体のロビー活動も後押しして外国人労働の拡大が図られた。「女性活躍」は女性に仕事と家事と子育て、介護の両立を押し付けるだけ。「働き方改革」や正社員と非正社員の「同一労働同一賃金」も、実態は伴わない。

就職氷河期を追うなかで、そのライフステージに寄り添い、周産期医療や看護、保育の問題もライフワークになったが、全て構造問題がある。



国が作る制度が密接に関わり、政治が現場を疲弊させている。

新型コロナウイルスが蔓延するなか、政治の機能不全が鮮明となった。

総選挙を前に、これまでを振り返らざるを得ない。

政治家にしがらみがあれば、正しいことが言えなくなる。けれど、この 18 年の間に分かったことがある。

世論が盛り上がれば、政治は正しい方向に動かざるを得なくなるということだ。その世論を作るのが、現場の声であり、現場の声を活字にして伝えるのが私の役割だ。

就職氷河期世代の問題を解決するのは困難だろう。しかし、目指すべき道が見えなくならないよう、私は書き続けていきたい。

この２０２１年に書かれた資料ですが、　NHK かんさい熱視線「“中年化”する就職氷河期世代 ～非正規雇用 540 万人の衝撃～」番組の内容骨子とよく整合整理された内容でしたので、参考資料として添付しました。

映像資料とは別によく調べ書き込まれた資料　若者を含め、多くの人にも是非ご一読ください。

2022.5.16.　　Mutsu Nakanishi

Fkobe R0407.pdf

2022 四季折々

From Kobe 2022

【四季折々・from Kobe 】７月　**6月28日　あっという間の早い梅雨明けと猛暑襲来にもびっくりです**

初夏　梅雨の雨上がりをゆったりと　神戸７月初夏　神戸紫陽花の便り

2022. 7. 1.　Mutsu Nakanishi

収録 1.　桂文珍　落語見聞録　茗荷宿　　神戸新聞より　我が家も夏の薬味　茗荷がすくすくと

収録 2.　立場の異なった人たちとつながる　６月 気になった新聞記事より

先が見えぬ日本　先がどうなる６月２２日　参議院選挙が告示

【スライド動画】　梅雨の雨上がり　2022 雨上がりの紫陽花

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0407ajisai.mp4

田圃に水が入り、周りの山が水に映える里　街にも活気　子供たちや学生たちの明るい笑顔

やっとコロナ禍も収束の道をたどるのか…

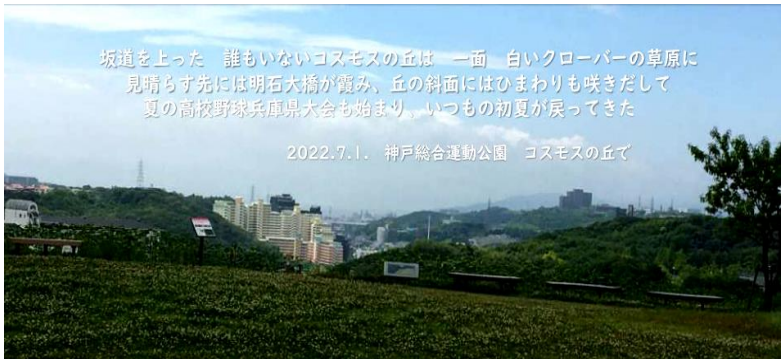
先が見えぬ厳しい世相に　気候変動・激甚化する自然災害が追い打ちをかける日々

気が休まらぬが、ほっと わが身や周囲を見渡すには、そぼ降る雨もよし

期待が膨らむ７月になるようにと自らをはげます毎日　仲間との出会い　老いを元気に!

好奇心一杯で過ごす毎日 walk　まだまだ元気です

梅雨の雨上がり　2022 雨上がりの紫陽花　雨に濡れた紫陽花の清純な美しさ
ちょっぴり憂鬱な時季ですが、雨が降るからこそ美しい梅雨の絶景
そっと顔をよせて、 ゆったりとした時を独り楽しむ



毎日の Walk の中で、こんな素晴らしい梅雨時の晴れ間の景色にも出逢いました

■ 先が見えぬ日本　先がどうなる　6月２２日　参議院選挙が告示　6月気になった新聞記事より

６月２２日参議院選挙が告示され、７月１０日の投票に。マスコミを通して、各党が数々の選挙公約を論じているが、やっぱり響かない。神戸新聞のコラム「正平調」にはこんな意見が・・…

神戸新聞　2022.6.17.朝刊 コラム「正平調」より

正平調

「私は心配する」。詩人の杉山平一さんがそう書いたのは、もう30年以上前のことだ。何を心配するのか。

「中流意識にかげりが出はじめたという報道」である◆「国民は、食えなくなったとき、戦争もイデオロギーも何のその、食える方へ、雪崩れうって向かうからである」。大正に生まれ、従軍も空襲も経験しながら終戦までの道筋を見つめた詩人は憂えた◆多くの人が「中流」と感じた時代は今や遠い。格差を切実に訴える論文「31歳フリーター。希望は、戦争。」が議論を起こしたこともあったのに、雇用不安と貧困に苦しむ層は年々、厚みを増すばかりだ◆暮らしを整え、ささくれがちな心を落ち着けたい。そこそこ食べられて将来を見通せて、子どもたちが望む教育を受けられる。そのためにどんな処方箋があるのか、聞きたい。公示を迎える参院選に向け願う◆だが永田町から聞こえる声は物価高対策に触れながら、気付くと「国を守る」といった勇ましいものに変わっている。食料も資源も、「安全保障」でくくられる。ほかに言いようはないのか◆杉山さんの詩「思想」を引く。〈いくら眼鏡をぬぐっても／よく見えない〉〈くもっているのは／目の方だった〉。どうか、目のくもりも何のその、と突き進まぬように。

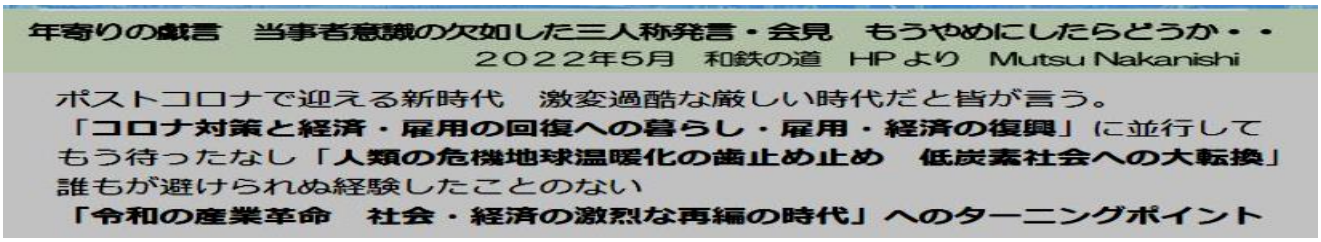
2022.6.17

同感です。

政治家の発言の軽さ・当事者責任のなさ・仲間意識が支えの政治が　今も露呈し続けている。

世界・地球・そして日本がどうなるか　その瀬戸際の中で、日本は益々複雑化する「人・社会・生活」に目をつぶり、

IT・情報がもたらした　物・マネー重視の「軽薄短小・集中・効率・スピード・同化」の負の遺産をいまだに引きずっていると見える。今や世界は人重視・多様化に舵を切り始めたのに……



「数が頼みの仲間意識の強い頂点同調・丸投げ・余裕のないマネーゲーム」の中で「自己の変革・革新」の道を閉ざしてきた日本。アベノミクスと称して　言葉に酔う政治は願い下げにしてほしい。
未だに大企業の品質保証・検査結果の偽装が続く現実は日本の状況をよく表している。
私の現役時代に　欧米の「Copy exactly 」と日本の「日々改善　即実行」の運用について、論議したことが何度もある。
未だにこの理念がしめす運用理解のない日本が寂しい。
リーダー層が頂点同調・丸投げを武器に経験重視を振りまわす時代ではない。また　勉強しないリーダーは願い下げ。

この６月の新聞記事やコラムには　先行き不安の中での参議院選挙の中で相変わらずの政治「中央追従型　丸投げの人間軽視」を批判する立場の論がいくつも見られるようになった。(収録 2)
先が見えぬ厳しい世相に気候変動･激甚化する自然災害が追い打ちをかける日々ですが、コロナもやっと落ち着く兆し。
まだまだ予断はできませんが、収束の兆し気が休まらぬが、そぼふる梅雨の雨もよし。
ほっと一息 わが身や周囲を見渡し、先を考えねばと。
また　人それぞれ　私の勝手な言いぐさと理解していますが、　つい　ぶつぶつ　同じことを言っています

2022.7.1.　　From Kobe　Mutsu Nakanishi

参考

■ From Kobe ７月　収録２.　６月気になった新聞記事より　「立場の異なった人たちとつながる」
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0407newspaperA.pdf

---

■　７月神戸便りの更新中に梅雨があけました　　また６月というのに・・…
期待一杯の７月になるように　声かけあって厳しい夏を乗り越えましょう

ウクライナに平和を!

もう　自分の時代ではないと感じる昨今ですが、
まだまだ好奇心旺盛　気力もあり、足も復活。
不定期になりそうですが、元気に前向いて発信をと。
後期高齢者だからとは言えなくなった新型コロナへの戦い
そしてポストコロナの時代へ
みんなの一番の願いは穏やかな日常の生活を取り戻せること
前向いてがんばりましょう

困難の中にある仲間に　思いをはせています。
みんな老いと向き合う年に
一人で頑張らず、無理せず　みんなに声あげて!!　.
仲間がいる。仲間の元気はみんなの応援歌
互いに連絡取り合って　元気に前向いて笑顔で今を。

God Be With You!!
From Kobe　Mutsu Nakanishi

◆ 原爆資料館 映像展示資料 原爆を投下された広島

平和憲法は日本の柱　平和憲法を守ろう

国の大きな転換点 今 声を上げねば !!

平和を今 自分の頭で考えよう

狭い縦走路のドクン中にどっしりと座り
いつも元気をもらうウバメガシノ巨樹

群生するウバメガシの中を歩く
西六甲須磨縦走路で

いつも元気を貰う妙法寺
車の里の車の里大歳神社のの大楠

最近巨樹の生き様をTV等で見る機会多し。先日も「葉が前部落ち、枯れ木に近くになっても、樹木は根さえ生きていれば、根元から新しい芽・枝を出す。動けぬ樹木は常にその準備をしていると。また、根は水分と共に土壌細菌と共生することで、動けぬ身を補完しあっている。このため、土壌細菌を活性化する酸素が根に供給されないと根が死んで、息の根を止められてしまうのだ」と。巨樹のあのたくましいごつごつした巨体は本体が切られても本体が折れても、準備してきた根元や切られた幹から、新しい芽をだし生き延びてきた生きざまそのものだと聞きました。。
私たちが巨樹に惹かれるのもそんな生物共生・循環を知らずとも知っているからかも・・…・・・
樹木医はこの巨樹の生きざまを助け、樹勢を回復させてやるのだという。
すごく感動し、またひとつ　巨樹を眺める視点ができました。

ポストコロナで迎える新時代　激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。
「コロナ対策と経済・雇用の回復へ
　暮らし・雇用・経済の復興」「人類の危機地球温暖化の歯止めも
　もう待ったなし。低炭素社会への大転換」
誰もが避けられぬ経験したことのない
「令和の産業革命　社会・経済の激烈な再編の時代」へ
みんながみんな避けることのできぬ厳しいターニングポイント
高齢者には足がすくむ新時代
もう　自分の時代でないと知りつつも、
でも立ち止まっては居られない
知力・体力は衰えたとはいえ、足も動くし、まだまだ好奇心もあり。
70有余年の「気力-毎日毎日の思い-」が生きる力
ときには世話にもなりながら、
スクラム組んで頑張ろうと気分も新た
God be with You!!　仲間の元気はみんなの応援歌
この新しい時代を笑顔で暮らせるように

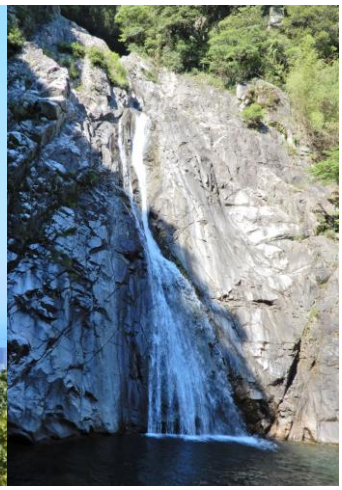
2022.7.1.　From Kobe　Mutsu Nakanishi

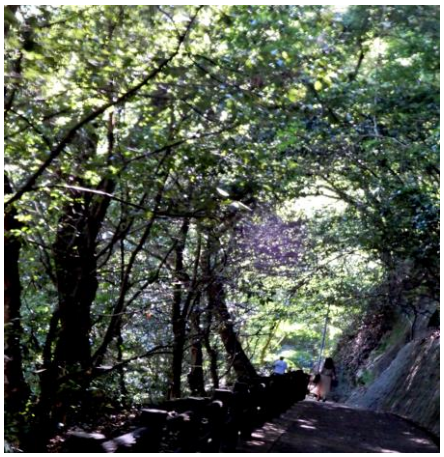
【追伸】７月更新の HP page にかききれませんでしたが、
早い異例の梅雨が明けた途端　猛暑になりました
また　コロナもじわじわ増加の兆し
ウクライナの情勢も混沌と
巷ではやたらに参議院選挙のポスターが目につきますが、
今の世相に新しい風を吹きこんでくれるのでしょうか‥‥

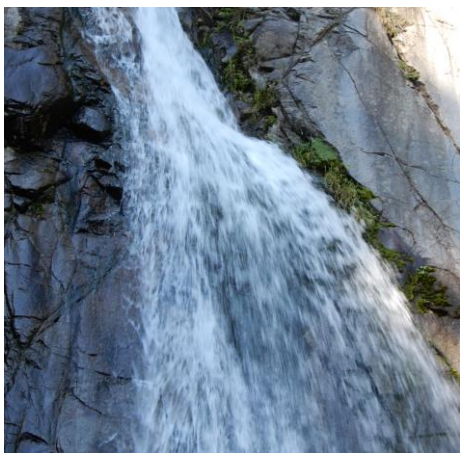
厳しい暑さの中、日傘を差し歩く人たち＝30日午後、尼崎市内

2022. 7. 1. 神戸新聞朝刊より

酷暑の夏　いつも頭に浮かぶのは　「平和な暮らし」の事
なにはさておいても　何とかウクライナに平和がもどりますように
願いとは裏腹に　本当に厳しい酷暑　自然災害も牙をむきそうな気配。
この暑さがコロナを吹き飛ばしてくれたらも　一つぐらい酷暑も特典があれば‥・
どうか　「自分の身は自分で守る」の意気
無理せず　声かけあって　この時節を乗り越えましょう







2022.6.30.午後　神戸の巷は３５℃を超える猛暑　歩くのもこたえる暑さに
あまりの暑さに布引の滝道へ　谷筋日陰ですが、挨拶はみんな「暑いなぁ!! こたえるわ」と
どうか無理せず　コロナ・熱中症・体の変調にもご用心ください

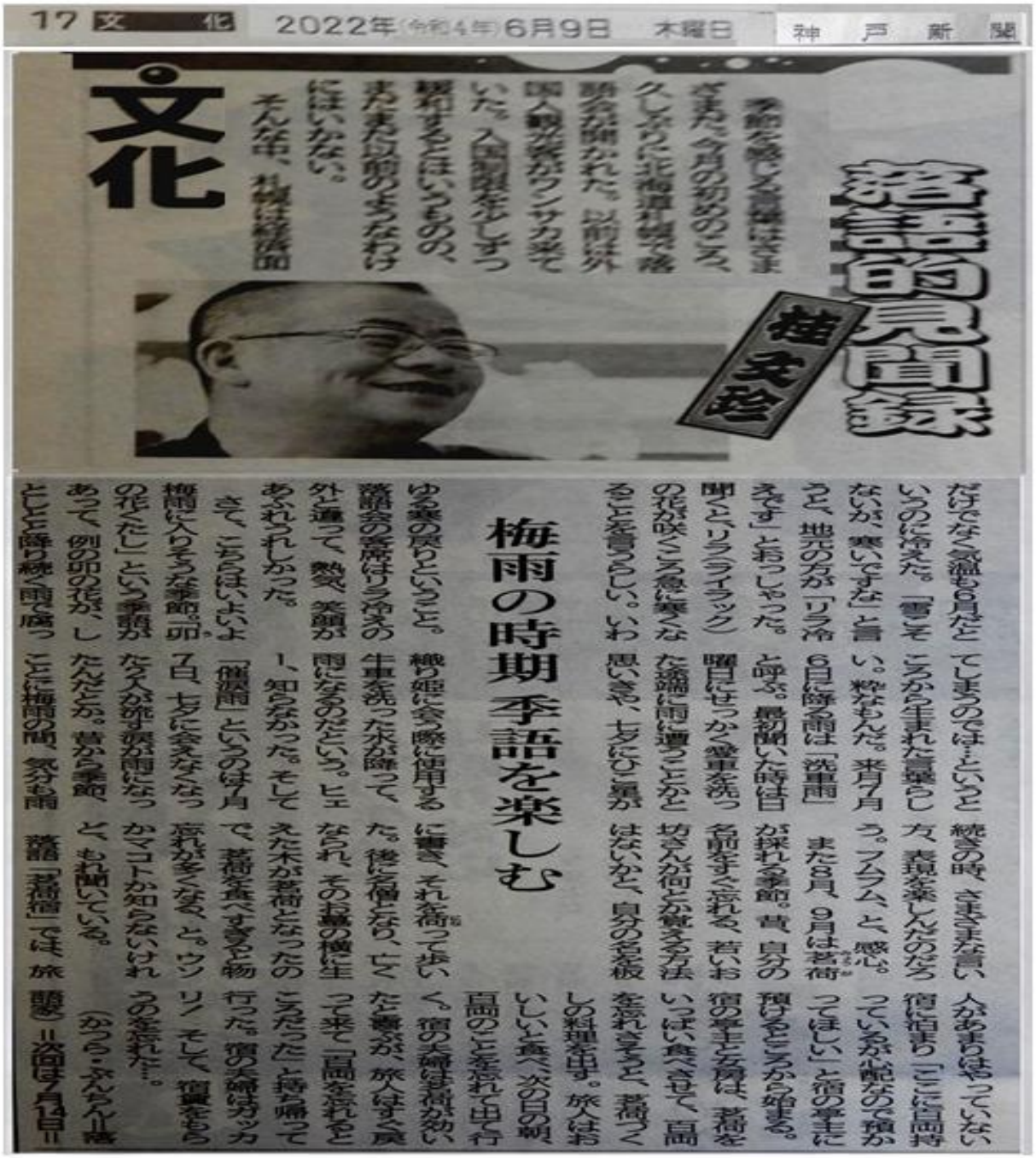
「地球人」「」人の温もり」「一人では生き抜けぬ」こんな言葉を今ほど身近に感じた事はなし。
はっと気づいた「幾多の困難を乗り越え、人間が生き抜いてきた道
大空を吹き来る風を胸一杯　気分も爽快　日々新らた
７０余年　毎日の思いが生きる力に
愚痴は言うまい　God be With You!!"
互い声かけあって　スクラム組んで　前向いて
ほっと一息　心地良きひとときの手助けにでもなればと・・
どこでも飛び出せる日もまじかと期待一杯
ぐちはいうまい　新生の息吹を胸一杯　前向いて

仲間の元気は　みんなの応援歌 !!
頑張りすぎず、時には声をあげて !!
お互いスクラム組んで
助け合ってこの難局を乗り越えましょう
笑顔で逢えるのを　楽しみにしています
まだまだ収束は道半ば
どうか　無理せず、元気に前向いて
お過ごしください

また連絡ください　　God Be With You!!
From Kobe　Mutsu Nakanishi

収録 1. 桂文珍　落語見聞録　落語「茗荷宿」　神戸新聞より

我が家も夏の薬味　茗荷がすくすくと



17 文化 2022年(令和4年)6月9日 木曜日 神戸新聞

文化

桂文珍

梅雨の時期 季語を楽しむ

ミョウガ(茗荷)

夏を代表する薬味

さわやかな薫りで夏バテ防止

地下茎から出る花穂を食すので「花みょうが」とも呼ばれています。

8世紀に書かれた『魏志倭人伝』で書かれているほど日本では歴史が古い。

刻んでかつお節としょうゆをかけたり、みそ汁の具材にしたり、

薬味としてだけでなく、一品にできるのも魅力です。

我が家の裏庭でも　茗荷がすくすく「物忘れがひどくなる」と言われても　夏の素麺などの薬味には欠かせない

収録 2.　立場の異なった人たちとつながる　　6月 気になった新聞記事より

先が見えぬ日本　先がどうなる6月２２日　参議院選挙が告示

2022年６月　気になった新聞記事・評論より　From Kobe 2022.7.1. Mutsu Nakanishi

混乱する変革の時代の中で、人と人のつながりを考える　ご参考になれば

ポストコロナで迎える新時代　激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。
「コロナ対策と経済・雇用の回復への暮らし・雇用・経済の復興」に並行して
もう待ったなし「人類の危機地球温暖化の歯止め止め　低炭素社会への大転換」
誰もが避けられぬ経験したことのない
「令和の産業革命　社会・経済の激烈な再編の時代」へのターニングポイント

「地球人」「」人の温もり」「一人では生き抜けぬ」こんな言葉を今ほど身近に感じた事はなし。
はっと気づいた「幾多の困難を乗り越え、人間が生き抜いてきた道

◆立場を超えた人とつながる
◆脱炭素は誰のためか
◆どうか目の曇りはなんのそのと、突き進まぬよう
◆格差是正　実のある分配策 示すとき

2022.6.28.神戸新聞朝刊 社説 実のある分配策示すとき

社説　2022参院選

実のある分配策示すとき

格差是正

神戸新聞 2022.6.14.朝刊「日々小論」脱炭素は誰のため

脱炭素は誰のためか　日々小論

神戸新聞　2022.6.17.朝刊 コラム「正平調」より
〈いくら眼鏡をぬぐってもよく見えない〈くもっているのは目の方だった〉
どうか、目のくもりも何のその、と突き進まぬように

正平調

混乱する変革の時代の中で　人と人のつながりを考える From Kobe
6月神戸新聞焦点/争点より「立場を超えた人とつながる」　2022.6.10.

混乱する変革の時代の中で　人と人のつながりを考える *From Kobe*
6月神戸新聞焦点/争点より「立場を超えた人とつながる」　2022.6.10.

17 文化　　2022年(令和4年)6月10日　金曜日　神戸新聞

文化

焦点/争点

ウクライナの死傷者や著名人の急死が連日報じられる影響だろうか。論壇各誌に死や老いを巡る論考が並んだ。

「中央公論」6月号の特集は「老いと喪失　死と向き合う思想」。昨年の著書「生物はなぜ死ぬのか」が話題を呼んだ生物学者で東京大教授の小林武彦は「利己的な生と公共的な死」で、生物の死と、人間の老いに、肯定的な意味を探る。

地球上の「生命の種」となったリボ核酸（RNA）は、増殖した後に一部が壊れ、他のRNA分子の材料になったとして「これが死の起源だと私は考えている」と説く。生命の誕生後も、あらゆる生物が生と死を繰り返しながら、進化の営みを続けてきたと解説。そうした全ての生物に「同胞として、リスペクト」を感じるとつづり、地球環境の保護に注意を促す。

他方、生物の中で特に人間は、生殖可能な時期が過ぎた後も、なお数十年生き続ける存在だと指摘。「人間は社会的な生物」で「高齢者の本来の役割の一つは、若い世代が自由になれるような、安定した社会を作るために力を尽くすこと」だと強調した。

5月　安心して老いられる社会

立場を超え人とつながる

そんな小林の主張に呼応した形となったのが、脚本家倉本聰の「老人よ、電気を消して『貧幸』に戻ろう！」（「文芸春秋」6月号）だ。世界の若者が環境危機に目を覚まし始める中、日本の政財界の「大人」「壮年」は眠りほうけていると主張。世の「老人諸氏」に「声を上げ始めた若者たちに、賛意の旗を振ってやろうではないか。一緒に声を上げようではないか！」とげきを飛ばす。

「質素だった昔」の経験を生かし、街頭のネオン、包装紙やティッシュペーパーの無駄をチェックし、なくす努力を呼びかける背景には「我々老人世代は環境危機に責任がある」との思いがある。「こうした回帰は簡単に出来る」「暮しを少し以前に戻し、あの頃の生き方を取り戻せばいいだけの話なのだから」

老いるのは何も生物ばかりではない。一橋大教授の井伊雅子は「日本の医療制度をどう設計するか？」（「アステイオン」96号）で、人々の健康を支える現行の医療制度の老朽化を分析し、その刷新を訴える。

新型コロナウイルス禍で露呈したのは、患者の「長期入院や頻回受診」に依存していた病院の収支構造の欠陥だと指摘。感染予防などで風邪や腰痛、便秘で受診する人が急減したコロナの経験は、これから一層深刻化する少子高齢化を先取りする現象でもあるとして、このままでは立ちゆかなくなる病院経営の手法を見直すべきだと説いた。

7割を超える人々が、健康情報をテレビから得ているとする2021年の東京都の調査結果についても報告。健康問題を気軽に医師に相談できるよう、現状のあいまいな「かかりつけ医」に替えて、地域に根差した「国際標準の家庭医」を育成、普及させることが急務だと力を込めた。

安心して老いてゆける社会に必要なのは、立場を超えた人と人のつながりのようだ。

（共同通信記者・川村敦、敬称略）

このほかの注目論考

「ゼレンスキーへの危うい『熱狂』と、リベラル言論人の衰退を問う」
（「現代ビジネス」5月10日）
田中康夫・作家、浅田彰・京都芸術大教授
ウクライナ情勢を巡り同国を善、ロシアを悪とみなす日本の二元論は浅薄だと田中。浅田は冷戦後に旧ソ連を支援しなかった西側諸国にも責任があると指摘

「『今度はインターセクショナリティが流行ってるんだって？』」
（「現代思想」5月号）
森山至貴・早稲田大准教授
多様な権力関係が複雑に交差する構造に注意を促すための概念「インターセクショナリティ」を解説。差別解消などに役立つ言葉になるよう定義や誤用を紹介

「古くて新しい民主主義を考える」
（「世界思想」春号）
宇野重規・東京大教授
世界で独裁・権威主義国家が増え、民主国家を脅かしていると分析。民衆が一揆で領主を追放した中世の加賀国を例に、民主主義を守り刷新するヒントを探る

神戸新聞 2022.6.14.朝刊 「日々小論」 脱炭素は誰のため

脱炭素は誰のためか

日々小論

編集委員　横田良平

「脱炭素（カーボンニュートラル）」。今や毎日のように聞く言葉だが、字面からは硬く感じてしまう。要は、自分たちが住む地球が快適な環境を保つために、みんなで地球温暖化のもととなる二酸化炭素の排出を抑えましょうということだ。

想像してほしい。「数十年に1度」とされる巨大台風が毎年いくつも襲来し、日本のどこかが被災地になる。「酷暑」と言われる夏場の暑さが当たり前になり、いつの間にか四季を感じることすらできなくなる…。今年も、すでに「猛暑日」という言葉が聞こえ始めた。

地球全体の話である。「自分だけ頑張っても、ほか（他国）も取り組まないと意味がない」と考えるのも理解できる。温室効果ガスの排出削減目標を設定した京都議定書、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べ1・5度に抑える目標を掲げたパリ協定と、温暖化防止を巡っては欧州の先導が続く。日本は時に、後追いとの批判を受ける。

「欧州とはエネルギー事情が違う」とは、取材で聞く産業界の意見だ。ウクライナ情勢を見ても、再生可能エネルギーを中心に据えた電源構成には危うさが見え隠れする。脱炭素の行方も簡単ではないことが分かる。

地球全体の話だからこそ、全員で取り組まないと、どうにもならない。

個人的には夏よりも冬の方が好きだし、桜や紅葉、そして雪景色と四季の風情はめで続けたい。脱炭素はつまり、今の地球を未来に残していく気概をどれだけの人が持てるか、が問われているのだと思う。

「鉄は熱いうちに打て」は、物事の時機を逸してはならない、とのことわざだ。脱炭素へ、これ以上暑くなる前に手を打とう。自分たちと将来のために。

神戸新聞　2022.6.17.朝刊 コラム「正平調」より

〈いくら眼鏡をぬぐっても よく見えない くもっているのは 目の方だった〉

どうか、目のくもりも何のその、と突き進まぬように

正平調

「私は心配する」。詩人の杉山平一さんがそう書いたのは、もう30年以上前のことだ。何を心配するのか。

「中流意識にかげりが出はじめたという報道」である◆「国民は、食えなくなったとき、戦争もイデオロギーも何のその、食える方へ、雪崩れうって向かうからである」。大正に生まれ、従軍も空襲も経験しながら終戦までの道筋を見つめた詩人は憂えた◆多くの人が「中流」と感じた時代は今や遠い。格差を切実に訴える論文「31歳フリーター。希望は、戦争。」が議論を起こしたこともあったのに、雇用不安と貧困に苦しむ層は年々、厚みを増すばかりだ◆暮らしを整え、ささくれがちな心を落ち着けたい。そこそこ食べられて将来を見通せて、子どもたちが望む教育を受けられる。そのためにどんな処方箋があるのか、聞きたい。公示を迎える参院選に向け願う◆だが永田町から聞こえる声は物価高対策に触れながら、気付くと「国を守る」といった勇ましいものに変わっている。食料も資源も、「安全保障」でくくられる。ほかに言いようはないのか◆杉山さんの詩「思想」を引く。〈いくら眼鏡をぬぐっても／よく見えない〉〈くもっているのは／目の方だった〉。どうか、目のくもりも何のその、と突き進まぬように。　2022.6.17

神戸新聞　2022.6.26.朝刊　社説　実のある分配策示すとき

社説　2022参院選

2022.6.28

実のある分配策示すとき

格差是正

物価高に対する国民の不満と不安は高まるばかりである。その根底には、格差是正に向けた「本気度」が見えてこない政治への怒りがあるのではないか。

時計の針を少し戻そう。2021年10月8日、岸田文雄首相は就任後初の所信表明演説で「新自由主義的な政策は、富める者と富まざる者との深刻な分断を生んだ」と述べた。特に力を込めたのが次のくだりである。「分配なくして成長なし」「今こそ新しい資本主義を起動し、模索していこうではありませんか」

成長と効率優先の新自由主義的な経済政策アベノミクスは、格差の拡大を招いた。雇用は増えたが、非正規が多く、コロナ禍で真っ先に解雇されるなど深刻な打撃を受けた。こうした政策を転換し、格差是正に取り組むとの首相の決意表明に、国民の期待は小さくなかっただろう。

しかし、分配を重視する姿勢は後退した。今や、アベノミクスへの先祖返りが鮮明だ。

参院選の公示前に閣議決定された「新しい資本主義」の実行計画は、「徹底して成長を追求する」とうたう。人、科学技術、新興企業、脱炭素の4分野に重点投資し、経済を立て直すとしている。大胆な金融政策、機動的な財政政策、成長戦略というアベノミクスの「三本の矢の枠組みを堅持」との文言も入った。

格差をさらに広げかねない政策も盛り込まれた。「個人の金融資産を貯蓄から投資にシフトさせる」とし、株式投資などから得る所得を増やす「資産所得倍増プラン」を年末に策定するという。

大規模な金融緩和が急激な円安を誘発し、物価対策が喫緊の課題となっている今こそ、アベノミクスの弊害を直視する必要がある。競争力の強化はもちろん重要だが、暮らしの安心なくしてはコロナ禍からの経済再生は望めない。

とはいえ、財源を曖昧にしたばらまきは避けねばならない。参院選では、本当に困っている人たちの不安を解消し、格差是正につながる分配策を聞かせてほしい。

自民党は新しい資本主義の推進を公約に据えた。人や成長分野への投資で経済を成長させ、所得拡大につなげるとの主張は公明党も同じだ。

一方、立憲民主、共産、社民の各党は、富裕層の所得税率アップを掲げた。日本維新の会と国民民主党は、必要最低限の金額を給付する「ベーシックインカム」の導入を挙げた。NHK党を含む全野党は、消費税の減税か廃止を訴える。

岸田首相は、公示日の第一声で新しい資本主義に触れなかった。看板政策を丁寧に説明し、野党と議論を戦わせるべきだ。

年寄りの戯言　当事者意識の欠如した三人称発言・会見　もうやめにしたらどうか・・

2022年5月　和鉄の道　HPより　Mutsu Nakanishi

ポストコロナで迎える新時代　激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。

「コロナ対策と経済・雇用の回復への暮らし・雇用・経済の復興」に並行して

もう待ったなし**「人類の危機地球温暖化の歯止め止め　低炭素社会への大転換」**

誰もが避けられぬ経験したことのない

「令和の産業革命　社会・経済の激烈な再編の時代」へのターニングポイント

この６月の新聞記事やコラムには　先行き不安の中での参議院選挙の中で相変わらずの政治「中央追従型　丸投げの人間軽視」を批判する立場の論がいくつも見られるようになった。(収録2)

先が見えぬ厳しい世相に気候変動・激甚化する自然災害が追い打ちをかける日々ですが、コロナもやっと落ち着く兆し。

まだまだ予断はできませんが、収束の兆し気が休まらぬが、そぼふる梅雨の雨もよし。

ほっと一息 わが身や周囲を見渡し、先を考えねばと。

また　人それぞれ　私の勝手な言いぐさと理解していますが、　つい　ぶつぶつ　同じことを言っています

2022.7.1.　　From Kobe　Mutsu Nakanishi

From Kobe 8月　ひまわりの夏

fkobeR0408.pdf　　2022.8.1.掲載

コロナ感染急拡大・酷暑が続く中で迎えた　ひまわりの夏 2022.
厳しい夏ですが、無理せず元気に

◎　酷暑の夏を明るく爽やかにしてくれるひまわりと朝顔

◎　日に日に深みを増す緑の絶景　周囲の街・野山・田園の緑の美しさにふと気が付く

収録 1.　ポストコロナの新時代　低炭素社会構築のために　今月気になったインターネット記事
収録 1.自動車メーカーの「下請けイジメ」の記事に思う　　2022.7.15.
サプライヤーの「ケイレツ格差」もう随分長いなぁ…と

収録 2.　神戸新聞コラム 2022.7.29.「正平調　-聞くと聞く-」
& 元阪大総長 臨床哲学の鷲尾清一氏エッセイ「汀にて　ー 謙虚な叡智 ー」

収録 3.「GE 帝国盛衰史」Book 紹介コピー　お役に立てばと‥‥　　2022.7.12.

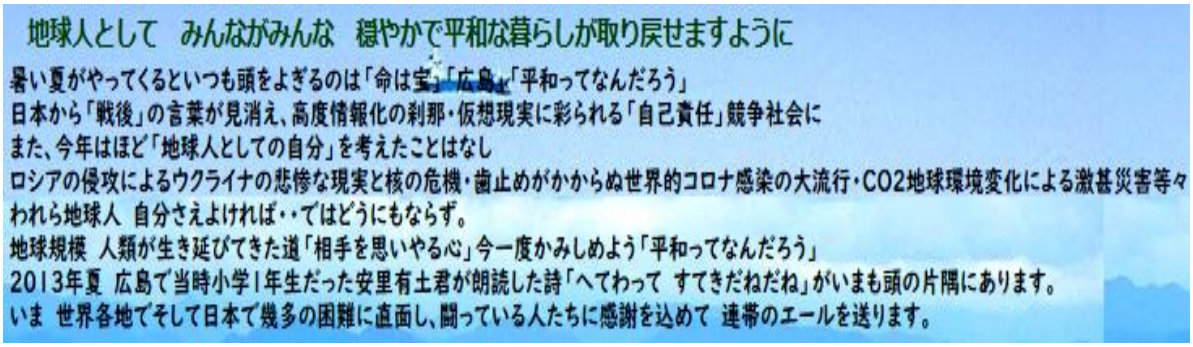
From Kobe 8月　ひまわりの夏　　fkobeR0408.pdf　　2022.8.1.掲載
コロナ感染急拡大・酷暑が続く中で迎えた　ひまわりの夏 2022.
厳しい夏ですが、無理せず元気に

酷暑 不安定な気象が激甚化 「もう自分だけは･･･」「日本だけは･･･」が通用しない世相・時代に
厳しい状況の中で、日本のほころびが見え、みんながみんな先が見通せぬ。
みんながみんな気が休まらぬ昨今。
でも ひとりじゃない　時には声を上げて がんばらないで!!
仲間がいる 仲間の笑顔・思いは みんなの応援歌
お互い声かけあって、スクラム組んで この厳しい夏を乗り切りましょう
今はコロナにかからぬことが一番 無理せず 自らをお守り下さい。

また、８月 忘れてはならぬ平和のこと　今一度 平和な暮らしを考えましょう
地球人としてみんながみんな　穏やかで平和な暮らしが取り戻せますように
今世界各地でそして日本で　幾多の困難に直面し、闘っている人たちに
感謝を込めて　連帯のエールを送ります。

2022.8.1. From Kobe　Mutsu Nakanishi

厳しい２２０２年酷暑の夏　周囲をぱっと明るくしてくれるひまわりを届けます
あれもこれもしたい仲間に会いたいなぁとの思いはあれど　コロナ感染急拡大・酷暑が続く中
行動節制神戸籠り籠りの中で迎えたひまわりの夏 2022.
無理せず体調変化に気を付けて新型コロナ・熱中症にも感度をあげて　御身大切にお過ごしください。
毎朝朝早く起きて眺める朝顔の清々しさ。そして、日に日に深みを増す近郊の緑の絶景
周囲の街・野山・田園の緑の美しさにふと気が付く
また、８月は　ひまわりの夏 HP 更新と共に いつもわが身を振り返りつつ 平和の事を考える。



「へいわって すてきだね」

◆Photo「 原爆資料館 & オバマさんの折り鶴」

◆原爆資料館

映像展示資料 原爆を投下された広島

平和憲法は日本の柱　平和憲法を守ろう
国の大きな転換点 今 声を上げねば !!
平和を今 自分の頭で考えよう

小学1年生、安里有生君の詩「へいわって すてきだね」を今一度

昨年紹介した当時　小学１年生、安里有生君の「へいわって　すてきだね」を今一度全文を紹介

安里有生／詩　**「へいわって すてきだね」全文**
2013.6.23.　沖縄全戦没者追悼式で　１年生の安里有生君が朗読

へいわって　なにかな。
ぼくは、かんがえたよ。
おともだちとなかよし。
かぞくが、げんき。
えがおであそぶ。
ねこがわらう。
おなかがいっぱい。
やぎがのんびりあるいてる。
けんかしてもすぐなかなおり。
ちょうめいそうがたくさんはえ、
よなぐにうまが、ヒヒーンとなく。
みなとには、フェリーがとまっていて、
うみには、かめやかじきがおよいでる。
やさしいこころがにじになる。
へいわっていいね。へいわってうれしいね。
みんなのこころから、
へいわがうまれるんだね。

せんそうは、おそろしい
「ドドーン、ドカーン。」
ばくだんがおちてくるこわいおと。
おなかがすいて、くるしむこども。
かぞくがしんでしまって　なくひとたち。

ああ、ぼくは、へいわなときにうまれてよかったよ。
このへいわが、ずっとつづいてほしい。
みんなのえがおがずっと、つづいてほしい。

へいわなかぞく、
へいわながっこう、
へいわなよなぐにじま、
へいわなおきなわ、
へいわなせかい、
へいわってすてきだね。

これからも、ずっとへいわがつづくように
ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。

酷暑・天候不安定の中で　新型コロナの感染爆発　世は厳しい変革・混乱の渦に
先が見えぬ厳しい世相に気候変動・激甚化する自然災害が追い打ちをかける
気が休まらぬが、「自分の身は自分で守るの心意気」　God be With You!!　元気に前向いて
厳しい夏ですが、おたがい無理せず元気に
God be With You!! も　もう口癖に　　２０２２盛夏　Mutsu Nakanishi　from Kobe

夏の朝を清々しくしてくれる朝顔 夏の朝の楽しみ

神戸籠り中ですが、近郊の里景色は日に日に緑を濃くする素晴らしい時節　盛夏だけの短い夏の絶景
熱中症には留意せねばなりませんが、木陰に座ってゆったりと　吹き来る夏の風に吹かれるのも心地よし

北神戸丹生山の北側に広がる淡河の里で
夏の青田が広がる田園地帯　実りの秋を約束する夏の緑の絶景

もう何十年ぶり　まどかから漏れる光に輝く釈迦三尊像をお堂の橋に座って眺めることができました　小野市浄谷浄土寺で
また酒米山田錦の郷　三木市細川町には、青田の畔にもう酒蔵の旗が翻っていました

ひまわりの夏　収録記録　この夏目に留まった新聞記事を私の資料保存を兼ねて収録記録

● ポストコロナの新時代　低炭素社会構築のために　日本が生きる道への模索
「立場の異なった人たちとつながる」【2】 最近の新聞記事より
先が見えぬ日本　新聞記事より　いろんな立場の意見をどう受け止めるか
1. 神戸新聞コラム 2022.7.29.「正平調　-聞くと聞く-」
2. 元阪大総長 臨床哲学の鷲尾清一氏　エッセイ　「汀にて　- 謙虚な叡智 -」
神戸新聞 2022.7.29.より

参　考　From Kobe8 月　ひまわりの夏 2022　神戸便りより
インターネットで見つけた巨大企業トヨタの記事に最近の世相を重ねて
要　旨　自動車メーカーの「下請けイジメ」の記事に思う
サプライヤーの「ケイレツ格差」もう随分長いなぁ…と　By Mutsu Nakanishi From Kobe

収録 1.　ポストコロナの新時代　低炭素社会構築のために　今月気になったインターネット記事
自動車メーカーの「下請けイジメ」の記事に思う　2022. 7. 15.
サプライヤーの「ケイレツ格差」もう随分長いなぁ…と
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0408A.pdf

収録 2.　神戸新聞コラム 2022. 7. 29.「正平調　-聞くと聞く-」
& 元阪大総長 臨床哲学の鷲尾清一氏エッセイ「汀にて　ー 謙虚な叡智 ー」
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0408B.pdf

収録 3.　「GE 帝国盛衰史」Book 紹介コピー　お役に立てばと‥‥　2022. 7. 12.
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0408C.pdf

風来坊の生活にどっぷり浸かっていて、頭にあれど　もやもやの日本の先行きの不安感　思いは人それぞれ
でも　インターネット・マスコミ情報・スマホの情報　まるで速射砲。真偽のほどは考えず、いいね　いいねの連発。
それがもてはやされ、悪乗りする風潮。
もうリタイヤした我が身にとっては違和感とともについて行けぬ孤独感も・・・・・。
また、新聞で先行きの考え方に触れた記事や一世を風靡したトップ企業を中心としたサプライチェーンのトラブった時の危うさやトップ企業の在り方に疑問を投げる記事を目にする機会が随分増えた。日本経済・社会のほころびともいえるでしょうか？、　随分　環境状況も変わっているのに日本的というか、いまだにトップ企業の「下請けいじめ」「ケイレツ格差」が続いているという。
大企業と中小企業の立場の変革が日本の課題でもある今　自分なりにぶつぶつ言ってきたこともあり、
上記したこれらの記事も一つの視点として　２０２２年のひまわりの夏の収録記録としてまとめました。
また　先が見えぬ日本「そんな思いの中　神戸新聞に掲載されたコラム・エッセイ・評論記事で説かれた「立場の異なった人たちとつながる」 事の重要さ。いろんな立場の意見をどう受け止めるかは大変重要だと。
今の日本では　すべてオープンとすぐ言いながら、その実　現実に蓋をしているのではないか‥‥
自分だけが取り残されているとの不安感　まさにだまし絵の日本の現実が頭の片隅に。
また、今や日本先進国の立ち位置は先進国のビリに近いという人も多くなった。
先日掲載した私の「政治家やコメンテイターの三人称発言」発言もそんな思いから。
ここずっと同じことを言いつづけて進歩がないなぁ・・・との思いもあって、今回で一度ストップにしたいと。
私の勝手なな受け止めで、思いは人それぞれ。ご批判もあると思いますが、こんなことを感が゛得ているやつもいるとご容認ください。何かの判断・思考に　ふっとお役に立てばと
最近目に留まった上記資料の書き写しで、整理掲載させていただきました。

2022. 8. 1.　From Kobe　Mutsu Nakanishi

夏の暑さには夕食に手を変え、品を変え。
ビール・ノンアルコールに焼酎ロック
ピンクの紫蘇ジュースも造ってくれました。
清酒は思い入れのある剣菱・ゴマ焼酎に
樽仕込の焼酎も
最近 TV のコマーシャルを見ていて、
眠っていた昔のグラス引き出し、グラス飲み。
ちょい　いい気分に
何はともあれ「コロナにかからぬ
コロナをうつさぬよう」 熱中症にも気を付けて。

もう　自分の時代ではないと感じる昨今ですが、
まだまだ好奇心旺盛　気力もあり、足も復活。
不定期になりそうですが、元気に前向いて発信をと。
後期高齢者だからとは言えなくなった新型コロナへの戦い
そしてポストコロナの時代へ
みんなの一番の願いは穏やかな日常の生活を取り戻せること
前向いてがんばりましょう

困難の中にある仲間に　思いをはせています。
みんな老いと向き合う年に
一人で頑張らず、無理せず　みんなに声あげて!!　.
仲間がいる。仲間の元気はみんなの応援歌
互いに連絡取り合って　元気に前向いて笑顔で今を。

仲間の元気は　みんなの応援歌 !!
頑張りすぎず、時には声をあげて !!
お互いスクラム組んで
助け合ってこの難局を乗り越えましょう
笑顔で逢えるのを　楽しみにしています
ワクチン接種も済ませましたが、
まだまだ収束は道半ば
どうか　無理せず、元気に前向いて
お過ごしください

また連絡ください　　*God Be With You!!*
From Kobe　*Mutsu Nakanishi*

From Kobe 8月　ひまわりの夏　　fkobeR0408.pdf　　2022.8.1.掲載

コロナ感染急拡大・酷暑が続く中で迎えたひまわりの夏 2022.
厳しい夏ですが、無理せず元気に
◎　酷暑の夏を明るく爽やかにしてくれるひまわりと朝顔
◎　日に日に深みを増す緑の絶景　周囲の街・野山・田園の緑の美しさにふと気が付く

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0408.pdf

---

収録 1.　**ポストコロナの新時代　低炭素社会構築のために　今月気になったインターネット記事**
収録 1. 自動車メーカーの「下請けイジメ」の記事に思う　　2022.7.15.
サプライヤーの「ケイレツ格差」もう随分長いなぁ…と
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0408A.pdf

収録 2.　神戸新聞コラム 2022.7.29.「正平調　-聞くと聞く-」
& 元阪大総長 臨床哲学の鷲尾清一氏エッセイ「汀にて　ー 謙虚な叡智 ー」
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0408B.pdf

収録 3.　「GE 帝国盛衰史」Book 紹介コピー　お役に立てばと……　　2022.7.12.
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0408C.pdf

---

酷暑ですが、まだまだ不安定な天候 激甚化する気象変化にも気を付けて 入道雲 毎日walkの中で

■ ポストコロナの新時代　低炭素社会構築のために　日本が生きる道への模索

ひまわりの夏 2022　神戸便り From Kobe 転載

1. 神戸新聞コラム 2022. 7. 29.「正平調　-聞くと聞く-」
2. 元阪大総長 臨床哲学の鷲尾清一氏
   エッセイ　神戸新聞 2022. 7. 29.「汀にて　ー 謙虚な叡智 ー」

【鉄の話題】
Internet NEWSより

1.　神戸新聞コラム 2022. 7. 29.「正平調　-聞くと聞く-」

最近 TV やインターネット等で見聞きする日本のリーダーやコメンテーターたちの言葉・行動のあまりにも軽さ・不可思議なのに危惧を抱いている。　どうも自分の役割・責任範囲をわきまえていないのでは？ と感じることも多い。高度成長の時代を経て、高度情報化の時代。　次から次へと過剰な情報が玉石混合で耳にする時代。　　それでいて　自分もそんな情報に頼っていると感じることも多い。

7月26日の神戸新聞コラム「正平調」にそんな日本の風潮を危惧するコラムが書かれている。

皆様にはどううつるでしょうか……

「聴く」と「聞く」

神戸新聞朝刊　１面コラム「正平調」　2022. 7. 26. より

正平調

「聴という字は、耳に十四の心と書きます。他人の話を聴くには、多くの心で耳を傾けるような気持ちが大切です」。能力開発セミナーで仕入れた話だ◆同じ「きく」でも、「聞く」には「自然に耳に入る」という意味があり、辞書の例文の中には「聞き流す」があった。人の話に気持ちを向けて耳を傾けるのは「聴く」となる。こちらは傾聴、静聴などが記されている◆「特技は人の話をよくきくこと」と公言する岸田文雄首相の場合は「聞く」か、それとも「聴く」だろうか。というのも国民の声に耳を澄ませていると思っていたら、いろんな考えに触れることなく大事な物事を速断してしまったから。凶弾に倒れた安倍晋三元首相の国葬である◆事件から1週間、多くの人が事態をどう受け止めればいいのか、整理が付かない中での表明だった。先日は閣議決定を済まし、法的にもオーケーという。ずいぶん荒っぽいやり方だ◆ネットに限らず、本紙の発言欄やイイミミにもさまざまな声が寄せられる。首相はこうした意見にこれから耳を傾け、丁寧に説明するとか。いや、順序が逆では◆「聴く」には、「きき入れる」「認める」の意味も。突然、首相の決定を聴かされて、きき入れるよう国民に求められても困惑するばかり。

2022・7・26

日本では「五感を研ぎ澄まして……」というが、その五感と中味を一度吟味せねばと思って……。

正平調氏は「聞く」と「聴く」では大違いという。　「聞き流す」のと「傾聴する」のでは大違い。

「見る」と「観る・看る・診る」では大違い。　若い頃「何を見てたんや」とよく注意されたことを思い出す。

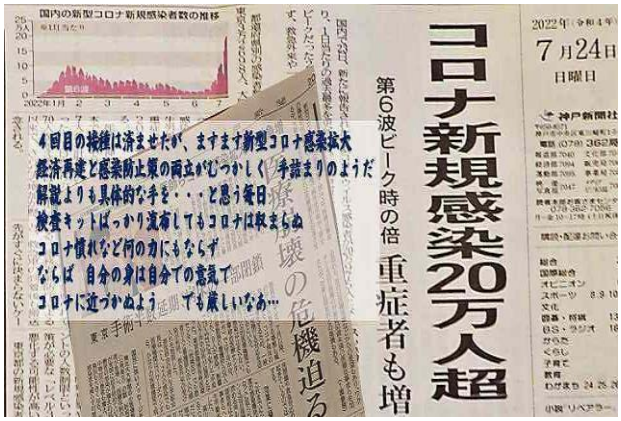
言葉にすればおなじであるが、その理解力・行動力そしい行動パターンに大きな違いが見えてくる。

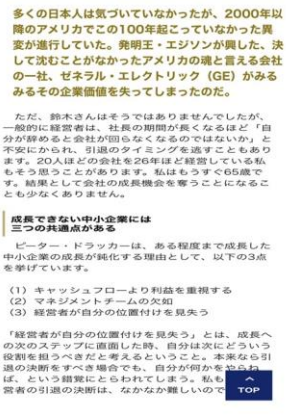
でも、今の風潮はほとんど「ことば」で済ましてしまう。

ましてや「どっちやねん」と聞き返すことには抵抗がある。

いまや世界の潮流から取り残され始めた日本　多量の情報に酔うことなく中身をしっかり「聞き分ける」「見わける」ための判断力・理解力を研ぎすまさないとと。

激動・変革の時代と言われることも多いのですが、言葉に酔っていてはいけないと正平調氏にふむふむと。





2. 鷲尾清一氏　エッセイ「汀にて」　謙虚な叡智　神戸新聞2022.7.29.朝刊　文化面

元大阪大学総長　臨床哲学者　鷲尾清一氏の言葉に思いも新らた

鷲尾清一氏評論　＜謙虚な叡智＞の書きおこしより

すべてを知ることはできないが、何も知らないでいることもできない。そんな中途半端場所に置かれている
そのことを私たちはここ10年ほどの間に、いやというほど思い知らされてきた。

すべてを知ることはできないが、何も知らないでいることもできない。そんな中途半端な場所にひとは置かれている。そのことを、わたしたちはここ10年ほどのあいだに、いやというほど思い知らされてきた。

原子力発電の安全性について、気候変動の原因について、感染症への対応について、わたしたちは専門家とよばれる人たちの意見の相違にため息をつき、じぶんで調べだしてこんどは迷路に入り込み、徒労感と不安だけが残る、そんな寒い思いをため込んできた。

そしてロシアによるウクライナ侵攻。つい先日、4度目のコロナのワクチン接種を受けに近所のクリニックを訪れたら、その日受付をされていた奥さまの傍らにウクライナの歴史の本があった。わたしもまた繙きはじめていたのと同じ本である。みなさん同じ苦労をされているのだなと思った。

後ろめたさ

わたしの場合、ウクライナ史の勉強はある後ろめたさから始まった。これまでアフリカや中東で同じような侵攻や内戦が起こっても詳しく調べようとしなかったのに、なぜウクライナの場合は調べようと思ったのかという関心の差、もしくは〝偏見〟の理由は何かとまずは訝しんだ。

〈謙虚な叡智〉

汀にて

（みぎわ）

鷲田清一

希望という名の方向感覚

そのあと、こんどはこの地域の地理と歴史へのおのれの知識の貧弱さが情けなくなった。

専門のことがらでなければ、研究職にある者と一般の市民のあいだに、基本、差はない。しいていえば、前者の探究のほうがわずかにしつこいことくらいだろうが、それとて日頃の鄙というか、職業病みたいなものでしかない。ただ、すべてを知り尽くすことのできない問題、たぶん最終的な答えは出ないだろう問題に直面したとき一概して生活上重要な問題ほどその色が濃い一どのあたりで引き返すかは人によって異なる。

最近、こんな文章に目がとまった。

《原理を明白な言葉で語るのは、闇の声を上げるのにも似て、気持ちは高揚するだろう。しかし、そうしなくては気持ちが高揚しないのは心の貧しさか、国内不安定のためであることが少なくない。しっかりした実績を上げており、小さい声であっても妥当なことを述べ続けるのも、長い目で見れば一つの信用につながる。》

政治学者・高坂正堯の遺稿「世紀の国際政治と安全保障の基本問題」（「外交フォーラム」9巻7号、1996年6月）にあった文章だ。ある事態を見究めようとして、その複雑さに耐えきれないで、手持ちの図式でさっさと割り切ってしまう、そういう態度を警めている。

先のウクライナ問題一つとりあげてもそうだが、社会的現実というものは、歴史のコンテクストが複雑に重層していて、わずかな視力では捉えられぬものである。そのことを体得しようと、高坂の主著の一つ、「国際政治　恐怖と希望」（1966年初版、2017年改版）にも手を伸ばした。そして、透視力のある人というのはこういう考え方をするものかと、あらためて感じ入った。

懐疑的であれ

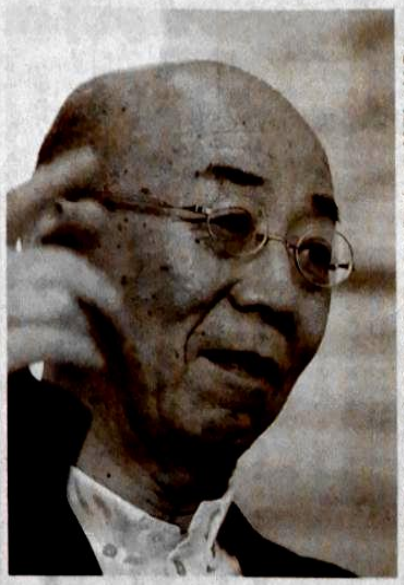
この本で高坂は、世界から戦争というものがなくならないその理由について、政治的な力関係と、国境を跨ぐ経済交流（というより格差）と、地域それぞれの価値体系という三つの視点から重層的に論じつつ、軍備縮小と平和維持の絶望的な難しさと、その困難の認識の上に立った「謙虚な叡智」の必要を説いている。

すぐに楽観せずにつとめて懐疑的であること、一つの視点で性急に結論を引きだたないことを、問題ごとに強調している。

一例だけあげると、たとえば「言論の自由」についてこう述べる一。

《言論の自由が認められていることは、政府の行動を監視し、制約するための必要条件であるけれども、言論の自由があれば必ず政府が制約されているわけではない。言論の自由は、人びとの同調性が強い現代の巨大社会では政府の行動に対する支持を生み出し、政府の力を強めるという面もある》

息継ぎのために顔を上げずに、どこまで潜水できるか。つまり問題が複雑すぎてすぐに強手が出なくても、どこまで事態のその複雑性に耐えられるかという、そうした知性の耐性を、この本は体現している。そのとき重要なのは、つねに懐疑的であることであるが、さらにそれ以上に重要なこととして、高坂は「希望」という名の方向感覚を培っておくことをあげている。半世紀以上前の本だが、茫然と立ち尽くすわたしたちの背中をそっと押してくれたような気がする。



わしだ・きよかず　1949年京都市生まれ。京都大大学院博士課程修了。元大阪大学総長、前京都市立芸術大学長。せんだいメディアテーク館長。専門は臨床哲学。「モードの迷宮」（サントリー学芸賞）、「『聴く』ことの力」（桑原武夫学芸賞）など著書多数。

2022. 7. 29. 神戸新聞朝刊　より

参　考　From Kobe8 月　ひまわりの夏 2022　神戸便りより

インターネットで見つけた巨大企業トヨタの記事に最近の世相を重ねて

要　旨　**自動車メーカーの「下請けイジメ」の記事に思う**

サプライヤーの「ケイレツ格差」もう随分長いなぁ…と　By Mutsu Nakanishi From Kobe

全 文　https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0408A.pdf

---

紹介記事 1.　ダイヤモンド on line　2022.7.10.

自動車メーカーの「下請けイジメ」を示す衝撃データ大公開！搾取構造が浮き彫りに

ダイヤモンド編集部　浅島亮子：副編集長

自動車産業は裾野が広く、完成車メーカーを頂点とするサプライヤーピラミッドを形成している。
近年、完成車メーカーやティア 1（1 次下請け）などピラミッドの上位企業が好決算を挙げる中、それ以外の中下位サプライヤーが潤わないケイレツ格差が問題視されるようになってきた。
実際に大企業による下請けイジメは存在するのか。特集『決算書 100 本ノック！2022 夏』（全 21 回）の最終回では、大企業による搾取構造を示す衝撃データを明らかにする。（ダイヤモンド編集部副編集長　浅島亮子）

■ 特集『決算書 100 本ノック！2022 夏』（全 21 回）　https://diamond.jp/list/feature/p-fs100_2022summer

---

紹介記事 2

THE OWNER 編集部　「下請けいじめと呼ぶかは自由だが･･･」

■「下請けいじめ」の成果？コロナ禍でもトヨタ 2 兆円超えの黒字

https://the-owner.jp/archives/5624

■「下請けいじめと呼ぶかは自由だが･･」との上記紹介記事の論調そのものが、
大企業・経済団体・官僚などが考える中央の考え方か?
あの例の「トリクルダウン」の考え方そのものと

2022.7.15.　Mutsu Nakanishi　From Kobe

体力のある企業が収益を得て、現状に甘えて、新しい技術開発・先端技術開発を強力に推し進めず、後回しにしたことが現在の日本の現状　出口のない日本衰退の道へと至らしめているのではないか・・・・・。

「 二番手ではいけないのですか・・」「トリクルダウン」の考え方に甘んじれば、長期の展望は開けないと。

企業集団の中心にいる大企業と下請け企業とが、ほぼ同じタイムで利益を享受できるのが筋ではないか・・…と。

自動車事業とは別の企業集団　かつての高度成長時代を支えた鉄鋼集団の雄　日本製鉄がトヨタに出した鋼材価格引き上げがもたらした日本経済全体に対する効果を見るがいい。

国際競争力に名を借りた大企業集団の横暴とみるべきではないか・・…

なぜならこの「下請けいじめ」といわれるトヨタの体質は 本年のみ急に現れたものではないと見えないか?

日本のトップ企業が持つ体質とも見える。

いま　日本をけん引してきた自動車のみならず、鉄鋼・家電産業・エネルギー等々日本を引っ張ってきた産業がほぼ時を同じくして その成長性を失い、先の見通しが取れずで、その中身の実態は承知していないが、
少なからず「下請け・中小企業いじめ」と捉える対応がはびこっているとも。

今　日本の先行きのためには「成長」と「配分」と声高に言うだけでなく、しこたま内部留保を高めた企業集団からの「配分」資源　そして新しい成長へ向けた積極投資の道で　社会底辺・インフラ整備を進めないと日本の没落はさらに進むのではないか…。

そんな目でながめると「トヨタ」の存在のなんと大きいことか・・・。　「トヨタ」への注目が高まるのも致し方なし。
また　かつて「トヨタ」と同じ立場にあった「鉄鋼・素材」「エネルギー」「エレクトロニクス」等の産業にも
先行投資の声の大きい「新産業」とともに新しい息吹を吹き込むことが必要だろう。
いまや「成長と集中」の方向を見余らぬよう考えねばならぬポイントにあると思う。

いつもの年寄りのぶつぶつです。暴論あえて　一言　　2022.7.15.　Mutsu Nakanishi

ポストコロナの新時代　低炭素社会構築のために　最近のインターネット記事より

自動車メーカーの「下請けイジメ」の記事に思う
サプライヤーの「ケイレツ格差」もう随分長いなぁ…と　By Mutsu Nakanishi From Kobe

ダイヤモンド on line　2022.7.10.

自動車メーカーの「下請けイジメ」を示す衝撃データ大公開！搾取構造が浮き彫りに

ダイヤモンド編集部　浅島亮子：副編集長

自動車産業は裾野が広く、完成車メーカーを頂点とするサプライヤーピラミッドを形成している。
近年、完成車メーカーやティア１（1 次下請け）などピラミッドの上位企業が好決算を挙げる中、それ以外の中下位サプライヤーが潤わないケイレツ格差が問題視されるようになってきた。
実際に大企業による下請けイジメは存在するのか。特集『決算書 100 本ノック！2022 夏』（全 21 回）の最終回では、大企業による搾取構造を示す衝撃データを明らかにする。（ダイヤモンド編集部副編集長　浅島亮子）

■ 特集『決算書 100 本ノック！2022 夏』（全 21 回）　https://diamond.jp/list/feature/p-fs100_2022summer

決算書 100 本ノック！2022 夏

超円安・資源高・インフレの三大テーマが一気に押し寄せており、日本企業は正念場を迎えている。
こうしたマクロ環境の激変が、企業業績にどのような影響を与えるのか――。
2022 年 3 月期通期決算から「最速」のタイミングで決算書特集をお届けする。
中でも重要なポイントは「今期（23 年 3 月期）の見通し」。
企業がどのようなストーリーを描いて成長戦略を構築しているのかが、手に取るように分かる。
ビジネスパーソンや投資家にとって、決算書は最大の情報源なのだ。
本特集では、ダイヤモンド編集部の業界担当記者が最新決算の「勘所」をひもときながら「ニュースの裏側」を解説。

【参考】　日本製鉄「逆張り戦略」で過去最高益！　国内リストラ効果だけじゃない“2 つの収益源”

生産能力縮小によるコスト削減や鉄鋼の値上げで業績が回復する日本製鉄。　2022.7.7 4:55

国内製鉄事業の動向に注目が集まる同社だが、実はその利益の 3 分の 1 は「別の収益源」が支えている。

日本製鉄の業績が復活している。新型コロナウイルス感染拡大前の 2020 年 3 月期は、事業利益が 2844 億円の赤字に落ち込んだが、22 年 3 月期は一転、過去最高となる 9381 億円をたたき出した。好業績の要因は、直接的には長年低迷していた国内製鉄事業の改革が功を奏したことが大きい。
一つは、トヨタ自動車を筆頭とする大口顧客向けの「ひも付き」価格で、大幅な値上げを断行したことだ。
「世界一高品質だが、世界一安値」とやゆされる国内の鋼材だが、原料炭などの原料価格の高騰は限界を超えている。21 年以降、原料高騰の価格転嫁とともに、付加価値に見合うマージンを獲得する強気の交渉を進めてきた。
さらに、その前提として「買いたたき」を生む元凶だった余剰生産設備を削減。
粗鋼生産能力で年間 1000 万トンを減じる大リストラを断行し、固定費削減も行った。まさに不退転の決意である。
そのかいあって、長年赤字に沈んでいた国内製鉄事業の中核である単体の営業利益が大幅に回復、全体の利益を押し上げた。規模の大きい国内製鉄事業の改革が全体の業績の行方を担うのは、当然ではあるが・・・・。

上記記事　巨大企業トヨタ自動車に挑んだ日本製鉄の不転退のリーダーシップがあぶりだした数々の課題
やっと表に出てきた巨大自動車企業の横暴と日本の「ケイレツ格差」が生む社会問題。どう考えるかは人それぞれですが…

トヨタグループで浮き彫り　サプライヤーの「ケイレツ格差」
東海 3 県の「トヨタ自動車グループ」下請け企業調査（2021 年）――。
昨年 6 月、帝国データバンクが公表したトヨタグループのサプライヤー調査が大きな波紋を呼んでいる。
20 年度の業績において、トヨタ系サプライヤーのうち 7 割超が「前期比で減収」になるという衝撃的な結果が得られたからだ。トヨタや 1 次下請けなどサプライヤーピラミッドの“上位企業”が好決算を挙げる中、ピラミッドを構成する多くの企業が潤わない「ケイレツ格差」が浮き彫りになった形だ。
実は自動車産業で「大企業による搾取構造」が明らかになっているのは、トヨタグループだけではない。
実際に下請けイジメが行われていることを示す「自動車産業のデータ」を公開・・・・　（以下有料記事で読めず）

この先を読むことできず、２０１９年の同種記事を見つけたので、そちらからも内容を推察しました。
また、その批判記事も・・・・・　ひとそれぞれですが、変革の時代の今　立ち位置と果たす役割と責任を確りと

■ 日経クロステック　2021.11.02　近岡 裕

日本製鉄は統合後最高益へ、トヨタとは「良好な関係望む」

「　係争中の事案については回答を差し控えたい。
トヨタ自動車は最も重要な顧客の１つ。今後も良好な関係を継続したい　」――。

2021年11月2日、日本製鉄が2022年3月期（2021年度）第2四半期の決算を発表。
その（オンライン）会見で、無方向性電磁鋼板（以下、電磁鋼板）に関する特許侵害でトヨタ自動車を訴えた件が決算に与える影響を報道陣から問われた日本製鉄は冒頭のように回答した。

同社は高収益体質に変化すべく、「ひも付き取引」と呼ばれる鋼材の大口需要家向け長期契約取引の是正に向けた取り組みを強化している。21年度上期にトヨタ自動車に対して一部の是正に成功した。

引き続いて下期も、原料価格の高騰によるコスト上昇分に加えて、ソリューションや商品価値に足りない部分の是正を日本製鉄は狙っていくという。

特許侵害訴訟の水面下で、今後も両社の間で価格交渉に関する激しいつばぜりあいが繰り広げられそうだ。

21年度は売上高6兆7000億円、事業利益8000億円の見通し

一方で、決算の数字は極めて好調。21年度通期の事業利益の予想は8000億円と、「統合後、過去最高益を実現する見通し」（日本製鉄）。20年度に実施した抜本的なコスト削減により、固定費を大幅に圧縮して損益分岐点を引き下げたことが大きく貢献した。他にも、先のひも付き価格の是正や海外のグループ会社の収益力の向上などが事業利益の押し上げ要因となった。同年度の売上高の見通しは6兆7000億円のため、利益率は11.9%に達する。「生産合理化の痛みの上」（同社）で高収益を実現した格好だ。

なお、21年度上期（21年4～9月）の売上高は3兆1639億円（前期比9220億円増）、事業利益は4778億円（同5843億円増）だった。

会見では、中・長期的な成長に向けた取り組みも発表。開発面では、カーボンニュートラル（温暖化ガスの排出量実質ゼロ）への取り組みに力を入れる。超革新技術（鉄鋼製造プロセス）の開発および実用化で他国に先駆ける他、ハイグレード電磁鋼板や超高張力鋼板（ハイテン鋼板）など脱炭素ニーズを満たす高機能商品の開発を強化する。

水素吹き込みなどでCO_2を30%減、「COURSE50」が挑む次世代高炉

鉄鋼大手が高炉からの二酸化炭素（CO_2）排出量削減に一層力を入れ始めた。　鉄を製造する高炉は大量のCO_2を排出する。　それ故、早い段階から業界を挙げてCO_2排出量削減のための技術に挑んできた。　2021/06/29

■ トヨタ、過去最高益の裏にある新次元の「ケイレツ搾取」【決算報19秋】2019.11.8 5:30

ダイヤモンド編集部　新井美江子：記者

トヨタ自動車の2020年3月期上半期の決算は、売上高と純利益で過去最高をマークし、絶好調となった。
しかし、トヨタグループの“ケイレツ”筆頭格であるデンソーやアイシン精機は減収減益に終わっている。
トヨタが笑い、サプライヤーが泣く。　この対照的な構図の裏には、
現在、自動車業界で起きつつある新次元の「ケイレツ搾取」があった。
（ダイヤモンド編集部　新井美江子）

お家芸の原価低減と新型車の発売で着実に利益を積み上げる
果たして、トヨタ自動車は“無敵”なのか。

米中貿易摩擦、中国減速、円高――。

2020年3月期の上半期決算では、国内製造業に「三重苦」が直撃し、下方修正ラッシュとなっている。ところが、ことトヨタについては、それらの苦しみとは無縁だったようである。

連結ベースで売上高は前年同期比4.2%増の15兆2856億円、当期純利益は同2.6%増の1兆2750億円と、二つの主要指標で過去最高（上半期）を更新しているのだ。

好調の理由は大きく二つある。

一つは、“お家芸”として着々と進める原価低減だ。

トヨタ自動車の連結業績の推移

（単位：億円）	2019年3月期上半期	2019年3月期	2020年3月期上半期	2020年3月期（予想）
売上高	146,740	302,257	152,856	295,000
営業利益	12,618	24,675	14,043	24,000
純利益	12,424	18,829	12,750	21,500
有利子負債	208,855	201,502	199,920	–
株主資本比率（%）	37.2	37.3	37.9	–
フリーキャッシュフロー	-281	10,694	5,761	–
販売台数（千台）	4,419	8,977	4,639	8,950

上半期過去最高

DIAMOND

主要国での環境規制への対応や、ライバルに負けないための基本性能の向上のために、製造原価は上昇している。
しかし、それをカバーするだけのコストダウンに成功した。TNGA と呼ばれる共通プラットフォームを用いた車両造りの洗練化や、部品コストのさらなる削減などによって、利益を捻出できたのだ。
そしてもう一つが販売台数の増加だ。実はこの上半期に、トヨタは販売台数でも過去最高をマークしている。
実は、むしろ主要国の市場環境は厳しい。
中国やインド、インドネシアなどのアジア市場は需要が減少傾向にあるし、北米市場でも若干縮小している。
この向かい風を、トヨタは新型車の投入で打ち返した。例えば、出遅れていた中国では、元安の影響で中国事業全体の利益こそ前年同期比で減少したものの、18 年に発売したレクサスの新型 ES や今年発売した新型カローラで販売数を伸ばした。また北米では、今年発売した新型 RAV4 やカローラが好評だ。
そのため、無駄なインセンティブ（販売奨励金）を払わずに済むようになり、営業利益（所在地ベース）が前年同期比 62.2%も増加している。

「誰かが犠牲となっているのでは？」潜むトヨタの悩ましい事実

ただ、絶好調だからこそ浴びせられる疑問の声もある。
「素晴らしい決算だ。でも、誰かが犠牲となっているのではないか」。
決算説明会で出た質問がまさに取引先の声を代弁している。
無理もない。トヨタグループの筆頭格である 1 次下請け（ティア 1）のデンソーやアイシン精機ですら、この上半期は減収減益に陥っているのだ。
減益の要因には、中国事業の減速などに加えて、「CASE（コネクテッド、自動運転、シェアリング&サービス、電動化の４つの技術トレンド）と呼ばれる新領域での開発コストが上昇し、疲弊してしまっていることがあげられる。
「100 年に１度」の大変革期だから致し方ない　　自動車産業のメーカー幹部は声を揃える。
だが今、自動車業界ではトヨタなど完成車メーカーによる新次元の“ケイレツ搾取”が行われつつある。
クルマをハードウエアとしてではなく、移動のためのモビリティという“サービス業態”として捉える MaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）なる概念が登場して以降、クルマに関する価値観は一変した。
消費者にいかなるサービスを提供できるかが問題になり、近い将来にはもはやハードウエアとしてのクルマには重きが置かれない時代がやってくる。 そこでトヨタなど完成車メーカーは、未来のモビリティ業界でもプラットフォーマーとして君臨し続けるために、どこにコア・コンピタンス設定するのか、ビジネスの「土俵」を変える覚悟で生き残りを模索している。
誤解を恐れずに言えば、
それは、クルマの商品価値の差別化に繋がらない「ハードウエア」部門の開発や製造を（完成車メーカーから）下請けへ譲りわたすことだ。
実際にトヨタは、半導体事業やディーゼル事業をデンソーへ移管している。　そうすることで身軽になったトヨタは、CASE 時代でも価値を生むソフトウエアやサービスの領域へ心置きなく開発コストを注ぎ込める。　翻って部品メーカーは相当な苦難に直面する。　というのも、クルマの差別化には繋がらないのに構成部品を造り続けなければならないのだ。しかも既存のガソリン車向けの CASE 領域に対応できる新技術の搭載も必須となる。
完成車メーカーから ティア１へ。ティア１からティア２へ　――。
トヨタグループ内での「重複事業の廃止」と銘打たれたサプライヤーピラミッドの下位企業への
「ノンコア部品・儲からない部品」の集約は今後も増えていくだろう。
「コストは作り込むものだ」。 トヨタ技能者養成所を卒業した工場現場たたき上げの河合満・トヨタ自動車副社長はあくまでも原理原則を貫く。 だが、従来、トヨタのクルマ造りはケイレツの下請けメーカーが磨く部品や部品メーカーによる年間 3000 億円（グロス）の原価低減があってこそ成り立っているもの事実だ。
難しいのは、ケイレツ部品メーカーとはいえ、れっきとした独立企業であるということ。
建前ではトヨタに依存することなく外販で稼ぎ自立せよというのがサプライヤー政策の方針である。
CASE 時代に用済みとなったからという理由で、これまでの功労者であるサプライヤーを切り捨てる行為がトヨタに許されるのか。トヨタの社会的責任はますます重くなっていると言わざるを得ない。
“ケイレツ” 犠牲の上に成り立つ好決算をいつまでも続けられるのかどうか。トヨタは重い課題を突きつけられている。

THE OWNER 編集部　「下請けいじめと呼ぶかは自由だが･･･」

■「下請けいじめ」の成果？コロナ禍でもトヨタ 2 兆円超えの黒字

文・岡本一道（金融・経済ジャーナリスト）

大手自動車メーカーの2021年3月期決算が出揃った。特に純利益の金額ではトヨタが相変わらず突出した数字を残した。しかし、コロナ禍においても業績が堅調であることから、「下請けいじめの成果」と揶揄する声も出ている。

その批判は正しいのか。

自動車メーカー各社の 2021 年 3 月期の決算概要

まず 2021 年 3 月期（2020 年 4 月～2021 年 3 月）の自動車メーカー各社の決算を紹介していこう。

全ての企業が売上高を落としているが、最終損益は黒字の企業と赤字の企業に分かれている。

＜自動車メーカー7 社の 2021 年 3 月期の売上高と最終損益＞

自動車メーカー	売上高	前年比	最終損益	前年比
トヨタ	27兆2,145億円	8.9%減	2兆2,452億円	10.3%増
ホンダ	13兆1,705億円	11.8%減	6,574億円	44.3%増
日産	7兆8,625億円	20.4%減	▲4,486億円	-
スズキ	3兆1,782億円	8.9%減	1,464億円	9.1%増
マツダ	2兆8,820億円	16.0%減	▲316億円	-
スバル	2兆8,302億円	15.4%減	765億円	49.9%減
三菱自動車	1兆4,554億円	35.9%減	▲3,123億円	-

※出典：各自動車メーカーの決算短信から

トヨタ自動車：コロナ禍でも増益、最終利益 2 兆円超

トヨタはコロナ禍でありながら、2 兆円を超える純利益を確保した。売上高を落としたものの、前期より 10. 3%増の増益という結果だ。諸経費の低減努力で 700 億円のコスト削減もあり、1, 500 億円の増益効果を生み出している。

ちなみに今期にあたる 2022 年 3 月期の通期（2021 年 4 月～2022 年 3 月）は、売上高は 30 兆円、最終損益は 2 兆 3, 000 億円の黒字を見込んでいる。達成できれば、それぞれが過去最高の数字となる。

日産自動車：2 期連続の赤字、厳しい経営状況が続く

厳しい経営状況が続いている日産では、2018 年 3 月期に 7, 469 億円あった黒字が、翌期は 3, 191 億円までしぼみ、2020 年 3 月期には 6, 712 億円の赤字に転落した。そして 2021 年 3 月期は 4, 486 億円の赤字となり、2 期連続で赤字を計上する結果となってしまった。2022 年 3 月期の通期業績も 600 億円の赤字を見込んでいる。

三菱自動車：赤字額 3, 123 億円、日産自動車に次ぐ規模

三菱自動車の赤字額は 3, 123 億円で、日産に次ぐ大きさとなった。赤字は 2 期連続だ。販売台数は前期から比べて 29%減となり、力を入れている ASEAN（東南アジア諸国連合）地域での販売が回復しなかったことが響いた。

ただし、2022 年 3 月期は黒字に転換する見通しだ。販売台数の回復などにより、100 億円の最終損益を見込んでいるという。

増益のトヨタに「下請けいじめ」との声

このように、自動車メーカー7 社の決算の結果を比較してみると、赤字を計上した企業の経営の厳しさが目立つが、一方でトヨタ自動車の 2 兆円超の黒字も際立っている。

ホンダも 6, 574 億の黒字を残しているが、金額でいうとやはりトヨタ自動車が圧倒的だ。

コロナ禍において2兆円超の黒字を残せた理由はさまざまだが、その1つに原価改善や諸経費の低減努力があることは先ほど説明した通りである。しかし、この原価改善や諸経費の低減努力に関し、「下請けいじめだ」と批判する声も漏れ聞こえてくる。

では、トヨタは本当に下請けいじめをしているのか。

そもそも自動車業界における「下請けいじめ」とは下請けの部品メーカーなどに対して価格引き下げを要求することを指す。確かにトヨタもコロナ禍において価格の引き下げを一部の部品メーカーに求めた。

日経新聞の報道によれば、通常の価格見直し時期の4月でも10月でもなく、2020年7月ごろに引き下げを要求したという。これは異例のことだ。

トヨタに納品する際の価格が引き下げられれば、下請け企業の業績は当然、短期的には悪化することになる。

しかし、このような引き下げ要求を「いじめ」と呼んでいいかは微妙なところだろう。

なぜか。それはトヨタ本体と下請け企業は一蓮托生であり、トヨタの業績と下請け企業の業績は比例的な関係にあるからだ。トヨタ本体の業績が悪化して、ほかの自動車メーカーとの競争力が低下していくことになれば結果として下請け企業もダメージを受ける。つまり長い目でみれば、いま下請け企業が値下げ要求に応じることは、結果として自社の将来の業績を守ることにもつながる可能性があるわけだ。

「下請けいじめ」と呼ぶかは自由だが･･･

トヨタの下請け企業に対する価格引き下げ要求を「下請けいじめ」と呼ぶかどうかは、究極のところは個人の自由ではある。しかし、トヨタ本体も下請け企業に支えられている状況の中、下請け企業の経営にマイナスとなる悪手をあえて打つはずはない。最も望ましくないのは、トヨタ本体が競争力を失うことだ。

実際のトヨタの考え方はトヨタの経営陣でなければ分からないが、下請け企業に対する価格引き下げ要求はトヨタと下請け企業がともに生き残るための最善策だったと考える方が自然なのではないか。

文・岡本一道（金融・経済ジャーナリスト）

■「下請けいじめと呼ぶかは自由だが･･･」との上記紹介記事の論調そのものが、
大企業・経済団体・官僚などが考える中央の考え方か?
あの例の「トリクルダウン」の考え方そのものと

2022.7.15.　Mutsu Nakanishi　From Kobe

体力のある企業が収益を得て、現状に甘えて、新しい技術開発・先端技術開発を強力に推し進めず、後回しにしたことが現在の日本の現状　出口のない日本衰退の道へと至らしめているのではないか・・・・・。

「 二番手ではいけないのですか・・」「トリクルダウン」の考え方に甘んじれば、長期の展望は開けないと。

企業集団の中心にいる大企業と下請け企業とが、ほぼ同じタイムで利益を享受できるのが筋ではないか・・…と。

自動車事業とは別の企業集団　かつての高度成長時代を支えた鉄鋼集団の雄　日本製鉄がトヨタに出した鋼材価格引き上げがもたらした日本経済全体に対する効果を見るがいい。

国際競争力に名を借りた大企業集団の横暴とみるべきではないか・・…

なぜならこの「下請けいじめ」といわれるトヨタの体質は 本年のみ急に現れたものではないと見えないか?

日本のトップ企業が持つ体質とも見える。

いま　日本をけん引してきた自動車のみならず、鉄鋼・家電産業・エネルギー等々日本を引っ張ってきた産業がほぼ時を同じくして その成長性を失い、先の見通しが取れずで、その中身の実態は承知していないが、

少なからず「下請け・中小企業いじめ」と捉える対応がはびこっているとも。

今　日本の先行きのためには「成長」と「配分」と声高に言うだけでなく、しこたま内部留保を高めた企業集団からの「配分」資源　そして新しい成長へ向けた積極投資の道で　社会底辺・インフラ整備を進めないと日本の没落はさらに進むのではないか…。

そんな目でながめると「トヨタ」の存在のなんと大きいことか･･･。　「トヨタ」への注目が高まるのも致し方なし。

また　かつて「トヨタ」と同じ立場にあった「鉄鋼・素材」「エネルギー」「エレクトロニクス」等の産業にも

先行投資の声の大きい「新産業」とともに新しい息吹を吹き込むことが必要だろう。

いまや「成長と集中」の方向を見余らぬよう考えねばならぬポイントにあると思う。

いつもの年寄りのぶつぶつです。暴論あえて　一言　　2022.7.15.　Mutsu Nakanishi

ポストコロナの新時代　低炭素社会構築のために　最近のインターネット記事より

「立場の異なった人たちとつながる」 － 聴くと聞く－

◎ 「聞く」と「聴く」　7月のインターネット・新聞記事より

最近 TV やインターネット等で見聞きする日本のリーダーやコメンテーターたちの言葉･行動のあまりにも軽さ･不可思議なのに危惧を抱いている。 どうも自分の役割･責任範囲をわきまえていないのでは? と感じることも多い。高度成長の時代を経て、高度情報化の時代。 次から次へと過剰な情報が玉石混合で耳にする時代。　それでいて　自分もそんな情報に頼っていると感じることも多い。
7月26日の神戸新聞コラム「正平調」にそんな日本の風潮を危惧するコラムが書かれている。
皆様にはどううつるでしょうか……

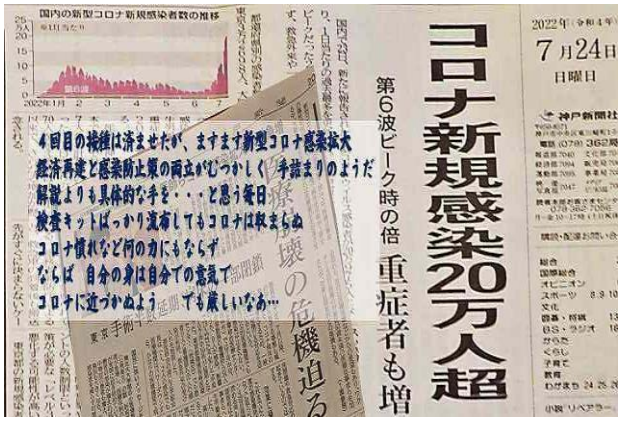
「聴く」と「聞く」
神戸新聞朝刊　1面コラム「正平調」　2022. 7. 26. より

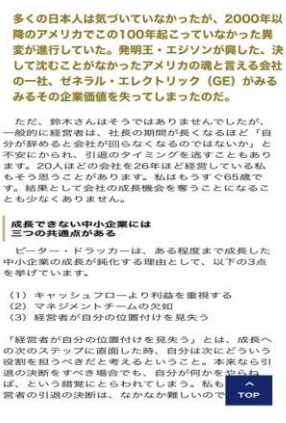
正平調

「聴という字は、耳に十四の心と書きます。他人の話を聴くには、多くの心で耳を傾けるような気持ちが大切です」。能力開発セミナーで仕入れた話だ◆同じ「きく」でも、「聞く」には「自然に耳に入る」という意味があり、辞書の例文の中には「聞き流す」があった。人の話に気持ちを向けて耳を傾けるのは「聴く」となる。こちらは傾聴、静聴などが記されている◆「特技は人の話をよくきくこと」と公言する岸田文雄首相の場合は「聞く」か、それとも「聴く」だろうか。というのも国民の声に耳を澄ませていると思っていたら、いろんな考えに触れることなく大事な物事を速断してしまったから。凶弾に倒れた安倍晋三元首相の国葬である◆事件から1週間、多くの人が事態をどう受け止めればいいのか、整理が付かない中での表明だった。先日は閣議決定を済まし、法的にもオーケーという。ずいぶん荒っぽいやり方だ◆ネットに限らず、本紙の発言欄やイイミミにもさまざまな声が寄せられる。首相はこうした意見にこれから耳を傾け、丁寧に説明するとか。いや、順序が逆では◆「聴く」には、「きき入れる」「認める」の意味も。突然、首相の決定を聴かされて、きき入れるよう国民に求められても困惑するばかり。

2022･7･26

日本では「五感を研ぎ澄まして……」というが、その五感と中味を一度吟味せねばと思って……。
正平調氏は「聞く」と「聴く」では大違いという。 「聞き流す」のと「傾聴する」のでは大違い。
「見る」と「観る･看る･診る」では大違い。 若い頃「何を見てたんや」とよく注意されたことを思い出す。
言葉にすればおなじであるが、その理解力･行動力そしい行動パターンに大きな違いが見えてくる。
でも、今の風潮はほとんど「ことば」で済ましてしまう。
ましてや「どっちやねん」と聞き返すことには抵抗がある。
いまや世界の潮流から取り残され始めた日本　多量の情報に酔うことなく中身をしっかり「聞き分ける」「見わける」ための判断力･理解力を研ぎすまさないとと。
激動･変革の時代と言われることも多いのですが、言葉に酔っていてはいけないと正平調氏にふむふむと。





鷲尾清一氏　エッセイ「汀にて」　謙虚な叡智　神戸新聞2022.7.29.朝刊　文化面

元大阪大学総長　臨床哲学者　鷲尾清一氏の言葉に思いも新らた

鷲尾清一氏評論　＜謙虚な叡智＞の書きおこしより

すべてを知ることはできないが、何も知らないでいることもできない。そんな中途半端場所に置かれている
そのことを私たちはここ10年ほどの間に、いやというほど思い知らされてきた。

すべてを知ることはできないが、何も知らないでいることもできない。そんな中途半端な場所にひとは置かれている。そのことを、わたしたちはここ10年ほどのあいだに、いやというほど思い知らされてきた。

原子力発電の安全性について、気候変動の原因について、感染症への対応について、わたしたちは専門家とよばれる人たちの意見の相違にため息をつき、じぶんで調べだしてこんどは迷路に入り込み、徒労感と不安だけが残る、そんな寒い思いをため込んできた。

そしてロシアによるウクライナ侵攻。つい先日、4度目のコロナのワクチン接種を受けに近所のクリニックを訪れたら、その日受付をされていた奥さまの傍らにウクライナの歴史の本があった。わたしもまた綴きはじめていたのと同じ本である。みなさん同じ苦労をされているのだなと思った。

後ろめたさ

わたしの場合、ウクライナ史の勉強はある後ろめたさから始まった。これまでアフリカや中東で同じような侵攻や内戦が起こっても詳しく調べようとしなかったのに、なぜウクライナの場合は調べようと思ったのかという関心の差、もしくは〝偏見〟の理由は何かとまずは訝しんだ。

〈謙虚な叡智〉

汀にて（みぎわ）

鷲田清一

希望という名の方向感覚

そのあと、こんどはこの地域の地理と歴史へのおのれの知識の貧弱さが情けなくなった。

専門のことがらでなければ、研究職にある者と一般の市民のあいだに、基本、差はない。しいていえば、前者の探究のほうがわずかにしつこいことくらいだろうが、それとて日頃の癖というか、職業病みたいなものでしかない。ただ、すべてを知り尽くすことのできない問題、たぶん最終的な答えは出ないだろう問題に直面したとき一概して生活上重要な問題ほどその色が濃い一どのあたりで引き返すかは人によって異なる。

最近、こんな文章に目がとまった。

《原理を明白な言葉で語るのは、闇の声を上げるのにも似て、気持ちは高揚するだろう。しかし、そうしなくては気持ちが高揚しないのは心の貧しさか、国内不安定のためであることが少なくない。しっかりした実績を上げており、小さい声であっても妥当なことを述べ続けるのも、長い目で見れば一つの信用につながる。》

政治学者・高坂正堯の遺稿「世紀の国際政治と安全保障の基本問題」（「外交フォーラム」9巻7号、1996年6月）にあった文章だ。ある事態を見究めようとして、その複雑さに耐えきれないで、手持ちの図式でさっさと割り切ってしまう、そういう態度を警めている。

先のウクライナ問題一つとりあげてもそうだが、社会的現実というものは、歴史のコンテクストが複雑に重層していて、わずかな視力では捉えられぬものである。そのことを体得しようと、高坂の主著の一つ、「国際政治　恐怖と希望」（1966年初版、2017年改版）にも手を伸ばした。そして、透視力のある人というのはこういう考え方をするものかと、あらためて感じ入った。

懐疑的であれ

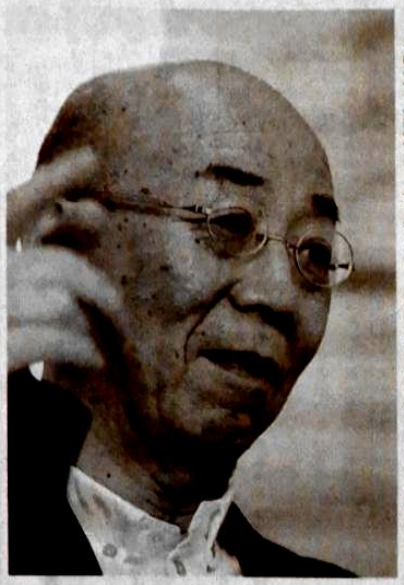
この本で高坂は、世界から戦争というものがなくならないその理由について、政治的な力関係と、国境を跨ぐ経済交流（というより格差）と、地域それぞれの価値体系という三つの視点から重層的に論じつつ、軍備縮小と平和維持の絶望的な難しさと、その困難の認識の上に立った「謙虚な叡智」の必要を説いている。

すぐに楽観せずにつとめて懐疑的であること、一つの視点で性急に結論を引きだたないことを、問題ごとに強調している。

一例だけあげると、たとえば「言論の自由」についてこう述べる一。

《言論の自由が認められていることは、政府の行動を監視し、制約するための必要条件であるけれども、言論の自由があれば必ず政府が制約されているわけではない。言論の自由は、人びとの同調性が強い現代の巨大社会では政府の行動に対する支持を生み出し、政府の力を強めるという面もある》

息継ぎのために顔を上げずに、どこまで潜水できるか。つまり問題が複雑すぎてすぐに強手が出なくても、どこまで事態のその複雑性に耐えられるかという、そうした知性の耐性を、この本は体現している。そのとき重要なのは、つねに懐疑的であることであるが、さらにそれ以上に重要なこととして、高坂は「希望」という名の方向感覚を培っておくことをあげている。半世紀以上前の本だが、茫然と立ち尽くすわたしたちの背中をそっと押してくれたような気がする。



わしだ・きよかず　1949年京都市生まれ。京都大大学院博士課程修了。元大阪大学総長、前京都市立芸術大学長。せんだいメディアテーク館長。専門は臨床哲学。「モードの迷宮」（サントリー学芸賞）、「『聴く』ことの力」（桑原武夫学芸賞）など著書多数。

2022. 7. 29. 神戸新聞朝刊　より

参　考　From Kobe8 月　ひまわりの夏 2022　神戸便りより

インターネットで見つけた巨大企業トヨタの記事に最近の世相を重ねて

要　旨　**自動車メーカーの「下請けイジメ」の記事に思う**

サプライヤーの「ケイレツ格差」もう随分長いなぁ…と　By Mutsu Nakanishi From Kobe

全　文　https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0408A.pdf

---

紹介記事 1.　ダイヤモンド on line　2022.7.10.

自動車メーカーの「下請けイジメ」を示す衝撃データ大公開！搾取構造が浮き彫りに

ダイヤモンド編集部　浅島亮子：副編集長

自動車産業は裾野が広く、完成車メーカーを頂点とするサプライヤーピラミッドを形成している。
近年、完成車メーカーやティア 1（1 次下請け）などピラミッドの上位企業が好決算を挙げる中、それ以外の中下位サプライヤーが潤わないケイレツ格差が問題視されるようになってきた。
実際に大企業による下請けイジメは存在するのか。特集『決算書 100 本ノック！2022 夏』（全 21 回）の最終回では、大企業による搾取構造を示す衝撃データを明らかにする。（ダイヤモンド編集部副編集長　浅島亮子）

■ 特集『決算書 100 本ノック！2022 夏』（全 21 回）　https://diamond.jp/list/feature/p-fs100_2022summer

---

紹介記事 2

THE OWNER 編集部　「下請けいじめと呼ぶかは自由だが･･･」

■「下請けいじめ」の成果？コロナ禍でもトヨタ 2 兆円超えの黒字

https://the-owner.jp/archives/5624

■「下請けいじめと呼ぶかは自由だが･･･」との上記紹介記事の論調そのものが、
大企業・経済団体・官僚などが考える中央の考え方か?
あの例の「トリクルダウン」の考え方そのものと

2022.7.15.　Mutsu Nakanishi　From Kobe

体力のある企業が収益を得て、現状に甘えて、新しい技術開発・先端技術開発を強力に推し進めず、後回しにしたことが現在の日本の現状　出口のない日本衰退の道へと至らしめているのではないか・・・・・。

「 二番手ではいけないのですか・・」「トリクルダウン」の考え方に甘んじれば、長期の展望は開けないと。

企業集団の中心にいる大企業と下請け企業とが、ほぼ同じタイムで利益を享受できるのが筋ではないか・・…と。

自動車事業とは別の企業集団　かつての高度成長時代を支えた鉄鋼集団の雄　日本製鉄がトヨタに出した鋼材価格引き上げがもたらした日本経済全体に対する効果を見るがいい。

国際競争力に名を借りた大企業集団の横暴とみるべきではないか・・…

なぜならこの「下請けいじめ」といわれるトヨタの体質は 本年のみ急に現れたものではないと見えないか?
日本のトップ企業が持つ体質とも見える。

いま　日本をけん引してきた自動車のみならず、鉄鋼・家電産業・エネルギー等々日本を引っ張ってきた産業がほぼ時を同じくして その成長性を失い、先の見通しが取れずで、その中身の実態は承知していないが、
少なからず「下請け・中小企業いじめ」と捉える対応がはびこっているとも。

今　日本の先行きのためには「成長」と「配分」と声高に言うだけでなく、しこたま内部留保を高めた企業集団からの「配分」資源　そして新しい成長へ向けた積極投資の道で　社会底辺・インフラ整備を進めないと日本の没落はさらに進むのではないか…。

そんな目でながめると「トヨタ」の存在のなんと大きいことか・・・・。　「トヨタ」への注目が高まるのも致し方なし。
また　かつて「トヨタ」と同じ立場にあった「鉄鋼・素材」「エネルギー」「エレクトロニクス」等の産業にも
先行投資の声の大きい「新産業」とともに新しい息吹を吹き込むことが必要だろう。
いまや「成長と集中」の方向を見余らぬよう考えねばならぬポイントにあると思う。
いつもの年寄りのぶつぶつです。暴論あえて　一言　　2022.7.15.　Mutsu Nakanishi

「GE 帝国盛衰史」Book 紹介コピー　　お役に立てばと・・・・　　2022.7.12.

GE 帝国盛衰史「最強企業」だった組織はどこで間違えたのか

発明王エジソンが興した世界最大の総合電機メーカーとして
1世紀以上の栄華を誇ったゼネラル・エレクトリック(GE)。
ピーク時から企業価値は数分の一に激減し、分割や事業売却も
続き、「もはや解体」という声さえ聞かれる。
カリスマ経営者たちはどこで間違ったのか？
ウォール・ストリート・ジャーナルのGE担当ジャーナリストが
謎に迫った。

【目次】

1　「あなたは知っていたのか？」
2　ザ・ミートボール
3　ニュートロン・ジャック
4　ビッグ・ジェフ
5　後継者選び
6　同時多発テロ
7　会計トリック
8　GEを見る目の変化
9　封じられた最後の手段
10　買収と売却
11　ブランド再構築
12　買収による拡大
13　歴史的事業からの撤退
14　帳尻合わせ

トーマス・グリタ、テッド・マン著　御立英史訳、定価 2200 円、ダイヤモンド社刊

巨大企業が崩壊するとき、内部で何が起こるのか？
パナソニック、東芝、ソニー、日立製作所、三菱電機、三菱重工、IHI といった日本の電機、
重工業業界を中心とした大企業にとって GE は常にお手本でした。
巨大企業が崩壊するとき、内部では何が起こるのか？ビル・ゲイツが絶賛！
「私の知りたかった答えが書かれた重要な本」　ウォール・ストリート・ジャーナル・ベストセラー！

【歴史的】アメリカを象徴する会社の信じられない崩壊

アメリカを代表する「真に偉大な会社」
　GE のロゴは、世界で最も識別しやすいものの一つだ。青地に白く 4 つの波形が円を描くように配置され、19 世紀中頃の卓上扇風機の羽根を思わせる。円の中央には、数十年前にわずかに変更された筆記体で「GE」の 2 文字が記されている。
　このコーポレートロゴの GE での正式名称は「モノグラム」（組み合わせ文字）だが、昔の人は愛着を込めて「ミートボール」と呼ぶ。
多くの日本人は気づいていなかったが、2000 年以降のアメリカでこの 100 年起こっていなかった異変が進行していた。発明王・エジソンが興した、決して沈むことがなかったアメリカの魂と言える会社の一社、ゼネラル・エレクトリック（GE）がみるみるその企業価値を失ってしまったのだ。同社が秘密主義であることもあり、その理由はビジネス界の謎であった。ビル・ゲイツも「大きく成功した企業がなぜ失敗するのかが知りたかった」と語っている。その秘密を 20 数年にわたって追い続けてきたウォール・ストリート・ジャーナルの記者が暴露したのが本書『GE 帝国盛衰史 「最強企業」だった組織はどこで間違えたのか』（ダイヤモンド社刊）だ。電

機、重工業業界のリーダー企業だったこともあり、常に日本企業のお手本だった巨大企業の内部で何が起きていたのか？（訳：御立英史）　http://www.amazon.co.jp/o/ASIN/4478115249/diamondinc-22/

このコングロマリットは１世紀以上にわたり、この特徴的なロゴを、目眩がするほど多様な製品―自ら開拓した事業、買収した事業、あるいは一時的に手を出した事業から生まれた製品―に刻印してきた。ジェットエンジン、超音波診断器、風力タービン、テレビ、融資契約、時計付きラジオ、トースター、原子炉、電球、セキュリティ・システム、シリコン・コーキングチューブ、戦闘機の機関砲、機関車、洗濯機などだ。モノグラムが付けられたGE製品の総価値は300億ドルに迫るという試算もある。

1892年の創業以来、GEは単なる企業ではなく、米国そのものを代表する企業であり続けた。

何十万人もの従業員にとっては人生の当たりくじ、株主にとっては損をする心配のない賭けだった。

幹部社員にとってはエリート養成機関であり、そのうちの一部の者にとっては巨万の富に続く道でもあった。

GEは米国に電気を供給し、最大のマシンを動かし、社会に深く根を下ろした。GE以外にそんな企業はない。

人びとはGEに米国政府と同等の信頼を置いた。

エジソンの工作台とJPモルガンの金融力が合体して生まれたGEは、中産階級に力を与え、軍事力を強固にし、国民の金融資産を爆発的に増やしながら、近代アメリカの台頭と歩調を合わせて進む巨大金融機関へと変身を遂げたのである。

GEは国の成長と共に成長し、時代と共に進化し、創業以来最大の力を蓄えて21世紀に歩を進めた。

2000年のピーク時には、米国で最も価値のある企業となり、その企業価値は6000億ドルに迫った。境界を知らない広大な事業領域で、先進国の膨大な人口に影響を与えた。

GEの工業機械や消費財は、国中に電力網を張り巡らせ、居間やキッチンを照らした。GEのエンジンは、米国の戦闘機や旅客機、大統領専用機を世界の空で飛ばせた。金融サービスはマクドナルドのフランチャイズ店の新規オーナーを支援し、石油や穀物や木材を運ぶ鉄道車両をリースした。

超音波診断器は妊婦に胎児の画像を見せ、X線検査装置は折れた骨を映し出し、MRI（磁気共鳴断層画像）装置は臓器をスキャンして癌を見つけた。米国人はGEの冷蔵庫からスナックを取り出し、ソファにもたれて、GEがつくった人気テレビ番組の『となりのサインフェルド』や『フレンズ』を観た。GEは工業系企業だが、あらゆるものを売った。

GE終焉の深い意味

それから20年も経たないうちに、ミートボールはまだ至る所で見られるものの、GEは想像できないほど衰えてしまった。いまでも世界に数百の拠点を有する巨大企業だが、株価はピーク時の一欠片にすぎない。

もはやメディアの寵児でもなく、アナリストのお気に入りでもなく、ダウ・ジョーンズ工業株平均の銘柄でさえなく、気前のよい配当も消え去った。かつてGE株は投資初心者のポートフォリオに欠かせない銘柄だったが、いまでは投機的銘柄と認識されている。一世代前にそんな見方をしたら、株式市場で異端児扱いされただろう。

　ドルとセント、そして雇用者数で見れば、GEの凋落は短期間のうちに起こった。年金生活者や退職者は人生の後半で、当てにしていた金が消えていくのを目の当たりにした。何千人もが職を失い、首のつながった従業員も将来の不安を抱えることになった。解雇を免れた従業員の多くも、GEが存続に必要な現金と引き換えに歴史の一部を売却したため、別の名前の会社で働くことになった。しかし、米国人が知るGEの終わりは、そんな目に見える崩壊が起こるずっと前から始まっていた。

ある重要な一点で、GEの終焉には株価では表せない深い意味がある。

従業員や幹部社員、その家族の痛みや失望をも超える、深い意味だ。

何世代にもわたって米国企業にすぐれた経営の意味を教えてきた企業の崩壊は、それほど大きな問題を提起しており、それはまだ解決されていない。

GEを追いかけ、模倣してきた他の多くの企業の成功は、どこまでが本物なのか？

どこからが彼らの―そして私たちの―想像の産物なのか？

巨大企業が崩壊するとき、内部で何が起こるのか？

パナソニック、東芝、ソニー、日立製作所、三菱電機、三菱重工、IHI といった日本の電機、重工業業界を中心とした大企業にとって GE は常にお手本でした。

GE は日本企業に家電ビジネスを奪われ、その日本企業は中国に家電事業を奪われ、GE が採った「選択と集中」の戦略に日本企業が学ぶということが行われてきました

GE は業績不振から家電事業を含むさまざまな主力事業を売却、分割し続けた結果、かつての超巨大コングロマリットの面影はいまや薄く、近年では「GE の解体」が囁かれるほどに変貌してしまいました。ジャック・ウェルチ、ジェフリー・イメルトをはじめとするカリスマとして知られた経営者たちはどこで間違ったのか？ それは、21 世紀のビジネス界の謎の 1 つでした。

その謎を、ウォール・ストリート・ジャーナルの GE 番記者が本書で解き明かしています。

20 数年にわたる秘密主義で知られる GE の内部の詳細な変化をはじめて暴露したのです。

ビル・ゲイツが「2021 年夏の推薦図書 5 冊」の筆頭に選んだことで、邦訳刊行前から注目されていた本書。

「大きく成功した企業がなぜ失敗するのかが知りたかった」とビル・ゲイツが長年抱いていたという疑問への答えを、ぜひ本書で読み解いてください。

カリスマ経営者たちはどこで間違ったのか？

ウォール・ストリート・ジャーナルの GE 担当ジャーナリストが謎に迫った。

本書は、エジソンに由来する家電事業に陰りが見えた後、果敢な「選択と集中」で経営の神様と呼ばれたジャック・ウェルチの下、世界最大規模のコングロマリットとしてその栄華を誇ったころからの綿密な取材に基づき、ウェルチのあとの CEO を引き継いだ、ジェフ・イメルト時代の経営を中心に、同社の苦闘の内幕が描かれていく。

ウェルチ時代から、GE はいわゆる電機メーカーの枠を大きくはみ出した存在となっており、航空機エンジン、高機能プラスチック、医療システム、発電システムなど先端分野へと広がり、さらに金融サービス、放送、情報サービスなどのサービス分野が大きな割合を占め、メーカーという枠ですら収まらなくなっていった。

多岐にわたるこうした事業分野の間で難しい舵取りを迫られた後継者たちは、どうしてここまでの凋落を許してしまったのだろうか？

巨大企業が崩壊するとき、内部で何が起こるのか？

GE は日本企業に家電ビジネスを奪われ、その日本企業は中国に家電事業を奪われ、GE が採った「選択と集中」の戦略に日本企業が学ぶということが行われてきました。

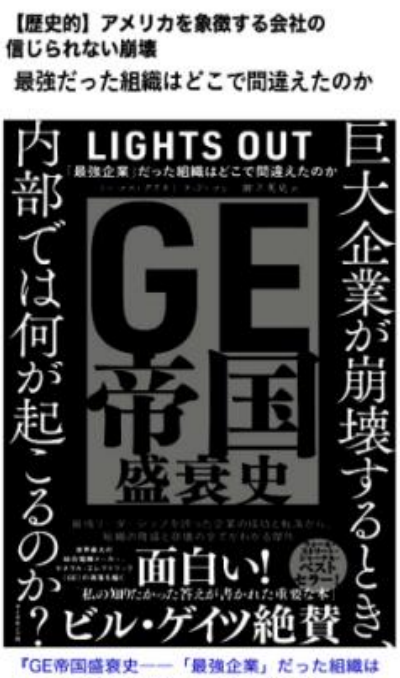
GE は業績不振から家電事業を含むさまざまな主力事業を売却、分割し続けた結果、かつての超巨大コングロマリットの面影はいまや薄く、近年では「GE の解体」が囁かれるほどに変貌してしまいました。

ジャック・ウェルチ、ジェフリー・イメルトをはじめとするカリスマとして知られた経営者たちはどこで間違ったのか？ それは、21 世紀のビジネス界の謎の 1 つでした。

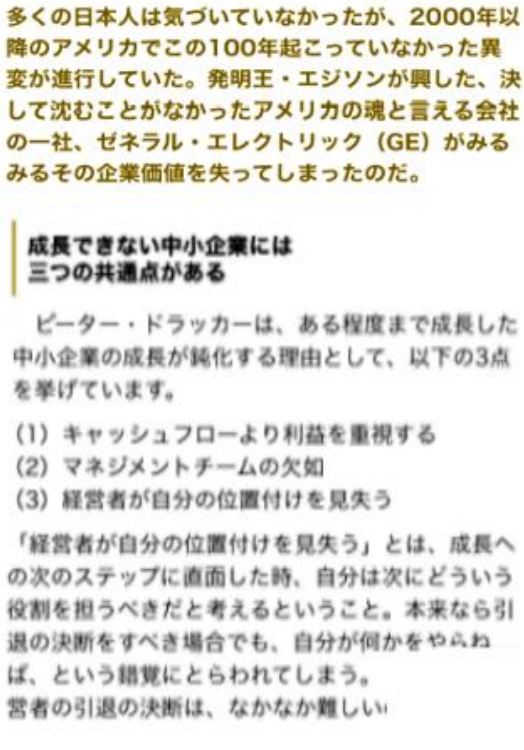
その謎を、ウォール・ストリート・ジャーナルの GE 番記者が本書で解き明かしています。

20 数年にわたる秘密主義で知られる GE の内部の詳細な変化をはじめて暴露したのです。

インターネットに掲載された本書の案内コピーより



『GE帝国盛衰史――「最強企業」だった組織はどこで間違えたのか』トーマス・グリタ、テッド・マン著　御立英史訳、定価2200円、ダイヤモンド社刊



多くの日本人は気づいていなかったが、2000年以降のアメリカでこの100年起こっていなかった異変が進行していた。発明王・エジソンが興した、決して沈むことがなかったアメリカの魂と言える会社の一社、ゼネラル・エレクトリック（GE）がみるみるその企業価値を失ってしまったのだ。

成長できない中小企業には三つの共通点がある

ピーター・ドラッカーは、ある程度まで成長した中小企業の成長が鈍化する理由として、以下の3点を挙げています。

(1) キャッシュフローより利益を重視する
(2) マネジメントチームの欠如
(3) 経営者が自分の位置付けを見失う

「経営者が自分の位置付けを見失う」とは、成長への次のステップに直面した時、自分は次にどういう役割を担うべきだと考えるということ。本来なら引退の決断をすべき場合でも、自分が何かをやらねば、という錯覚にとらわれてしまう。

営者の引退の決断は、なかなか難しい

【巨大企業に落ちた爆弾】新CEOに隠されていた、とてつもない事実　2022.7.12 3:35

https://diamond.jp/articles/-/306218

20数年にわたる秘密主義で知られるGEの内部の詳細な変化をはじめて暴露したのです。
892年の創業以来、GEは単なる企業ではなく、米国そのものを代表する企業であり続けたGE。
多くの日本人は気づいていなかったが、2000年以降のアメリカでこの100年起こっていなかった異変が進行していた。
発明王・エジソンが興した、決して沈むことがなかったアメリカの魂と言える会社の一社、ゼネラル・エレクトリック（GE）がみるみるその企業価値を失ってしまったのだ。
同社が秘密主義であることもあり、その理由はビジネス界の謎であった。ビル・ゲイツも「大きく成功した企業がなぜ失敗するのかが知りたかった」と語っている。

その秘密を20数年にわたって追い続けてきたウォール・ストリート・ジャーナルの記者が暴露したのが本書
『GE帝国盛衰史 「最強企業」だった組織はどこで間違えたのか』（ダイヤモンド社刊）だ。

電機、重工業業界のリーダー企業だったこともあり、
常に日本企業のお手本だった巨大企業の内部で何が起きていたのか？
就任したばかりの新CEOは何を知らされたのか？（訳：御立英史）

隠されていた事実

新CEOのジョン・フラナリーはいま、GEパワーの会議室にいる。
長テーブルの片方にフラナリーと彼のチームが座り、反対側にGEパワーの経営チームが座っている。
話しているうちに、両サイドに並ぶ人びとの表情がこわばっていった。
　フラナリーは数字、特に財務諸表を見ることに長けていたので、スケネクタディの視察もそこから始めていた。
　問題に気づくのにそれほど時間はかからなかった。
　財務数字を見たフラナリーは、GEパワーがキャッシュ不足に陥っていることを知った。
驚きを通り越して、考えられないような事態が進行していた。GE最大の工業分野の事業が火の車になっていたのだ。
GEパワーの利益は、よく見ると、ほとんど帳簿上の数字にすぎなかった。
いわゆるプロフォーマ調整（将来の損益を勘案した会計処理）により、発電用タービンの販売とその保守サービス契約によって利益を上げているように見えるが、サービス契約がもたらす売上げは帳簿上のもので、実際には現金はまだ入ってきていない。さらに悪いことに、発電用タービン市場の世界的な縮小のあおりで、完成品と部品の在庫が膨れ上がっていた。
のちにフラナリーは「GEパワーはがけっぷちを走っていたが、ブレーキを踏んだ痕はなかった」と述べている。
GEの中核事業である発電用ガスタービンは、航空機エンジンの従兄弟のような機械で、巨大なローターが回転して発電機を動かす。その点では、エジソンがロワーマンハッタンに設置した初期の発電機と変わらない。GEは発電所の心臓である巨大なタービンをどこよりも多く製造しており、世界の電力の3分の1を発電していた。

災厄の予感

提出された数字を見ながら、フラナリーは頭がくらくらした。調べれば調べるほど、問題の根深さがわかってきた。
市場がこの先どう展開しようと、GEパワーのポジションは最悪で、改善に必要なキャッシュもなかった。
投資家には、パワーは手堅く利益を上げているように見えたが、そう見えたのは、将来の儲けを前借りして現在の問題を隠す、会計上のトリックにすぎなかった。

パワーは、顧客の多くに、数十年にも及ぶサービス保証を販売していた。
その契約を履行するための将来のコストの推計をいじることで、目標どおりに利益を嵩上げすることができたのだ。フラナリーは思わず首を振った。GE の主要部門がこんな深い墓穴を自ら掘っていたことが信じられなかった。
世界は突然グリーン化したわけではない。風力発電や太陽光発電との競争は数年前から激化の一途で、天然ガス火力発電タービンの需要は日に日に減り続け、パワーにとって金のなる木である保守サービスの頻度も減っていた。
その一方で、売れ残った完成品の在庫があった。売れなければ何の役にも立たない資産だが、市場の低迷が続くなか、到底売れるとは思えなかった。GE 最大の事業の悪循環が破壊力を増していることを、ボルツやイメルトなどごく少数を除いて、高額な報酬を得ている取締役や多くの幹部は知らなかった。

フラナリーはスケネクタディの会議室に座り、地平線の向こうから近づいてくる災厄を見つめていた。
人生を懸ける仕事に備えるため、迷宮のようなコングロマリットの帳簿に目を通していたら、GE の存在意義そのものとも言える最大かつ最重要の事業に、あるはずのキャッシュがなく、深い空洞が口を広げていた。
これまで報告されてきた利益は、ただちに不正とまでは言えないものの、ありったけの願望を注入したものだった。
この混乱を世間の目から隠してきた会計上の工夫は、もはや持ちこたえられなくなりはじめていた。
米国を象徴する企業でキャリアを積むこと 30 年、頂点に立ってみたら、その会社全体が奈落の底に突き落とされようとしていた。
フラナリーはパニックこそ表に出さなかったが、手を振り上げ、眉をひそめ、
20 年来の知己であるボーンスタインをにらみつけて叫んだ。次期 CEO の思いは会議室の全員にはっきり伝わった。
「きみは知っていたのか？」

本書は、エジソンに由来する家電事業に陰りが見えた後、果敢な「選択と集中」で経営の神様と呼ばれたジャック・ウェルチの下、世界最大規模のコングロマリットとしてその栄華を誇ったころからの綿密な取材に基づき、ウェルチのあとの CEO を引き継いだ、ジェフ・イメルト時代の経営を中心に、同社の苦闘の内幕が描かれていく。

ウェルチ時代から、GE はいわゆる電機メーカーの枠を大きくはみ出した存在となっており、航空機エンジン、高機能プラスチック、医療システム、発電システムなど先端分野へと広がり、さらに金融サービス、放送、情報サービスなどのサービス分野が大きな割合を占め、メーカーという枠ですら収まらなくなっていった。
多岐にわたるこうした事業分野の間で難しい舵取りを迫られた後継者たちは、どうしてここまでの凋落を許してしまったのだろうか？
GE の頂点から解体へと向かう歩みを綴った本書は、
日本のメーカー企業のビジネスパーソンにとって、気になる本となることは間違いない。

インターネットに掲載された本書の案内コピーを拾い読みして、この資料作成
ポストコロナの大変革の時代の今　日本の置かれている位置付けが大きく変化　混乱も生じている。
でも　老齢化・人口減の中で　日本の先進力としての位置づけが大きく揺らぎ始めている。
日本の国力・企業の成長性・技術力　なにか行方定まらぬ日本　もう　頂点同調ではどうにもならぬ国際化の大波
人任せにできぬ時代　それぞれが立ち位置をしっかり眺めねば…と。
こんな資料も参考になるかもと…収蔵しています。

2022.7.12.　From Kobe　Mutsu Nakanishi

Fkobe R0409.pdf

2022 四季折々

From Kobe 2022

【From Kobe 2022 9月】 経済評論家 内橋克人氏 没後一年 神戸新聞特集「内橋克人の歩いた道」転記収録

期待一杯の秋の始まり From Kobe fkobeR0409.pdf 2022.9.1.

朝夕 めっきり涼しくなって 季節の替わり目 我が家の庭もすっかり夏から初秋に
気分も変わって 期待を膨らませる 嬉しい秋の訪れです
願いは一つ 穏やかな暮らしの秋へ 街に出て 久しぶりの再会も楽しみたいと

2022.9.1. from Kobe Mutsu Nakanishi

我が家の庭もすっかり変わり、初秋の庭に 2022.8.29
でも今年咲くのが遅れた朝顔が 毎朝 門先をこんなに美しく飾っています。

また　久し振りに出かけた三宮　目の前を連結した路線バスが目の前を行く。
三宮にも　路線バスに連結バスが走るようになったんや・・…
また　新装なった新阪急も中にはまだ入ってない。　ほんまに随分田舎者になったと・・…。

先が見えぬ毎日　いろんな思いが交錯する昨今
年老いて自分では　なにもできぬもどかしさでも　いまを元気にと思うのですが・・…

毎日歩く散歩道　空を見上げるとはっとする雲の美しさ。
毎日手にするデジカメ・スマホの写真にもビックリすることもある。　何はともあれ、この雲の美しさを伝えたい
まぁ　力にはならぬが、毎日　新しい発見がある
これも幸せのひとつかと
なにはともあれ、いまを元気に God be with You!!
９月の神戸便りです。
酷暑にまいって頭働かず。でも　元気にしています
Photo メッセージを連ねた便りお許しください。
これといった話や新聞記事の紹介等の収録なし

西神戸の丘陵地は近郊野菜とともに花や果物の農園も数多く、秋の果物も　もう出回ってきました

近くの里では秋の味覚の出荷に大忙し
伊川谷の農家Sさんから「イチジクの出荷が始まり、ジャム用のも残しているよ」との電話
今か今かと待っていた家内は　イチジクジャム作りに大わらわ
コロナ爆発で中々神戸の外へは出にくい毎日ですが、夏から初秋へ　嬉しい秋の訪れ

元気でお過ごしでしょうか……
連絡もなかなかとれぬ中で　老化してゆくわが身を感じる毎日ですが、
「自分の身は自分で守る」の心意気
引き続き感度をあげて　我慢せず　助けの声をあげて!!
仲間がいる　互いに連絡とりあって　また再会できますよう
「過酷な夏　そしてコロナ禍も　もう少し もう少し」と自らを励ましつつ
仲間みんなにエールを送ります

でも ひとりじゃない　時には声を上げて がんばらないで!!
仲間がいる 仲間の笑顔・思いは みんなの応援歌
お互い声かけあって、スクラム組んで この厳しい夏を乗り切りましょう
今はコロナにかからぬことが一番 無理せず 自らをお守り下さい。
また、台風・集中豪雨など自然災害にもご注意ください
相も変わらずですが、秋の始まり9月神戸便りをお届けします

God be With You!! 元気に前向いて
厳しい夏から　爽やかな秋へ
2022.9.1.　From Kobe　　Mutsu Nakanishi

足元で白鷺が舞うがごとく咲く自生の鷺草が咲く
加古川西岸　加西市網引湿原へ　2022.8.21.

「夏の終わり 鷺草が咲く網引湿原の見事な美しさ」と湿原でカメラ手を構える人に教えてもらった加西市網引湿原
我が家の鷺が咲くのを見て、原チャリ走らせ湿原に

鷺草が咲く網引湿原へ　2022.8.24.
2回目で、場所はよく知る加古川西岸　小野アルプス福甸峠の直ぐ北側　北の加西市側からしかない四方を里山で囲まれた湿原
こんな所に地元でよく管理された湿原があるとビックリでした。
今回も出会ったのは一人だけ。でもみんなお目当てはでも お目当てはみんな鷺草の花
我が家にも一鉢あるが、自生種は中々見られない。約一時間うれしい湿原独り占めに。
湿原入口 北条鉄道がすぐ北を走る走る加西市南網引の里から眺める
加西の田園風景も緑一杯 この時節ならでは・・・ 心地よし。

■ 蕨手刀を手に戦った東北の蝦夷に思いを寄せて　　NHK 番組歴史探偵「日本の刀剣」視聴

古代蕨手刀を手に大軍を率いる征夷大将軍　坂之上田村麻呂など討伐軍を大いに悩ました蝦夷の雄　阿弖流為

和鉄の道掲載スライド　https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0409warabite.mp4

私の好きな東北　もう通いだして４０年余り。最近は東北へでかけることもありませんが、北東北の縄文遺跡がユネスコ世界文化遺産になって、目にする機会も多くなり、クローズアップされる機会が多くなって、嬉しい限り。

また、この夏の甲子園　仙台育英高校が優勝し、白川の関を越えて、東北に優勝旗をはじめて持ち帰った。

東北人の思いはひとしおだろうと。

東北に通って初めて知った古代　蕨手刀を手に大軍を率いる征夷大将軍　坂之上田村麻呂など討伐軍を大いに悩ました蝦夷の雄　阿弖流為のこと等々　次々思い出される視聴でした。

日本刀の原点とされる古代の蕨手刀の科学調査の結果や、「妖刀村正伝説」の真相解明 など、今も日本人と切っても切れない刀剣について紹介した番組。目を凝らして視聴。中でも　東北蝦夷が手にした「蕨手刀」のこと。

日本刀の源流といわれるが、鉄素材・蕨手刀製作について、まだよくわかっていない。

世に今は日本刀ブームと言われ、多くの人が関心を持っていると聞くが、虚構と真実が入り混じった情報がますます多い中、どう読み取ればいいのかと。　という私もちょいかじりの関西人。東北はわからぬことが多く、和鉄の道に掲載してきた東北の鉄についても　チェックせねばと・・・・。

また、本当に懐かしい東北　TV に知る地名が出るたびに懐かしく、特に自然災害被災のニュースには気がかりに。

一度　東北をたずねたいなぁと夢膨らませています。

また　青森ねぶたのお囃子の音が無性に聞きたくなって　この視聴資料をスライド動画にして BGM に・・・・

https://infokkkna.com/ironroad/2016htm/1603tpb01aterui.pdf

■ 桂文珍さんの落語的見聞録　　頭を空っぽにして　ほっと一息　文珍さんの話術を

コロナ禍の中で「達者な親父になれるかなぁ」神戸新聞８月１１日朝刊より

毎月楽しみにしているユーモアたっぷり、それでいてぴりっとした落語をネタにした世相の時事放談
今月の話の枕は　いつも新聞でしっかり探す「補聴器」「薬・サプリメント」・・・・
そしてテレビから聞こえてくる「デイ・ブイ・デー(DVD)」の社長の元気な姿
年寄り　みんな同病　みすかされているなぁと。　こちとらも　ふむ ふむ　みんなみてるんやと。
そして落語「茶屋迎え」へ　そして落語の落ちへ。　文珍さんに座布団
元気な親父たちの登場に　ちょっとうらやましく　みんな思いは一緒をやなぁと嬉しくも・・・・・

文珍さんの落語見聞録«８月»　達者な親父になれるかな
神戸新聞2022.8.11.朝刊より

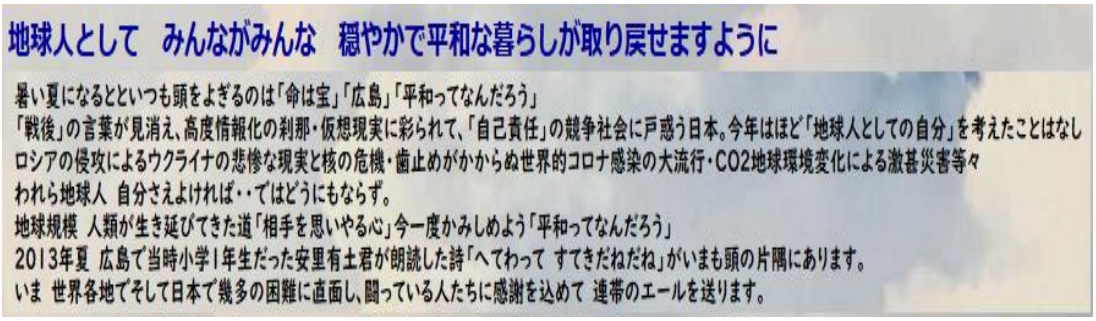
2022年(令和4年)8月11日　木曜日

文化

達者な親父になれるかな

■ ８月１６日　京都五山の送り火　ことしも行けず TV 中継で

８月16日 京都五山の送り火 ことしも行けずで TV 中継見ての盆送りになりました
先に逝ってしまった仲間たちへ 安らかにと



もう　自分の時代ではないと感じる昨今ですが、
まだまだ好奇心旺盛　気力もあり、足も復活。
不定期になりそうですが、元気に前向いて発信をと。
後期高齢者だからとは言えなくなった新型コロナへの戦い
そしてポストコロナの時代へ
みんなの一番の願いは穏やかな日常の生活を取り戻せること
前向いてがんばりましょう

困難の中にある仲間に　思いをはせています。
みんな老いと向き合う年に
一人で頑張らず、無理せず　みんなに声あげて!!
仲間がいる。仲間の元気はみんなの応援歌
互いに連絡取り合って　元気に前向いて笑顔で今を。

仲間の元気は　みんなの応援歌 !!
頑張りすぎず、時には声をあげて !!
お互いスクラム組んで
助け合ってこの難局を乗り越えましょう
笑顔で逢えるのを　楽しみにしています
ワクチン接種も済ませましたが、
まだまだ収束は道半ば
どうか　無理せず、元気に前向いて
お過ごしください

また連絡ください　*God Be With You!!*

From Kobe　Mutsu Nakanishi

2022.9.1. from　Kobe　Mutsu　Nakanishi

狭い縦走路のドクン中にどっしりと座り
いつも元気をもらうウバメガシノ巨樹

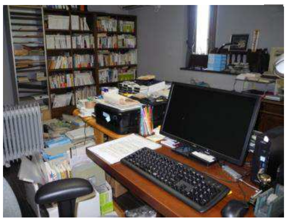
群生するウバメガシの中を歩く
西六甲須磨縦走路で

いつも元気を貰う妙法寺
車の里の車の里大歳神社のの大楠

神戸新聞NEXT　神戸新聞９月　特集内橋克人氏没後１年　特集　①～③　より転記

共生の大地へ　没後１年・内橋克人の歩いた道

高い志を胸に厳しい峯（みね）を目指した生涯。
神戸を起点に戦後社会の渺茫たる荒野を歩き、
共生への希望を説き続けた一人のジャーナリストの軌跡を
言葉と作品でつづる。（加藤正文）



経済評論家 内橋克人 主要作品リスト

（タイトルは単行本時。文庫化時に変更あり）

1960年代	外資のなかのニッポン
1970年代	恐るべき外資企業、優績店への挑戦、挑戦する幹部、伝説の日本人、危機こそ好機である、「安宅崩壊」以後、恐慌、匠の時代シリーズ（～1980年代）
1980年代	経営の匠、ニッポン地球時代、幻想の「技術一流国」ニッポン、社長辞典、日本エネルギー戦争の現場、考える一族 カシオ四兄弟、「重厚長大」の復権、原発への警鐘、ガンを告げる瞬間、「手法革命」の時代、ジャパン・システム激変の新図式、退き際の研究、KKニッポンを射る（共著）
1990年代	尊敬おく能わざる企業、「革新」已む能わざる企業、隗より始めよ、破綻か再生か、共生の大地、内橋克人同時代への発言（全8巻）、「会社本位主義」をどう超える（共著）、日本会社原論（共編著）、規制緩和という悪夢（共編著）、大震災復興への警鐘（共著）、経済学は誰のためにあるのか（編著）、現代日本文化論－仕事の創造（共同編集）、規制緩和 何をもたらすか（共著）
2000年代	同時代の読み方、不安社会を生きる、浪費なき成長－新しい経済の起点、＜節度の経済学＞の時代、もうひとつの日本は可能だ、「共生経済」が始まる、悪夢のサイクル、共生経済が始まる、日本の原発、どこで間違えたのか、荒野渺茫、誰のための改革か（編著）、「人間復興」の経済を目指して（共著）、ラテン・アメリカは警告する（共編）、城山三郎 命の旅（共編）、始まっている未来（共著）、大震災のなかで－私たちは何をすべきか（編著）、取り返しのつかないものを、取り返すために（共著）

筆一本真っすぐに生きた

共生の大地へ

没後1年・内橋克人の歩いた道

柔和なまなざしで経済社会の本質を見続けた＝2007年、大阪市北区

❶ 荒野渺茫（びょうぼう）

今しがたまで内橋克人さんが机に向かって執筆に打ち込んでいたかのようだ。神奈川県鎌倉市の自宅書斎。膨大な書籍と資料が並ぶ。机上にはNHKのラジオ用原稿。蛍光ペンで線を引き、補足が書き込まれている。最後のメッセージとなった2021年8月1日放送「脱炭素社会─日本の針路を考える」だ。

急性心筋梗塞で救急搬送されたのは3日後の4日。自身は帰宅できるつもりだったというが、次第に容体は悪化し、9月1日午後4時37分、亡くなった。享年89。それから1年。妻泰子さん(85)は話した。「真っすぐに前を向いて走る人でしたね。本当に横向かないです。真面目に真っすぐ行く人でした…」

1932（昭和7）年、神戸市須磨区生まれ。12歳のとき神戸空襲を経験。神戸商科大（現兵庫県立大）を卒業した57年、神戸新聞に入り、経済記者として歩みだした。以来64年、筆一本で駆け抜けた。

「最初の7年間だけは神戸新聞にいたが、その後はいかなる組織にも属さずやってきた。いま何が始まっているのか、それが未来を明るくするいい芽なのか、逆にこれは危ないぞということなのか。この識別を他の人より相当早く、ある種のにおいで感じ取ることができるようになった」

国家や経済の大義が個人を脅かしてはならない。現場を歩きながら人間が主人公の「共生経済」を説き続けた。信念の原点となったのが大切な人の命が奪われた神戸空襲であり、その半世紀後の阪神・淡路大震災だった。

書斎のデスクトップパソコンの後ろに止まったままの掛け時計が横たえてある。針が指し示すのは大震災発生時刻の5時46分。あの瞬間、浮かび上がった社会の断面。「平常時には深い地底にもぐったまま、滅多なことで人の目に触れることのない真の『断層』の姿に違いない」

戦争と震災の体験を二重写しにした自伝的作品「荒野渺茫」（2013年）でつづった。「いま、『暗い時代』への予感は的中し、一度は地に埋めたはずの『戦中・戦前なるもの』が新たな装いを凝らしてむくむくと立ち上がり、荒い呼吸で四囲を封じ込める」（加藤正文）

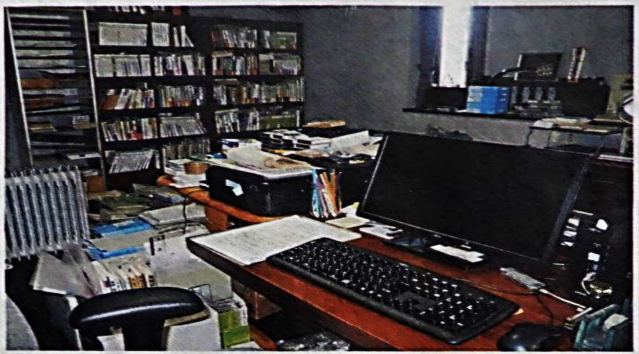
12面に続く

共生の大地へ

没後1年・内橋克人の歩いた道

❶

1面から続く



内橋克人さんの書斎。たゆまぬ努力で取材と思索を重ね、膨大な著作を世に出した＝2022年7月31日、神奈川県鎌倉市

内橋克人さんなら、いま同時代にどんなメッセージを発しただろう。収束が見通せないパンデミック（世界的大流行）、迫りくる気候崩壊、ロシアのウクライナ侵攻で戦争も現実となった。国内では安倍晋三元首相の銃撃事件が起きた。揺れる世情にあって目指すべき社会の姿はますます不透明になっている。

■危険な予兆

「時代状況としてとらえる目が必要」が持論だった。歴史の証言として「昭和恐慌」を意識していた。1978年の「ドキュメント恐慌」。失業、生活困難、自殺…。「追いつめられるごく普通の生活者の姿は、あの『昭和恐慌』の時代を彷彿とさせる」。社会不安の中、濱口雄幸、井上準之助、団琢磨らを襲ったテロとなり、戦争と軍国主義への道に至った。暗い時代の危険な予兆。「恐慌が高じて戦争に至る」と評論家の佐高信さん(77)との対談で語った。

終生、権力におもねらず、市井の人々の目線で現状を分析し、警鐘を鳴らした。「市場と権力」「資本主義と闘った男」を書いたジャーナリスト佐々木実さん(56)は「経済ジャーナリズムでは経営者目線や当局目線になり、ビジネス情報の領域で処理されることが多い。社会的な視点に立って経済を語る人は極めて稀で内橋さんはその極めて稀な先達だった」。

時代を見抜く慧眼と洞察力。出世作となった「匠の時代」（78年～80年代）では人と技術の接点領域に光を当てた。一世を風靡したNHK番組「プロジェクトX」より20年以上前のアプローチだった。

■規制緩和万能論の虚妄

90年代、バブル経済が崩壊した後、規制緩和万能論が声高に叫ばれた。労働法制など各分野で市場原理を働かせればイノベーション（技術革新）が起き、安定した経済成長が実現できる。そうした言説に対し、95年の「規制緩和という悪夢」で米国航空業界の実情を調べ、安全性が損なわれるなどの問題点を告発した。「企業行動の規制を外していくのですから、市民社会としては抵抗の術がなくなる。こうしたリスクがあることを、われわれは肝に銘ずるべきです」

「例外なき規制緩和」は何をもたらしたか。非正規雇用は働く人の4割近くになり、格差拡大を招いた。大規模店舗の相次ぐ進出で地域の商店街や市場ではシャッター通りが増え、疲弊の中にある。

現実の経済社会と切り結びながら、持論の「生きる・働く・暮らす」が地域で響き合う未来を見通していた。「尊敬おく能わざる企業」「共生の大地」「もうひとつの日本は可能だ」「始まっている未来」…。題名から内橋ロマンが立ち上ってくる。

■

9月1日で没後1年になる。戒名は「志峯院厳岳良克居士」。高い志を胸に厳しい峯を目指した生涯。神戸を起点に戦後社会の渺茫たる荒野を歩き、共生への希望を説き続けた一人のジャーナリストの軌跡を言葉と作品でつづる。（加藤正文）

本質見抜いた洞察力

荒野渺茫（びょうぼう）

「今日に明日をつなぐ人々の営みこそが経済の本質」。静かに語る内橋克人さん＝2003年、東京都千代田区

内橋 克人（うちはし・かつと、1932～2021年）神戸市生まれ。神戸商科大（現兵庫県立大）卒。神戸新聞経済部記者を経て独立。著書多数。神戸新聞客員論説委員も務めた。

経済評論家 内橋克人 主要作品リスト

（タイトルは単行本時。文庫化時に変更あり）

1960年代	外資のなかのニッポン
1970年代	恐るべき外資企業、優績店への挑戦、挑戦する幹部、伝説の日本人、危機こそ好機である、「安宅崩壊」以後、恐慌、匠の時代シリーズ（～1980年代）
1980年代	経営の匠、ニッポン地球時代、幻想の「技術一流国」ニッポン、社長辞典、日本エネルギー戦争の現場、考える一族 カシオ四兄弟、「重厚長大」の復権、原発への警鐘、ガンを告げる瞬間、「手法革命」の時代、ジャパン・システム激変の新図式、退き際の研究、KKニッポンを射る（共著）
1990年代	尊敬おく能わざる企業、「革新」已む能わざる企業、隗より始めよ、破綻か再生か、共生の大地、内橋克人同時代への発言（全8巻）、「会社本位主義」をどう超える（共著）、日本会社原論（共編著）、規制緩和という悪夢（共編著）、大震災復興への警鐘（共著）、経済学は誰のためにあるのか（編著）、現代日本文化論－仕事の創造（共同編集）、規制緩和 何をもたらすか（共著）
2000年代	同時代の読み方、不安社会を生きる、浪費なき成長－新しい経済の起点、＜節度の経済学＞の時代、もうひとつの日本は可能だ、「共生経済」が始まる、悪夢のサイクル、共生経済が始まる、日本の原発、どこで間違えたのか、荒野渺茫、誰のための改革か（編著）、「人間復興」の経済を目指して（共著）、ラテン・アメリカは警告する（共編）、城山三郎 命の旅（共編）、始まっている未来（共著）、大震災のなかで－私たちは何をすべきか（編著）、取り返しのつかないものを、取り返すために（共著）

神戸新聞2022.9.1.朝刊より

共生の大地へ

没後1年・内橋克人の歩いた道 ❷

「技術はちょうど地下の伏流水のように、いつか商品や時代の流れを変えてしまうことになるんだ」。若いエンジニアたちが議論を交わす（「電卓戦争の軌跡―シャープとカシオ」）。「お前たち、自分は旋盤工として採用されたんだ、と思え。現場を知らない技術者なんて、ウチでは不要なんだから」。現場に発想の原点がある（「セイコー・クオーツの世界」）。

■あふれるリアリティー

内橋克人さんの出世作となった「匠の時代」。1978（昭和53）年にタ刊フジで始まった連載は一躍脚光を浴びる。新しい原理を見いだし、手法革命に情熱を傾ける匠たちの群像。緻密な取材に基づく臨場感、豊富なエピソード、情感あふれる文章…。連載はシリーズ化され、後に12冊の文庫になるほどの生命力を持った。40年を経た今も瑞々しい。

当時、タ刊フジの経済担当部長だった島谷泰彦さん（8月に90歳で死去）は内橋さんや作家高杉良さん、評論家佐高信さんら後に大成する書き手を積極登用していく。中でも同い年の内橋さんを高く評価し、企画を任せる。「匠」という言葉になじみが薄かった時代だ。上り下りしたビルの階段、くぐった工場の門、歩いた生産現場、語り合った技術者たち…。「取材は結果的に成功したが、悪戦苦闘だった。執筆者の内橋さんの疲労度は到底、私の及ぶところではなかった」。粘りに粘ってすくいあげた人間ドラマはリアリティーにあふれた。

取材に明け暮れていた頃の内橋克人さん。記者時代から現場取材を鉄則にしていた（提供）

匠の時代

タ刊フジの名編集者として内橋克人さんら書き手を育てた島谷泰彦さん（2010年）

■自賛論への警鐘

80年代初頭、バブル経済に向かう時期、日本企業の技術は米欧を超え、超一流だという「自賛論」が盛り上がっていく。戦後の「追いつき追い越せ」を合言葉に登った頂で得た「ジャパン・アズ・ナンバーワン」という賛辞に酔った。

危機感を抱いた内橋さんは「幻想の『技術一流国』ニッポン」（82年）を出す。日本企業の強みは生産現場で発揮される労働や技能の質に依存する傾向が強い。その現状に触れつつ、弱点として真の創造技術を育む風土の脆弱さを指摘した。教育、生産構造、研究体制…。「『アメリカを超えた』などと言わず、せめて高度のオリジナリティーを求める技術開発努力や独創的技術への挑戦を、もっと真面目に評価する姿勢を持つことが、『自己幻想』から覚醒する道であるよう思われる」

それから約40年たったいま製造業の現実はどうだろうか。競争力は低下し、市場を席巻する製品はなかなか生まれないばかりか、大企業で不祥事が後を絶たない。検査不正、データ改ざん・捏造、法令違反、リコール（回収・無償修理）…。生じた亀裂は次第に広がり、破断に至る。そんな惨状を思わせる品質の劣化は日本企業の病巣となった感がある。

「科学と技術と技能、そして人間と組織と地域社会、それらの間を結ぶ強い絆、そして未来を望むことの大きさについて再確認したい」。内橋さんが追求したのは実物、実需、実体に根差した「実の技術」だ。メッセージはいまも切実に響く。

（加藤正文）

匠の時代　タ刊フジの連載をまとめて「先駆的開発者たちの実像」を副題に1978年に刊行された。シリーズでは三菱電機、松下電器産業（現パナソニック）、IBM、ホンダ、ミノルタ、東レなど世間が目を見張った技術革新を人間ドラマとして描いた。講談社文庫、岩波現代文庫。

地域と響く「実の技術」

神戸新聞2022.9.2.朝刊より

共生の大地へ

没後1年・内橋克人の歩いた道 ❸

内橋克人とグループ二〇〇一。チームによる調査報道「規制緩和という悪夢」は1994（平成6）年7月から雑誌「文藝春秋」で3回シリーズで掲載され、バブル崩壊後の日本社会に衝撃を与えた。「こと規制緩和に関するかぎり日本の各メディアは、『規制緩和こそ日本経済を救う』という経済学者の説を最初から正しいものとして鵜呑みにし、事実の検証というジャーナリズム本来の仕事をしてこなかった。ここに私たちの仕事があると考えた」

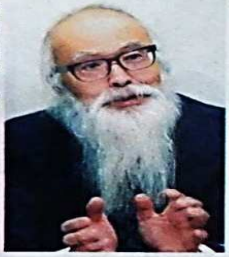
■万能論に潜む危うさ

当時の平岩外四経団連会長を座長とする細川護熙首相の私的諮問機関、いわゆる平岩研究会の答申は「経済的規制は原則自由に、社会的規制は〈自己責任〉を原則に最小限に」。日本社会を救う万能薬としてもてはやされた。

内橋さんは60代初め。百戦錬磨の眼力は礼賛論に潜む危うさを見逃さなかった。チームは先行した米国を調査し、新産業は本当に生まれるか▽雇用はどうなるのか▽アメリカの狙いは何か―を詳細に調べた。「日本の規制緩和運動はいわば大変危険な劇薬を患者に副作用を全く知らせず投与しようとしているのと同じ」。恩恵は権力の決定機構に近い投資家、大企業、都市生活者に行く。他方、中流層をなす勤労者、中小企業、地方生活者、年金生活者は「激流の中に放り出され、多くの人々が辛酸を嘗めることになるだろう」。

市場原理至上主義批判を行った内橋克人さん＝神奈川県鎌倉市の自宅書斎（2014年）

規制緩和という悪夢



宇沢弘文さん（1928～2014年）。数理経済学者。社会的共通資本の思想で内橋克人さんと共鳴した（1995年）

予言は的中した。格差社会の到来だ。10年余り後の2006年刊の「悪夢のサイクル　ネオリベラリズム循環」では増え続ける非正規雇用とともに所得格差が開く実情をデータで示した。増大する貧困層、増える自殺…。バブルと破綻を繰り返す中で共同体が壊される構図だ。「市場が人間を支配する思想が背景にある」として市場原理至上主義、新自由主義をあげ、その源流を探った。

■共生経済という対抗軸

「経済学は誰のためにあるのか」という問いを胸に内橋さんは経済学者にインタビューしていく。宇沢弘文、岸本重陳、佐和隆光、熊沢誠、西川潤といった碩学たちだ。規制緩和礼賛論はあるべき日本経済論、社会論を見失っているのではないか。経済学はこれをどうただすのか。

「内橋さんは自由な一人の人間として、現在起こりつつあることを冷静な目で見て、アピーリングな形で提示してくださる」。経済学者で最も深く通じ合ったのが宇沢さんだった。成長理論で業績をあげ、ソローやスティグリッツら名だたる経済学者に影響を与え、「ノーベル経済学賞に最も近い日本人」と目された数理経済学の泰斗だ。

宇沢さんが目指す経済社会の根幹として打ち出したのが「社会的共通資本」という概念だ。自然環境やインフラ、金融、教育、医療を経済学で捉え直し、「人間が人間らしく生きていける社会の器」「コモンズ」と位置づけた。市場は万能という言説への対抗軸であり、内橋さん提唱の共生経済と軌を一にするものだった。2人の対談は「始まっている未来　新しい経済学は可能か」として09年に刊行された。

（加藤正文）

規制緩和という悪夢　1995年刊。続編が「悪夢のサイクル　ネオリベラリズム循環」（2006年）。市場原理至上主義批判は内橋さんの終生のテーマとなった。「経済学は誰のためにあるのか」（1997年）もアカデミズムとジャーナリズムをつなぐ書。

経済学の在り方を問う

神戸新聞2022.9.3.朝刊より

和鉄の道・Iron Road

経済評論家 内橋克人氏の評論他 関連資料掲載記事リスト

2022.9.1.内橋克人氏没後1年 By Mutsu Nakanishi

2021年10月 From Kobe より

「経済評論家 内橋克人氏 逝去」の訃報に接して 懐い出すままに

常に現場に立ち、自分の眼で確かめ、権威におもねず、攻められる側に身を置く視点
「現場・人間主義」を貫いた巨星

内橋克人さん死去

人重視の経済に信念

[評伝] 市場原理主義に警鐘

内橋克人さん死去

評論家、共生経済提唱

89歳

追悼

神戸新聞

9月5日

和鉄の道・Iron Road

経済評論家 内橋克人氏の評論他 関連資料掲載記事リスト

2022.9.1.内橋克人氏没後1年 By Mutsu Nakanishi

■**2021.9.5. 内橋克人氏逝去追悼記事** 内橋克人氏主要業績紹介

■**2012.1.1. 年の初め 内橋克人氏の１００年後へのメッセージ**

ホームページ「和鉄の道・Iron Road - from Kobe」に掲載紹介してきた内橋克人氏の記事リスト

◎和鉄の道・Iron Road －2012年の初めにより

内橋克人氏「100年後へのメッセージ」

https://infokkkna.com/ironroad/2012htm/walk9/2012nengakobe.pdf

◎和鉄の道・Iron Road From Kobe 2012年1月

厳しさを力に 経済評論家 内橋克人氏１００年インタビューに共感して by Mutsu Nakanishi

https://infokkkna.com/ironroad/2012htm/2012mutsu/fkobe1201.pdf

参考添付 内橋克人 NHK BS 2011.12.18. 放送 「内橋克人 １００年インタビュー」 視聴メモ

◎和鉄の道・Iron Road From Kobe 2013年8月より

あまりに多い「想定外・経験したことがない」の風潮

NHK 朝一番 ビジネス展望 内橋克人氏の解説を紹介

創造性の欠如した今の時代に異常気象にだまし絵をダブらせ今一番自分 にすっと入る

https://infokkkna.com/ironroad/2013htm/2013mutsu/fkobe1308.pdf

◎和鉄の道・Iron Road From Kobe 2013年9月より

新書 藻谷浩介・NHK広島取材班「里山資本主義-日本経済は『安心の原理』で動く-」の紹介

今 日本で一番求められている地域を元気にする

日本再生への道「里山資本主義 & 内橋克人氏の提案する地域自立自給経済圏」創設の実践

https://infokkkna.com/ironroad/2013htm/2013mutsu/fkobe1309.pdf

◎和鉄の道・Iron Road From Kobe 2018年12月より

日本の行く先がおもいやられる師走 数が頼りの薄っぺらな社会からの脱出へ 若者たちへの思いが募る

こんな思いを代弁して、神戸新聞 内橋克人氏ほかの評論にも

https://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/2018mutsu/fkobe1812uchihashi.pdf

戦後　日本が歩んだ道　NHK　BS　2011.12.18.「内橋克人100年インタビュー」より

■ 戦争時代の反省　　戦中・戦後　そして　今も続く社会構成の原点　日本人気質

- 頂点同調主義
- 熱狂的な等質化現象　　リーダーにゆだねる・異を排する

■ 1960年代　　高度経済成長　　頂点同調主義・等質化の中で謳歌した高度成長

- 技術革新・技術力による生産量と質の著しい向上
- 公害ほかの矛盾に蓋をした成長

・ 生産効率・物づくりに特化した改善技術の開発　独創性のなさが弱点

・ 基礎技術・革新技術開発の遅れ

世界一の技術立国日本の謳歌　　⇔　異を唱えられぬ日本の社会

■ 1970年代後半　　石油ショックによる原油価格の急騰　　「狂乱物価」とインフレ・構造不況へ突入　〉

1974　　第一次石油ショック・中東戦争　　・成長産業が素材産業から加工組立て産業へシフト

1979　　第二次石油ショック・イラン革命　　・厳しい国際競争にさらされる

■ 1985年～2008年　バブル経済とその終焉　不況克服のための規制緩和と大型金融改革の時代

1986～　　バブル景気　マネー資本主義の時代へ

アメリカ型資本主義　株価至上主義

1991　　バブルの崩壊

■ 1990年代～　　不況克服へ　規制緩和と企業国際化の急速展開

2001　　エンロンの破たん

2000　～　雇用不安など社会問題急拡大　企業の国際化急展開

非正規雇用　　外国人投資の急上昇

グローバル化　市場原理主義経済
効率化・国際競争力
金融のビッグバン強欲資本主義へ
グローバル化の名のもとアメリカ中心の枠組に日本が飲み込まれてゆく

■ 2011年　東日本大震災・原発事故　そして年金問題と破綻寸前の国家財政　急激な円高　政治の貧困

日本経済の疲弊と格差拡大　　企業の海外移転の急拡大

舵取りのなき日本に先行きが見えず　社会全体に広がる閉塞感・不安感

もうひとつの経済学「理念型経済学　-市場主語から国民主語の経済-」の提唱

矛盾を解決することで、成長を生むことで「マネー資本主義に対抗する経済　　これらの自立・自給がないと　国際マネーの餌食となる

トリクルダウン効果の枠組み今完全に崩れ去っており、国際競争力・市場主義を機に企業・金融優遇の政策の中で　国民の閉塞感と不安感はぬぐえない。
国際企業・金融依存から脱し、特に　現日本の社会の自己矛盾を生んできた源　食糧・エネルギー・高齢化〔介護・医療〕の分野で自立してゆく以外に、新しい日本構築の道はない。

- 自給自立型農業の構築
「ゆず」栽培から加工で30億円規模に成長した高知県馬路村
- 自給率数パーセントが市民共同発電など自然・再生可能エネルギーで自給率200パーセントを達成したデンマーク
- 介護・医療は今やビジネス構築の必要な先端産業

「理念型経済学　-市場主語から国民主語の経済-」の構築の実現は可能

矛盾を解決することで、成長を生むことで「マネー資本主義に対抗する経済

これらの自立・自給がないと　国際マネーの餌食となる

- 頂点同調から脱して声をあげよう
- 賢さを伴った勇気を

市場主語から国民主語の経済構築へ

7月16日早朝　ＮＨＫラジオ朝一番　ビジネス展望

『働き方の多様化とは何か』内橋克人　　2013.7.16.

内橋克人さんのビジネス解説　実に明快分かりやすい解説に
私には一番すっと入ってくる話になるほどと。

◎　多様な働き方・雇用・労働の多様化「働き方の多様化」と「働かせ方の多様化」は違う

◎　正社員として働くのは「権利」であって、様々な働き方は働く個人それぞれの都合の「選択」だ。

「日本ではこれが、ごっちゃにされて　都合よく使われて、今の厳しい社会状況を生んでいる。
同じように働いても、正社員と非正社員では、単に賃金格差にとどまらず、
雇用保険や福利厚生の手厚さの違いなど全般的な格差は極めて大きい。
正社員以外の働き方が増える事をもって『働き方の多様化』とするような考え方が、
いかに働く人の現実から遠い議論かが、改めて分かるであろう。」と。

内橋克人氏は「『職無くば人間の尊厳もない』働くとはすなわち、人間がどう生きるのかという
問題である」と説き、

「国際競争力をつけるようなグローバル　スタンダードが
非正規雇用を増やすことだとの錯覚を日本では植えつけられているが、
けっしてそんなことはない　」

と欧米の具体的な事例をひいて言う。

◎　例えば、『オランダモデル』。の例示

同一労働同一賃金を前提にし、労働時間の長短による差別をなくして、賃金は均等割り。
均等待遇の上に立った長時間労働を正社員と、短時間労働制社員の２種類しか労働は存在しない。

2018.11.29.　神戸新聞（1・2面掲載）
「針路21」欄　内橋克人氏評論　整理転載

「安倍外交」の実相　針路21

目立つ内外の食い違い

内橋　克人

国を危うくする言い繕い

「安倍外交」の実相　針路21

ビジネスにも就活にも
ひょうご経済プラス

神戸新聞NEXT

共生の大地へ　没後１年・内橋克人の歩いた道

（１）荒野渺茫（びょうぼう）　筆一本、真っすぐに生きた

2022.09.01

柔和なまなざしで経済社会の本質を見続けた＝２００７年、大阪市北区

今しがたまで内橋克人さんが机に向かって執筆に打ち込んでいたかのようだ。神奈川県鎌倉市の自宅書斎。膨大な書籍と資料が並ぶ。机上にはＮＨＫのラジオ用原稿。蛍光ペンで線を引き、補足が書き込まれている。最後のメッセージとなった２０２１年８月１日放送「脱炭素社会－日本の針路を考える」だ。

急性心筋梗塞で救急搬送されたのは３日後の４日。自身は帰宅できるつもりだったというが、次第に容体は悪化し、９月１日午後４時３７分、亡くなった。享年８９。それから１年。妻泰子さん（８５）は話した。「真っすぐに前を向いて走る人でしたね。本当に横向かないです。真面目に真っすぐ行く人でした…」

内橋克人さんの書斎。たゆまぬ努力で取材と思索を重ね、膨大な著作を世に出した＝２０２２年７月３１日、神奈川県鎌倉市

「今日に明日をつなぐ人々の営みこそが経済の本質」。静かに語る内橋克人さん＝２００３年、東京都千代田区

１９３２（昭和７）年、神戸市須磨区生まれ。１２歳のとき神戸空襲を経験。神戸商科大（現兵庫県立大）を卒業した５７年、神戸新聞に入り、経済記者として歩みだした。以来６４年、筆一本で駆け抜けた。

「最初の７年間だけは神戸新聞にいたが、その後はいかなる組織にも属さずやってきた。いま何が始まっているのか、それが未来を明るくするいい芽なのか、逆にこれは危ないぞということなのか。この識別を他の人より相当早く、ある種のにおいで感じ取ることができるようになった」

国家や経済の大義が個人を脅かしてはならない。現場を歩きながら人間が主人公の「共生経済」を説き続けた。信念の原点となったのが大切な人の命が奪われた神戸空襲であり、その半世紀後の阪神・淡路大震災だった。

書斎のデスクトップパソコンの後ろに止まったままの掛け時計が横たえてある。針が指し示すのは大震災発生時刻の５時４６分。あの瞬間、浮かび上がった社会の断面。「平常時には深い地底にもぐったまま、滅多（めった）なことで人の目に触れることのない真の『断層』の姿に違いない」

戦争と震災の体験を二重写しにした自伝的作品「荒野渺茫（びょうぼう）」（２０１３年）でつづった。「いま、『暗い時代』への予感は的

経済評論家 内橋克人 主要作品リスト

（タイトルは単行本時。文庫化時に変更あり）

1960年代	外資のなかのニッポン
1970年代	恐るべき外資企業、優績店への挑戦、挑戦する幹部、伝説の日本人、危機こそ好機である、「安宅崩壊」以後、恐慌、匠の時代シリーズ（～1980年代）
1980年代	経営の匠、ニッポン地球時代、幻想の「技術一流国」ニッポン、社長辞典、日本エネルギー戦争の現場、考える一族 カシオ四兄弟、「重厚長大」の復権、原発への警鐘、ガンを告げる瞬間、「手法革命」の時代、ジャパン・システム激変の新図式、遅き際の研究、KKニッポンを射る（共著）
1990年代	尊敬おく能わざる企業、「革新」已む能わざる企業、隗より始めよ、破綻か再生か、共生の大地、内橋克人同時代への発言（全8巻）、「会社本位主義」をどう超える（共著）、日本会社原論（共編著）、規制緩和という悪夢（共編著）、大震災復興への警鐘（共著）、経済学は誰のためにあるのか（編著）、現代日本文化論－仕事の創造（共同編集）、規制緩和 何をもたらすか（共著）
2000年代	同時代の読み方、不安社会を生きる、浪費なき成長－新しい経済の起点、＜節度の経済学＞の時代、もうひとつの日本は可能だ、「共生経済」が始まる、悪夢のサイクル、共生経済が始まる、日本の原発、どこで間違えたのか、荒野渺茫、誰のための改革か（編著）、「人間復興」の経済を目指して（共著）、ラテン・アメリカは警告する（共編）、[illegible]（共編）、始まっている未来（共著）、大震災のなか[illegible]は何をすべきか（編著）、取り返しのつ[illegible]を、取り返すために（共著）

神戸新聞ＮＥＸＴ

中し、一度は地に埋めたはずの『戦中・戦前なるもの』が新たな装いを凝らしてむくむくと立ち上がり、荒い呼吸で四囲（しい）を封じ込める」

◇　　◇

■本質見抜いた洞察力

内橋克人さんなら、いま同時代にどんなメッセージを発しただろう。収束が見通せないパンデミック（世界的大流行）、迫りくる気候崩壊、ロシアのウクライナ侵攻で戦争も現実となった。国内では安倍晋三元首相の銃撃事件が起きた。揺れる世情にあって目指すべき社会の姿はますます不透明になっている。

■危険な予兆

「時代状況としてとらえる目が必要」が持論だった。歴史の証言として「昭和恐慌」を意識していた。１９７８年の「ドキュメント恐慌」。失業、生活困難、自殺…。「追いつめられるごく普通の生活者の姿は、あの『昭和恐慌』の時代を彷彿（ほうふつ）とさせる」。社会不安の中、濱口雄幸、井上準之助、団琢磨らを襲ったテロとなり、戦争と軍国主義への道に至った。「暗い時代の危険な予兆。恐慌が高じて戦争に至る」と評論家の佐高信さん（７７）との対談で語った。

終生、権力におもねらず、市井の人々の目線で現状を分析し、警鐘を鳴らした。「市場と権力」「資本主義と闘った男」を書いたジャーナリスト佐々木実さん（５６）は「経済ジャーナリズムでは経営者目線や当局目線になり、ビジネス情報の領域で処理されることが多い。社会的な視点に立って経済を語る人は極めて稀（まれ）で内橋さんはその極めて稀な先達（せんだつ）だった」。

時代を見抜く慧眼（けいがん）と洞察力。出世作となった「匠（たくみ）の時代」（７８年～８０年代）では人と技術の接点領域に光を当てた。一世を風靡したＮＨＫ番組「プロジェクトＸ」より２０年以上前のアプローチだった。

■規制緩和万能論の虚妄

９０年代、バブル経済が崩壊した後、規制緩和万能論が声高に叫ばれた。労働法制など各分野で市場原理を働かせればイノベーション（技術革新）が起き、安定した経済成長が実現できる。そうした言説に対し、９５年の「規制緩和という悪夢」で米国航空業界の実情を調べ、安全性が損なわれるなどの問題点を告発した。「企業行動の規制を外していくのですから、市民社会としては抵抗の術がなくなる。こうしたリスクがあることを、われわれは肝に銘ずるべきです」

「例外なき規制緩和」は何をもたらしたか。非正規雇用は働く人の４割近くになり、格差拡大を招いた。大規模店舗の相次ぐ進出で地域の商店街や市場ではシャッター通りが増え、疲弊の中にある。

現実の経済社会と切り結びながら、持論の「生きる・働く・暮らす」が地域で響き合う未来を見通していた。「尊敬おく能（あた）わざる企業」「共生の大地」「もうひとつの日本は可能だ」「始まっている未来」…。題名から内橋ロマンが立ち上ってくる。

■

９月１日で没後１年になる。戒名は「志峯院厳岳良克居士」。高い志を胸に厳しい峯（みね）を目指した生涯。神戸を起点に戦後社会の渺茫たる荒野を歩き、共生への希望を説き続けた一人のジャーナリストの軌跡を言葉と作品でつづる。（加藤正文）

【内橋克人】（うちはし・かつと、１９３２～２０２１年）神戸市生まれ。神戸商科大（現兵庫県立大）卒。神戸新聞経済部記者を経て独立。著書多数。神戸新聞客員論説委員も務めた。

【特集ページ】経済評論家　内橋克人を読む

（２）匠の時代　地域と響く「実の技術」

2022.09.02

取材に明け暮れていた頃の内橋克人さん。記者時代から現場取材を鉄則にしていた（提供）

「技術はちょうど地下の伏流水のように、いつか商品や時代の流れを変えてしまうことになるんだ」。若いエンジニアたちが議論を交わす（「電卓戦争の軌跡－シャープとカシオ」）。「お前たち、自分は旋盤工として採用されたんだ、と思え。現場を知らない技術者なんて、ウチでは不要なんだから」。現場に発想の原点がある（「セイコー・クオーツの世界」）。

■あふれるリアリティー

内橋克人さんの出世作となった「匠（たくみ）の時代」。１９７８（昭和５３）年に夕刊フジで始まった連載は一躍脚光を浴びる。新しい原理を見いだし、手法革命に情熱を傾ける匠たちの群像。緻密な取材に基づく臨場感、豊富なエピソード、情感あふれる文章…。連載はシリーズ化され、後に１２冊の文庫になるほどの生命力を持った。４０年を経た今も瑞々（みずみず）しい。

当時、夕刊フジの経済担当部長だった島谷（しまや）泰彦さん（８月に９０歳で死去）は内橋さんや作家高杉良さん、評論家佐高信さんら後に大成する書き手を積極登用していく。中でも同い年の内橋さんを高く評価し、企画を任せる。「匠」という言葉になじみが薄かった時代だ。上り下りしたビルの階段、くぐった工場の門、歩いた

夕刊フジの名編集者として内橋克人さんら書き手を育てた島谷泰彦さん（２０１０年）

生産現場、語り合った技術者たち…。「取材は結果的に成功したが、悪戦苦闘だった。執筆者の内橋さんの疲労度は到底、私の及ぶところではなかった」。粘りに粘ってすくいあげた人間ドラマはリアリティーにあふれた。

■自賛論への警鐘

８０年代初頭、バブル経済に向かう時期、日本企業の技術は米欧を超え、超一流だという「自賛論」が盛り上がっていく。戦後の「追いつき追い越せ」を合言葉に登った頂で得た「ジャパン・アズ・ナンバーワン」という賛辞に酔った。

危機感を抱いた内橋さんは「幻想の『技術一流国』ニッポン」（８２年）を出す。日本企業の強みは生産現場で発揮される労働や技能の質に依存する傾向が強い。その現状に触れつつ、弱点として真の創造技術を育む風土の脆弱（ぜいじゃく）さを指摘した。教育、生産構造、研究体制…。「『アメリカを超えた』などと言わず、せめて高度のオリジナリティーを求める技術開発努力や独創的技術への挑戦を、もっと真面目に評価する姿勢を持つことが、『自己幻想』から覚醒する道であるよう思われる」

それから約４０年たったいま製造業の現実はどうだろうか。競争力は低下し、市場を席巻する製品はなかなか生まれないばかりか、大企業で不祥事が後を絶たない。検査不正、データ改ざん・捏造（ねつぞう）、法令違反、リコール（回収・無償修理）…。生じた亀裂は次第に広がり、破断に至る。そんな惨状を思わせる品質の劣化は日本企業の病巣となった感がある。

「科学と技術と技能、そして人間と組織と地域社会、それらの間を結ぶ強い絆、そして未来を望むことの大きさについて再確認したい」。内橋さんが追求したのは実物、実需、実体に根差した「実の技術」だ。メッセージはいまも切実に響く。（加藤正文）

【匠の時代】夕刊フジの連載をまとめて「先駆的開発者たちの実像」を副題に１９７８年に刊行された。シリーズでは三菱電機、松下電器産業（現パナソニック）、ＩＢＭ、ホンダ、ミノルタ、東レなど世間が目を見張った技術革新を人間ドラマとして描いた。講談社文庫、岩波現代文庫。

（３）規制緩和という悪夢　経済学の在り方を問う

2022.09.03

市場原理至上主義批判を行った内橋克人さん＝神奈川県鎌倉市の自宅書斎（２０１４年）

宇沢弘文さん（１９２８～２０１４年）。数理経済学者。社会的共通資本の思想で内橋克人さんと共鳴した（１９９５年）

内橋克人とグループ二〇〇一。チームによる調査報道「規制緩和という悪夢」は１９９４（平成６）年７月から雑誌「文藝春秋」で３回シリーズで掲載され、バブル崩壊後の日本社会に衝撃を与えた。「こと規制緩和に関するかぎり日本の各メディアは、『規制緩和こそ日本経済を救う』という経済学者の説を最初から正しいものとして鵜呑（うの）みにし、事実の検証というジャーナリズム本来の仕事をしてこなかった。ここに私たちの仕事があると考えた」

■万能論に潜む危うさ

当時の平岩外四経団連会長を座長とする細川護熙（もりひろ）首相の私的諮問機関、いわゆる平岩研究会の答申は「経済的規制は原則自由に、社会的規制は〈自己責任〉を原則に最小限に」。日本社会を救う万能薬としてもてはやされた。

内橋さんは６０代初め。百戦錬磨の眼力は礼賛論に潜む危うさを見逃さなかった。チームは先行した米国を調査し、新産業は本当に生まれるか▽雇用はどうなるのか▽アメリカの狙いは何か－を詳細に調べた。「日本の規制緩和運動はいわば大変危険な劇薬を患者に副作用を全く知らせず投与しようとしているのと同じ」。恩恵は権力の決定機構に近い投資家、大企業、都市生活者に行く。他方、中流層をなす勤労者、中

小企業、地方生活者、年金生活者は「激流の中に放り出され、多くの人々が辛酸を嘗（な）めることになるだろう」。

予言は的中した。格差社会の到来だ。１０年余り後の２００６年刊の「悪夢のサイクル　ネオリベラリズム循環」では増え続ける非正規雇用とともに所得格差が開く実情をデータで示した。増大する貧困層、増える自殺…。バブルと破綻を繰り返す中で共同体が壊される構図だ。「市場が人間を支配する思想が背景にある」として市場原理至上主義、新自由主義をあげ、その源流を探った。

■共生経済という対抗軸

「経済学は誰のためにあるのか」という問いを胸に内橋さんは経済学者にインタビューしていく。宇沢弘文、岸本重陳、佐和隆光、熊沢誠、西川潤といった碩学（せきがく）たちだ。規制緩和礼賛論はあるべき日本経済論、社会論を見失っているのではないか。経済学はこれをどうただすのか。

「内橋さんは自由な一人の人間として、現在起こりつつあることを冷静な目で見て、アピーリングな形で提示してくださる」。経済学者で最も深く通じ合ったのが宇沢さんだった。成長理論で業績をあげ、ソローやスティグリッツら名だたる経済学者に影響を与え、「ノーベル経済学賞に最も近い日本人」と目された数理経済学の泰斗だ。

宇沢さんが目指す経済社会の根幹として打ち出したのが「社会的共通資本」という概念だ。自然環境やインフラ、金融、教育、医療を経済学で捉え直し、「人間が人間らしく生きていける社会の器」「コモンズ」と位置づけた。市場は万能という言説への対抗軸であり、内橋さん提唱の共生経済と軌を一にするものだった。２人の対談は「始まっている未来　新しい経済学は可能か」として０９年に刊行された。（加藤正文）

【規制緩和という悪夢】１９９５年刊。続編が「悪夢のサイクル　ネオリベラリズム循環」（２００６年）。市場原理至上主義批判は内橋さんの終生のテーマとなった。「経済学は誰のためにあるのか」（１９９７年）もアカデミズムとジャーナリズムをつなぐ書。

【特集ページ】経済評論家　内橋克人を読む

和鉄の道・Iron Road

経済評論家 内橋克人氏の評論他 関連資料掲載記事リスト

2022.9.1.内橋克人氏没後1年　By Mutsu Nakanishi

2021年10月 From Kobe より

「経済評論家　内橋克人氏　逝去」の訃報に接して 懐い出すままに

常に現場に立ち、自分の眼で確かめ、権威におもねず、攻められる側に身を置く視点
「現場・人間主義」を貫いた巨星

内橋克人さん死去

人重視の経済に信念

評伝 市場原理主義に警鐘

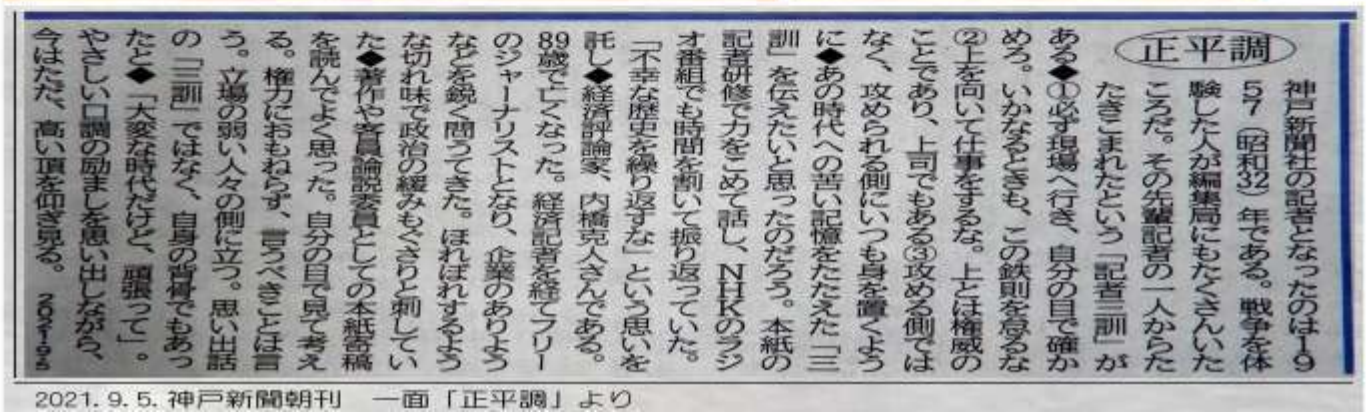
内橋克人さん死去

89歳

追悼

神戸新聞

2021年9月5日 日曜日


正平調

神戸新聞社の記者となったのは1957（昭和32）年である。戦争を体験した人が編集局にもたくさんいたころだ。その先輩記者の一人からたたきこまれたという「記者三訓」がある◆①必ず現場へ行き、自分の目で確かめろ。いかなるときも、この鉄則を怠るな②上を向いて仕事をするな。上とは権威のことであり、上司でもある③攻める側ではなく、攻められる側にいつも身を置くように◆あの時代への苦い記憶をたたえた「三訓」を伝えたいと思ったのだろう。本紙の記者研修で力をこめて話し、NHKのラジオ番組でも時間を割いて振り返っていた。「不幸な歴史を繰り返すな」という思いを託し◆経済評論家、内橋克人さんである。89歳で亡くなった。経済記者を経てフリーのジャーナリストとなり、企業のありようなどを鋭く問うてきた。ほれぼれするような切れ味で政治の緩みもぐさりと刺していた◆著作や客員論説委員としての本紙寄稿を読んでよく思った。自分の目で見て考える。権力におもねらず、言うべきことは言う。立場の弱い人々の側に立つ。思い出話の「三訓」ではなく、自身の背骨でもあったと◆「大変な時代だけど、頑張って」。やさしい口調の励ましを思い出しながら、今はただ、高い頂を仰ぎ見る。（2021.9.5）

2021. 9. 5. 神戸新聞朝刊　一面「正平調」より

高度成長期の行き過ぎた社会・経済をいつも現場・人間主義の視点で　その行き過ぎに警鐘を鳴らし続けた経済評論家。　内橋克人さんが９月１日逝去ょされたと５日朝の神戸新聞一面に大きく掲載された。
私にとっては　面識はありませんが、忘れてはならぬ人の一人。
穏やかな語り口で、その時期 時代に応じ経て　ゆっくりわかりやすく語りかけ、「今　なにをなすべきか・・・」と教えてもらった珠玉の言葉の数々。　私にはすっと頭に・・・・。

ややもすれば、体制批判や中央・リーダー層のゆきすぎをに警鐘を鳴らす視点から、中央からは遠ざけられてきたが、その視点・まなざしは常にブレることなく、真正面　ポイントをつく。
その提言は　現在のポストコロナの新しい時代の幕開けにも一層輝きを増ている。本当に惜しい人だった。
中央で働いてほしかったなぁ・・・・と。
私にとっては会サラリーマンの壮年期　最も影響を受けた人の一人かもしれません。
高度成長期の製造現場の技術屋たちを取り上げた「匠の時代」の著作に出会ったのが最初、
単に脚光を浴びる成功物語として描くのではなく、現場で奮闘する技術屋ひとりひとりの姿にまで、目を向けて困難に立ち向かってゆく技術者の姿・そしてその姿勢に共感しつつ、教えられることが多かった。

内橋克人氏が神戸の人で神戸新聞の記者が出発点だったことを知ったのはずっと後年ですが、其の時々目にする評論やラジオから流れる言葉一つ一つにうなずき、楽しみだった。
毎朝６時40分NHKラジオのニュース番組▽マイ！Bizにスイッチを入れ、今日の出演者は???と。
内橋克人氏の評論が聞けると其の日はラッキー。　ラジオから流れる一つ一つの静かな言葉に頷くのが楽しみでした。
私のホームページの「神戸便り　From Kobe 」にも勝手ながら、何度も登場してもらって紹介してきました。
いま　振り返ると高度成長期から現在まで、悩んだときの道しるべ　　随分世話になってるなぁ・・・。
やさしさがほとばしる新聞に掲載された写真のお姿　ほんとうにありがとう
はただ安らかに天国で憩われますよう　　合掌

2021.9.5.　　From Kobe　　Mutsu Nakanishi

内橋克人さん死去

人重視の経済に信念

評伝

市場原理主義に警鐘

神奈川県鎌倉市の自宅でインタビューに応じる内橋克人さん＝2010年7月

神戸新聞の経済部記者時代の内橋克人さん＝1964年

７月16日早朝　ＮＨＫラジオ朝一番　ビジネス展望

『働き方の多様化とは何か』内橋克人　　2013.7.16.

内橋克人さんのビジネス解説　実に明快分かりやすい解説に
私には一番すっと入ってくる話になるほどと。

◎　多様な働き方・雇用・労働の多様化「働き方の多様化」と「働かせ方の多様化」は違う

◎　正社員として働くのは「権利」であって、様々な働き方は働く個人それぞれの都合の「選択」だ。

「日本ではこれが、ごっちゃにされて　都合よく使われて、今の厳しい社会状況を生んでいる。
同じように働いても、正社員と非正社員では、単に賃金格差にとどまらず、
雇用保険や福利厚生の手厚さの違いなど全般的な格差は極めて大きい。
正社員以外の働き方が増える事をもって『働き方の多様化』とするような考え方が、
いかに働く人の現実から遠い議論かが、改めて分かるであろう。」と。

内橋克人氏は「『職無くば人間の尊厳もない』働くとはすなわち、人間がどう生きるのかという問題である」と説き、

「国際競争力をつけるようなグローバル　スタンダードが
非正規雇用を増やすことだとの錯覚を日本では植えつけられているが、
けっしてそんなことはない　」

と欧米の具体的な事例をひいて言う。

◎　例えば、『オランダモデル』。の例示

同一労働同一賃金を前提にし、労働時間の長短による差別をなくして、賃金は均等割り。
均等待遇の上に立った長時間労働を正社員と、短時間労働制社員の２種類しか労働は存在しない。

前記の文を書きながら、私のホームページ「和鉄の道・Iron Road -神戸便り from Kobe」に掲載紹介してきた内橋克人氏の記事をもう一度読み返しました。
今も変わらぬ輝きのある内橋克人氏の評論・言葉。
バラバラに掲載していましたので、主要記事をリストアップ。
このコロナ禍の中　時代が大きく変わろうとしている日本の社会・経済
みなさまにとっても参考になればとリストアップしました。

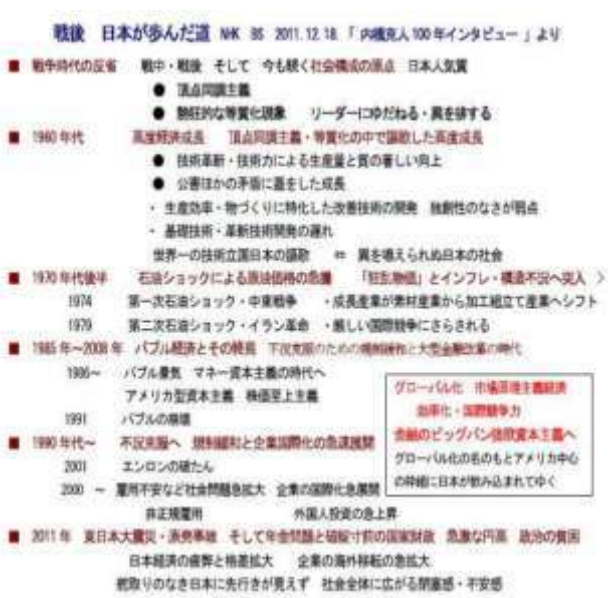
和鉄の道・Iron Road　－2012年の初めにより　内橋克人氏「100年後へのメッセージ」
https://www.infokkkna.com/ironroad/2012htm/walk9/2012nengakobe.pdf

《内橋克人氏の提案する自立自給経済の創生》

【from Kobe　2012.1.1.　http://www.infokkkna.com/ironroad/2012htm/walk9/2012nengakobe.pdf より】

被災地だけでなく　日本の疲弊がますます露わに　人間復興・社会基盤の復興の両立を
「日本人気質の奥にある頂点同調・熱狂的な等質化から脱して　新しい日本作りに踏み出そう
もう　気がつこう　マスコミが騒ぎ立てる働かせる側の論理から働く人の論理へ
国際マネー主義から脱して　市場主語から人間主語へ
2011年12月18日　NHK BS 内橋克人　100年インタビューより

賢さをともなった勇気を持って　頂点同調主義から脱出　市場主義から人間主語へ
矛盾を解決することで成長を生む「マネー資本主義」に対抗する自立自給経済の創生



現代の日本人に切々と訴えかけた　内橋　克人氏の「１００年後へのメッセージ」
NHK.BSプレミアム　２０１１年12月18日（日）放送
日本人は賢さを伴った勇気を持って行動しよう！－るいネット(ruijp)　2011/12/19
http://www.ruijp/ruinet.html?i=200&c=400&m=259697　より採取採録

○「日本人は一人一人が考え、しかっりと自分の足で立つことが出来なければ１００年後も変わらない」
○「戦前、戦後、お上に寄って立つ考えは変わっていない」
○「人間が紙くずのように捨てられる今の社会を変えなければいけない」
○「市場原理至上主義経済から人間が主語である経済社会に変えなければいけない」
○「日本人には賢さを伴った勇気が必要」

ホームページ「和鉄の道・Iron Road - from Kobe」に掲載紹介してきた内橋克人氏の記事リスト

◎和鉄の道・Iron Road　- 2012 年の初めにより

内橋克人氏「100 年後へのメッセージ」

https://www.infokkkna.com/ironroad/2012htm/walk9/2012nengakobe.pdf

◎和鉄の道・Iron Road　From Kobe 2012 年１月

厳しさを力に　経済評論家　内橋克人氏１００年インタビューに共感して　by Mutsu Nakanishi

https://www.infokkkna.com/ironroad/2012htm/2012mutsu/fkobe1201.pdf

参考添付　内橋克人 NHK BS 2011.12.18. 放送 「内橋克人 １００年インタビュー 」 視聴メモ

◎和鉄の道・Iron Road　From Kobe 2013 年８月より

あまりに多い「想定外・経験したことがない」の風潮

NHK 朝一番 ビジネス展望 内橋克人氏の解説を紹介

創造性の欠如した今の時代に異常気象にだまし絵をダブらせ今一番自分 にすっと入る

https://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/2013mutsu/fkobe1308.pdf

◎和鉄の道・Iron Road　From Kobe 2013 年９月より

新書 藻谷浩介・NHK広島取材班「里山資本主義-日本経済は『安心の原理』で動く-」の紹介

今 日本で一番求められている地域を元気にする

日本再生への道「里山資本主義 & 内橋克人氏の提案する地域自立自給経済圏」創設の実践

https://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/2013mutsu/fkobe1309.pdf

◎和鉄の道・Iron Road　From Kobe 2018年12月より

日本の行く先がおもいやられる師走　数が頼りの薄っぺらな社会からの脱出へ 若者たちへの思いが募る

こんな思いを代弁して、神戸新聞 内橋克人氏ほかの評論にも

https://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/2018mutsu/fkobe1812uchihashi.pdf

朝日新聞　2021年(令和3年)9月8日(水)　13版　文化　22

闘う主張　現場の声支えに

経済評論家・内橋克人さんを悼む

寄稿 金子勝（立教大学大学院特任教授）

内橋克人（うちはし・かつと）さん。1日死去、88歳＝2014年撮影

新自由主義の流れに警鐘

理論が正しくて、現実が間違っていることはない。

内橋克人の仕事を貫いている精神だと、私は思う。1990年代、バブルが崩壊し、日本経済が行き詰まり出した時、大胆な規制緩和政策が声高に叫ばれた。規制緩和で市場原理を働かせれば、物価が下がって消費者の実質所得が上昇し、新しい産業が生まれるとわかりやすく説明された。「この『新自由主義』のドグマはメディアも当然なこととして受け入れていった。

これに対して、内橋は96年に「規制緩和という悪夢」でアメリカの航空業界の実情を見ながら、安全性をも軽視する規制緩和の問題点を鋭く告発した。そして、規制緩和を主張した経済学者たちに敢然と立ち向かった。その後の格差拡大を含めて、結果は内橋の主張通りになった。当時、私はそれを見ながら、セーフティーネット論を組み立てていった。

いつの間にか、人々はできあがったドグマに縛られがちになる。研究者も例外ではない。それを正す役割を果たすのが、ジャーナリストが突きつける事実の積み重ねである。

しかし、ジャーナリストのこうした作業も、時代の流れに抗うと、しばしば孤立することになる。時代に流されるのは簡単だが、それに抗うことはとても難しい。孤立してでもドグマと闘う内橋の姿勢を支えてきたのは、一体何だったのだろうか。直接聞く機会を失ってしまったが、それは、多くの人々が自らの主張を支えてくれるという確信ではなかったのか。70～80年代の「匪の時代」シリーズを中心に、地域や中堅・中小企業の豊富な取材経験で培われた現場感覚から来ているのだろう。実際、内橋の著作が幅広く深い共感を生んだのは、地域や中小企業において、現実と格闘して生きている人々の心のひだにまで食い込んでいたからだ。

もちろん、内橋の魅力は現状批判の鋭さだけではない。未来を先取りして、代替的なビジョンを打ち出す著作をたくさん書いている。内橋は、2011年の福島第一原発事故を見通すかのように60年に「原発への警鐘」を書いた。そして00年には「浪費なき成長」を書いた。そこで環境問題にいち早く取り組み、「新自由主義」に代えて、北欧のデンマークモデルを紹介し、F（フーズ）、E（エネルギー）、C（ケア）を軸にして地域で雇用を創る新しい経済政策を打ち出した。私も、福島原発事故以後に、農業、自然エネルギー、福祉をベースにした地域分散ネットワーク型経済が、日本経済再生の突破口になると主張するようになった。

たしかに内橋は先端の情報通信技術については詳しく言及していないが、私の主張は内橋の先駆的な仕事を踏まえたものである。結局、私は内橋の後を追いかけていただけなのかもしれない。

理論と現実の乖離が進んでいる状況の下では、私がそうしてきたように、これからも、現実と格闘して生きた人々の心を揺さぶる内橋の仕事を追いかける者たちがきっと現れるに違いない。

正平調

神戸新聞社の記者となったのは1957（昭和32）年である。戦争を体験した人が編集局にもたくさんいたころだ。その先輩記者の一人からたたきこまれたという「記者三訓」がある◆①必ず現場へ行き、自分の目で確かめろ。いかなるときも、この鉄則を怠るな②上を向いて仕事をするな。上とは権威のことであり、上司でもある③攻める側ではなく、攻められる側にいつも身を置くように◆あの時代への苦い記憶をたたえた「三訓」を伝えたいと思ったのだろう。本紙の記者研修で力をこめて話し、NHKのラジオ番組でも時間を割いて振り返っていた。「不幸な歴史を繰り返すな」という思いを託し◆経済評論家、内橋克人さんである。89歳で亡くなった。経済記者を経てフリーのジャーナリストとなり、企業のありようなどを鋭く問うてきた。ほれぼれするような切れ味で政治の緩みもぐさりと刺していた◆著作や客員論説委員としての本紙寄稿を読んでよく思った。自分の目で見て考える。権力におもねらず、言うべきことは言う。立場の弱い人々の側に立つ。思い出話の「三訓」ではなく、自身の背骨でもあったと◆「大変な時代だけど、頑張って」。やさしい口調の励ましを思い出しながら、今はただ、高い頂を仰ぎ見る。2021・9・5

2021. 9. 5. 神戸新聞朝刊　一面「正平調」より

2018. 11. 29.　神戸新聞（1・2面掲載）
「針路21」欄　内橋克人氏評論 整理転載

「安倍外交」の実相　針路21

客員論説委員　内橋　克人

目立つ内外の食い違い

時の政権にとって「首脳会談」は効果絶大なパフォーマンスの場である。安倍首相とトランプ大統領との会談はすでに8回、プーチン大統領とは23回に及ぶ。

各国トップと親しく握手を交わすシーンが国民の目に焼きつけられ、「外交の安倍」がすり込まれる。米国首脳との"蜜月ぶり"演出の成否は支持率に響く。

その安倍外交に際立つ三つの特徴がある。まず首脳会談で何が話し合われ、何が合意されたのか、会談後に明かされる両首脳の発表に食い違いが目立つことだ。「日米通商交渉入り」をめぐるトランプ氏との会談。北方領土返還をめぐるプーチン氏との会談。いずれも直後に明かされた合意の中身に両首脳間で隔たりが大きい。

第二にそれら外交パフォーマンスには手土産が用意される。9月末、国連総会後の記者会見でトランプ氏は「日本はすごい量の防衛装備品を米国から買うことになった」と明かした。が、安倍首相自身はいまだ黙して語らず、だ。

第三に国会で重要法案審議中であれ、お構いなく足しげく海外に出向く。経済界首脳の大集団が"お供"する。

「外交の安倍」は何を生んだのか。冷静な総括が求められる時がきている。

国会での首相答弁に合わせて事前、事後に新しい言葉と文脈がひねり出される。森友・加計問題では公文書まで捏造された。同じ手法の"使い分け"が、国際協議の場で常套化すれば、日本という国の信用が問われかねない。いま話題の「日米通商交渉」入りは「物品協定」（TAG）なのか、それとも「自由貿易協定」（FTA）を目指すものか。日米間で深まる認識差異が典型例といえる。

前者ならば農産物、工業製品など「モノ」の輸出入についての関税交渉であり、後者となれば投資から流通、金融、通信、サービスなど広範囲にわたる包括的通商交渉となる。それを多国間ではなく日米2国間で取り決めるというのだ。

今月13日の安倍首相と来日中のペンス米副大統領との共同記者会見。ペンス氏の発言をめぐって日本のメディアは混乱した。同氏の発言をFTAと訳して報道したNHKニュースはすぐさま訂正を迫られた。「（ペンス氏は）FTAとはいっていない」と日本政府は強弁する。

「Trade Agreement on goods」、略してTAG。「日本製・造語」である。安倍首相が繰り返す「自由貿易協定（FTA）とは全く異なる」との発言に合わせて「つくり出された」。ちなみに記者会見でのペンス氏発言は「Bilateral Trade Agreement」（2国間協議の意）というものだった。

しかし、同氏は来日前後、自らのツイッターで「Free Trade Agreement」、すなわち正真正銘のFTA交渉がこれから日米間で始まるのだとアップしている。

TAGとは国内向けの造語であり、それをムリヤリ通せば、さらなる難問が待ち構える。すなわち米国の「対日戦利品」が世界貿易機関（WTO）加盟国のすべてに譲り渡ることになるからだ（WTO協定「第1条第1項＝最恵国待遇」の原則。いずれかの国に与える最も有利な待遇を、他のすべての加盟国にも与えなければならない、というもの）。

唯一の例外規定がFTAなのであり、筆者は9月26日（日本時間27日未明）の首脳会談直後からそう指摘してきた（NHKラジオ、農団新聞＝10月1日号など）。AP通信はその日のうちに「FTA交渉で日米合意」と報じている。

自動車への高関税措置の発動がトランプ流ブラフ（脅し）の主要剣だったという。

まずはTAG、次いでFTA―国内世論対策を真の狙いとする安倍外交の二段階分離方式である。日米両国で「食い違いあり」とみせて、その実、ひそかな「合意」が形成されている、とも首脳筋は筆者に明かした。農産品での大幅譲歩はもはや既定路線だ。

こうした「食い違い」はプーチン大統領との首脳会談においても顕著だった。

こうした「食い違い」はプーチン大統領との首脳会談においても顕著だった。

「日本の安倍首相が先に提案してきた」とプーチン氏は自国メディアを前に口にした。歯舞、色丹2島の先行返還で合意した、というものだ。しかし、安倍首相は「あくまで4島だ。2島先行論ではない。方針は変わっていない」と強弁を続ける。

強烈な自己弁護と保身本能が一貫、巧みな「言い換え」をひねり出すのか。国の内外で使い分ける外交手法は国家的リスクをも伴う。国民の「知る権利」と「安全保障の秘密保護」の両立をうたう「ツワネ原則」の再確認が、日本国政府の緊急課題である。

（うちはし・かつと＝評論家）

国を危うくする言い繕い

「安倍外交」の実相　針路21

経済評論家　内橋 克人氏の経歴（1932年７月２日 生まれ ）。

兵庫県神戸市生まれ。兵庫県立星陵高等学校、神戸商科大学（現兵庫県立大学）商経学部卒業。神戸新聞記者を経て、1967年よりフリーとなる。

日本の高度経済成長を支えた現場の技術者たちを活写した『匠の時代』で脚光を浴び、一方で『「技術一流国」ニッポンの神話』において技術立国で向かうところ敵なしと言われていた日本経済が大量生産・大量消費を前提とした量産効果に依存しているという弱点を抱えていることを指摘。主流の技術評論家や経済評論家の楽観論を批判した。また、バブル崩壊後もよく唱えられている「改革」が剥き出しの市場原理主義に則っていて社会的費用を弱者に転嫁しかねないと指摘、アメリカ流の聖域なき構造改革に厳しく警鐘を鳴らし、その対抗思潮をいち早く展開した。

参考　インターネットで見つけた　内橋克人氏のメッセージと著作抜粋リスト

現代の日本人に切々と訴えかけた　内橋　克人氏の「１００年後へのメッセージ」

NHK.BSプレミアム　２０１１年１２月１８日（日）放送

日本人は賢さを伴った勇気を持って行動しよう！ - るいネット (rui.jp)　2011/12/19 より

http://www.rui.jp/ruinet.html?i=200&c=400&m=259697　より採取採録

番組のエンディングでは、お一人で視聴者に切々と語り掛け、心のそこからの訴えでした

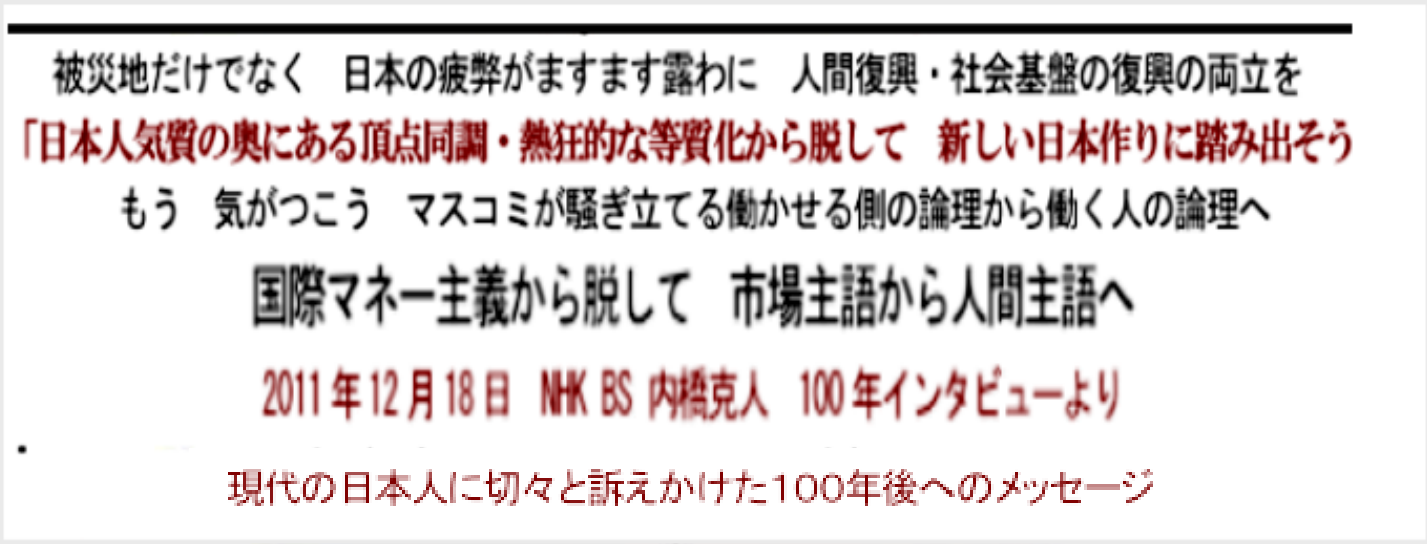
○「日本人は一人一人が考え、しかっりと自分の足で立つことが出来なければ１００年後も変わらない」
○「戦前、戦後、お上に寄って立つ考えは変わっていない」
○「人間が紙くずのように捨てられる今の社会を変えなければいけない」
○「市場原理至上主義経済から人間が主語である経済社会に変えなければいけない」
○「日本人には賢さを伴った勇気が必要」

内橋克人氏が出版されている著書 <1>　出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』より抜粋

『原発への警鐘（講談社文庫）』は１９８６年
『「会社本位主義」をどう超える新しい企業社会のパラダイム』は１９９２年
『隗より始めよ(カッパ・ホームス) 日本企業の生存条件』 は１９９２年
『破綻か再生か日本経済への緊急提言』は１９９４年
『共生の大地（岩波新書） 新しい経済がはじまる』は１９９５年
『経済学は誰のためにあるのか市場原理至上主義批判』は１９９７年
『規制緩和という悪夢』は２００１年
『「人間復興」の経済を目指して』は２００２年
『「共生経済」が始まる（NHK 人間講座） 競争原理を超えて』は２００５年
『共生経済が始まる 世界恐慌を生き抜く道』は２００９年
いち早く新しい時代への提言を書かれています。

参考　著書一部抜粋 <2>　上記<1>のリストと一部重複しています

『共生経済が始まる 世界恐慌を生き抜く道』内橋克人　朝日新聞出版 2009/3
『〈節度の経済学〉の時代（朝日文庫） 階層化社会に抗して』内橋克人　朝日新聞　2006/05
『「共生経済」が始まる（NHK 人間講座」 競争原理を超えて』内橋克人　日本放送出版協会 2005/02
『「人間復興」の経済を目指して(朝日文庫)』城山三郎/内橋克人　朝日新聞（城山三郎と対談）　2004/10
『〈節度の経済学〉の時代市場競争至上主義を超えて』内橋克人　朝日新聞　2003/12 I
『「人間復興」の経済を目指して』城山三郎/内橋克人　朝日新聞 2002/05 I
『規制緩和という悪夢（文春文庫）』内橋克人/グループ2001　文藝春秋 2002/01
『破綻か再生か(講談社文庫) 日本経済への緊急提言』内橋克人　講談社 2001/11
『経済学は誰のためにあるのか市場原理至上主義批判』内橋克人　岩波書店 1997/07
『規制緩和という悪夢』内橋克人/グループ2001　文藝春秋
『共生の大地（岩波新書） 新しい経済がはじまる』内橋克人　岩波書店 1995/03
『破綻か再生か日本経済への緊急提言』内橋克人　文藝春秋 1994/02
『隗より始めよ(カッパ・ホームス) 日本企業の生存条件』内橋克人　光文社 1993/11
『「会社本位主義」をどう超える新しい企業社会のパラダイム』内橋克人　東洋経済新報社 1992/06
『原発への警鐘（講談社文庫）』内橋克人　講談社 1986/09
『新・匠の時代（インターフェロンから核融合まで） 2』内橋克人　サンケイ　1982/02
『新・匠の時代（「生命の海」を拓く） 1』内橋克人　サンケイ　1980/09



2011 年 12 月 18 日　NHK BS 内橋克人　100 年インタビューより

by Mutsu Nakanishi

急激な高齢化社会が進む中　米国を中心とした体制の中で　国際マネーと市場経済に翻弄され続けた一年。
地方は疲弊し、政府は膨大な財政赤字に手を打てないまま、雇用不安と年金問題も深刻さを増す。
そんな閉塞感漂う日本に、東日本大震災と原発事故が追い討ちをかけ、後半には超円高がさらに不況と雇用不安を増す。
また、行き着くところまで来た破綻状態の財政赤字が先行き経済に大きくのしかかり、社会全体を揺さぶり続けている。
稚拙な政治は相変わらず、財界・金融と中央中心　人よりも市場・企業相手では難局克服の道が見えない。
「日本だけでなく 世界はどこも同じ????」と信じていたが、ふと気がつくと　景気のよい新興アジア諸国ばかりでなく
ヨーロッパのドイツ・北欧諸国の好景気 そしてアメリカも景気回復基調にある。
「政府やマスコミは一般世論　われわれの感じている社会を代弁している」とはとても思えぬ中にいる。
何のことはない一番あおりを食っているのは日本。　さらに次は「円」が国際マネーの標的になる可能性があるという。
他人事のように思っていた非現実の厳しい現実が自分の目の前にひろがり、呆然と立ちすくんで、
ふと気がつけば、弱者の群れの中にいる自分。　そんな格差社会が猛烈な勢いの中でひろがっている。
そんな現実が被災地に浮き彫りされている。　社会の荒波の中にただ流されてゆくのみか・・・・・。
考えて見れば、日ごろ見るテレビの中に広がる世界の薄っぺらなこと　何の理念も持たず、考える道筋すら放棄。
経済評論家内橋克人氏が警鐘を鳴らす「**頂点同調主義・熱狂的な等質化**」をあおっているだけではないのか・・と。
今年は　この現実をなんとしても　みんなで乗り越えてゆかねばならぬ厳しい一年である。
一番活力のあった「高度成長の時代」の中核を担い、今度は急速に進行する老齢化社会の中心にいる私たち団塊の世代には、
「本当に今の社会が腑に落ちない」「どこで　どうボタンを掛け間違えたのか」
「でも　なんとか　方策はないのか・・」と考えるのですが、「マスコミや政治の説く対応に対抗できる知恵を持ち合わせていない」のが悔しい。

昨年 12 月 18 日 NHK BS で　「匠の時代」の著者　経済評論家　内橋克人氏の「100 年インタビュー　」放送があった。
常々朝の NHK ラジオ　朝一番「ビジネス展望」の番組で　常に社会弱者に眼を向けつつ、現在の経済・社会矛盾をわかりやすく解説し、一番自分の考えにあっていると感じている人である。
約 1 時間半　戦後から現在まで　国際化の波に現れながら成長してきた日本経済・社会の光と影を時代を追って、本当にわかりやすく丁寧に解説指摘し、今これから　われわれは何をすべきか・・・日本の未来に何が必要か・・・を提言。
テレビにかじりついて 1 時間　画面に移される図にデジカメを向け、メモを取りながら見入っていました。

決して高ぶらず、穏やかな語り口ながら、今の社会への強い怒りと悲しみが渦巻き、声を詰まらせ、日本や世界の現実への警鐘や将来のあり方を視聴者に切々と語り掛けた。
私には「我々　団塊の世代が抱いてきた『生き方への疑問』に丁寧に答えてもらった」という気でいっぱいでした。

最近　一番感激したインタビュー　経済番組でした。

放送前　何度か「100 年インタビュー」の宣伝を見ましたので、通常の NHK 番組のごとく　再放送があるかと思ったのですが、いまだに　再放送のスケジュールなし。意図的な何かがあるのかも・・・・・

内橋克人氏　NHK.BSプレミアム　「100年インタビュー」2011年12月18日（日）

現代の日本人に切々と訴えかけた100年後へのメッセージ

○「日本人は一人一人が考え、しかっりと自分の足で立つことが出来なければ100年後も変わらない」
○「戦前、戦後、お上に寄って立つ考えは変わっていない　・　頂点同調主義・熱狂的な等質化」
○「人間が紙くずのように捨てられる今の社会を変えなければいけない」
○「市場原理至上主義経済から人間が主語である経済社会に変えなければいけない」
○「日本人には賢さを伴った勇気が必要」
るいネット　勝寛舟氏（徳島　）のまとめ　　日本人は賢さを伴った勇気を持って行動しよう！
http://www.rui.jp/ruinet.html?i=200&c=400&m=259697

番組を見てもらうのが筋なのですが、再放送がないので、内橋克人氏の思いを収めた私のデジカメ画像とメモをそのまま掲載させていただき、本年　年始め　一年を送るいましめとしたいと思っています。
皆様にはいかが映るでしょうか・・・・・
下記は　1.　規制緩和と市場主義がもたらした企業収益の分配構造の変化　と 2. 今後の日本がとるべき道
一番私が知りたかった事の図面で、日本全国を本当にギスギスした本当に厳しい社会に変質させてしまった。
当時　財界・金融に迎合した政権の責任は思い。
以下　私の　2011 年 12 月　NHK BS　「内橋克人　100 年インタビュー」の受け止めのまとめです。

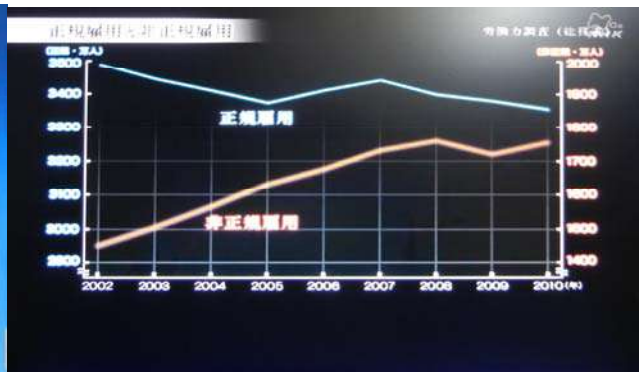
---

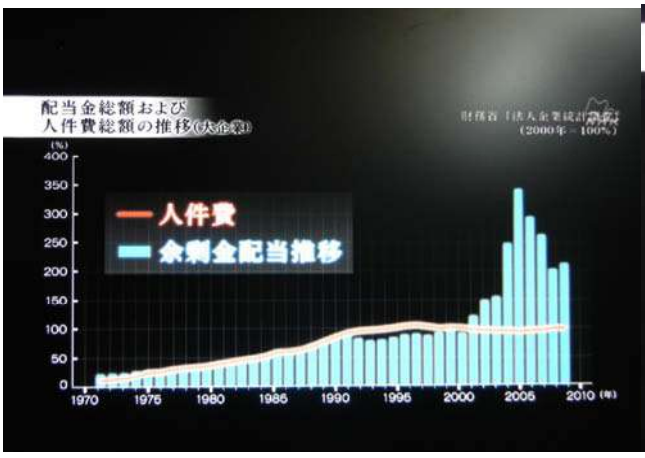
1. 1900 年代後半以降　国際競争・市場主義と規制緩和　が「働く」をどう変えたか

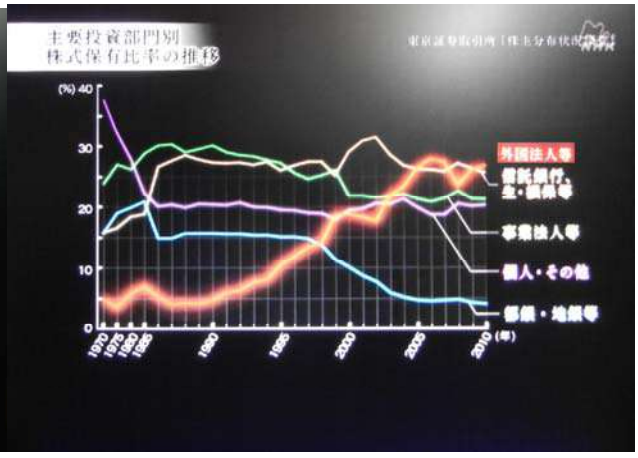
国際マネー資本主義経済に翻弄される日本が浮き彫りに

激烈な競争の導入と格差の増大　　企業・金融は国家を超えてゆく

国益と国民益の乖離







経済成長期からずっと日本経済を支えてきた「富める者が富めば、貧しい者にも自然に富が浸透（トリクルダウン）する」とする「トリクルダウン効果」の枠組みは 1990 年後半から完全に崩れ去っている。2000 年以降企業収益は国民に還元されず、海外へ流出している。国際企業の原理からは至極当然である。

したがって、国際競争力・市場主義を楯に企業・金融優遇の政策では日本国民の生活は安定化しないし、国・国民の復興はなしえない。企業は国境を超え成長　収益は株主・外国人投資家に。国益と国民益の乖離がいちじるしい。

努力しても報われない社会　一人の勝者のために９９人が敗者の社会が進行しつつあることに強い怒り。

今　頂点同調では生活は守れない　自らの声を挙げよう

2. もうひとつの経済学「理念型経済学　−市場主語から国民主語の経済−」の提唱

矛盾を解決することで、成長を生むことで「マネー資本主義に対抗する経済

これらの自立・自給がないと　国際マネーの餌食となる

国際企業・金融依存から脱し、日本の社会の自己矛盾の源　食糧・エネルギー・高齢化〔介護・医療〕の分野で

FEC 自立・自給圏経済 を構築してゆく以外に、新しい日本の道はない。

- 自給自立型農業の構築　　「ゆず」栽培から加工で30億円規模に成長した高知県馬路村
- 自然・再生エネルギーでエネルギーの自立
  自給率数パーセントが市民共同発電など自然・再生可能エネルギーで自給率200パーセントを達成したデンマーク
- 地域住民による自給・自立の介護の機構　　介護・医療は今やビジネス構築の必要な先端産業
  被災した釜石には自給圏構築が芽生えている

- 頂点同調から脱して声をあげよう
- 賢さを伴った勇気を

市場主語から国民主語の自給圏経済構築へ

この内橋克人さんの話　震災を受けた東北の復興には町の核となる　神社と寺　そして文化(祭り?)の整備が欠かせないという「東北学」の赤坂憲雄氏の話　そして私のよく使う「縄文帰り −縄文人の知恵−」の話と根は一緒だと感じています。

戦後　日本が歩んだ道　NHK　BS　2011.12.18.「 内橋克人 100 年インタビュー 」より

■ 戦争時代の反省　　戦中・戦後　そして　今も続く社会構成の原点　日本人気質

- 頂点同調主義
- 熱狂的な等質化現象　　リーダーにゆだねる・異を排する

■ 1960 年代　　高度経済成長　　頂点同調主義・等質化の中で謳歌した高度成長

- 技術革新・技術力による生産量と質の著しい向上
- 公害ほかの矛盾に蓋をした成長

・ 生産効率・物づくりに特化した改善技術の開発　独創性のなさが弱点

・ 基礎技術・革新技術開発の遅れ

世界一の技術立国日本の謳歌　　⇔　異を唱えられぬ日本の社会

■ 1970 年代後半　　石油ショックによる原油価格の急騰　　「狂乱物価」とインフレ・構造不況へ突入 ＞

1974　　第一次石油ショック・中東戦争　　・成長産業が素材産業から加工組立て産業へシフト

1979　　第二次石油ショック・イラン革命　　・厳しい国際競争にさらされる

■ 1985 年～2008 年　バブル経済とその終焉　不況克服のための規制緩和と大型金融改革の時代

1986～　　バブル景気　マネー資本主義の時代へ

アメリカ型資本主義　株価至上主義

1991　　バブルの崩壊

■ 1990 年代～　　不況克服へ　規制緩和と企業国際化の急速展開

2001　　エンロンの破たん

2000　～　雇用不安など社会問題急拡大　企業の国際化急展開

非正規雇用　　外国人投資の急上昇

グローバル化　市場原理主義経済
効率化・国際競争力
金融のビッグバン強欲資本主義へ
グローバル化の名のもとアメリカ中心の枠組に日本が飲み込まれてゆく

■ 2011 年　東日本大震災・原発事故　そして年金問題と破綻寸前の国家財政　急激な円高　政治の貧困

日本経済の疲弊と格差拡大　　企業の海外移転の急拡大

舵取りのなき日本に先行きが見えず　社会全体に広がる閉塞感・不安感

〔　新しい日本　新しい経済学の構築　〕

賢さをともなった勇気を持って　頂点同調主義から脱出　市場主義から人間主語へ

矛盾を解決することで成長を生む「マネー資本主義」に対抗する自立自給経済の創生

理念型自給経済
その芽はすでにある
FEC 自給圏の創生

- 高知　馬路村　ゆずの生産・加工で 30 億円/年
- デンマーク　自然再生エネルギーで電力自給率数% →200%へ
- デンマーク　高齢者社会の拡大の中　介護・医療の市民・地域ビジネスの構築

参考　内橋克人　NHK BS　2011.12.18. 放送

「内橋克人　100年インタビュー　」　視聴メモ　by Mutsu Nakanishi

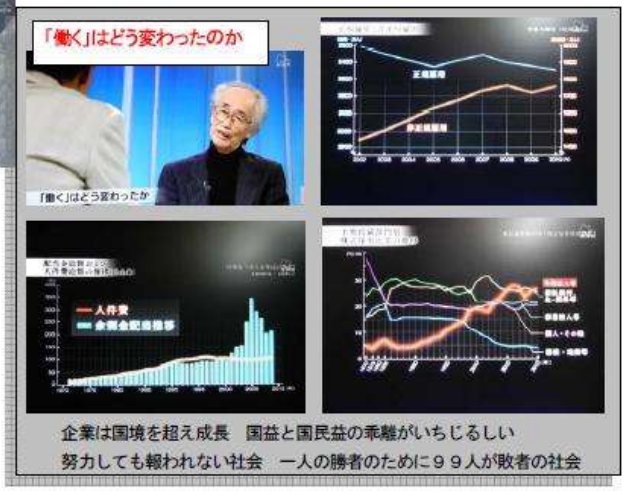
経済評論家　内橋克人　NHK 100 年インタビュー2011. 12. 18.　の　内容受け止め　by Mutsu Nakanishi

日本が高度成長を達成し、
技術立国日本を謳歌した時代から、
技術立国にかげりが出始める時代・
国際市場競争・金融の
マネー資本主義の時代へ
エンジンは頂点同調主義・熱狂的等質化現象
戦中からの日本人像がそのまま引き継がれ、
日本の経済成長の原動力になってゆく。
幅の広い中産階級が形成され、国民は小市民意識に沸く
国民益と国力が一致との幻想に浸る時代

国際化の波の中　経済立国日本に酔いしれ、その矛盾や実像に目を向けることなく輝く明日の日本を信じきっていた時代である
日本人の特質　頂点同調主義・熱烈な等質化現象のもとで、高度成長を遂げ、それぞれが益を実感できた時代である
１９８０年代　オイルショックとマネー資本主義の台頭・企業の厳しい国際競争激化の中で
日本繁栄の時代はもろくも崩れ去り、厳しい現実に去らされる時代がやってきた。

国際競争・市場主義と規制緩和
マネー資本主義経済に
翻弄される日本が浮き彫りに
激烈な競争の導入と格差の増大
企業・金融は国家を超えてゆく
国益と国民益の乖離

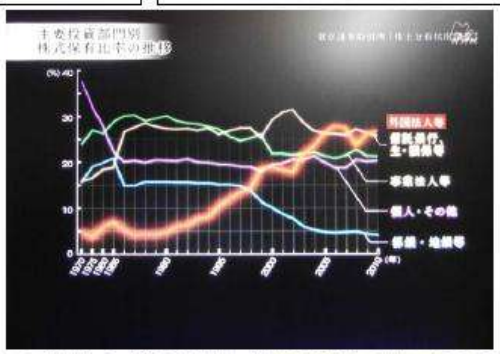
言業の本質を明確にしない
まま規制緩和が進み
社会・労働の変質が起こる。
勝者は誰か・・・・



企業は国境を超え成長　国益と国民益の乖離がいちじるしい
努力しても報われない社会　一人の勝者のために９９人が敗者の社会

マネー資本主義 と ビッグバン・アプローチ
強欲資本主義の席巻
市場経済への移行は全面的かつ短期間のうちに実現されなければならないとする考え方
頂点同調の日本、なすすべもなくIMFを中心とするアメリカの支配体制の中に組み込まれてしまった。
〔パックス アメリカーナ〕

トリプルダウン効果
「富める者が富めば、貧しい者にも自然に富が浸透(トリクルダウン)する」とする政治思想「金持ちを儲けさせれば貧乏人もおこぼれに与れる」と主張することから、「おこぼれ経済」とも通称される。
この流れが閉ざされていることを法化無理したままで 規制緩和が進行し、社会不安・労働の変質が急速に進む



経済成長期からずっと日本経済を支えてきたトリクルダウン効果の枠組み今完全に崩れ去っている。

2000 年以降企業収益は国民に還元されず、海外へ流出している国際企業の原理からは至極当然であり、これに頼っても日本国民の生活は安定化しない

今 頂点同調では生活は守れない自らの声を挙げよう

トリクルダウン効果の枠組み今完全に崩れ去っており、 現在の国際競争力・市場主義を楯に企業・金融優遇の政策では国・国民の復興はなしえない。

震災 & 原発事故から見えた日本

頂点同調にまかせると 震災復興の名を借りた 惨事便乗型資本主義の復興が進む危険
淡路阪神代震災でも見られた人不在の復興の推進 箱もの〔建物ほか〕・筋もの〔道路ほか〕

もうひとつの経済学「理念型経済学 −市場主語から国民主語の経済−」の提唱
矛盾を解決することで、成長を生むことで「マネー資本主義に対抗する経済 これらの自立・自給がないと 国際マネーの餌食となる

トリクルダウン効果の枠組み今完全に崩れ去っており、 国際競争力・市場主義を楯に企業・金融優遇の政策の中で 国民の閉塞感と不安感はぬぐえない。
国際企業・金融依存から脱し、特に 現日本の社会の自己矛盾を生んできた源 食糧・エネルギー・高齢化〔介護・医療〕の分野で自立してゆく以外に、新しい日本構築の道はない。

- 自給自立型農業の構築
「ゆず」栽培から加工で30億円規模に成長した高知県馬路村
- 自給率数パーセントが市民共同発電など自然・再生可能エネルギーで自給率200パーセントを達成したデンマーク
- 介護・医療は今やビジネス構築の必要な先端産業

「理念型経済学 −市場主語から国民主語の経済−」の構築の実現は可能
矛盾を解決することで、成長を生むことで「マネー資本主義に対抗する経済
これらの自立・自給がないと 国際マネーの餌食となる

- 頂点同調から脱して声をあげよう
- 賢さを伴った勇気を

市場主語から国民主語の経済構築へ

〔参考〕　NHK100年インタビューと同じ論旨の記事が　2012.1.8.朝日新聞に掲載されました

2012年1月8日 日曜日　朝日新聞朝刊13面

再生 日本政治

貧困の多数派 歯止めを

経済評論家 内橋 克人さん

うちはし・かつと　1932年生まれ。神戸新聞記者を経て経済評論家。90年代から一貫して市場原理至上主義、新自由主義的改革に警鐘を鳴らしてきた。主な著書に「悪夢のサイクル――ネオリベラリズム循環」「共生経済が始まる」など。（相場郁朗撮影）

――現代日本の問題点はどこにありますか。

「日本社会でも新たな階層が生まれてきている。国民皆年金など基礎的な社会保障からさえも排除された人たちが多数派となる『貧困マジョリティー』だ。グローバル化やマネー資本主義が進み、非正規雇用が増えて中間層が崩壊する社会の到来は、危険な時代への予兆ではないか」

――貧困マジョリティーの特徴とは。

「米国はじめ国内外の最強の秩序形成者に抵抗する力もなく、生活に追われて政治的な難題に真正面から対峙（たいじ）するゆとりもない。同時に、精神のバランスを維持するために『うっぷん晴らし政治』を渇望する。政治の混乱を面白がり、自虐的に、極めて反射的に、表面的に評価して、選挙権を行使する。大阪市の橋下徹市長の『ハシズム現象』も貧困マジョリティーの心情的瞬発力に支えられている面が大きい。『地方公務員は特別待遇を受けている』とバッシングし、閉塞（へいそく）状況下の欲求不満に応えていくやり方だ」

――政治に対する閉塞感が国民の方向性を誤らせるということですか。

「『政治のリーダーシップ不足』と言われるが、民主政治を基盤とする国でのヒーロー待望論ほど異常なものはない。日本古来の『頂点同調主義』に加え、異議を唱える者を排除する『熱狂的等質化現象』が一体となる。『うっぷん晴らし政治』の渇望を満たそうとすれば、1930年代の政治が繰り返される。グローバリズムが生み出した『貧困ファシズム』の培地となりかねない」

――政治課題は山積しています。

「いまの政党政治は一挙に崩れる瀬戸際にある。今年は多くの国で政権交代が起き、政治的に極めて流動化する。グローバル化の流れは変わらず、市場原理主義のもとで、貧困マジョリティーを生み出す『貧困の装置化』が進んでいる。消費増税によって、零細企業や地域経済を支えてきた地場産業は、価格転嫁できずにコスト引き下げを迫られる。所得税なら稼いだ人がたくさん納めるが、日本型消費税は貧困マジョリティーを増幅させる『貧困の装置化』の手段になる」

――環太平洋経済連携協定（TPP）についてはどうですか。

「これも同じ。米国の政権が代わっても、米シンクタンクは一貫して『投資の絶対的自由の保障』を求めてきた。日本がTPPに入れば、外資は日本政府を米国の経済法廷に訴えることができる。米企業はオーストラリアでの医薬品への公的補助でさえ『自由市場に反する』と問題視している。日本の国民皆保険制度も目の敵にしているが、これは豊かな人も貧しい人も、ひとたび体を害せば医師にかかることができる制度で、国民的財産、社会的共通資本だ。それが毀損（きそん）され、一部企業のビジネスチャンスになる。弱いところに社会的変動の影響が収斂（しゅうれん）する」

――日本の政治は何を目指せばいいですか。

「私は新たな基幹産業として『FEC自給圏』を提唱してきた。FはFood（食糧）。日本の穀物自給率は世界で124番目だが、食糧自給は国の自立条件で新たな産業も形成する。EはEnergy（エネルギー）。再生可能エネルギーとしてデンマークでは風力発電、太陽熱発電を推進し、エネルギー自給率が今では200％近い。日本は国策として原発に集中し、ほかの選択肢を排除した。CはCare（介護）。市場に任せるのではなく、社会による介護自給圏を形成すれば北欧諸国のように強力な産業になる」

「『うっぷん晴らし政治』ではなく、世界のモデルに目を向け、食糧、介護、エネルギーの自給圏を志向すべきだ。地味でもいいから、グローバル化の中で、それに対抗できる『新たな経済』を作ることが本当の政治の役割だと思う」

（聞き手・園田耕司）

あまりに多い「想定外・経験したことがない」の風潮

「NHK 朝一番　ビジネス展望　内橋克人氏の『働き方の多様化とは何か』解説」を紹介

日本社会全体に言葉とはうらはら　創造性のない時代　異常気象にだまし絵をダブらせて

2013.8.1.　by　Mutsu Nakanishi from Kobe

あまりに多い「想定外・経験したことがない」の風潮

「NHK 朝一番　ビジネス展望　内橋克人氏の『働き方の多様化とは何か』解説」を紹介

日本社会全体に言葉とはうらはら　創造性のない時代　異常気象にだまし絵をダブらせて

2013.8.1.　by　Mutsu Nakanishi from Kobe

一枚の絵が眺める人の心理状態によって　幾通りかの絵に見える絵を「だまし絵」といい、何回がこのだまし絵について触れたことがある。　「即物的に見た」といっても　その見た人の心理状態によって、見えているものの危うさによく注意せねばならぬと。

先日　高校時代の仲間が自分の研究中の「哲学」についての著書を送ってくれたのですが、そんな難しい本など歯がたたぬだろうなぁ・・・・と気楽に読みはじめたのですが、面白い。

> 「哲学」「心」というのは、「本能」といった一面的なものでなく　人が生きてきた過程の中でそれぞれが作り上げたもの。したがって、「日本人の心」・「日本人の哲学」といっても　複層的なものとして捕らえるべきものだと。欧米の人の考え方も同じだ。

このことを頭に入れて思考することが大切と繰り返し数多くの実例を引いて述べられていた。

難しい内容は別にしてあれあれ・・・と。

「哲学って　揺るぎのない真理というか　確固たるひとつのもの」と思っていましたが、そんなものか。

難しいものと思っていましたが、案外私たちの身近な考えの中にあると気楽に思えたのは収穫。

また、「だまし絵」の見方と一緒やなぁ・・・・・と。

だまし絵をちらつかせての参議院選挙が終わって、自民党の圧勝。　また、政治の向かう価値観の急転が心配になる。小泉内閣の規制緩和・国際競争・グローバル化で一般庶民を窮地に追いやった人たちが、ブレーンとして復権し、　声高にアベノミックスを叫んでいるのにはもう沢山だと。

「だまし絵」を知っていて「見抜けなかった」と価値観を転換させた言い訳　言い逃れの隠れ蓑として、あまりにも多い「想定外」「経験したことがない」との勝手な納得。
これで物事を済ませてしまう風潮を作り出した人たちでないか・・・・。
言葉の遊びで切り抜けてしまう創造力の欠如が、数を頼み、「スピードだ　グローバルだ」と押し進んでゆく。
そんな累々とした失敗が、ここ数十年続き、ものづくり日本の遺産も働きもので勤勉な日本人の特質も見失い、格差の小さい社会ももはや過去のものになってしまって、　そこには理念も信念もないセツナに縛られた弱肉強食の競争社会まっしぐらである。だまし討ちに会わぬ創造的な社会形成が今ほど必要なときはない。

「想定外や経験したことがないのは異常気象だけでない」
社会みんなが、そんな言葉で思考を停止していると思える最近の社会状況。
親方日の丸・グローバルな大企業や銀行・金融がわれわれの生活を守ってくれるのだろうか・・・・。
きっちりとしたプログラムを打ちたてて創造的な展開を進めないと日本は益々おかしくなるのではないか・・・・
もう楽観的には見ておれぬところでのアベノミックス。「明日はわが身」が迫り来る。
「だまし絵」発想を打ち破らねば・・・・・。　さしずめ、それを見抜かねば・・・・・と。

そんなおり、7月16日早朝　ＮＨＫラジオ　朝一番　ビジネス展望　『働き方の多様化とは何か』
内橋克人さんのビジネス解説　実に明快分かりやすい解説に　私には一番すっと入ってくる話であるになるほどと。
◎　多様な働き方・雇用・労働の多様化　　「働き方の多様化」と「働かせ方の多様化」は違う
◎　正社員として働くのは「権利」であって、様々な働き方は働く個人それぞれの都合の「選択」だ。
「日本ではこれが、ごっちゃにされて　都合よく使われて、今の厳しい社会状況を生んでいる。
同じように働いても、正社員と非正社員では、単に賃金格差にとどまらず、雇用保険や福利厚生の手厚さの違いなど全般的な格差は極めて大きい。正社員以外の働き方が増える事をもって『働き方の多様化』とするような考え方が、いかに働く人の現実から遠い議論かが、改めて分かるであろう。」と。
内橋克人氏は「『職無くば人間の尊厳もない』働くとはすなわち、人間がどう生きるのかという問題である」と説き、
「　国際競争力をつけるようなグローバル　スタンダードが　非正規雇用を増やすことだとの錯覚を
日本では植えつけられているが、けっしてそんなことはない　」と欧米の具体的な事例をひいて言う。
◎　例えば、『オランダモデル』。の例示
同一労働同一賃金を前提にし、労働時間の長短による差別をなくして、賃金は均等割り。
均等待遇の上に立った長時間労働を正社員と、短時間労働制社員の2種類しか労働は存在しない。
まさにだまし絵のなぞ解き　いつもながら　私には一番納得できる筋道である。

今や　技術力・ものづくりが群を抜いているなど幻想に過ぎなくなっている日本。
創造力のない目先だけの金融中心の効率・大量生産・使い捨て経営が日本の物づくり現場を打ち壊してきたのはもう否定できない事実である。もっとほかにやる道はなかったかと自答するのですが・・・・
アベノミックスもまたぞろ　そんな反省もないグループの復権に見えて仕方がないのは私だけか??。
皆さんにはどう見えているでしょうか・・・・いずれにせよ、東京中心主義を脱却して　落ち着いた世に早くなってほしいものです。
参考1　昨年10月に全国を対象に実施された『今、日本人はどのような環境で働いているのか』調査では
パート・派遣などの非正規で働く人の数が、2043万人と、初めて2000万人を突破し、雇用全体に
占める割合も 38.2%、つまりほぼ4割程度に達していると聴く。
◎　２０年前に比べると、非正規で働く人の数は、ほぼ2倍にまで増えている。
◎　正社員だった人が転職するとその内40%以上が非正規で働かざるを得なくなっている。
◎　25歳～ 34歳の若者層では 、3人に1人以上の人が非正社員である。
高校や大学を卒業する時の厳しい就職環境を引きずったまま、働き続けざるを得ない。
こんな状況で雇用不安を感じない人たちって・・・・どんなグループだろうか・・・
政党公約だった非正規雇用をなくす方向は今やどこかで消えてしまっている。これもだまし絵だったのか・・・

【参考】　2013.8.23.　追加

「心の病　会社員２割増　」「心の病におびえて働く」

2013 年 8 月 22 日朝日新聞　大阪朝刊　1 面　＆ 3 面記事より

朝日新聞
8月22日 木曜日

心の病 会社員2割増
リーマン後3年 本社推計

「雇用不安」との指摘

心の病にかかるサラリーマンが増えている。大企業の社員約1600万人らが入る「健康保険組合」では、受診数が2011年度までの3年間で2割増えた。仕事のストレスが原因となる病気が大半。08年のリーマン・ショック後の景気低迷で、「企業のリストラが進み、雇用不安が広がった」との指摘が出ている。▼3面＝おびえて働く

厚生労働省がまとめた医療保険の利用状況調査から、働き手本人が心の病で通院や入院した件数をもとに、朝日新聞が推計した。財政難に陥り解散する健保組合が相次ぎ、全体の加入者数は年々減っているため、加入者1千人あたりの受診件数で比較。現在の調査方法になった08年度以降を対象とした。

心の病による受診件数はリーマン・ショックのあった08年度は1千人あたり延べ235件だったが、3年後の11年度は同280件と19%増。心の病以外の病気やけがも含めた受診件数は3年間で8%増え、心の病が全体の倍以上のペースで増えていた。

11年度の心の病の内訳は、うつ病などの「気分障害」が54%で最多。パニック障害などの「神経症性障害」と合わせて、長時間労働やストレスと関係が深い病気が8割超を占める。

世代別では40代が33%と最多で、30代も3割を超えている。20代と50代は10%台と少なく、働き盛りの年代で受診の多さが目立つ。

一方、中小企業の社員約2千万人らが入る「協会けんぽ」加入者1千人あたりの受診件数も、比較できる09年度と比べ9%多かった。健保組合の方が増えた割合が大きいのは、中小より大企業の方が受診をうながす態勢が整っているためとみられる。

精神障害による労災認定の件数は、10年度以降年間300件を超す高水準。関西大の森岡孝二教授（企業社会論）は「リーマン後、正社員の間でもリストラによる雇用不安が広がった。人が減るなかで多くの働き手が長時間働き、過労とストレスが高まっている」とみている。（牧内昇平）

サラリーマンの心の病が増えているのは、長時間労働やリストラへの不安、働き手をメンタルヘルスへの不安が襲っているためだ。本人にとどまらず、上司や同僚の周囲の不調のサインを見逃すことが大事だ。

心の病におびえて働く

「職場にばれたらクビかも」

仕事のストレス度は？

- 非常にたくさんの仕事をしなければならない
- 時間内に仕事が処理しきれない
- 一生懸命働かなければならない
- かなりは集中する必要がある
- 自分の部署内で意見のくい違いがある
- 自分の部署とはかの部署とはうまが合わない

（上記新聞記事の判読できる大きさへの拡大版を下に掲載しています）

********** 「心の病　会社員２割増」 **********

心の病 会社員2割増

リーマン後3年 本社推計

心の病にかかるサラリーマンが増えている。大企業の社員約1600万人らが入る「健康保険組合」では、受診数が2011年度までの3年間で2割増えた。仕事のストレスが原因となる病気が大半。08年のリーマン・ショック後の景気低迷で、「企業のリストラが進み、雇用不安が広がった」との指摘が出ている。▼3面＝おびえて働く

「雇用不安」との指摘

厚生労働省がまとめた医療保険の利用状況調査から、働き手本人が心の病で通院や入院した件数をもとに、朝日新聞が推計した。財政難に陥り解散する健保組合が相次ぎ、全体の加入者数は年々減っているため、加入者1千人あたりの受診件数で比較。現在の調査方法になった08年度以降を対象とした。

心の病による受診件数はリーマン・ショックのあった08年度は1千人あたり延べ235件だったが、3年後の11年度は同280件と19%増。心の病以外の病気やけがも含めた受診件数は3年間で8%増え、心の病が全体の倍以上のペースで増えていた。

11年度の心の病の内訳は、うつ病などの「気分障害」が54%で最多。パニック障害などの「神経症性障害」と合わせて、長時間労働やストレスと関係が深い病気が8割超を占める。

世代別では40代が33%と最多で、30代も3割を超えている。20代と50代は10%台と少なく、働き盛りの年代で受診の多さが目立つ。

一方、中小企業の社員約2千万人らが入る「協会けんぽ」加入者1千人あたりの受診件数も、比較できる09年度と比べ9%多かった。健保組合の方が増えた割合が大きいのは、中小より大企業の方が受診をうながす態勢が整っているためとみられる。

精神障害による労災認定の件数は、10年度以降年間300件を超す高水準。関西大の森岡孝二教授（企業社会論）は「リーマン後、正社員の間でもリストラによる雇用不安が広がった。人が減るなかで多くの働き手が長時間働き、過労とストレスが高まっている」とみている。（牧内昇平）

サラリーマンの心の病が増えている
健保組合に加入する働き手本人の、1千人あたりの延べ受診件数の合計。厚生労働省の「医療給付実態調査」をもとに推計

********** 「心の病におびえて働く」 **********

心の病におびえて働く

「職場にばれたらクビかも」

サラリーマンの心の病が増えているのは、長時間労働やリストラへの不安が、働き手をメンタルヘルス（心の健康）の不調に追い込んでいるためだ。本人によるケアはもちろん、上司や同僚が周囲の不調のサインを見逃さないことが大事だ。

▼1面参照

介護施設で働く東京都内の40代男性は2年前、うつ病と診断された。前の職場で、上司から毎日「辞めてくれ」と言われ、同僚のミスも自分のせいにされた。

疲れているのに眠れず、毎晩酒をあおった。台所で包丁を握って首にあてているのを、妻が泣きながら止めた。1年間の休職をへて今年3月、会社をやめた。

4月に介護スタッフとして再就職したが、いまも精神科に月1回通院し、抗うつ薬を飲んでいる。

前の職場で上司から叱られた場面を思い出し、1日に数回、気分が悪くなる。だが、職場では薬は飲めない。「うつ病の薬を飲んでいることが職場にばれたら、クビになるかもしれない。いつもビクビクして働いている」と語る。

サラリーマンの心の病が増えているのは、バブル経済崩壊後の1990年代から指摘する声もある。

過去30年ほどの医療保険の利用状況を調べた神戸大大学院の山岡順太郎研究員は「心の病の受診は90年代後半から増え、最近10年間で倍増した」と語る。

「自分の心と体との対話を、毎日心がけています」

うつ病を抱えながら、NPO法人で働く千葉県の50代男性は語る。

発症したのは、出版社で働いていた13年前。担当する雑誌や単行本の数が急に増え、毎日3時間ほど残業していた。帰宅後も仕事のイライラがおさまらず、不眠に悩まされた。病院で「抑うつ状態」と診断され、出版社を辞めた。

3年間の自宅療養をはさみ、2008年にNPO法人に再就職した。昼過ぎは体がだるくなるので、主な仕事は午前中にすます。「なんとか働いている状態。少しでもマシな人生を生きたい」と語る。

心の病が増えていることについて、山本晴義・横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター長は「心の病への理解が広がり、受診の心理的ハードルが低くなった面もある」と分析する。

山本センター長によれば、ストレスゼロを目指さず、運動や余暇の時間をつくり、ストレスを解消する習慣づくりが大切という。本人が不調に気づかない場合は、上司や同僚が不調のサインを見逃さないことが求められる。（牧内昇平）

あなたのストレス度は？

- □ 非常にたくさんの仕事をしなければならない
- □ 時間内に仕事が処理しきれない
- □ 一生懸命働かなければならない
- □ かなり注意を集中する必要がある
- □ 自分の部署内で意見のくい違いがある
- □ 自分の部署とほかの部署とはうまが合わない

東京医科大「職業性ストレス簡易調査票」から抜粋。中央労働災害防止協会のホームページで自己チェックできる
http://www.jisha.or.jp/web_chk/strs/index.html

7月16日早朝　NHKラジオ朝一番　ビジネス展望

『働き方の多様化とは何か』内橋克人　2013.7.16.

内橋克人さんのビジネス解説　実に明快分かりやすい解説に

私には一番すっと入ってくる話になるほどと。

◎　多様な働き方・雇用・労働の多様化「働き方の多様化」と「働かせ方の多様化」は違う

◎　正社員として働くのは「権利」であって、様々な働き方は働く個人それぞれの都合の「選択」だ。

「日本ではこれが、ごっちゃにされて　都合よく使われて、今の厳しい社会状況を生んでいる。

同じように働いても、正社員と非正社員では、単に賃金格差にとどまらず、

雇用保険や福利厚生の手厚さの違いなど全般的な格差は極めて大きい。

正社員以外の働き方が増える事をもって『働き方の多様化』とするような考え方が、

いかに働く人の現実から遠い議論かが、改めて分かるであろう。」と。

内橋克人氏は「『職無くば人間の尊厳もない』働くとはすなわち、人間がどう生きるのかという問題である」と説き、

「国際競争力をつけるようなグローバル　スタンダードが

非正規雇用を増やすことだとの錯覚を日本では植えつけられているが、

けっしてそんなことはない　」

と欧米の具体的な事例をひいて言う。

◎　例えば、『オランダモデル』。の例示

同一労働同一賃金を前提にし、労働時間の長短による差別をなくして、賃金は均等割り。

均等待遇の上に立った長時間労働を正社員と、短時間労働制社員の2種類しか労働は存在しない。

新書　藻谷浩介・NHK 広島取材班　　From Kobe　2013.9 月

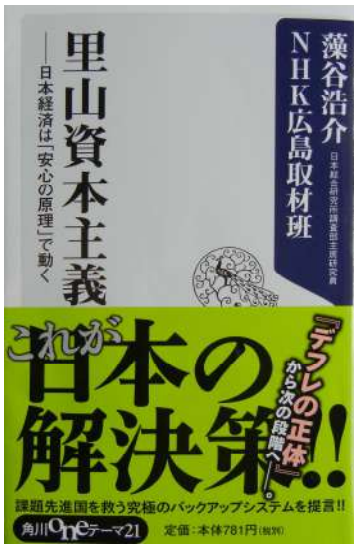
「里山資本主義-日本経済は『安心の原理』で動く-」の紹介

今　日本で一番求められている地域を元気にする

日本再生への道「里山資本主義　& 内橋克人氏の提案する地域自立自給経済圏」創設の実践

2013.8.25.　　By Mutsu Nakanishi

「今　一番素直に自分の頭に入る」社会・経済論として何度か紹介した経済評論家内橋克人氏の論。内橋克人氏の提案する「地域自立自給経済圏」と趣旨をほぼ同じくする「里山資本主義」の具体的な構築論ならびに着々と推進が進む地域実践例が、この文庫本**「里山資本主義-日本経済は『安心の原理』で動く-」**に記されていましたので、ご紹介。



この本では「里山資本主義」の考え方や具体的な実践を「マネー資本主義」と対峙するのでなく、そのサブシステムとして構築推進することで、疲弊・過疎化から地方を再生し、日本経済変革の道が提案されています。

私の一番知りたかった具体的な地域自立自給経済圏の実践例をこの新書　藻谷浩介・NHK 広島取材班「里山資本主義-日本経済は『安心の原理』で働く-」から、整理して紹介。

<< 内橋克人氏の提案する「地域自立自給経済圏」>>

「グローバリゼーション」「国際競争力」錦の御旗に大企業・大都市圏を中心とした中央集権的な「市場原理主義・金融マネー資本主義」「強欲資本主義」に警鐘を鳴らし続け、「市場主義から人間主語へ」の転換を求める内橋克人氏。

日本経済が大量生産・大量消費を前提とした量産効果に依存しているという弱点をいち早く指摘すると共に、「改革」が剥き出しの市場原理主義が社会的費用を弱者に転嫁しかねないと、アメリカ流の聖域なき構造改革に厳しく警鐘を鳴らし、「マネー資本主義」に対抗する自立自給経済圏の創設を提唱する。

この自立自給経済圏とは　F（ﾌｰﾄﾞ）E（ｴﾈﾙｷﾞｰ）C（ｹｱ）をそれぞれの地域で自給する。

食糧・エネルギー・介護を含めた人間関係の自給圏を作り、これらを地域における新しい「基幹産業」にまで発展させて、地域の活性化を実現しようという考え方である。

《内橋克人氏の提案する自立自給経済の創生》

【from Kobe　2012.1.1.　http://www.infokkkna.com/ironroad/2012htm/walk9/2012nengakobe.pdf より】

被災地だけでなく　日本の疲弊がますます露わに　人間復興・社会基盤の復興の両立を

「日本人気質の奥にある頂点同調・熱狂的な等質化から脱して　新しい日本作りに踏み出そう

もう　気がつこう　マスコミが騒ぎ立てる働かせる側の論理から働く人の論理へ

国際マネー主義から脱して　市場主語から人間主語へ

2011 年 12 月 18 日　NHK BS 内橋克人　100 年インタビューより

賢さをともなった勇気を持って　頂点同調主義から脱出　市場主義から人間主語へ

矛盾を解決することで成長を生む「マネー資本主義」に対抗する自立自給経済の創生

日本では新政権が発足しても、「アベノミックス」・「TPP」・「原発の推進」など経済対策・東日本大震災復興事業ひとつをとっても　中央集権的一辺倒の方向は相も変わらず、いまだに大企業･中央中心的なアメリカ流の「マネー資本」一辺倒。「実感のある豊かな生活を実現してくれる」との確信を持つ人がどれだけいるだろうか・・・・。

これら施策の果実を取り込んだごく一部の人を除き、格差は日増しに増大し、地方の疲弊はますます進み、その中身実

態が次々と垣間見えるにつれ､自衛の道を模索しつつも､無責任な楽観主義と社会不安･無力感の間をさまよっている。
　一方、特に震災地域の急速な生活復興や地方疲弊の脱却には　地域内での「マネー循環」が欠かせぬと思えるが、ここでも　地域外へのマネー流出を促す中央集権システムが顔を出しているという。
口で言うのはたやすいが、自立自給経済圏の創設の推進は難しい。なんとか　未来へつながる永続的な推進根業モデルが立ち上がらないと、これも絵に描いた餅になると・・・・・。
　まだ、日本の潮流にはなっていませんが､「マネー資本主義」から脱却した日本再生への新しいアプローチ道　が地方で始まっていることを記した　新書本　藻谷浩介・NHK 広島取材班「里山資本主義-日本経済は『安心の原理』で動く-」を紹介。ご一読を。

2013.8.25.　From Kobe　by Mutsu　Nakanishi

新書　藻谷浩介・NHK 広島取材班
「　里山資本主義　-日本経済は『安心の原理』で動く-　」
内容　要約

1.「里山主義」　（新書「里山資本主義-日本経済は『安心の原理』で動く-」表紙横帯より）

かつて人間が手を入れてきた休眠資産を再利用することで､原価０円からの経済再生､コミュニティ復活を果たす現象。安全保障と地域経済の自立をもたらし、不安･不満･不信のスパイラルを超える。危機を超え未来を生む、すり潰されない生き方の提案として登場。

2.　里山主義による地域自立自給経済圏の実践を進める街の紹介

中国山地の山深いたたらの郷　岡山県真庭市と広島県庄原市（西城）

「里山資本主義」というネーミングに惹き付けられましたが、中国山地奥深い過疎地　岡山県真庭市やすぐ隣の広島県庄原市西城での　1.バイオマス発電を中心とした持続的な地域循環システム取組の話や 2.里山の雑木を燃料にした燃料効率のよい「エコストーブ」が「ストーブ」にとどまらず、原価ゼロの暮らし」のアイデアを次々と生む。
電気エネルギー消費の抑制や荒れ果てた農地･農業の再利用など地域自立の道を進める話。

- 真庭市の「バイオマス集積基地化」による地域持続型経済圏の推進
  真庭市の製材企業から出る「原価ゼロの資源」木屑を燃料ペレットに変えて、バイオマス発電・家庭燃料など熱燃料としてペレットを使うことにより､「発電」「製材」「ペレットボイラー」「ペレット生産」など地場産業を興す。
  現在　真庭市の消費エネルギーの 11%が木のエネルギーでまかなわれ、この数値はさらに上昇中
  地域の外へ金が流れ出るエネルギー収支が大幅改善し、地域活性化の源になっている。
- 庄原市西城　燃料効率 95%を超える家庭用「エコストーブ」の開発による森林エネルギーによる化石エネルギーからの脱却と原価ゼロ資源利用・里山再発見発想の町づくり

「バイオマス発電だけでは成立しないだろう」･「都会からやってきた人たちの気楽な田舎生活･スローライフの取り組みがしゃれた空気を街にふきこみはじめたのか・・・」などと懐疑的な目で読み始めたのですがさにあらず。
ペレット燃料の徹底的な活用。雑木数本で燃焼するエコストーブの高性能ぶりには目を見張る。都市から供給されねばどうしようもないと思っていたエネルギーがサブシステムとして自立し増加の道をたどっている。
「原価ゼロの暮らしとして　里山を食い物にしよう」というアピール。
この地の森林･製材から大量に出てくる原価ゼロ円の木屑などの資源をエネルギー資源に変える実践取り組みや、食料資源としての里山など、次々と実践アイデアを生みつつ、それが新たな産業・雇用を生んでゆく。
地域内エネルギー自給をめざす取組を軸に地域自立への道とその仕組みが示されてゆく。
過疎を逆手にとっての豊かな暮らしへ展開して行く取組が、行政も動かし、地域を変えてゆく。
外部に頼らずとも、持続的なシステムが着実に地域の中で育ち、地域を自立経済県に変化させ、街を活性化する。
こんな持続的な地域循環のシステムが過疎地に構築でき、地域を帰られる。それも　誰もが斜陽と思っている森・里山の資源を軸に・・・。外部からの金･産業・インフラを投入せねば地方の過疎化は食い止められぬとの思い込みが一気

に打ち壊され、懐疑的だったのが、吹っ飛んで「こんな継続的なエネルギー地域循環システムができるのだ」と・・・・・。

この本では、これらの実践は「世界経済の最先端」だといい、「この中国山地の奥深い過疎に悩む山郷での実践は突発的なものでないという。

江戸時代隆盛を極めたこの中国山地の「たたら製鉄鉄山」では、森･里山の資源を軸とした地域循環型の経済圏が 100 年以上持続して成立していた」ことを指摘する。そして、自立経済圏構築の継続性には「エネルギーの化石燃料からの転換」そして、「の森･里山のエネルギー資源の活用」に着目した構築がきわめて重要であると説く。

そういえば　たたらの里の森林資源ばかりでなく、砂鉄をとるために切り崩した里山の跡地が牧場・棚田となって、鉄山とともに地域経済に寄与していったことなども頭に浮かんでくる。

日本伝統の匠の技術としてしか語られることがなくなった「たたら製鉄」。その仕組みにスポットライトが当てられ、21 世紀型の新しい日本再生・「地域循環型自立経済圏」の構築実践モデルとして語られているのがうれしい。

中国山地のたたらの郷　真庭市や庄原市（西城）　その地域自立型エネルギーシステム構築を軸とした自立経済圏成功体験の底に「たたら製鉄　鉄山」があるという。

3.　海外にもある里山主義による地域自立自給経済圏の国「オーストリア」

オーストリアは日本と同じ急峻な山岳地帯を抱える国ながら、機械化された最先端の林業とペレット燃料を徹底利用したエネルギー政策に取り組む。

中でも国境の町・ギュッシング市では 1990 年にエネルギーの脱化石化を宣言し、木質バイオマスによる地域冷暖房やコジェネレーション発電によりエネルギー自立を実現させている。

しかし、バイオマス発電・ペレットなどはそもそも　本体の木材利用産業があって、そこからの大量の「原価ゼロ資源の供給」があってこそ成り立つ。

真庭・庄原の例にしても、現状「原価ゼロ資源木屑の供給」には限界があり、更なる広域地域経済圏の構築には「原価ゼロ資源木屑の供給」を可能とする「本体の木材利用」の産業の展開が不可欠。

国を挙げて「バイオマスによるエネルギー自立」を進めるオーストリアでは鉄筋コンクリートの強度に匹敵する建築木材として「集成製材」の利用を推進し、積極的に木造高層建築の推進に取り組む。

直角方向に張り合わせた集成材 CLT（クロス・ラミネイティッド・ティンバー）が無類の強度を発揮し、オーストリアやイギリスでは CLT を利用した 9 階建ての木造高層建築物まで登場しているという。

日本ではセメントが容易に入手できる日本で、今後木材の高層建築物への利用解禁されたとしても　一気に進むかどうかは未知数ではあるが、鉄筋コンクリートに代替できる木材の集成材が登場する時代にもなっている。

《「木質バイオマスでエネルギー自立を実現したオーストリア」の安定な経済　2011 年》

・失業率　EU の中で最低の 4.2%　　・一人当たりの名目 GDP 49688 ドル（世界 11 位）

・対国内投資額 前年比 3.2 倍の 101.6 億ユーロ　対外投資額 前年比 3.8 倍の 219.5 億ユーロ

この安定した経済をささえるのが、里山資本主義。

国を挙げて木材を徹底活用して経済自立することに取組み、その成果が上記の経済安定につながっている。

また、「脱原発」を憲法に記している国でもある。

日本では斜陽とみなされる林業・製材業には大型の先端機械設備などの先端技術が導入され、最新技術が支える先端産業となり、材木関連産業は今や国の重要な輸出産業。都市には木造の高層ビル建設が進み、街には　バイオマス発電の電気も併用供給され、家庭には熱効率のよいペレットボイラーがすえつけられ、これらと共に新しい産業と雇用が次々と生まれているという。

- **オーストリアの製材メーカー「マイヤーメルンホフ」社**では年間 130 立方メートルの木材の供給し、製材・加工からバイオマスまで手がけ、町では熱水パイプラインが通り、年間 6 万トンというペレット工場も持ち、町では　ペレットを快適に利用するオートメーションシステムが整っている。
- **「熱効率 90%を超えるペレットボイラー」**今ペレットボイラーの普及が急速に進みつつあり、これを軸にバイオマス周辺産業が地場で急速に発展し、多くの雇用も生まれている。
- **森林伐採と永続的森資源の管理**

「森林官と森林マイスター制度による徹底した森林保護･伐採の教育と林業実践」により、
林業は「持続可能な豊かさ」を守る術として　バランスの取れた森林の伐採と植林が進む。
森林はオーストリア有数の外貨の稼ぎ手　木材関連産業で年間 30～40 億ユーロの貿易黒字
となっている

内陸国オーストリアでは、まだ　エネルギー・電力を他国から輸入しているが、上記した木質バイオマスへの国を挙げての取組で、その輸入量も減じる方向にすすみ、「エネルギー自給」目前だという。

4.　里山資本主義に基づく地域循環型経済取組の広がりの紹介

地域の価値に気づき　地域に根ざした活動が違った価値を付け、広がってゆく
売れる秘密は「原料を高く買い　人手をかける」　そんなオンリーワン価値も生まれているという

1. 山口県周防大島の地場産業の果樹農業を活かしたジャム園の経営
   自分も地域も利益をあげる街に眠るアイデア・技術の掘り起こしによるオンリーワン化のジャム作り
2. 高知県大豊町の真庭モデル導入の試み
   高知県は地域収支を見ると林業は黒字なのに製材業は赤字。そしてエネルギーは圧倒的な赤。
   これを改善する取り組みで地域を掘り起こす。
3. 島根県の耕作放棄地を活用した放牧の取組
   食料自給率 39%の日本にひろがる膨大な耕作放棄地　この方基地の活用
   ヨーロッパでは　整然と整備された草地が美しい田舎の景観を作っているのに、日本では雑草生い茂る荒地化が進む。この差はなぜか・・不思議でしたが、牛の放牧が勝手に荒地を草原に替えてくれることを数年前に知りました。　この島根県の取組も遊休地での自然放牧が新しい価値を生む。
4. 島根県邑南町の移住女性による「耕すシェフ」レストラン。
   外へ市場を求めず、地域で食す　楽しみが新しい価値を生む
5. 鳥取県八頭町のホンモロコの養殖も耕作放棄地を活用した取組
   遊休地に里山にある水を引いて、商品価値のある「ホンモロコ」を育てる。

5.　まとめに変えて　　地域収支から見える持続自立型経済圏創設への取組

新書「里山資本主義-日本経済は『安心の原理』で動く-」はこの後　下記のような項がつづいている。

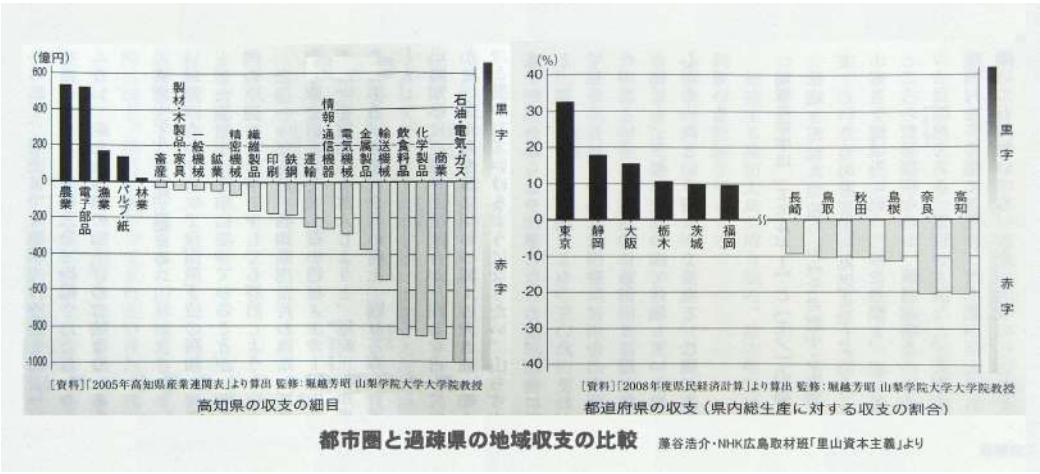
1. 里山資本主義の延長戦にある「無縁社会”の克服」取組み
2. 「スマートシティ」のシステム構築を検討する最先端プロジェクト
   最先端の取組は里山資本主義の取組と驚くほど一致している
3. 結び　里山資本主義の爽やかな風が吹き抜ける、2060 年の日本

私の一番興味のあった里山資本主義の実践活動の具体的な紹介もほぼ済んだので、今回はここで私の紹介の終わりにしたい。ご興味のある方は　ぜひ　「里山資本主義-日本経済は『安心の原理』で動く-」の本で。

この本に書かれた内容は中央集権的「マネー資本主義」に警鐘を鳴らし続け、日本再生・地方再生の道を「自立経済圏創生」であると説く内橋克人氏の経済論と同根・共通で、力強く地方再生の道を進む地域が具体的に示されている。

右の図は「里山資本主義」の本に掲載されていた都市圏と過疎地の地域収支のグラフ。

都市圏と地方とで、地域収支の差が大きく、しかも　地域自立にはエネルギー・食料の収支改善そして強みとして農業・漁業・林業など地場産業の地域循環型産業



としての新しい取り込み展開視点が必要なことがよく分かる。
これに　今直面している「医療」を加えれば、まさに　内橋勝人氏がいう食糧・エネルギー・介護を含めた人間関係の自給圏を作り、これらを地域における新しい「基幹産業」に育てる CFE 自給圏の創設そのもの。

今までなにか始めても　すぐ国や大企業など中央に飲み込まれてしまいそうで、地方自立の立ち行く道に懐疑的でしたが、具体的な実践取組みが始まり、また、インターネットに書かれている自立取組例の記事を色々読むと地方の行政が、今までの取組とは別に　この里山主義の実践取組に気づきはじめ、新しい取組が始まっていることも知りました。
地産･地消さらに地方へ行って　観光･食事そして物産を買う楽しみにも。
ちょっとですが、地域を眺める目が深まりました。
地方が武器を持ち始めて新しい道を展開する。日本の先が明るく見えてくるにうれしい限り。

新しい日本再生の鼓動がそれぞれの特質を生かし、地に足が着いたオープンな取組がいたるところで始まれば、それが地方分権・地方再生そして東北再生への道へとつながってゆく。
政治家の選挙戦で見る地方分権論とは違う草の根地方分権論でもあると。

また、私の知る山深いたたらの里の取り組みが紹介され、それもこの里山主義が示す地域自立型経済圏として、たたら製鉄の遺産が紹介されていたのにもうれしくなって読みました。
そんな新書　　また、私の好きな内橋勝人氏の経済論に実践の道がついているのもうれしい。
ぜひ一読を。

2013.8.25.　from Kobe　by Mutsu Nakanishi

中国山地　たたら製鉄　鉄穴流しが作った棚田の景観　　右の写真は牛が放牧された休耕田

【参考】

1. From Kobe　2012.1.1.　内橋克人氏　100 年インタビュー抜粋

被災地だけでなく　日本の疲弊がますます露わに　人間復興・社会基盤の復興の両立を
「日本人気質の奥にある頂点同調・熱狂的な等質化から脱して　新しい日本作りに踏み出そう
もう　気がつこう　マスコミが騒ぎ立てる働かせる側の論理から働く人の論理へ
国際マネー主義から脱して　市場主語から人間主語へ
2011 年 12 月 18 日　NHK BS 内橋克人　100 年インタビューより

http://www.infokkkna.com/ironroad/2012htm/walk9/2012nengakobe.pdf

2.　From Kobe　2013 年 8 月　あまりに多い「想定外・経験したことがない」の風潮

創造性の欠如した今の時代に異常気象にだまし絵をダブらせ今一番自分 にすっと入る
NHK 朝一番　ビジネス展望　内橋克人氏の解説を紹介
http://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/2013mutsu/fkobe1308.pdf

【From Kobe 12月】収 録

日本の行く先がおもいやられる師走
数が頼りの薄っぺらな社会からの脱出へ 若者たちへの思いが募る
こんな思いを代弁して、神戸新聞 内橋克人氏ほかの評論にも

夏日まで飛び出す異常気象の中で迎える師走 なにか無力感ばかりがただよう12月のはじまり。
気象ばかりでなく、世の中の動きまでもがおかしい昨今、
日本はこれからどうなってゆくのだろうか・・・・。
現実に蓋をして、強がりばかり言っても、相手は見向きもしてくれず、ばらまく金もいよいよ底をつく。
想定外では済まされぬ激動の地球環境に国土はぼろぼろ。産業構造は大きく変化し、技術力も技術立国も昔の幻影 国を支え、生産を担う若者の姿もまた幻影。急激に高齢化社会 そして格差社会が進行中。
でも 不平不満の現実に眼をそらし、我が身を守ることに精一杯。
「明日は我が身」におびえながらも、今を追う。付け焼刃の取り繕いの取組ではどうにもならぬ日本の現実。
数が頼りの日本 政企業も官僚も日本の実態・現実をしっかり見定めよ。
日本はこれから、今成長期を迎える国々とどのように組して行くのだろうか・・・・・
とはいえ ぶつぶつ言っても 所詮 こちらも 打つ手を持たぬ後期高齢者。
成功体験 仲間意識にしがみついて「想定外」「付けを自己責任」と他人に付けを回して知らぬ顔 そんな老害リーダーに興味なし。若者たちの新しい国づくに託して、若者たちに託す。
11月29日神戸新聞 「針路21」欄に誰にも言えぬそんな思いをすかっと切りだす内橋克人氏の評論が掲載避けているので、 From Kobe 毎月のぶつぶつに変えて。ご紹介。
皆様には どううつるでしょうか・・・
来年は新しい若者の時代元年に舵を切ってほしい。
老害者たちは早くリタイヤせよとひとりぶつぶつ。

2018. 11. 29. 神戸新聞(1・2面掲載)
「針路21」欄 内橋克人氏評論 整理転載

「安倍外交」の実相 針路21

目立つ内外の食い違い

客員論説委員 内橋 克人

国を危うくする言い繕い

時の政権にとって「首脳会談」は効果絶大なパフォーマンスの場である。安倍首相とトランプ大統領との会談はすでに8回、プーチン大統領とは26回に及ぶ。

各国トップと親しく握手を交わすシーンが国民の目に灼きつけられ、「外交の安倍」がすり込まれる。米国首脳との"蜜月ぶり"演出の成否は支持率に響く。

その安倍外交に際立つ三つの特徴がある。まず首脳会談で何が話し合われ、何が合意されたのか、会談後に明かされる両首脳の発表に食い違いが目立つことだ。「日米通商交渉入り」をめぐるトランプ氏との会談。北方領土返還をめぐるプーチン氏との会談。いずれも直後に明かされた合意の中身に両首脳間で隔たりが大きい。

第二にそれら外交パフォーマンスには手土産が用意される。9月末、国連総会後の記者会見でトランプ氏は「日本はすごい量の防衛装備品を米国から買うことになった」と明かした。が、安倍首相自身はいまだ黙して語らず、だ。

第三に国会で重要法案審議中であれ、お構いなく足しげく海外に出向く。経済界首脳の大集団が"お供"する。

「外交の安倍」は何を生んだのか。冷静な総括が求められる時がきている。

国会での首相発言に合わせて事前、事後に新しい言葉と文脈がひねり出される。森友・加計問題では公文書まで捏造された。同じ手法の"つじつま合わせ"が、国際協議の場で常態化すれば、日本という国の信用が傾われかねない。いま話題の「日米通商交渉」入りは「物品協定」(TAG)なのか、それとも「自由貿易協定」(FTA)を目指すものか。日米間で深まる認識格差が典型例といえる。

前者ならば農産物、工業製品などの「モノ」の輸出入についての関税交渉であり、後者となれば投資から流通、金融、通信、サービスなど広範囲にわたる包括的通商交渉となる。それを2国間ではなく日米の2国間で取り決めるというのだ。

今月11日の安倍首相と来日中のペンス副大統領との共同記者会見。ペンス氏の発言をめぐって日本のメディアは混乱した。同氏の発言をFTAと訳して報道しNHKニュースはすぐさま訂正を迫られた。「(ペンス氏は)FTAとはいっていない」と日本政府は強弁する。

「Trade Agreement on goods」、略してTAG。「日本製・造語」である。安倍首相が繰り返す「自由貿易協定(FTA)とは全く異なる」との発言に合わせて「つくり出された」。ちなみに記者会見でのペンス氏発言は「Bilateral Trade Agreement」(2国間協議の意)というものだった。

しかし、同氏は来日前夜、自らのツイッターで「Free Trade Agreement」、すなわち真正銘のFTA交渉がこれから日米間で始まるのだとアップしている。

TAGとは国内向けの造語であり、それをムリヤリ通すには、さらなる難問が待ち構える。すなわち米国の「対日戦利品」が世界貿易機関(WTO)加盟国のすべてに適り巻かることになるからだ(WTO協定「第1章第1項=最恵国待遇」の原則)。いずれかの国に与える最も有利な待遇を、他のすべての加盟国にも与えなければならない、というもの)。

唯一の例外規定がFTAなのであり、筆者は9月26日(日本時間27日未明)の首脳会談直後からそう指摘してきた(NHKラジオ、農経新聞=10月1日号など)。AP通信はその日のうちに「FTA交渉で日米合意」と報じている。

自動車への高関税措置の発動がトランプ流ブラフ(脅し)の手真似だったという。

まずはTAG、次いでFTA—国内世論対策を真の狙いとする安倍外交の二段階分離方式である。日米両国で「食い違いあり」とみせて、その実、ひそかな「合意」が形成されている、とも官邸筋は筆者に明かした。農産品での大幅譲歩はもはや既定路線だ。

こうした「食い違い」はプーチン大統領との首脳会談においても顕著だった。

「日本の安倍首相が先に握手してきた」とプーチン氏は国民メディアを前に口にした。歯舞、色丹2島の先行返還で合意した、というものだ。しかし、安倍首相は「あくまで4島だ。2島先行論ではない。方針は変わっていない」と強弁する。

強烈な自己主張と臭覚本能が一見、巧みな「言い繕い」をひねり出すのか。国の内外で使い分ける外交手法は国家的リスクをも伴う。国民の「知る権利」と「安全保障の秘密保護」の両立をうたう「ツワネ原則」の再確認が、日本国政府の緊急課題である。

(うちはし・かつと=評論家)

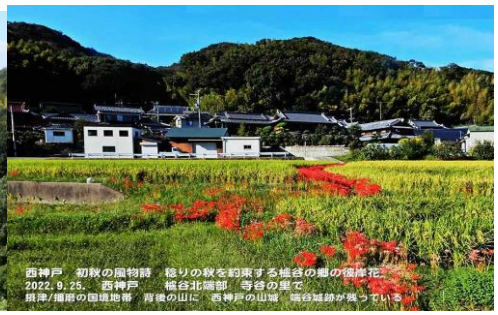
「安倍外交」の実相 針路21

ご興味くだされば、上記内橋克人氏の評論 下記サイトにありますので 拡大してご覧ください。
URL: http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/2018mutsu/fkobe1812uchihashi.pdf

初秋　小さい秋を探して戸外へ　From Kobe

収録１　経済評論家　内橋克人氏 没後一年 神戸新聞特集「内橋克人の歩いた道」転記収録

収録２．鉄の街 尼崎　鉄のモニュメン　設置後約半世紀 鉄鋼戦士の像と尼崎讃歌



１０月２日夜　オリックス逆転優勝のうれしいニュースも!!　うれしい秋に期待本物に

元気でお過ごしでしょうか……
やっと神戸籠りを脱して。久し振り「仲間の元気かい!!」もできました
でも　厳しい世相　引き続き感度をあげて　我慢せず　助けの声をあげて!!
「自分の身は自分で守る」の心意気
仲間がいる　互いに連絡とりあって　また再会できますよう
仲間みんなにエールを送ります
相も変わらずですが、初秋10月神戸便りをお届けします
ひとりじゃない　時には声を上げて　がんばらないで!!
仲間がいる 仲間の笑顔・思いは みんなの応援歌
お互い声かけあって、スクラム組んで 乗り切ってゆきましょうましょう
今はコロナにかからぬことが一番 無理せず 自らをお守り下さい。
God be With You!! 元気に前向いて
爽やかな秋　小さい秋を探して
2022.10.1.　From Kobe　　Mutsu Nakanishi

秋の七草　葛の花はこんな花でした

澄み渡る空に爽やかな秋風　里では真っ赤な彼岸花が野を飾って 嬉しい秋の始まりを教えてくれる。
待ちかねたコロナ収束も進み始め、あれもこれもと。
空を見上げて　さぁ飛び出すぞ!!
まだまだ無理はできませんが、
仲間からも連絡が入って嬉しい秋の到来。
横尾道の道脇に咲く秋の七草 フジバカマに
渡りの途中のアサギマダラが密を吸いにやってきました。遠い南への旅　頑張りなよと。
何とはなしに気分も晴れやか
小さい秋 小さい秋 み～つけた
初秋 10 月神戸便り 小さい秋を探して
From　Kobe　Mutsu Nakanishi

毎年の初秋の風物詩　秋迎え　西神戸　東播磨の郷の里景色　2022.9.12

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0410EHarimaweb.pdf

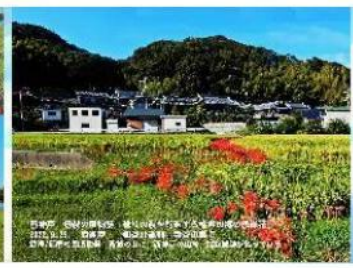
また、激流闘竜灘の水音にはたくましいエネルギー

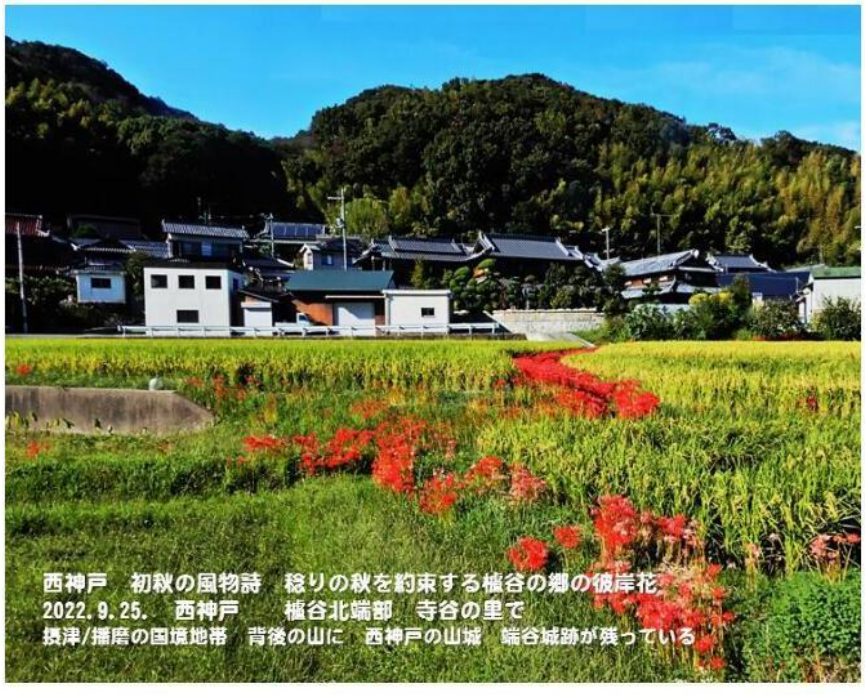
毎年訪ねる酒米の郷　山田錦の稲穂や畔に翻る酒蔵の旗にはうまい酒　小野きすみ野を真っ白にした蕎麦畑には想像するだけでうれしい秋の楽しみが待つ。嬉しい原チャリツーリングになりました。

■西神戸　ほん近くの散歩道で

西神戸　伊川谷奥　寺谷の里の田園を飾る彼岸花の里景色　　今年一番の美しさ

彼岸花の景色には人それぞれの思いあり　ゆっくり歩いて里景色を眺めるのが私の定番です





横尾山の山裾　横尾道の藤袴とその蜜を吸う渡りの蝶「アサギマダラ」

秋の夕暮れ近く明石海峡人丸海岸

眺めていた堤防のすぐそばで、女性の釣り人がこんな大きな「さわら」を釣りあげた。

もう　びっくり。　大きな網で堤防の上へあげましたが、すぐにリリース

かっこは素人　でも玄人の釣り人?

堤防のすぐそばにこんな大きな魚を釣り上げるのを見るのは初めて。

収録1　経済評論家　内橋克人氏 没後一年 神戸新聞特集「内橋克人の歩いた道」転記収録　https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0410A.pdf

収録2. 鉄の街 尼崎　鉄のモニュメン　設置後約半世紀 鉄鋼戦士の像と尼崎讃歌　https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0410B.pdf

【From Kobe fkobeR0410A.pdf 】
収録1. 共生の大地へ 没後1年・内橋克人の歩いた道 神戸新聞特集記事より転記 2022.10.1.

収録①

神戸新聞NEXT 神戸新聞9月 特集内橋克人氏没後1年 特集 ①〜⑨より転記

共生の大地へ 没後1年・内橋克人の歩いた道

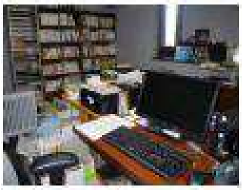
高い志を胸に厳しい峯（みね）を目指した生涯。神戸を起点に戦後社会の渺茫たる荒野を歩き、共生への希望を説き続けた一人のジャーナリストの軌跡を言葉と作品でつづる。（加藤正文）

筆一本 真っすぐに生きた

共生の大地へ
没後1年・内橋克人の歩いた道

❶ 荒野渺茫

2022.9.1.
〜2022.9.23.



経済評論家 内橋克人 主要作品リスト

（タイトルは単行本時。文庫化時に変更あり）

1960年代	外資のなかのニッポン
1970年代	恐るべき外資企業、優績店への挑戦、挑戦する幹部、伝説の日本人、危機こそ好機である、「安宅崩壊」以後、恐慌、匠の時代シリーズ（〜1990年代）
1980年代	経営の匠、ニッポン地球時代、幻想の「技術一流国」ニッポン、社長辞典、日本エネルギー戦争の現場、考える一族 カシオ四兄弟、「重厚長大」の復権、原発への警鐘、ガンを告げる瞬間、「手法革命」の時代、ジャパン・システム激変の新図式、退き際の研究、KKニッポンを射る（共著）
1990年代	尊敬おく能わざる企業、「革新」已む能わざる企業、隗より始めよ、破綻か再生か、共生の大地、内橋克人同時代への発言（全8巻）、「会社本位主義」をどう超える（共著）、日本会社原論（共編著）、規制緩和という悪夢（共編著）、大震災復興への警鐘（共著）、経済学は誰のためにあるのか（編著）、現代日本文化論−仕事の創造（共同編集）、規制緩和 何をもたらすか（共著）
2000年代	同時代の読み方、不安社会を生きる、浪費なき成長−新しい経済の起点、<節度の経済学>の時代、もうひとつの日本は可能だ、「共生経済」が始まる、悪夢のサイクル、共生経済が始まる、日本の顔貌、どこで間違えたのか、荒野渺茫、誰のための改革か（編著）、「人間復興」の経済を目指して（共著）、ラテン・アメリカは警告する（共編）、城山三郎 命の旅（共編）、始まっている未来（共著）、大震災のなかで−私たちは何をすべきか（編著）、取り返しのつかないものを、取り返すために（共著）

神戸新聞NEXT
https://www.kobe-np.co.jp/

ビジネスにも就活にも
ひょうご経済＋（プラス）

共生の大地へ
没後1年
内橋克人の歩いた道

共生の大地へ 没後1年・内橋克人の歩いた道

9月1日で没後1年になる。戒名は「志峯院厳岳良克居士」。高い志を胸に厳しい峯（みね）を目指した生涯。神戸を起点に戦後社会の渺茫（びょうぼう）たる荒野を歩き、共生への希望を説き続けた一人のジャーナリストの軌跡を言葉と作品でつづる。

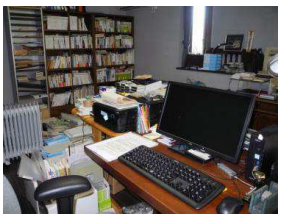
- （1）荒野渺茫（びょうぼう） 筆一本、真っすぐに生きた 2022/09/01
- （2）匠の時代 地域と響く「実の技術」 2022/09/02
- （3）規制緩和という悪夢 経済学の在り方を問う 2022/09/03
- （4）大震災復興への警鐘 欠けていた「都市政策」 2022/09/07
- （5）90年代不況の帰結 働く者の尊厳見据えて 2022/09/09
- （6）原発への警鐘 「帰らざる河」渡った末に 2022/09/14
- （7）周縁の条理 もう一つの日本は可能だ 2022/09/16
- （8）「人間復興」の経済を目指して 「頂点同調主義」の危うさ 2022/09/21
- （9）民主主義をあきらめない 状況に強い危機感最期まで 2022/09/23

【参考】■【2021年10月 From Kobe】内橋克人さん逝去に想いをつのらせて 想いだすままに
常に現場に立ち、自分の眼で確かめ、権威におもねず、攻められる側に身を置く視点
「現場・人間主義」を貫いた巨星 by Mutsu Nakanishi
添付「和鉄の道・from Kobe」に掲載紹介してきた 内橋克人氏の記事リスト
https://infokkkna.com/ironroad/2021htm/2021mutsu/fkobeR0310.pdf

共生の大地へ　没後1年・内橋克人の歩いた道

高い志を胸に厳しい峯（みね）を目指した生涯。神戸を起点に戦後社会の渺茫たる荒野を歩き、共生への希望を説き続けた一人のジャーナリストの軌跡を言葉と作品でつづる。（加藤正文）

2022.9.1.
～2022.9.23.



経済評論家 内橋克人 主要作品リスト

（タイトルは単行本時。文庫化時に変更あり）

1960年代	外資のなかのニッポン
1970年代	恐るべき外資企業、優績店への挑戦、挑戦する幹部、伝説の日本人、危機こそ好機である、「安宅崩壊」以後、恐慌、匠の時代シリーズ（～1980年代）
1980年代	経営の匠、ニッポン地球時代、幻想の「技術一流国」ニッポン、社長辞典、日本エネルギー戦争の現場、考える一族 カシオ四兄弟、「重厚長大」の復権、原発への警鐘、ガンを告げる瞬間、「手法革命」の時代、ジャパン・システム激変の新図式、退き際の研究、KKニッポンを射る（共著）
1990年代	尊敬おく能わざる企業、「革新」已む能わざる企業、隗より始めよ、破綻か再生か、共生の大地、内橋克人同時代への発言（全8巻）、「会社本位主義」をどう超える（共著）、日本会社原論（共編著）、規制緩和という悪夢（共編著）、大震災復興への警鐘（共著）、経済学は誰のためにあるのか（編著）、現代日本文化論－仕事の創造（共同編集）、規制緩和 何をもたらすか（共著）
2000年代	同時代の読み方、不安社会を生きる、浪費なき成長－新しい経済の起点、＜節度の経済学＞の時代、もうひとつの日本は可能だ、「共生経済」が始まる、悪夢のサイクル、共生経済が始まる、日本の原発、どこで間違えたのか、荒野渺茫、誰のための改革か（編著）、「人間復興」の経済を目指して（共著）、ラテン・アメリカは警告する（共編）、城山三郎 命の旅（共編）、始まっている未来（共著）、大震災のなかで－私たちは何をすべきか（編著）、取り返しのつかないものを、取り返すために（共著）

柔和なまなざしで経済社会の本質を見続けた＝2007年、大阪市北区

筆一本真っすぐに生きた

共生の大地へ

没後1年・内橋克人の歩いた道

❶

荒野 渺茫（ぼう）

今しがたまで内橋克人さんが机に向かって執筆に打ち込んでいたかのようだ。神奈川県鎌倉市の自宅書斎。経験、神戸商科大（現兵庫県立大）を卒業した57年、神戸新聞に入り、NHKのラジオ用原稿。傍光ペンで線を引き、補足が書き込まれている。最後のメッセージとなった2021年8月1日放送「脱炭素社会－日本の針路を考える」だ。

急性心筋梗塞で救急搬送されたのは3日後の4日。自身は帰宅できるつもりだったというが、次第に容体は悪化し、9月1日午後4時39分、亡くなった。享年89。それから1年。妻泰子さん（85）は話した。「真っすぐに前を向いて走る人でしたね。本当に横向かないです。真面目に真っすぐ行く人でした…」

1932（昭和7）年、神戸市須磨区生まれ。12歳のとき神戸空襲をあびる。針が指し示すのは大震災発生時刻の5時46分。あの瞬間、浮かび上がった社会の断面。「平常時には深い地底にもぐったまま、滅多なことで人の目に触れることのない真の『断層』の姿に違いない」

戦争と震災の体験を二重写しにした自伝的作品「荒野渺茫（びょうぼう）」（2013年）でつづった。「いま、『暗い時代』への予感は的中し、一度は地に埋めたはずの『戦中・戦前なるもの』が新たな装いを凝らしてむくむくと立ち上がり、荒い呼吸で四囲を封じ込める」（加藤正文）

12面に続く

書斎のデスクトップパソコンの後ろに止まったままの掛け時計が横たえてある。

書斎のデスクトップパソコンの後ろに止まったままの掛け時計が横たえてある。針が指し示すのは大震災発生時刻の5時46分。あの瞬間、浮かび上がった社会の断面。「平常時には深い地底にもぐったまま、滅多なことで人の目に触れることのない真の『断層』の姿に違いない」

戦争と震災の体験を二重写しにした自伝的作品「荒野渺茫（びょうぼう）」（2013年）でつづった。「いま、『暗い時代』への予感は的中し、一度は地に埋めたはずの『戦中・戦前なるもの』が新たな装いを凝らしてむくむくと立ち上がり、荒い呼吸で四囲を封じ込める」（加藤正文）

12面に続く

1面から続く

内橋克人さんなら、いま同時代にどんなメッセージを発しただろう。収束が見通せないパンデミック（世界的大流行）、迫りくる気候崩壊、ロシアのウクライナ侵攻で戦争も現実となった。国内では安倍晋三元首相の銃撃事件が起き、揺れる世情にあって目指すべき社会の姿はますます不透明になっている。

■危険な予兆

「時代状況としてとらえる自分が必要」が持論だった。歴史の証言として「昭和恐慌」を意識していた。1978年の「ドキュメント恐慌」。失業、生活困難、自殺…。「追いつめられてごく普通の生活者の姿は、あの『昭和恐慌』の時代を彷彿とさせる」。社会不安の中、濱口雄幸、井上準之助、団琢磨らを襲ったテロとなり、戦争と軍国主義への道に至った。暗い時代の危険な予兆。「恐慌が高じて戦争に至る」と評論家の佐高信さん（77）との対談で語った。

終生、権力におもねらず、市井の人々の目線で現状を分析し、警鐘を鳴らした。「市場と権力」「資本主義と闘った男」を書いたジャーナリスト佐々木実さん（56）は「経済ジャーナリズムでは経営者目線や当局目線になり、ビジネス情報の領域で処理されることが多い。社会的な視点に立って経済を語る人は極めて稀で内橋さんはその極めて稀な先達だった」。

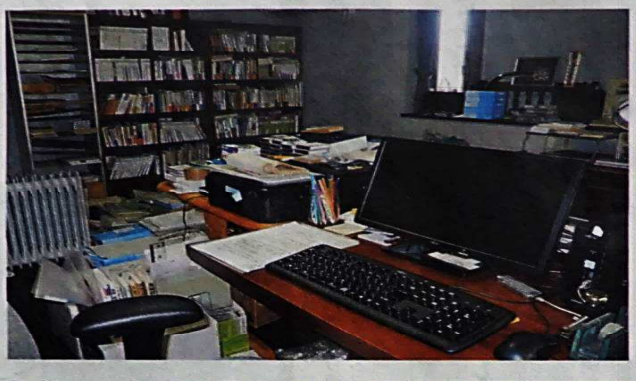
時代を見抜く慧眼と洞察力。出世作となった「匠の時代」（'78年～'80年代）では人と技術の接点領域に光を当てた。一世を風靡したNHK番組「プロジェクトX」より20年以上前のアプローチだった。

■規制緩和万能論の虚妄

90年代、バブル経済が崩壊した後、規制緩和万能論が声高に叫ばれた。労働法制など各分野で市場原理を働かせればイノベーション（技術革新）が起き、安定した経済成長が実現できる。そうした言説に対し、95年の「規制緩和という悪夢」で米国航空業界の実情を調べ、安全性が損なわれるなどの問題点を告発した。「企業行動の規制を外していくのですから、市民社会としては抵抗の術がなくなる。こうしたリスクがあることを、われわれは肝に銘じるべきです」

「例外なき規制緩和」は何をもたらしたか。非正規雇用は働く人の4割近くになり、格差拡大を招いた。大規模店舗の相次ぐ進出で地域の商店街や市場ではシャッター通りが増え、疲弊の中にある。現実の経済社会と切り結びながら、持論の「生きる・働く・暮らす」が地域で響き合う未来を見通していた。「尊敬おく能わざる企業」「共生の大地」「もうひとつの日本は可能だ」「始まっている未来」…。題名から内橋ロマンが立ち上ってくる。■

9月1日で没後1年になる。戒名は「志峯院厳岳良克居士」。高い志を胸に厳しい峯を目指した生涯。神戸を起点に戦後社会の渺茫たる荒野を歩き、共生への希望を説き続けた一人のジャーナリストの軌跡を言葉と作品でつづる。（加藤正文）



内橋克人さんの書斎。たゆまぬ努力で取材と思索を重ね、膨大な著作を世に出した＝2022年7月31日、神奈川県鎌倉市

経済評論家 内橋克人 主要作品リスト

（タイトルは単行本時。文庫化時に変更あり）

1960年代	外資のなかのニッポン
1970年代	恐るべき外資企業、優績店への挑戦、挑戦する幹部、伝説の日本人、危機こそ好機である、「安宅崩壊」以後、恐慌、匠の時代シリーズ（～1980年代）
1980年代	経営の匠、ニッポン地球時代、幻想の「技術一流国」ニッポン、社長辞典、日本エネルギー戦争の現場、考える一族 カシオ四兄弟、「重厚長大」の復権、原発への警鐘、ガンを告げる瞬間、「手法革命」の時代、ジャパン・システム激変の新図式、退き際の研究、KKニッポンを射る（共著）
1990年代	尊敬おく能わざる企業、「革新」已む能わざる企業、隗より始めよ、破綻か再生か、共生の大地、内橋克人同時代への発言（全8巻）、「会社本位主義」をどう超える（共著）、日本会社原論（共編著）、規制緩和という悪夢（共編著）、大震災復興への警鐘（共著）、経済学は誰のためにあるのか（編著）、現代日本文化論－仕事の創造（共同編集）、規制緩和 何をもたらすか（共著）
2000年代	同時代の読み方、不安社会を生きる、浪費なき成長－新しい経済の起点、＜節度の経済学＞の時代、もうひとつの日本は可能だ、「共生経済」が始まる、悪夢のサイクル、共生経済が始まる、日本の原発、どこで間違えたのか、荒野渺茫、誰のための改革か（編著）、「人間復興」の経済を目指して（共著）、ラテン・アメリカは警告する（共編）、城山三郎 命の旅（共編）、始まっている未来（共著）、大震災のなかで－私たちは何をすべきか（編著）、取り返しのつかないものを、取り返すために（共著）

「今日に明日をつなぐ人々の営みこそが経済の本質」。静かに語る内橋克人さん＝2003年、東京都千代田区

荒野 渺茫（ぼう）

本質見抜いた洞察力

内橋 克人（うちはし・かつと、1932～2021年）神戸市生まれ。神戸商科大（現兵庫県立大）卒。神戸新聞経済部記者を経て独立。著書多数。神戸新聞客員論説委員も務めた。

神戸新聞2022.9.1.朝刊より

共生の大地へ

没後1年・内橋克人の歩いた道

❷

「技術はちょうど地下の伏流水のように、いつか商品や時代の流れを変えてしまうことになるんだ」。若いエンジニアたちが議論を交わす（「電卓戦争の軌跡―シャープと力オ」）。「お前たち、自分は旋盤工として採用されたんだ、と思え。現場を知らない技術者なんて、ウチでは不要なんだから」。現場に発想の原点がある（「セイコー・クオーツの世界」）。

■あふれるリアリティー

内橋克人さんの出世作となった「匠の時代」。1978（昭和53）年に夕刊フジで始まった連載は一躍脚光を浴びる。新しい原理を見いだし、手法革命に情熱を傾ける匠たちの群像。緻密な取材に基づく臨場感、豊富なエピソード、情感あふれる文章…。連載はシリーズ化され、後に12冊の文庫になるほどの生命力を持った。40年を経た今も瑞々しい。

当時、夕刊フジの経済担当部長だった鳥谷泰彦さん（8月に90歳で死去）は内橋さんや作家高杉良さん、評論家佐高信さんら後に大成する書き手を積極登用していく。中でも同い年の内橋さんを高く評価し、企画を任せる。「匠」という言葉になじみが薄かった時代だ。上り下りしたビルの階段、くぐった工場の門、歩いた生産現場、語り合った技術者たち…。取材は結集的に成功したが、悪戦苦闘だった。執筆者の内橋さんの疲労度は到底、私の及ぶところではなかった」。粘りに粘ってすくいあげた人間ドラマはリアリティーにあふれた。

取材に明け暮れていた頃の内橋克人さん。記者時代から現場取材を鉄則にしていた（提供）

匠の時代

夕刊フジの名編集者として内橋克人さんら書き手を育てた鳥谷泰彦さん（2010年）

■自賛論への警鐘

80年代初頭、バブル経済に向かう時期、日本企業の技術は米欧を超え、超一流だという「自賛論」が盛り上がっていく。戦後の「追いつき追い越せ」を合言葉に登った頂で得た「ジャパン・アズ・ナンバーワン」という賛辞に酔った。

危機感を抱いた内橋さんは「幻想の『技術一流国』ニッポン」（82年）を出す。日本企業の強みは生産現場で発揮される労働や技能の質に依存する傾向が強い。その現状に触れつつ、弱点として真の創造技術を育む風土の脆弱さを指摘した。教育、生産構造、研究体制…。「『アメリカを超えた』などと言わず、せめて高度のオリジナリティーを求める技術開発努力や独創的技術への挑戦を、もっと真面目に評価する姿勢を持つことが、『自己幻想』から覚醒する道であると思われる」

それから約40年たったいま製造業の現実はどうだろうか。競争力は低下し、市場を席巻する製品はなかなか生まれないばかりか、大企業で不祥事が後を絶たない。検査不正、データ改ざん・捏造、法令違反、リコール（回収・無償修理）…。生じた亀裂は次第に広がり、破断に至る。そんな惨状を思わせる品質の劣化は日本企業の病巣となった感がある。

「科学と技術と技能、そして人間と組織と地域社会、それらの間を結ぶ強い絆、そして未来を望むことの大きさについて再確認したい」。内橋さんが追求したのは実物、実需、実体に根差した「実の技術」だ。メッセージはいまも切実に響く。

（加藤正文）

匠の時代　夕刊フジの連載をまとめて「先駆的開発者たちの実像」を副題に1978年に刊行された。シリーズでは三菱電機、松下電器産業（現パナソニック）、IBM、ホンダ、ミノルタ、東レなど世間が目を見張った技術革新を人間ドラマとして描いた。講談社文庫、岩波現代文庫。

地域と響く「実の技術」

神戸新聞2022.9.2.朝刊より

共生の大地へ

没後1年・内橋克人の歩いた道

❸

内橋克人とグループ二〇〇一。チームによる調査報道「規制緩和という悪夢」は1994（平成6）年7月から雑誌「文藝春秋」で3回シリーズで掲載され、バブル崩壊後の日本社会に衝撃を与えた。「こと規制緩和に関するかぎり日本の各メディアは、『規制緩和こそ日本経済を救う』という経済学者の説を最初から正しいものとして鵜呑みにし、事実の検証というジャーナリズム本来の仕事をしてこなかった。ここに私たちの仕事があると考えた」

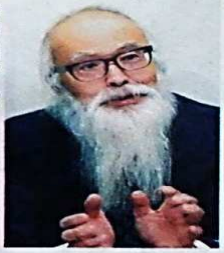
■万能論に潜む危うさ

当時の平岩外四経団連会長を座長とする細川護熙首相の私的諮問機関、いわゆる平岩研究会の答申は「経済的規制は原則自由に、社会的規制は〈自己責任〉を原則に最小限に」。日本社会を救う万能薬としてもてはやされた。

内橋さんは60代初め。百戦錬磨の眼力は礼賛論に潜む危うさを見逃さなかった。チームは先行した米国を調査し、新産業は本当に生まれるか▽雇用はどうなるのか▽アメリカの狙いは何か―を詳細に調べた。「日本の規制緩和運動はいわば大変危険な劇薬を患者に副作用を全く知らせず投与しようとしているのと同じ」。恩恵は権力の決定機構に近い投資家、大企業、都市生活者に行く。他方、中流層をなす勤労者、中小企業、地方生活者、年金生活者は「激流の中に放り出され、多くの人々が辛酸を嘗めることになるだろう」。

市場原理至上主義批判を行った内橋克人さん＝神奈川県鎌倉市の自宅書斎（2014年）

規制緩和という悪夢



宇沢弘文さん（1928～2014年）。数理経済学者。社会的共通資本の思想で内橋克人さんと共鳴した（1995年）

予言は的中した。格差社会の到来だ。10年余り後の2006年刊の「悪夢のサイクル　ネオリベラリズム循環」では増え続ける非正規雇用とともに所得格差が開く実情をデータで示した。増大する貧困層、増える自殺…。バブルと破綻を繰り返す中で

経済学の在り方を問う

共同体が壊される構図だ。「市場が人間を支配する思想が背景にある」として市場原理至上主義、新自由主義をあげ、その源流を探った。

■共生経済という対抗軸

「経済学は誰のためにあるのか」という問いを胸に内橋さんは経済学者にインタビューしていく。宇沢弘文、岸本重陳、佐和隆光、熊沢誠、西川潤といった碩学たちだ。規制緩和礼賛はあるべき日本経済論、社会論を見失っているのではないか。経済学はこれをどうただすのか。

「内橋さんは自由な一人の人間として、現在起こりつつあることを冷静な目で見て、アピーリングな形で提示してくださる」。経済学者で最も深く通じ合ったのが宇沢さんだった。成長理論で業績をあげ、ソローやスティグリッツら名だたる経済学者に影響を与え、「ノーベル経済学賞に最も近い日本人」と目された数理経済学の泰斗だ。

宇沢さんが目指す経済社会の根幹として打ち出したのが「社会的共通資本」という概念だ。自然環境やインフラ、金融、教育、医療を経済学で捉え直し、「人間が人間らしく生きていける社会の器」「コモンズ」と位置づけた。市場は万能という言説への対抗軸であり、内橋さん提唱の共生経済と軌を一にするものだった。2人の対談は「始まっている未来　新しい経済学は可能か」として09年に刊行された。（加藤正文）

規制緩和という悪夢　1995年刊。続編が「悪夢のサイクル　ネオリベラリズム循環」（2006年）。市場原理至上主義批判は内橋さんの終生のテーマとなった。「経済学は誰のためにあるのか」（1997年）もアカデミズムとジャーナリズムをつなぐ書。

神戸新聞2022.9.3.朝刊より

共生の大地へ

没後1年・内橋克人の歩いた道

④

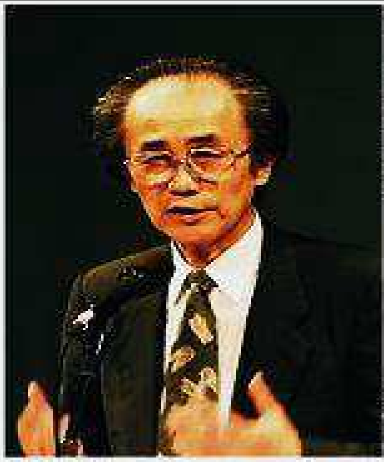
欠けていた「都市政策」

「叫び声も上げず、悲嘆もなく、恨みの言葉も吐かず、人も、大気も、故郷の街の全てが沈黙の闇に沈み始めている。被災地で目にしたものは、倒壊寸前、老朽をさらす実家だけではなかった」

1995年1月20日、内橋克人さんは羽田空港から開港間もない関西空港に飛び、空港から船で神戸・ポートアイランドを経てようやく被災地にたどり着く。発生から3日。国道に連なる車列は「遺体搬送中」「救援物資運搬中」。前後で立ち往生する救急車、消防車。倒壊した阪神高速道路の橋脚が見える。

■インナーシティー問題

須磨・板宿出身の内橋さんは空撮映像を見て自分の体が裸にされるように感じたという。長田、東尻池、菅原市場、商店街、市場、長屋、ケミカル工場…。少年時代から路地の奥まで知り、街の変化も実感していた。「重要なのは職住の町を中心にしたインナーシティーが空洞化していたことだ。六甲山の北側に宅地造成が猛烈な勢いで進んだ。老夫婦と年寄りがあの地域の老朽住宅に残された。今回そこがやられた」



阪神・淡路大震災から半年。講演する内橋克人さん。再生の行方を終生見続けた。「被災弱者の救済のあり方、人権意識、都市復興の進め方、全てが生身の人間を取り巻く現実となる」＝1995年7月、神戸市中央区

大震災 復興への警鐘

翌21日深夜、被災地で原稿を書き、送稿した。「壊滅の街から『都市と国家』を問い直す」。神戸市の行政理念だった「都市経営」の帰結として、住みよい安全な都市になっていたのかと問いかけた。「神戸市株式会社」「公共デベロッパー」として一時代を画し、「山、海へ行く」と呼ばれた開発手法で六甲山系を削り、人工島や西神、北神の大規模ニュータウンを造成した。博覧会も成功させた。都市経営は単に利潤を求め財政上の黒字を出すことを目的とせず、「最小の費用で最大の福祉を目指す」とうたったが、限界は時代とともに見え始めていた。

「神戸市が走り続け、その後をホンモノの企業が追う。自治体と企業との蜜月は、バブル崩壊に至るまでの『日本の長い冬の時代』を通して続いた。バブル崩壊後、資産デフレの進む中、巨額の資産償還と利子支払いの負担は消えたわけではない」。そこに大震災が襲った。雨の中、無残な姿をさらす生家の前に立ち、犠牲者を悼みながら考えた。老朽住宅の建て替え、生活基盤の整備、住民の立場からの区画整理、病院機能の強化…。「神戸市に欠けていたのは『都市経営』のノウハウやその巧拙ではなく、真の『都市政策』そのものだったのではないか」

橋脚もろとも横倒しになった阪神高速道路神戸線。国道43号を西に向かうバイクや車両が走る＝1995年1月17日午後3時、神戸市東灘区深江本町

■悲観的な無残

2月19日、ルポライターの鎌田慧さんと緊急対談する。刊行したのが「大震災　復興への警鐘」だ。鎌田さんが地震の続発に太平の終わりの、時代の予感がすると言うと、内橋さんは返した。「社会全体として何か悲観的な無残なものがくるような、そういう怖れですね」

16年後の2011年3月11日、東日本大震災発生。巨大複合災害として原発事故を引き起こした。内橋さんには1986年刊の「原発への警鐘」というルポがある。周辺住民は突然の避難命令で自宅を追われ、警戒区域に線引きされている。「その日までそこにあった『わがふるさと』に踏み入ることが許されない。特別の捜索隊の手で見出された亡骸との対面もDNA鑑定という書類に耐えなければならない。この無残を、私たち、私たちにつづく幾世代もの日本人は赦すことがあるだろうか」（加藤正文）

大震災　復興への警鐘　1995年刊。阪神・淡路大震災をテーマに鎌田慧さんとの対談をまとめた。98年刊の「同時代への発言2　「消尽の世紀」の涯（はて）に」は震災やエネルギーの論集。内橋克人編の新編「大震災のなかで」（2011年）は東日本大震災発生時の提言集。いずれも岩波書店。

神戸新聞2022.9.4.朝刊より

共生の大地へ

没後1年・内橋克人の歩いた道

⑤

働く者の尊厳見据えて

「私たちは、いつ、どこで踏み迷ったのだろうか」。阪神・淡路大震災から3年たった1998（平成10）年、21世紀の入り口を前にして内橋克人さんは問いかけた。この年、刊行を始めた全6巻シリーズ「同時代への発言」の初巻「日本改革論の虚実」の一文だ。「いま、世紀末の森のなかで日本人は途方に暮れている。社会を見舞う『まさか』の頻発時でさえ、いまは日常のものとなり始めた。日本経済の混迷を前に多くの日本人は辛く苦い味を心にくり返している」

■被災地の全日本化

90年代日本が重大な分岐点にある。そんな論調があった。バブルに踊り、「世界を制覇した」という自負に酔い、行政や企業の不祥事が繰り返され、その陰ですでに未曽有の金融危機が起き、銀行は破綻の淵にあった。阪神・淡路大震災では職や家をなくした人があふれたが、いま各地で路頭に迷う人々のブルーテントが見える。底の見えないこの90年代不況は「被災地の全日本化」ではないか。

不況の総対策として政府は矢継ぎ早に政策を行った。94年はスーパーの出店を容易にする大規模小売店舗法（大店法）の規制緩和、96年には派遣労働者の対象業務を拡大する労働規制の緩和。当時66歳の内橋さんが指摘した。「誰もが、先が見えない、という将来不安を繰り返しつつ、この『90年代日本』をやり過ごそうとしているのではないだろうか」「改革という名のフィーバーも、規制緩和という万能薬も、その虚実を見究めたいと希求している」

国谷裕子さんと和やかに語り合う内橋克人さん。番組「クローズアップ現代」では約20年にわたって同時代の課題を解析した＝2014年5月、神奈川県藤沢市

90年代不況の帰結

それから二十余年。市場原理に傾斜した改革の結果、地域商業はさらに追い詰められ、非正規雇用は増え続け、東京一極集中の中で過疎化、高齢化に歯止めがかからない。

90年代不況はより深刻化し、リーマン・ショックでは派遣切りなどが社会問題になった＝2008年、東京・日比谷公園、年越し派遣村

■弱者への共感

93年4月に始まったNHK番組「クローズアップ現代」で内橋さんは同14日に初登場した。以来、2014年10月30日まで計50回出演した。その21年間は阪神・淡路大震災、金融危機、リーマン・ショック、政権交代、東日本大震災といわゆる平成ショックが相次いで起きた。社会変動のたびに脅かされるのが雇用だ。「職なくば人間の尊厳もない」という信念が静かな怒りと化した。

当時キャスターとして向き合った国谷裕子さんは話す。「痛みを感じている人々が痛みすら声を上げられない。自己責任が問われ、苦しい思いをされている人がその苦しさを声にすることもできない。そんな社会に内橋さんは憤りを覚えておられた」

取り上げたテーマは雇用、中小企業、商店街、町工場、貸し渋り、農業、規制緩和、食、エネルギー…。揺れる同時代を共に見つめた国谷さんが感じたのは弱者への共感、それ故の切実さだった。「どうしたら働きがいのある労働がつくれるのか。社会転換できるのか。とりわけ弱い人たちがマネーや規制緩和の勢いに翻弄されないで生きていける社会とは、と常に問いかけておられた」

生きる・働く・暮らす。この三つが結び付いた確かで強い社会を創造する。それが内橋さんの終生のテーマになっていく。（加藤正文）

◇次回は14日に掲載します。

90年代不況　バブル崩壊後の経済停滞を論じた内橋克人さんの論考を収めた「同時代への発言」シリーズ第4巻（1998年刊）、第7巻「九〇年代不況の帰結」（同年刊）は規制緩和や市場万能主義への警鐘。いずれも岩波書店。

神戸新聞2022.9.4.朝刊より

共生の大地へ

没後1年・内橋克人の歩いた道

❻

シビアクシデント。原子力発電所が設計時の想定を超えて過酷な状態に陥る事故のことだ。米スリーマイルアイランド原発事故（1979年）、旧ソ連のチェルノブイリ原発事故（86年）、東京電力福島第1原発事故（2011年）が該当する。

内橋克人さんはスリーマイルアイランド事故から3年後の1982（昭和57）年、「週刊現代」で原発をテーマに長期連載を始めた。終生、原発の危険性を指摘し続けたが、その原点となった取材だ。「いわゆる原発賛成派でもなければ、まして反対派でもなかった。どちらからの情報もマル呑み込みせず、自分の目と足と頭で冷静に確かめる、というエネルギーを、原子力発電に対してさし向けた、ただそれだけだった」

■スロー・デス

技術、放射線と人体、補助金、PR戦略、政権与党との関係、発電コスト比較…。地域開発は人を幸せにするのか。その筆は次第に厳しさを増す。後の過酷事故を予見したかのように福島第1原発の取材は詳細をきわめた。地元福島県双葉町の町会議員の言葉をすくいあげる。「ホントに原発が安全なら、東京のまん中だってできるだろうに…」

1年余に及んだ連載で内橋さんが衝撃を受けたのがビッツバーグ大のマンクーゾ医学博士の警告だった。発がん物質の人体への影響を分析疫学の手法で調べた研究者でアスベスト（石綿）研究でも知られた。約30年間に原発で働いた労働者約2万5千人を調べた結果、がん発症の確率が高いことを突き止め、被ばくによる健康影響を示した報告を出す。「被ばくはスロー・デス（時間をかけてやってくる死）を招く」「狭い日本でもし原発事故が各地に広がった場合、一体日本人はどこに避難するのか」。博士の指摘が切実に響く。

記者会見で「原発にさようなら集会」について説明する（左から）鎌田慧さん、澤地久枝さん、内橋克人さん＝2011年6月、東京都千代田区

原発への警鐘

原発問題の連載を単行本にまとめたころ。当時52歳。精力的に取材に飛び回っていた＝1984年、米ボストン（提供）

「帰らざる河」渡った末に

見えてきたのは安全神話がつくられていく構図だ。「国がやることだから大丈夫」と鳴らされる国策の太鼓。著名人にヘルメットをかぶせて構内で撮影し、安全性をPRさせるメディア戦略。「恐るべき『日本的曖昧さ』と『無知の傲慢』に支援されて、ひとり原発は肥大化のピッチを上げ、立ち止まる瞬も振り向く余裕もないまま、日本人は原発超大国への帰らざる河を渡ってしまった」

■合意なき国策

2011（平成23）年3月11日。東日本大震災発生。巨大複合災害として福島第1原発事故が起きた。幾多の警告が葬り去られた末の「人災」だった。人々の魂に根差す平衡感覚、鋭敏な危険察知能力、生あるものに必須の畏怖心。事故が示したのは、それらすべてを焼き固め、錆型の中にねじ伏せて突進しようとする剝き出しの権力の姿に違いない」。6月15日、記者会見の席に内橋さんの姿があった。作家澤地久枝さん、ルポライター鎌田慧さんとともに声を上げた。「原子力政策は合意なき国策だ。活断層に入った地震列島日本を原発過密列島にしてはならない」

それから11年が過ぎた。政府はこれまで新増設や建て替えは想定しないとしていたが、次世代型原発の建設を検討する方針だ。回帰というべきエネルギー政策の転換が行われようとしている。（加藤正文）

◇次回は16日に掲載します。

原発への警鐘　1986年、講談社刊。雑誌連載をまとめて84年に刊行した「日本エネルギー戦争の現場」を文庫化した。福島第1原発事故の際は同書を部分収録した「日本の原発、どこで間違えたのか」を出した。朝日新聞出版刊。原発を取り巻く状況を多角的に取材・分析し、安全神話に警鐘を鳴らした。

神戸新聞2022.9.14.朝刊より

共生の大地へ

没後1年・内橋克人の歩いた道

❼

北海道の北東の端、オホーツク海沿岸から渚滑川に沿って奥に入る。滝上町。ここにかつてあった駅を保存した記念館がある。小さな駅舎、線路、駅名標識…。赤字ローカル線廃止対象として鉄路が消えてから約10年後の1994（平成6）年、内橋克人さんが取材に訪れた。

鉄道を失った町は自立の道を選んだ。平成の大合併に抗い、芝桜の名所として人を集め、赤い三角屋根の建物を配して「童話村」をテーマにまちづくりに取り組んだ。「都へと繋ぐ心の絆を失った同じ境遇の過疎地、中山間地、僻地、また地場産業を訪ね、荒い時代の風に立ち向かう人びとの悲嘆と勇気、逞しい想像力、健気な日常の物語を紡いだ」。日本経済新聞で連載された「共生の大地」は注目を集め、岩波新書になった。滝上町のルポを収録した章を「辺境と周縁」の条理」と名づけ、扉に廃線駅の写真を載せた。

■生きる・働く・暮らす

95年の阪神・淡路大震災以降、論調に変化が出てくる。規制緩和に能を切った90年代の長期不況の実態を見据えた後、市場原理一辺倒からの脱却の意義を確信に満ちて唱えるようになった。著書が続いた。「浪費なき成長」「（節度の経済学）の時代」「もうひとつの日本は可能だ」「共生経済が始まる」…。当時、市場原理の対抗思潮として経済学者の宇沢弘文さんは社会的共通資本、宮本憲一さんは内発的発展、維持可能な社会を打ち出した。時を経て気候危機が差し迫った現代、斎藤幸平さんは資本主義に代わる道として「脱成長コミュニズム」を主張した。

そうした未来図を内橋さんはいち早く感知していた。私たちの社会には二つの日本がある―。市場原理を至上とする競争セクター。生きる・働く・暮らすの三つが地域で重なり合う共生セクター。周縁に目を凝らし、周縁に向かう。「一つの日本ともう一つの日本を分かつ断崖の裂け目はいよいよ地殻の奥底にまで達したように私には思われる」

■FEC自給圏の形成

当時、NHK番組「クローズアップ現代」のキャスターを務めた国谷裕子さんに刻まれているのがFEC（フェック）自給圏という構想だ。フーズ（食料・農業）、エネルギー、ケア（介護・コミュニティー）の三つを地域内で自給していく社会。この三つは市場原理に委ねてはいけないんだ、市民が手放してはいけないんだということを四半世紀も前に言いだしておられた」

東日本大震災の起きた2011年の10月17日放送の「自給力～食とエネルギーを自給する暮らしの可能性」で新たな動きを示す映像の後、内橋さんは「これはノスタルジアではなく日本の未来を先取りした姿だ」と述べた。国谷さんは振り返る。「FECは基礎的な生存条件であり、そこにこだわることで地域に基幹産業も生み出せ、雇用機会も生まれ、尊厳ある労働につながる。必要なのが自覚的消費者だ。一人一人が、考える消費者になって『買う』という行為で地域を支えよう。内橋さんが繰り返して伝えてくれたメッセージだ」（加藤正文）

◇次回は21日に掲載します。

各地を取材で訪れた内橋克人さん。海や山を視界の隅にとらえながら、すでに始まっている未来を現実の中に探したい」と願った（提供）

周縁の条理

保存された渚滑線のレールと標識。内橋さんは地域再生に挑戦する住民たちの姿を追った（北海道滝上町提供）

FEC自給圏の形成　フーズ、エネルギー、ケアの頭文字を合わせた。内橋克人さんが提唱した自給自足圏を基礎にした経済社会。「浪費なき成長」（2000年、光文社）などに詳しい。「共生の大地」（1995年、岩波新書）、「同時代への発言6　周縁の条理」（99年、岩波書店）は地域再生の胎動を描く。

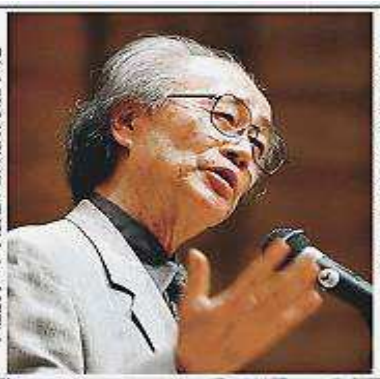
神戸新聞2022.9.16.朝刊より

共生の大地へ

没後1年・内橋克人の歩いた道

8

「人間復興」の経済を目指して



神戸空襲の体験を語る内橋克人さん。「頂点同調主義にからめとられた私たち日本人の姿さ、再びその発祥が色濃く突出してきた」＝2005年8月、神戸市中央区

2005（平成17）年8月20日午後。郵政解散に打って出た小泉純一郎首相（当時）が神戸・元町を遊説に訪れ、大観衆を前に演説した。同じころ内橋克人さんは近くのホールで語りかけていた。「今、満員のこの会場で声なき人々の声、力なき人々の力が満たされている」。神戸大空襲を語る会での講演だった。

その60年前の3月17日。大空襲で神戸の西半分が焼かれた。死者2600人以上。当時12歳の内橋さんはその前日、虫垂炎を発症し入院した。本来座るはずだった自宅裏の防空壕の席に母親代わりのような女性が座った。そこに焼夷弾が直撃し、壕は崩れた。父が掘り返した。「身を少し傾け、泥にまみれ、眠ったように座っていた。打たれた肩の形は崩れ、赤黒いものが左半身をべったりと覆っていた」（「荒野動乱」）。身代わりによって自分の生がある。終生、胸に抱き続けた。

■権論と民論

「改革なくして成長なし」「自民党をぶっ壊す」…。小泉流政治に国民は喝采を送り、時代の流れが大きく渦巻いた。これを時の政権、権力、支配層の利害を代弁する「権論」と呼んだ内橋さんは吉井の「民論」の立場から批判した。「官から民へ」というが、その民の中に市民、国民は入っているのか。民とは民間巨大資本のことではないか」

権論によって塗り潰される時代の流れ。異を唱えるものは排除される。「戦争前、扇動に煽られた国民は熱狂し、『鬼畜米英を撃て』と叫び、街なかを行進した」。少年の目に刻まれた光景。権威、権力に弱く、自ら上に合わせていく。そうした日本人の心性を哲学者久野収さんは「頂点同調主義」と呼んだ。危うさを知る内橋さんは繰り返した。「私たちの社会は戦前戦後変わっていない」。強いものに弱く、弱い者には強い。なぜノーと言えないのか。「私はここにこそ大きなテーマをみている」

未明の大空襲で建物が焼け落ち煙がくすぶる中を行き交う市民ら＝1945（昭和20）年3月17日、国鉄元町駅から西を望む

「頂点同調主義」の危うさ

作家城山三郎さん

■城山三郎さんとの対話

敬愛し、対話を重ねたのが5歳年上の作家城山三郎さん（1927～2007年）だった。少年兵に志願した海軍で徹底的に個を押しつぶされた。「組織のために尽くされる個人。戦後社会も個が置き去りにされる。組織と個人をテーマに経済小説の新境地を切り開いた。自由な個を脅かす風潮と対峙し、晩年には個人情報保護法の制定時に「言論弾圧につながる」と反対の論陣を張った。「戦争で日本が得られたものは憲法だけだ」が持論だった。

内橋さんは城山作品を読み解き、戦争と国家と並ぶ重要な柱として経済恐慌に注目した。昭和恐慌から開戦に至った道筋を踏まえ、バブル崩壊後の90年代不況がなぜ平成恐慌に至る手前で防ぐことができたのか。

「戦争放棄の憲法9条、生存権の25条が歯止めになった」と言うと城山さんは返した。「全く同感だ」

2人は雑誌「論座」の企画で3回にわたって対談した。大失業時代、敗者復活のある社会、昭和恐慌と平成恐慌―をテーマに語り合い、対談集『人間復興』の経済を目指して」を出した。

（加藤正文）

◇次回は23日に掲載します。

「人間復興」の経済を目指して　城山三郎さん、内橋克人さんの対談集。2002年、朝日新聞社。ほかに2人の対談は「失われた志」（文春文庫、00年）にも収められている。内橋さんの戦争体験は自伝的小説「戦禍彷徨（ほうこう）」（岩波書店、13年）に詳しい。

神戸新聞2022.9.21.朝刊より

共生の大地へ

没後1年・内橋克人の歩いた道

9

民主主義をあきらめない

書斎の机上に置かれた最後のラジオ出演の原稿。番組のファンは多く、亡くなった後は3回にわたってアンコール放送があった＝神奈川県鎌倉市

神戸市須磨区で生まれ育った内橋克人さんは海が好きだった。約30年暮らし、終の棲家となった神奈川県鎌倉市の自宅。海が見たくなると由比ケ浜海岸まで歩いた。

その鎌倉で作家井上ひさしさん、精神科医なだいなださんと連名で呼びかけ人となり、2005（平成17）年に「鎌倉・九条の会」ができた。その後、10年に井上さん、13年、なださんが亡くなった。発足10年を記念した15年5月の会で内橋さんは話した。「大切なお二人の姿はすでになく、悲しく、寂しく、私は立ちすくむ思いでここにいます」

差し迫る時代状況に危機感が強まっていた。当時の安倍晋三首相は集団的自衛権行使を容認する安全保障関連法の成立へ踏み起になり、反対論を押し切る形で14年7月、憲法9条の解釈変更を閣議決定し、15年9月に成立させた。国会周辺には「戦争法案、絶対反対」のコールが響いた。

「一本一本の花を引き抜く、そういう時代がこの日本社会にもやってくるかもしれない。けれども、どんなに強い権力をもってしても、やってくる春を止めることはできない」。講演はブックレット「民主主義をあきらめない」に収録された。

■最後まで発言

21年7月2日、89歳になった。体調がすぐれず、月末、心臓が苦しくなったが、病院に行かず横になって過ごした。8月1日朝、NHKラジオ「マイあさ！」に出演した。柔らかで本質を突くラジオでの経済評論は人気で長年続いていた。この日のテーマは「脱炭素社会―日本の針路を考える」。質問と回答を書いたシナリオに、聞き取りやすいように区切りの記号も入れ、強調すべき箇所はひときわ濃く蛍光ペンを引いた。気候変動に伴い世界各地で自然災害が頻発している状況から説き起こし、温室効果ガスの削減に触れ、とりわけ「石炭火力」の問題に鋭くメスを入れた。

1982（昭和57）年に原発を取材し「原発への警鐘」を刊行。エネルギーを取り巻く政官財の問題に精通していた。「日本では口では『脱炭素』を唱えながら実際には例えば『効率的な火力発電へシフト』などと平気で口にする識者が大手を振っているありさまです」と書かれたシナリオにペンで書き足した。「石炭火力をどう見直していくか。今朝のテーマもそれに尽きると思います」

放送3日後の8月4日、急性心筋梗塞で救急搬送され、入院。9月1日、息を引き取った。最期まで書きたいという思いだったという。

◇　◇

今年7月末、一周忌を前に内橋さんのお宅を訪ねたとき、書斎に向かう廊下の棚に封筒が立てかけてあるのに気付いた。表紙には自筆で「記者三訓　ジャーナリストの心構え」と書かれていた。1957年、神戸新聞で記者として歩き出したころ先輩からたたき込まれた鉄則だという。「必ず現場へ行き、自分の目で確かめろ」「上（権威や上司）を向いて仕事をするな」「攻める側ではなく、攻められる側に最後まで踏みとどまれ」。この三訓を胸に戦後社会の険しい道を歩いた。首尾一貫した見事な人生だった。

（加藤正文）

＝おわり＝

講演する内橋克人さん。晩年、兵庫で話すとひときわ熱い思いがこもった＝2018年11月、姫路市

内橋克人さんらの講演を収録した同ブックレット「取り返しのつかないものを、取り返すために」（11年）もある。

民主主義をあきらめない　岩波ブックレット、2015年刊。鎌倉・九条の会で行った講演を収録した。同会は05年発足。大江健三郎さん、

神戸新聞2022.9.23.朝刊より

状況に強い危機感 最期まで

神戸新聞2022.9.23.朝刊より

■神戸新聞 next internet 活字掲載版　紙面よりきっちり読めます

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0410Next.pdf

神戸新聞
2022年（令和4年）
9月23日
金曜日
神戸新聞社
〒650-8571
神戸市中央区東川崎町1-5-7
電話（078）362局
報道部 7040　文化部 7044
経済部 7094　販売局 7066
運動部 7095　事業局 7086
映像写真部 7047　メディアビジネス局 7081
読者本部お客さまセンター
078-362-7056
月～金 10～17時（土日祝休み）

5色のヒガンバナ 競演

加古川・円照寺で見頃

5色のヒガンバナが同時に咲く境内＝加古川市志方町広尾、円照寺

色とりどり5色のヒガンバナが、加古川市志方町広尾の円照寺境内を彩っている。一般的な赤をはじめ、ピンク、オレンジ、白、黄の約千株が見頃を迎え、参拝者を楽しませている。

上月義宗住職（75）が約20年前に栽培を始め、珍しい品種をインターネットで購入するなどし、現在は約3千株が植えられている。中でもピンクの花は珍しく、関東から訪れる愛好家もいるそうだ。

開花後は気温により5～7日は持つという。小野市から訪れた生花店の販売員中野鈴子さんは「5色のヒガンバナは想像以上にきれい」と感激していた。

9月末まで観賞できるという。円照寺☎079・452・2067（笠原次郎）

正平調

秋の彼岸はヒガンバナの開花と歩調を合わせてやってくる。先週、奥播磨を訪ね、田んぼの畦に咲き始めているのを見た。きょうは秋分の日だから、今が満開だろう◆曼珠沙華の別名があり、古来不吉なイメージもつきまとってきた。多年性の球根植物で、球根にリコリンという毒を含む。そのせいでモグラやネズミを遠ざけるから、昔の人が農作物の害獣対策に活用した。田んぼの畦でよく見かけるのはそのためだ◆お墓の周りに多いのも、土葬の時代に小動物の侵入を防ぐ知恵だった。鮮やかで妖しい朱色の花が並ぶと、あの世とこの世を隔てる赤い道のようでもある◆コロナ禍が生んだサービスは多いが、「オンライン墓参り」にはさすがのご先祖さまも驚いただろう。高齢の親と会うのを心配した人が、代行業者のネット中継を通じてお参りするという。墓の清掃もしてくれるそうで、ありがたいには違いない◆わが実家では、喜寿を過ぎた母親を交え「墓じまい」の話題も出るようになった。生まれ育った町と働き暮らす町が遠く離れた人には切実な問題だ。これでいいのかと皆が自問しながら、先祖供養の在り方も変わり始めている◆〈人間の道はここまで曼珠沙華〉星野早苗。深まる秋の始まりに彼岸と此岸の境を考える。　2022・9・23

和鉄の道・Iron Road

経済評論家 内橋克人氏の評論他 関連資料掲載記事リスト

2022.9.1.内橋克人氏没後1年　By Mutsu Nakanishi

2021年10月 From Kobe より

「経済評論家　内橋克人氏　逝去」の訃報に接して 懐い出すままに

https://infokkkna.com/ironroad/2021htm/2021mutsu/fkobeR0310.pdf

内橋克人さん死去

人重視の経済に信念

[評伝] 市場原理主義に警鐘

内橋克人さん死去 89歳

評論家、共生経済提唱

追悼

神戸新聞
2021年9月5日
日曜日

和鉄の道・Iron Road

経済評論家 内橋克人氏の評論他 関連資料掲載記事リスト

2022.9.1.内橋克人氏没後1年 By Mutsu Nakanishi

■2021.9.5. 内橋克人氏逝去追悼記事 内橋克人氏主要業績紹介

■2012.1.1. 年の初め 内橋克人氏の１００年後へのメッセージ

ホームページ「和鉄の道・Iron Road - from Kobe」に掲載紹介してきた内橋克人氏の記事リスト

◎和鉄の道・Iron Road －2012年の初めにより

内橋克人氏「100年後へのメッセージ」

https://infokkkna.com/ironroad/2012htm/walk9/2012nengakobe.pdf

◎和鉄の道・Iron Road From Kobe 2012年1月

厳しさを力に 経済評論家 内橋克人氏１００年インタビューに共感して by Mutsu Nakanishi

https://infokkkna.com/ironroad/2012htm/2012mutsu/fkobe1201.pdf

参考添付 内橋克人 NHK BS 2011.12.18. 放送 「内橋克人 １００年インタビュー」 視聴メモ

◎和鉄の道・Iron Road From Kobe 2013年8月より

あまりに多い「想定外・経験したことがない」の風潮

NHK 朝一番 ビジネス展望 内橋克人氏の解説を紹介

創造性の欠如した今の時代に異常気象にだまし絵をダブらせ今一番自分 にすっと入る

https://infokkkna.com/ironroad/2013htm/2013mutsu/fkobe1308.pdf

◎和鉄の道・Iron Road From Kobe 2013年9月より

新書 藻谷浩介・NHK広島取材班「里山資本主義-日本経済は『安心の原理』で動く-」の紹介

今 日本で一番求められている地域を元気にする

日本再生への道「里山資本主義 & 内橋克人氏の提案する地域自立自給経済圏」創設の実践

https://infokkkna.com/ironroad/2013htm/2013mutsu/fkobe1309.pdf

◎和鉄の道・Iron Road From Kobe 2018年12月より

日本の行く先がおもいやられる師走 数が頼りの薄っぺらな社会からの脱出へ 若者たちへの思いが募る

こんな思いを代弁して、神戸新聞 内橋克人氏ほかの評論にも

https://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/2018mutsu/fkobe1812uchihashi.pdf

戦後 日本が歩んだ道 NHK BS 2011.12.18.「内橋克人100年インタビュー」より

■ 戦争時代の反省 戦中・戦後 そして 今も続く社会構成の原点 日本人気質

- 頂点同調主義
- 熱狂的な等質化現象 リーダーにゆだねる・異を排する

■ 1960年代 高度経済成長 頂点同調主義・等質化の中で謳歌した高度成長

- 技術革新・技術力による生産量と質の著しい向上
- 公害ほかの矛盾に蓋をした成長
- 生産効率・物づくりに特化した改善技術の開発 独創性のなさが弱点
- 基礎技術・革新技術開発の遅れ

世界一の技術立国日本の謳歌 ⇔ 異を唱えられぬ日本の社会

■ 1970年代後半 石油ショックによる原油価格の急騰 「狂乱物価」とインフレ・構造不況へ突入

1974 第一次石油ショック・中東戦争 ・成長産業が素材産業から加工組立て産業へシフト

1979 第二次石油ショック・イラン革命 ・厳しい国際競争にさらされる

■ 1985年～2008年 バブル経済とその終焉 不況克服のための規制緩和と大型金融改革の時代

1986～ バブル景気 マネー資本主義の時代へ

アメリカ型資本主義 株価至上主義

1991 バブルの崩壊

■ 1990年代～ 不況克服へ 規制緩和と企業国際化の急速展開

2001 エンロンの破たん

2000 ～ 雇用不安など社会問題急拡大 企業の国際化急展開

非正規雇用 外国人投資の急上昇

グローバル化 市場原理主義経済

効率化・国際競争力

金融のビッグバン強欲資本主義へ

グローバル化の名のもとアメリカ中心の枠組に日本が飲み込まれてゆく

■ 2011年 東日本大震災・原発事故 そして年金問題と破綻寸前の国家財政 急激な円高 政治の貧困

日本経済の疲弊と格差拡大 企業の海外移転の急拡大

舵取りのなき日本に先行きが見えず 社会全体に広がる閉塞感・不安感

もうひとつの経済学「理念型経済学　-市場主語から国民主語の経済-」の提唱

予盾を解決することで、成長を生むことで「マネー資本主義に対抗する経済　これらの自立・自給がないと 国際マネーの餌食となる

トリクルダウン効果の枠組み今完全に崩れ去っており、 国際競争力・市場主義を礎に企業・金融優遇の政策の中で 国民の閉塞感と不安感はぬぐえない。
国際企業・金融依存から脱し、特に 現日本の社会の自己矛盾を生んできた源 食糧・エネルギー・高齢化〔介護・医療〕の分野で自立してゆく以外に、新しい日本構築の道はない。

- 自給自立型農業の構築

「ゆず」栽培から加工で30億円規模に成長した高知県馬路村

- 自給率数パーセントが市民共同発電など自然・再生可能エネルギーで自給率200パーセントを達成したデンマーク
- 介護・医療は今やビジネス構築の必要な先端産業

「理念型経済学　-市場主語から国民主語の経済-」の構築の実現は可能

予盾を解決することで、成長を生むことで「マネー資本主義に対抗する経済

これらの自立・自給がないと 国際マネーの餌食となる

- 頂点問題から脱して声をあげよう
- 賢さを伴った勇気を

市場主語から国民主語の経済構築へ

7月16日早朝　NHKラジオ朝一番　ビジネス展望

『働き方の多様化とは何か』内橋克人　2013.7.16.

内橋克人さんのビジネス解説　実に明快分かりやすい解説に
私には一番すっと入ってくる話になるほどと。

◎　多様な働き方・雇用・労働の多様化「働き方の多様化」と「働かせ方の多様化」は違う

◎　正社員として働くのは「権利」であって、様々な働き方は働く個人それぞれの都合の「選択」だ。

「日本ではこれが、ごっちゃにされて　都合よく使われて、今の厳しい社会状況を生んでいる。
同じように働いても、正社員と非正社員では、単に賃金格差にとどまらず、
雇用保険や福利厚生の手厚さの違いなど全般的な格差は極めて大きい。
正社員以外の働き方が増える事をもって『働き方の多様化』とするような考え方が、
いかに働く人の現実から遠い議論かが、改めて分かるであろう。」と。

内橋克人氏は「『職無くば人間の尊厳もない』働くとはすなわち、人間がどう生きるのかという問題である」と説き、

「国際競争力をつけるようなグローバル　スタンダードが
非正規雇用を増やすことだとの錯覚を日本では植えつけられているが、
けっしてそんなことはない　」

と欧米の具体的な事例をひいて言う。

◎　例えば、『オランダモデル』。の例示

同一労働同一賃金を前提にし、労働時間の長短による差別をなくして、賃金は均等割り。
均等待遇の上に立った長時間労働を正社員と、短時間労働制社員の2種類しか労働は存在しない。

2018. 11. 29. 神戸新聞(1・2面掲載)

「針路21」欄 内橋克人氏評論 整理転載

「安倍外交」の実相 針路21

目立つ内外の食い違い

内橋 克人

国を危うくする言い繕い

「安倍外交」の実相 針路21

もう一つの日本は可能だ

共生の大地へ

没後1年・内橋克人の歩いた道

働く者の尊厳見据えて

戦後 日本が歩んだ道 NHK BS 2011.12.18.「内橋克人100年インタビュー」より

- 戦争時代の反省　戦中・戦後 そして 今も続く社会構成の原点　日本人気質
  - 頂点同調主義
  - 熱狂的な等質化現象　リーダーにつかだねる・異を排する
- 1960年代　高度経済成長　頂点同調主義・等質化の中で謳歌した高度成長
  - 技術革新・技術力による生産量と質の著しい向上
  - 公害ほかの矛盾に蓋をした成長
  - 生産効率・物づくりに特化した改善技術の開発　独創性のなさが弱点
  - 基礎技術・革新技術開発の遅れ

  世界一の技術立国日本の謳歌　⇔　異を唱えられぬ日本の社会
- 1970年代後半　石油ショックによる原油価格の急騰　「狂乱物価」とインフレ・構造不況へ突入
  - 1974　第一次石油ショック・中東戦争　・成長産業が素材産業から加工組立て産業へシフト
  - 1979　第二次石油ショック・イラン革命　・厳しい国際競争にさらされる
- 1985年～2008年　バブル経済とその終焉　不況克服のための規制緩和と大型金融改革の時代
  - 1986～　バブル景気　マネー資本主義の時代へ
    アメリカ型資本主義　株価至上主義
  - 1991　バブルの崩壊
- 1990年代～　不況克服へ　規制緩和と企業国際化の急速展開
  - 2001　エンロンの破たん
  - 2000 ～　雇用不安など社会問題急拡大　企業の国際化急展開
    非正規雇用　外国人投資の急上昇
- 2011年　東日本大震災・原発事故　そして年金問題と破綻寸前の国家財政　急激な円高　政治の貧困
  日本経済の衰弊と格差拡大　企業の海外移転の急拡大
  乾取りのなき日本に先行きが見えず　社会全体に広がる閉塞感・不安感

グローバル化　市場原理主義経済
効率化・国際競争力
金融のビッグバン強欲資本主義へ
グローバル化の名のもとアメリカ中心の枠組に日本が飲み込まれてゆく

7月16日早朝 NHKラジオ第一 ビジネス展望

『働き方の多様化とは何か』内橋克人　2013.7.10.

内橋克人さんのビジネス解説　実に明快分かりやすい解説に
私には一言すっと入ってくる話になるほどと。

◎ 多様な働き方・雇用・労働の多様化「働き方の多様化」と「働かせ方の多様化」は違う
◎ 正社員として働くのは「権利」であって、様々な働き方は働く個人それぞれの都合の「選択」だ。

「日本ではこれが、ごっちゃにされて　都合よく使われて、今の厳しい社会状況を生んでいる。
同じように働いても、正社員と非正社員では、単に賃金格差にとどまらず、
雇用保険や福利厚生の手厚さの違いなど全般的な格差は極めて大きい。
正社員以外の働き方が増える事をもって『働き方の多様化』とするような考え方が、
いかに働く人の現実から遠い議論かが、改めて分かるであろう。」と。

内橋克人氏は「『報われくば人間の尊厳もない』働くとはすなわち、人間がどう生きるのかという問題である」と説き、

「国際競争力をつけるようなグローバル　スタンダードが
非正規雇用を増やすことだとの錯覚を日本では植えつけられているが、
けっしてそんなことはない 」

と欧米の具体的な事例をひいて言う。

◎ 例えば、『オランダモデル』の例示
同一労働同一賃金を前提にし、労働時間の長短による差別をなくして、賃金は均等割り。
均等待遇の上に立った長時間労働を正社員と、短時間労働制社員の2種類しか労働は存在しない。

【参考】■【2021年10月 From Kobe】内橋克人さん逝去に想いをつのらせて 想いだすままに
常に現場に立ち、自分の眼で確かめ、権威におもねず、攻められる側に身を置く視点
「現場・人間主義」を貫いた巨星　　by Mutsu Nakanishi
添付「和鉄の道- from Kobe」に掲載紹介してきた 内橋克人氏の記事リスト
https://infokkkna.com/ironroad/2021htm/2021mutsu/fkobeR0310.pdf

収録②

【From Kobe fkobeR0410B.pdf 】2022.10.1.
収録2. 鉄の街 尼崎　鉄のモニュメン　設置後約半世紀鉄鋼戦士の像と尼崎讃歌
神戸新聞の記事そのものの作者の意図と私の思いが違っているかもしれません　神戸新聞記事より転記整理

工都の「光」と「闇」の象徴

阪神尼崎駅前に設置半世紀 鉄鋼戦士の像 と クスノキ

2022.9.22. 神戸新聞　朝刊　より

「鉄 鋼 戦 士 の 像」 1942年作　尼崎市中央公園

こんな像がたっている!!　阪神尼崎駅前中央公園に立って半世紀　びっくりです

【正式名 工都尼崎青年の像】鉄鋼戦士の像 碑文「工都尼崎」讃歌

躍進する工都　尼崎の姿
踏みしめる大地　火と燃ゆる情熱
鎚の響きもたくましく
永遠に輝く　繁栄の鍵は　守り継がれる

作 胡本竪平

「工都の「光」と「闇」の象徴　-阪神尼崎駅前に設置されて半世紀　鉄鋼戦士の像とクスノキ -」の記事
記事の作者は鉄鋼戦士の像を工都尼崎「闇」の象徴として記事を書いたのかもしれないが・・・

１０月１日　神戸新聞朝刊に下記の記事が掲載され、全く知らずでビックリしました。
「工都の「光」と「闇」の象徴　-阪神尼崎駅前に設置されて半世紀　鉄鋼戦士の像とクスノキ -」の記事
記事の作者は鉄鋼戦士の像を工都尼崎「闇」の象徴として記事を書いたのかもしれないが・・・

工都の「光」と「闇」の象徴

阪神尼崎駅前に設置半世紀　鉄鋼戦士の像　と　クスノキ

木陰にたたずむ工都尼崎青年の像＝尼崎市神田中通1

クスノキとともに立つ四国銀行の石碑

2022.9.22.　神戸新聞　朝刊記事　より

尼崎市の阪神尼崎駅前にある中央公園を歩いていると、何やら熱い視線…。木陰から、いかめしい顔でハンマーを振りかざす銅像がこちらをにらんでくる。さらに、近くには芝生広場の中央にクスノキの一本木がそびえる。実は、どちらも間もなく設置から半世紀。この二つは当時、尼崎が工業で栄えたことをたたえつつ、公害問題の解決を願うという「工都」の光と闇を象徴しているのだ。（村上貴浩）

繁栄の陰で公害問題深刻化

50年前の1972（昭和47）年の尼崎市といえば、人口が約55万人とピークに達し、第1回の市民祭りが開かれて街は活気にあふれた。一方で南部の空には黒煙やスモッグが立ち込め、工業廃水でごみためのようになった川もあった。公害対策審議会が設置されるなど、市民運動も盛んになった時期でもあった。

市の玄関口に二つのオブジェが生まれた経緯を調べてみた。

◆工都尼崎青年の像

像は左手にペンチのような道具を持ち、右手のハンマーを打ち下ろそうとしている。片膝立ちで踏ん張る足元には炎が噴き上がっている。

そう、まさに製鉄作業員の姿だ。当時の資料によると、工業の神様と尼崎の労働者を表現したといい、火打ちして作っているのは、その名も「繁栄の鍵」。像の正式名称は「工都尼崎青年の像」だが、市民の間では「鉄鋼戦士の像」の呼び名でも親しまれている。

72年11月、尼崎ライオンズクラブが設立15周年に設置した。台座を合わせて高さは約4㍍で、総工費は当時の金額で300万円かかったらしい。

作者は地元の彫刻家、胡本鑿平さん。台座には「躍進する工都　尼崎の姿」との前書きで碑文がある。

当時の資料には「工都にふさわしいシンボルを」と設置理由を記しつつ「尼崎市には文化的な面が非常に少ない」とあり、

工業の神様と労働者を表現

台座に刻まれている文言

クスノキとともに立つ四国銀行の石碑

市民が美術品に触れられる空間をつくる狙いもあったようだ。

一方で、こんな言葉も。「人それぞれのお考えもある事とは存じます」。工都としての発展を顕彰するも、深刻化する公害問題を前に手放しでは喜べないという当時の事情がにじむ。

◆四国銀行の石碑

そんな世相の中、銅像と同時期の72年10月に植樹されたのがクスノキだ。木の下には高さ約2㍍の石碑を置いて「尼崎に緑と青空を」と刻む。

設置したのは、高知県に本店を構える「四国銀行」。尼崎支店の開業を記念して「高知のように、きれいな空気の街になってほしい」との願いを込め、石

碑にも高知県産の「吉野川青石」を使ったという。

四国銀行は関西への進出を進める中、支店開業時には地域で完成パーティーを開くのが慣例だった。しかし、尼崎支店はオイルショックなどの影響でかなわず、石碑とクスノキの寄贈に変更。当初は２本を植えたが、１本は枯れてしまったという。

◆50年を節目に

半世紀が迫り、「工都」を支えた尼崎の鉄鋼業は企業の再編などで縮小しつつ、機械工業の台頭もあって、製造業は今も関西経済を支える。一方で公害問題は88（昭和63）年に公害指定地域が解除され、国道43号排ガス訴訟やアスベスト問題を経て、街は再生しつつある。

尼崎ライオンズクラブの木和田喜博会長(79)は「街はどんどんと変わっていったが、尼崎の歴史を示す私たちの像が残っていることは誇らしい」と胸をはった。

四国銀行尼崎支店の梶原政幸支店長(47)は設置50年の節目に石碑とクスノキのイラスト付きの置き時計を得意先に配る予定という。

「人情にあふれる尼崎の街で50年間、（銀行業を）続けさせていただき、感謝しかない。石碑はその歴史の一つです」

工都尼崎青年の像が完成した当初の写真（提供）

鉄鋼戦士の像碑文「工都尼崎」讃歌

躍進する工都　尼崎の姿
踏みしめる大地　火と燃ゆる情熱
鎚の響きもたくましく
永遠に輝く　繁栄の鍵は　守り継がれる

作 胡本蟹平

１０月１日　神戸新聞朝刊に上記の記事が出た。定年まで鉄鋼会社に勤務してきた私の故郷「尼崎」にある「工都 尼崎の象徴『鉄鋼戦士の像』」とその碑文。

阪神工業地帯の中核として日本の高度成長を支え、尼崎を人口５０万の大都市の繁栄をもたらした「鉄鋼の街 尼崎」「工都尼崎」の言葉。

街が緑一杯の美しい姿に変貌する中で、「公害」・「犯罪」の悪イメージの代表として、この街でこの「工都 尼崎・鉄鋼の街」の言葉が、まるで禁句ででもあるがごとく、また、鉄の街の歴史を封印しているように見え、尼崎で育ち、鉄鋼の仕事一筋の人生を送る私には歯がゆくて仕方なし。

また、私もよく知る阪神尼崎の駅前ですが、「鉄鋼戦士」像があったなど　全く記憶なし。

居を神戸に移しても朝夕の通勤含め、毎日通った阪神尼崎の駅前の公園なのに‥‥‥

駅前の公園が　この間、何度も改修されたにもかかわらず、この像が維持されていることを初めて知りました。

本当にうれしい限り。　かつての「工都尼崎」の歴史の生き証人としてずっと維持してほしいもの。

また、この先蓄積してきた技術を展開して、脱炭素社会へむけて　新しい工都の姿を見せてくれる象徴になってくれたらと。

今　時代が変わって　尼崎もまた新しい街「住みよい街　尼崎」への変身を懸命に進めているのも事実。

この９月　コロナ禍の中で失職したシングルマザーの生きざまを描くNHKTVドラマ「あなたのぶつブツ、ここに」が尼崎を舞台に放映された。　その生きざまと共に　この地域・職場に生きる人々　相互の絆・人情の機微・交流が尼崎の街でなければ…と大好評になった。

私もずっと見ていたのですが、初回は「新しい街を売り物にしたい時に、こんなに尼崎の街を露骨に表現しよって、市役所はおこっとるやろなぁ」と。　でも 尼崎の街の姿 & 街に暮らす人たちの会話がすごく人気に。

私には子供のころから知る尼崎の姿のオンパレード。「こんなことも　こんな人もいた」と出てくる街の姿に、思いを馳せながら、最終回まで見ていました。

今や尼崎の姿は「住みやすい街 関西No1」「関西穴場の街No1」と多くの人に評価されて人気急上昇中。

でも　忘れてはならないのは　尼崎の「人情」「きさくな飾らぬ絆」等々は かつて、日本各地から数多くの人たちがやってきて、鉄鋼の街で　お互いが接しあってできた気質。　変わりゆく街の中で、いわば「工都 尼崎」の財産。「工都尼崎」の歴史を消し去らず、大事にしてほしいなあと。

この「「鉄鋼戦士の像」はそんな工都尼崎の生き証人　いつまでも大事にしてほしいと。

また　鉄鋼戦士像の台座に刻まれた製作者 胡本蟹平氏の碑文の詩　鉄鋼の街「工都尼崎讃歌」も忘れない。

うれしい故郷尼崎の記事でした。　**私には確かな記憶なく、早速尼崎へ像を見に行ってきます**

2022.10.1.　From Kobe　Mutsu Nakanishi

「工都の「光」と「闇」の象徴　-阪神尼崎駅前に設置されて半世紀　鉄鋼戦士の像とクスノキ-」の記事
記事の作者は鉄鋼戦士の像を工都尼崎「闇」の象徴として記事を書いたのかもしれないが・・・

Fkobe
R0411.pdf

2022 四季折々

From Kobe 2022

【From Kobe 2022 11月】　深まりゆく秋2022　　神戸コスモスの便り　2022. 11. 7.

澄み渡る空に爽やかな秋風に　南へ帰りを急ぐ渡りの蝶が舞う
コスモスが揺れ、コスモス畑は満開に
秋の収穫も無事済んで 神戸近郊の里に実りの秋の到来

仲間からもうれしい便りが次々と。
◎ M.A さんから毎月の小冊子「ニューモラル」
◎ N.M さんからは
秋色満載の動画<<いい一日を!!>>が届き、
５回目のワクチン接種 11 2.21 に決めたと
◎ H.M さんからは同窓会にいってきました
お座敷小唄のパロディ大合唱しましたと

2022 コスモスの秋　何よりです

あっという間に秋真っ只中　　お元気でしょうか
コロナの感染爆発もやっと収まり、小康状態
３年ぶりに自粛の行事やスポーツも復活
笑顔の若者たちの姿もも街に活気が戻りつつあります。
寒くなるにつれ、インフルエンザの流行も懸念され、
まだまだ予断許さずですが、ほっと一息
久し振りに少しづつ街へ
仲間との久しぶりの再会もうれし。
でも 後期高齢の仲間入り
厳しい世相　引き続き感度をあげて
我慢せず　助けのこえをあげて!!
相も変わらずですが、11月神戸 コスモスの便りお届けします
ひとりじゃない　時には声を上げて　がんばらないで!!
「自分の身は自分で守る」の心意気
仲間がいる　互いに連絡とりあって　また再会できますよう
仲間みんなにエールを送ります
God be With You!! 元気に前向いて
2022.11.5.　From Kobe　Mutsu Nakanishi

■掲載記事リンクリスト 2022年11月 11月秋 神戸コスモスの便り2022.11.5.
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/R0411.htm#LIST

１１月更新パスしようかなあと思っていましたが、、コロナ感染の自己行動規制が緩んで、約３年ぶり　秋のイベントやスポーツが開催されるようになり、笑顔の若者の姿が増え、街に活気。見渡す周囲の秋の美しさ
ゆっくりと移りゆく自然　神戸の田舎の美しい秋景色を発信したいと。

一方　一世相は引き続き混乱の中　ホストコロナ生活•経済の立て直しに地球環境激変による世界規模の災害多発。
そんな中でロシアのウクライナ侵略、世界を巻き込んでとんでもないことに・・・・・。　北朝鮮は日本海・太平洋に向け、多数のミサイルを撃ち込み、核を武器にした脅威をばらまく。
どう考えても　日本一国だけではどうにもならず。日本は国際社会の中で　役割を演じれるのか????…
アメリカ・西欧／中国/ソ連　そして韓国・北朝鮮のはざまに立って　強がりは言うが、今までの経験・繁栄蓄積が跡形もなく消え去り、資源がなく、自給自足経済を営なむとができない日本にあって　数多く日本の課題が今露見している。
でも　リーダー層はほうかむり。そのうち　誰か強力なリーダーがでてくるだろうとの付け焼刃のご都合主義
それこそ　トランプ・プーチン・習近平の大国選民の恐怖政治もしくは人類破滅の核ボタン戦争の時代になりかねぬ。
そんな中で　日本はいまだに年寄り中心の頂点同調の体たらく過去をおいつづけているのか・・・。
今日本でも知らず知らずのうちに　ゲームや仮想未来の空間で大人も子供もそんなゲーム感覚に浸っている人も多い。
もはや　今までの手法が通用しない、非現実が現実に起こる時代に・・・・・
はやく脱してほしいなあ・・・・と。

◆　和鉄の道・鉄の話題　先が見えぬ低炭素社会の取組　鉄は今どうなんだろう・・
低炭素社会実現のための日本の取組むべき道が見えてこない　朝令暮改　後はなしのつぶて…
旗振る産・学・官　でも　１年たっても２年たっても一向に具体的進行取組とその成果が見えぬ

和鉄の道・鉄の話題　先が見えぬ低炭素社会の取組　鉄は今・・・・・
低炭素社会実現のための日本の取組むべき道
旗振る産・学・官の具体的取組の中味進行と次なる目標がはっきりしない

◎政府は未だに場当たり的　声をかけるだけで先頭に立つ気がなし
◎海外が日本の新しい産業に目を向けてくれねば、補助金だけでは明日はなし。
◎いまだに一人　円安容認を経済復興の旗頭にする政策
これ強い産業あっての政策ではないか　技術立国日本は今はなし。
いい例が今　日本に海外の観光バイヤー・高級中古買い物ツアー　日本では　自国では手の出ないものが手に入る
逆に日本からワーキングホリデーを利用して海外で働く若者が急増　同じ労働が海外では数倍の賃金で
◎大企業・財界・労働組合　年寄りの仲間意識・経験だけではどうにもならぬ先がない時代に……
なんせ　日本にはマニュアル・絵に描いた餅のロードマップのみ。
推進リーダ・具体的なチェック・フォローの実践がない。いまだに品質偽装　それもなれ合いかも・・…
TV番組の再放送がおもしろい　昔はきっちり理詰めの筋書き組立て　今のは無理やり複雑にして、
役者ばかりにスポットライト　スリラー組み立ての面白さが全くなし。まさに世相の反映か・・…
◎朝令改暮　つれもていこらでは沈没する

このロシアのウクライナ侵攻・Postコロナの中で　ばらばらですが、次々と日本の課題が噴出している。
個別の課題に見えるが、病根は一つ
奇跡は起こる　それも意外なところから・・・・・・・・
みんなが持ってるプロジェクトXの芽　NHKドラマが示したように
それを引き出すのは誰なのか・……
発想の転換　人の眼には意外と映る潮流がきっと埋もれていると。

口先ではなく　若い人・女性の眼をいれ、逆に高齢者の働きをオールラウンドから決められた守備範囲の中で
モグラたたきを制限して　新しい潮流を組み込まねば……と思う。
関西には「やってみなはれ」の風がある。　この課題はリスクマネージメント
それこそ　このリスクマネージメントをAIに担わせれば　もっとスムーズにいくと思うのですが・・…

どうも自分も上記のおなじむじなやなあ・・・・とも
頭もやもやで整理がつかず、最近のニュース等から頭に浮かぶことを書き出してみました。
勝手な私のメモ書き　年寄りの戯言とお許しください。
2022.11.5.　From Kobe　Mutsu Nakanishi

そんな本年の秋ですが、周りを見渡せば、ゆっくりと時が流れる日本の秋の原風景
毎年眺めるコスモスの秋到来　　自然はうそをつかないと。
まとまりのない１１月コスモスの便りですが、神戸の秋景色が爽やかな秋の風を吹き込んでくれれば幸いです。、

「弱気になったら　あかん!!」「弱気になったら　あかん!!」と
自らを励ます毎日　再会できるのを楽しみに　Got Be With You!!

From Kobe　　2022.11.5.　Mutsu　Nakanishi

◎　2022.11.7.日　神戸新聞朝刊　コラム「正平調」には　こんな記事も・・

正平調

きょうは立冬。炎暑の夏が終わり、肌に心地よかった秋の風もこれからは次第に身を刺す冬の風に変わる。〈凩や海に夕日を吹き落す〉（夏目漱石）。日が暮れるのも随分早くなった◆ちょうど今ごろ、冬の訪れを告げるように吹き荒れる冷たい風を木枯らしと呼ぶ。「凩」は国字といい、日本で生み出された漢字。四季折々、列島に吹く風の中でもとりわけ人々の感傷を誘う風だったのだろう◆さて、この冬の冷え込みがいつにもまして骨身にしみそうだと感じるのは、何も木枯らしのせいだけではあるまい。食品をはじめとする値上げの嵐はいっこうにやまないで、家計にびゅうびゅう吹き付けている◆「神無月ではなくて金無月です」。陰暦10月の異称をもじった読者からの投稿を本紙「ニュース怪説」欄で読んだのは先月のこと。10月に続いて、11月もあれやこれやと「値上げ」の字を新聞で見ない日はない◆岸田政権はお寒い支持率に活を入れるべく、どーんと派手な経済対策を打ち出した。どうだろう。懐具合はいっとき温まるかもしれないが、嵐の出口は見えず、バラマキの借金はいずれ国民に請求書が回される◆とまあ、こんなことを書いていたら胸の中をまた木枯らしがびゅう。せめて気持ちだけは温かくまいりたい。　2022.11.7

まとまりのない11月コスモスの便りですが、神戸の秋景色が爽やかな秋の風を吹き込んでくれれば幸いです。

2022.11.7.　from Kobe　Mutsu 作成。

参考：2022年11月神戸の秋景色　https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/R0411.htm

■ 掲載記事リンクリスト 2022年11月 11月秋 神戸コスモスの便り　2022.11.5.
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/R0411.htm#LIST

From Kobe 2022

Fkobe R0412.pdf

fkobeR0412.pdf

【From Kobe 12月　師走】

あっという間の一年が過ぎて　12月師走 神戸便り　2022.12.15.

色鮮やかだった街路樹も１２月落葉がはじまり、落ち葉を踏む音が心地よい 初冬の訪れを感じる街景色

神戸の街にルミナリエの日が今年も中止になりましたが、３年にわたるコロナとの付き合いの中で、コロナの実態が少しづつわかってきた。

ワクチン接種・医療関係者の献身的な加療経験ノウハウとうのちくせきと治療薬も認可。行動の自主規制も何となく緩和され、街があかるさをとりもどしつつ新型コロナ収束の道がやっとみえ、街に活気が出てきた師走になりました。

コロナ波の流行がひそかに進行中ですか、なんとかこのまま収束してほしいと願っています。

スクラム組んで　コロナ収束まで　もうひとふんばり

みんなの笑顔が取り戻せるよう　明日への思いを託して

Merry　Christmas !!　 God be with You!!

一日も早く、ウクライナに平和な暮らしが取り戻せますように

■ 若者の時代到来を体現してくれたサッカー　ワールドカップ

「あきらめない　一つになれば　奇跡は何度も起きる」

この厳しい時代を生きる知恵　期待から確信へ

■ うそをつかない「科学の眼」　若者たちへのバトンタッチを日本は急がねば

■ 和鉄の道一年を振り返って

■ 収録　桂文珍さんの落語的見聞録　神戸新聞１１月１１日＆１２月８日朝刊より

「世界が一周回って１ドル/３６０円??」＆「にわかファンがカタール夢」

1. 若者の時代到来を 体現してくれたサッカー　ワールドカップ

奇跡は何度も起きる　＆　うそをつかない「科学の眼」

この厳しい時代を生きる知恵　期待から確信へ

「あきらめない　一つになれば奇跡は何度も起きる」

12月トップ　新しい事態の始まりを告げるがごとく
ワールドカップカタール世界大会で、日本の若い選手たちが躍動
新しい時代の道を示すがごとくに!!
10・11・12月 本物の奇跡が３度も　おめでとう!!
新しい時代を切り開く若者たちに乾杯!!

■ われらみんな地球人　互に思いを寄せて

Merry　Christmas !!　God be with You!!　by Mutsu Nakanishi　From Kobe

高齢化が進む中で迎える「ポストコロナ・低炭素社会構築」大変革の新時代 幕開け
はじめて気が付いた戦争の悲惨・核戦争の危機　ゲームの世界が今現実にわが身に降りかかる
島国として守られてきたぬるま湯日本が、厳しい現実にさらされている。
地球人としての自覚なしには生きられぬ時代に
うそをつかない「科学の眼」　若者たちへのバトンタッチを日本は急がねば

若者たちが世界へ飛び出し、躍動したこの１２月
この１０・11・12月　オリックス野球の躍動も附豆、奇跡が３度も　目の前で起きた
気負わず粘りぬく神髄を見たせてくれた　年寄りもみんながみんな　これぞこれからの生き方か……
自分流にいえば、知力の衰えを自覚して好奇心・気力・行動で　仲間と共にスクラム組んで臆せず役割を果たそうと。
◎ 嘘をつかない「科学の目」を養おう。
よく「真実は一つ」とよく言うが、その見え方　姿形は様々。　色々描かれてきただまし絵やPhot トリック等がそれだ。
様々に見える「真実の姿・形」を見抜く目。　それが嘘をつかぬ「科学の目・判断力」

政治家がよく使う手「即物的・スピードを良しとする近視眼的目」には幾つもある「真実の姿」が映らない。
世間にはそれを意図的に利用している節も垣間見える。
今 日本で一番不足しているのが、この「科学の目」日本は今　まさにこの科学の眼が試されている。
そんな折に サッカー日本チームの執念の技 １ミリの重なりを見抜いた科学の目の存在を大きく知らしめた。
日本の科学者たちも政治家の手法に取り込まれず、もっと科学の目を養い、独自の声をあげねばと。
「科学の目からすれば、真実は幾多の姿をして現れる」
奇跡は一回でなく、真実の姿もいくつもある。
オリジナルを見据え、先端を突き詰める。ルーツに遡る。そして総合・スクラム・視点解析等々
科学の目を養う方法がいくつも試されて勝ち得たサッカー日本チームの若者たち
カタールでのうれしい体現に日本がそして世界がわいた。

「若者の時代が来ている」とつよく感じられた本年の年の暮れになりました。
うそをつかない「科学の眼」　若者たちへのバトンタッチを日本は急がねばと
穏やかな暮らしが実現できるよう　老いも若きも　スクラム組んで
新しい時代へ　前向いて　第一歩

和鉄の道 HP にお付き合いありがとうございます。来年もよろしく
God be with You!! も口癖に 高齢で迎えるポストコロナ・変革の厳しい新時代を前向いて
みんなの力で取り戻そう　穏やかな日常をと
今年一年　いろんな思いが駆け巡る師走です
忘れてはならぬ第一歩　コロナワクチン接種１２月１５日に受けます。
2022.12.2.15.　FROM KOBE　Mutsu Nakanishi

2.　深まりゆく秋から師走へ あっという間の一年を振り返って

厳しい年の暮れですが、明日への希望を願って「MERRY CHRISTMAS!!」
今までに経験したことがないことが色々あった一年。
コロナ禍の中で、日本の緊急医療システムの破綻・過酷自然災害の続発。そして、ロシアのウクライナ侵攻の残虐さと大国の傘に頼る虚しさ。
科学・モノづくり立国と叫べども　気が付いてみれば、先進国に遠く及ばず、中進国にも追い抜かれる現実。
そんな現実にもほうかむり。　「自分たちでなければ」の心地よい言葉の都合主義のバラまき政治
みんなが気が付き始めたおかしな日本の一年。
本年掲載してきた「和鉄の道」よくまあ　同じことを
ぶつぶつ言ってきたなぁ……と。
ずっと感じていた若者たちへの世代交代の必要性　でも　希望はある。
嬉しい NEWS　世帯交代を体現してくれたサッカー日本チームの若者たち。
最後までぶつぶつの一年。お許しください。

◎ 今年一年の和鉄の道掲載件数

「和鉄の道・IRON ROAD」	：13 件
「風来坊・COUNTRY WALK」	：28 件
「四季折々 神戸便り・FROM KOBE」	：11 件

■ 2022 和鉄の道・IRON ROAD」：　13 件
世界が取り組む「ポストコロナ　低炭素社会構築への大変革」
今年も CO_2 増加による地球環境変化が元ラス激甚災害の急増への根本対処は待ったなし。
でも　ロシアのウクライナ侵攻が影を落とす。
自然エネルギー・再生エネルギーのみではとどうにもならず、石炭火力・原子力発電の見直しを各国が進め始めた。
日本も・・・・でも　軸足の定まらぬ日本　具体的アプローチ並びに目標への具体的な道が見えぬ日本。
情勢は刻々変化。　でもわれら地球人　一人足踏みするわけにはいかぬ。
インターネットを中心に私の目に留まった世界の低炭素社会へのアプローチ。
玉石混合でしょうが、日本を含め、この世界の社会変革の時代の取組を
私なりに引き続き調べてみたいと思っています。
そんな中で、ずっと気がかりだった日本の鉄鋼業。　日本の鉄鋼業は度゛ンな姿に変貌するのか?を注視してきましたが、なかなか見えてこない国際競争力の回復並びに巨大な中国　そしてインド・欧州勢との対抗。
かつての鉄鋼生産量日本一の姿は遠く及ばない。話は日本国内での合理化推進と操業転換へのアプローチしかお伝え出来ず、一番の課題　一向に景気が回復しない日本の中で、鉄鋼業は世界へどうアプローチするのかと。

１１月半ば　インターネットを調べていて、世界戦略をクリヤーにして日本の鉄鋼が取組む姿に正面から追うルポの特集日経ビジネス社の特集に出会いました。
「業績回復・国内設備の統合スリム化が進み、脱炭素・水素製鉄取組を軸に、国際競争力回復を含めた世界戦略取組の挑戦がベールを脱ぎ始めた。　日本の鉄鋼頑張れ!!とエールを送る（１２月掲載）」として紹介させていただきました。

■ 今月１２月掲載の和鉄の道　掲載記事
日経ビジネス誌「沈まぬ日本製鉄 改革の今」の取組実態レポートを読んで
厳しい中で　世界へ立ち向かう日本の鉄鋼の姿にエールを送る
2022. 11. 25.　FROM KOBE　MUTSU NAKANISHI
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0412NipponSteel.pdf
参考添付　もう一つの雄 JFE の場合　インターネット拾い読み
JFE スチール-2030 年に向けて- スリムで強靭な企業へ 海外事業、技術供与型に

この１２月　経済誌の限界はあるのでしょうが、よくまとまった鉄鋼業の今　挑戦する鉄鋼の姿を見てうれしく紹介することができました。
参考になればと　私の私蔵版　そっくりそのまま特集記事をリンクを付けて掲載紹介。
でも　取組の結果はこれから。世界へ挑戦する日本の鉄鋼の姿が皆様に映ればと……

また、約２０年掲載してきた「和鉄の道」を読み返えしつつ、整理を始めました。
鉄に携わった嬉しさに出逢った記録も少し統合整理せねばと・・・・・・・・

■ 風来坊・COUNTRY WALK　：28 件
コロナ禍の中で、私の住む西神戸・東播磨を中心に 近隣の四季折々の記録を今年も掲載してきました。
四季折々　訪れる定点 WALK の記録が多くなりましたが、その年々の変化を見つけるのも面白い。
目新しい記録ではありますが、約２０年　海外も含め　よくいろんなところへ出かけたとその時の事を思い出しています。
ここ数年　POWER POINT を使いこなせるようになってスライド動画での記録中心に。
特にトピックスありませんが、近隣の野山の四季に目を向けていただければ……
場所を定めぬ思いつくままの風来坊　　失敗もありますが、新しい発見にわくわくです。

■ 四季折々 神戸便り・FROM KOBE」：１１件
約２０年　各々の一年を振り返る行動メモ　最近は老いを感じることがひしひしと。
１１月の中旬を過ぎ、野路菊が咲き始めると丘に登って私の秋送り。
先逝く仲を思い浮かべつつひとときを過ごす。
今年もやりとげた安堵とさびしさ　そしてまた来年もと。

コロナ感染防止の自己行動規制・神戸籠りではや3年。
今年で収束できるかなぁ・・・自由に飛び出してみたい。
まだまだ足も動く 好奇心もある 行きたいとこは ここかしこ
でも 79歳になりました

勝手気ままな風来坊の記録 来年もよろしく。
厳しい年の暮れですが、明日への希望を胸に 前向いて
「MERRY CHRISTMAS!!」本年のクリスマスカードを送ります。

2022.12.15.　FROM　KOBE　MUTSU　NAKANISHI

文珍さんの落語的見聞録 神戸新聞11月10日 & 12月8日朝刊より整理収録

文珍さんの落語的見聞録 11月「時代が一周回って」1ドル360円!? 神戸新聞11月10日朝刊より整理

神戸新聞
2022年11月10日 木曜日
神戸新聞社

文化

落語的見聞録

桂文珍

時代が一周回って1ドル360円!?

12月掲載
《1》

円が安いそうな。インバウンド（訪日客）が「すいぶん安くブランドものを買った」とうれしそうにしている姿を見るにつけ、時代は変わったと思う。

昨今、円は1ドル140円台の後半、このままでは1ドル150円台になるかもしれない。日銀が介入しても、あまり変化はない。

昔、「兼高かおる世界の旅」というTV番組があった。神戸生まれの兼高さんが飛行機でさっそうと世界を旅なさる番組で、約30年間、放送された。番組が始まったのは1959年。当時1ドルは360円だった。これは円が360度なので、そう決めた、と聞いたことがある。今の日銀の連動も上昇から見れば円という形になっている。

1ドル360円の時代が終わったのは大阪万博の頃だったと記憶している。それから日米も高度成長期に入り、円高の時代へ。それが今、円安の時代。ひょっとして、2025年の大阪万博が開催される頃、1ドル360円になったらエライこっちゃ！

政策金利の難しい話は全くわからないが、こんなに円安だと、おいそれと海外旅行なんぞ行けない。TV番組「ヘイ！ マスター」は、円安の時代に日本に勤めたことのあるアメリカ人が、その時代を懐かしみ、米ロサンゼルスのジャパニーズレストランで、キツネうどんを食べる。さて勘定の画面で外国の景色を楽しむのが精一杯"世界ふれあい街歩き"というNHK・BSの番組で何度もナレーションをさせていただいたが、私は一度も現地に行ったことはなく、小さなスタジオの片隅でしゃべるだけ。あー、長い間、海外旅行していない。このままだと「兼高かおる」さんでなく「ドル高、円安世界の旅」という番組ができるかも…。

すると昔、日本に来ていたサラリーマン、日本滞在中に落語「時うどん」を聞き、十六文のうどんの勘定、一つ二つ三つと金を渡し「今、何時？」と聞き、「八つ」とうどん屋が言って、あと「九つ、十…」と一文ごまかす。これを思い出し「ワシタラー、ツーダラー…」と8ドル払った後、「ヘイ！ マスター、ワッタイム イズイットナウ？」「イッツ5」「オー、6、7…、アイ ロスト 3ダラー」「ユーアーホンダラー」と、面白いのだ。

（かつら・ぶんちん＝落語家）＝次回は12月8日＝

たから16ドル。世界で小麦の値が上がっているのに、16ドルは安い方だ」

神戸新聞
2022年（令和4年）
12月8日
木曜日
神戸新聞社

文化

落語的見聞録

夜中にトイレに行き、ラジオを聞いた。ああ惜しい。もう少しでベスト8に入れた。W杯での日本の健闘。クロアチアと引き分け延長、PK戦。負けた気がしない。森保監督の「追いつくのでなく、追い越すのだ」の言葉に励まされた。日本はこれからだ！と。

文珍さんの落語的見聞録12月「にわかファンがカタール夢」12月8日紙刊より整理

にわかファンがカタール夢

ドイツ、スペインに勝って1次リーグを終えた。ドイツ、コスタリカとの試合、私は寝ていた。時差のかげんで始まるのが遅い。ところがスペインとの試合は午前4時（日本時間）。これなら起きている。何しろ年寄りは早く目が覚める。なんと、尼崎出身の堂安選手が素晴らしいキックで同点、そして1ゾの奇跡と言われたラインぎりぎりのボールを止めて、そのボールをゴールして逆転！そのボールが一度外へ出ていたかどうかを、VARでチェック。この時間が長い。

VARはビデオ・アシスタント・レフェリーの略らしい。次の日、楽屋で「あのAV判定は素晴らしい」と言ったら、若手の後輩から「VARですよ！」と。いやほど突っ込まれた。とかく横文字はややこしい。いずれにせよ「ブラボー！」なのだ。にわかサッカーファンは盛り上がった。

落語「新版豊竹屋」では、男が国立文楽劇場で文楽を見た帰り道、あの義太夫の太棹の三味線と、節にかぶれ、にわか文楽ファンとなる。「あの三味線良かったなあ。テン、チン、ドン、チリチリ、あれが何とも言えんなあ」と、歩いているうち、腹も減ったし、何か食べようと、「文楽茶屋」なる店に入る。

店内には先客がいて、ここでは文楽の太夫が着物の上に着ける肩衣がテーブルの下にあるからそれを着けて、床本のようなメニューを見て注文するのだと、教えてもらう。そこには料理の内容のみ書かれている。それを節を付けて注文する。

例えば「ぬく飯にダシかけ、エビのテンプラのせたお料理は？」「ハッ！テンドン！天丼、天丼…」と、ばかばかしく面白くなって料理をいっぱい注文する。ズラリ並んだ料理を見て「こんなに食べると胃カタルになる」と言うと、店の主人、「ここは文楽茶屋、義太夫だけに皆カタール（語る）じゃ！」となる。

そのカタールで素晴らしい結果を出したサムライブルーに「ブラボー！」なのだ。次はベスト8いや優勝する！と、にわかファンの私は思う。

（かつら・ぶんちん＝落語家）

＝次回は来年1月12日＝

12月掲載
《2》